

はじめに

この度は、弊社 PRIMERGY をお買い求めいただきまして、誠にありがとうございます。
本書では、PRIMERGY に添付されている、ServerWizard V2.0 によるサーバやクライアントのインストール方法と詳しい操作方法、およびサーバ監視ツールなどの運用面に役立つツールについての紹介とインストール方法について説明しています。

ServerWizard V2.0 は、お求めいただいた PRIMERGY に対して、Windows サーバの構築を支援するプログラムです。

- ・ ServerWizard V2.0 は、CD-ROM に格納されている機種情報ファイルに従って、オプションカードの確認とハードディスクの初期化および区画設定を行う。
- ・ インストール可能なドライバをインストールする。
- ・ 以下のどれかの OS をインストールする。
 - Microsoft® Windows NT® Server Network Operating System Version 4.0 システム
 - Microsoft® Windows NT® Server, Enterprise Edition Version 4.0 システム
 - Microsoft® Windows® 2000 Server
 - Microsoft® Windows® 2000 Advanced Server
 - Microsoft® BackOffice® Small Business Server Version 4.5
- ・ 添付のサーバアプリケーションプログラム（高信頼ツール）をインストールする。
- ・ クライアントへ OS をインストールする、アプリケーションを配布する。

なお、インストールを行う前にサーバ本体の取扱説明書をよくお読みになり、サーバを使用できる状態にしておいてください。

2000 年 5 月

Microsoft、Windows、Windows NT、BackOffice、MS-DOS は米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

All Rights Reserved, Copyright© FUJITSU LTD. 1998-2000

■マニュアルの読みかた

ServerWizard V2.0 には、2 冊のマニュアルが添付されています。

それぞれのマニュアルは、以下のようにお使いください。

Windows NT をインストールしよう！
最初にサーバを導入するときにお読みください。ServerWizard でのサーバ導入の流れが分かります。
ソフトウェアガイド（本書）
ServerWizard V2.0 の機能を知りたいとき、詳しい操作方法や項目の設定のしかたを知りたいときにお読みください。サーバ情報の設定以外に、クライアントの情報を設定したり、導入後の運用などに関しても説明しています。

ServerWizard V2.0 をお使いになる前に、必ずサーバ本体の取扱説明書をお読みにになり、装置の準備と設置を正しく行ってください。オプションカードなどについては、それぞれのマニュアルを参照してください。

■本書の読みかた

本書は以下のように構成されています。

章・タイトル	内 容
PRIMERGY の導入と運用	PRIMERGY に添付されているソフトウェアの紹介をしています。
第一部 導入編 サーバのセットアップ/クライアントのセットアップ	ServerWizard V2.0 を使って、簡単にサーバやクライアントをセットアップする方法を説明しています。
第二部 運用編 高信頼ツールについて	PRIMERGY に添付されているサーバ監視ツール、システム診断ツールなどの概要とインストール方法について説明しています。
付録	以下の機能、操作などの説明を記載しています。必要に応じてお読みください。 付録 A こんなときは？(Q&A) 付録 B ServerWizard V2.0 の版数について 付録 C 留意事項 付録 D 留意事項 [Servervisor / LDSM] 付録 E トラブルシューティング 付録 F CSV ファイルフォーマットについて 付録 G デザインシート

■表記の約束

本書では、以下の略称を使用しています。

名称	略記
Microsoft® Windows®95 Operating System	Windows 95
Microsoft® Windows®98 Operating System	Windows 98
Windows 95 または Windows 98	Windows 95/98
Microsoft® Windows NT® Workstation Operating System Version4.0	Windows NT WS 4.0
Microsoft® Windows® 2000 Professional	Windows 2000 Pro
Microsoft® Windows® 2000 Server および Microsoft® Windows® 2000 Advanced Server	Windows 2000 SV
Microsoft® Windows NT® Server Network Operating System Version4.0	Windows NT、 Windows NT SV4.0、また は Windows NT Server
Microsoft® Windows NT® Server, Enterprise Edition 4.0	Windows NT Server/E 4.0
Microsoft® BackOffice® Small Business Server 4.5	SBS または SBS 4.5
Windows NT SV 4.0 または Windows 2000 SV が出荷時にインストールされ ているマシン	インストールタイプ
Servvisor V1.0 または Servvisor V1.1	Servvisor
Intel LANDesk® ServerManager V6.0	LDSM

※ お使いの機種によって、Servvisor または LDSM のどちらかをご利用いただけます。
本書内の説明は、特記のない限り Servvisor=LDSM としてご覧ください。

■ソフトウェア説明書について

本書で説明する事項以外で、参考となる情報や留意事項は、「ソフトウェア説明書」に記載されています。ServerWizard V2.0 をお使いになる前に、必ずお読みください。

「ソフトウェア説明書」は、「README.TXT」のファイル名で、ServerWizard V2.0 の CD-ROM のルートディレクトリに登録されています。テキストエディタなどで開いてお読みください。また、サーバで ServerWizard を起動し、[ソフトウェア説明書] ボタンを選択しても表示されます。

■ServerWizard V2.0 に関する最新情報について

ServerWizard V2.0 に関する最新の情報は、インターネットの弊社ホームページ「PRIME／GRANPOWER WORLD」でご確認ください。

「PRIME／GRANPOWER WORLD」は、次の方法で表示できます。

ServerWizard の CD-ROM をセットします。ServerWizard Launcher 画面が表示されたら、[Information]、続いて [HOMEPAGE] をクリックします。

■ServerWizard CD に関する注意事項について

ServerWizard V2.0 の CD-ROM は、レーベルに記述してあるサーバ機以外では動作しません。絶対に他の機種では使用しないでください。

目 次

PRIMERGY の導入と運用 xii

導入と運用の概要	xii
高信頼ツールについて	xiv

第一部 導入編

サーバのセットアップ/クライアントのセットアップ

第 1 章 ServerWizard V2.0 の概要	1-3
1.1 ServerWizard V2.0 とは	1-3
1.2 ServerWizard V2.0 の機能	1-6
1.2.1 ServerWizard V2.0 の各機能について	1-6
1.3 必要なシステム	1-8
1.4 ServerWizard を起動する前に	1-9
1.4.1 サーバ導入前の準備	1-9
1.4.2 Service Pack について	1-10
1.4.3 情報ファイルについて	1-11
1.5 機種情報について	1-11
1.5.1 機種情報の必要性	1-11
1.5.2 最新の機種情報を入手する	1-12
1.5.3 ServerWizard V2.0 の版数と機種情報の版数の対応	1-12
1.5.4 新しい機種情報を使ってインストールする	1-12
1.6 ServerWizard を起動する	1-14
1.7 ServerWizard V2.0 でのセットアップ手順	1-15
1.8 各機能の流れ	1-17
1.8.1 ServerWizard V2.0（全体）の流れ	1-17
第 2 章 サーバへのインストール（一括インストール）	1-29
2.1 事前設定の操作フローチャート	1-29
2.2 サーバ情報を設定する [DesignMagic-サーバ設計]	1-31

2.2.1	DesignMagic を起動する	1-31
2.2.2	Windows NT/Windows NT Server/E 4.0/SBS の場合	1-33
2.2.3	Windows 2000 SV の場合	1-38
2.3	クライアント情報を設定する [DesignMagic—クライアントシステム設計]	1-45
2.3.1	コンピュータの設定	1-46
2.3.2	グループ、ユーザ、共有資源の設定	1-47
2.3.3	グループ、ユーザ、共有資源の関連付け	1-50
2.3.4	クライアントシステム設計の終了	1-52
2.4	クライアントへのセットアップ情報を設定する [クライアントセットアップ]	1-53
2.4.1	クライアントセットアップを起動する	1-53
2.4.2	セットアップ情報（アプリケーション）を追加する	1-56
2.4.3	セットアップ情報（ファイル）を追加する	1-59
2.4.4	セットアップ情報（実行コマンド）を追加する	1-60
2.4.5	セットアップ資源の格納先/サーバへ登録するタイミングを設定する（動作環境設定）	1-61
2.4.6	セットアップ情報の設定を変更する	1-62
2.4.7	セットアップ情報の設定内容を確認する	1-62
2.5	クライアントのデスクトップ環境を設定する [DesignMagic—デスクトップ環境設定]	1-63
2.5.1	デスクトップ環境の設定	1-65
2.6	設定情報の確認する、フロッピーに登録する [DesignMagic]	1-70
2.6.1	設定内容を出力して確認する	1-70
2.6.2	設定情報をサーバ情報フロッピーに登録する	1-71
2.7	サーバへインストールする（一括インストール）	1-72
2.7.1	ServerWizard を起動する	1-72
2.7.2	サーバ情報を読み込んでインストールする	1-73
第3章 サーバへのインストール（直接インストール）		1-77
3.1	インストール前の確認事項（直接インストール）	1-77
3.1.1	サーバ情報設定画面の共通操作	1-78
3.2	サーバへインストールする（直接インストール）	1-79
3.2.1	ServerWizard を起動する	1-79
3.2.2	Windows NT/Windows NT Server/E 4.0/SBS の場合	1-80
3.2.3	Windows 2000 SV の場合	1-90

4.1	サーバインストール後のディスプレイの状態	1-99
4.2	CD-ROMからの自動実行機能について	1-99
4.3	インストールタイプをお使いの方へ	1-100
4.3.1	インストール環境	1-100
4.3.2	SCSI アレイカード搭載モデルをお使いの場合	1-100
4.3.3	Windows NT Server のインストールを失敗したとき	1-100
4.4	LDSM/Servervisor をインストールした場合	1-100
4.5	サーバ運用の前に	1-101
4.6	SBS インストール後の注意事項	1-101

5.1	クライアントにインストールする流れ	1-103
5.1.1	サーバ側の準備	1-104
5.1.2	ネットワーク環境の準備	1-104
5.2	WizardConsole を起動する	1-105
5.3	ユーザ、グループ、共有資源を追加／変更する	1-106
5.3.1	ユーザを追加／変更する	1-107
5.3.2	グループを追加／変更する	1-109
5.3.3	共有資源フォルダを追加／変更する	1-110
5.4	クライアントコンピュータを追加／変更する	1-113
5.5	ユーザ、グループ、共有資源の関連付け	1-116
5.6	クライアントに OS をインストールする準備 [リモート OS セットアップ]	1-119
5.6.1	リモート OS セットアップを起動する	1-119
5.6.2	OS セットアップ情報を設定する	1-121
5.6.3	OS セットアップ情報の登録名を変更する	1-123
5.6.4	OS セットアップ情報の内容を確認／変更する (プロパティ)	1-124
5.6.5	OS セットアップ情報を削除する	1-124
5.7	クライアントへのセットアップ情報、セットアップ資源を設定する	1-125
5.7.1	クライアントセットアップを起動する	1-126
5.7.2	セットアップ資源をサーバのディスクに登録する	1-128
5.7.3	セットアップ資源をまとめてサーバのディスクに登録する	1-130
5.7.4	クライアントへのインストール順を変更する	1-130
5.7.5	セットアップ資源をサーバから登録解除する	1-131
5.7.6	セットアップ資源をサーバからまとめて登録解除する	1-131

5.7.7 クライアントのインストール動作を設定する（クライアント側）	1-132
5.8 クライアントのデスクトップ環境を設定する	1-132
5.9 クライアント導入フロッピーを作成する	1-133
5.9.1 クライアントに OS がインストールされている場合	1-133
5.9.2 クライアントに OS のインストールも行う場合	1-135
5.10 クライアントのインストール	1-136
5.10.1 クライアントに OS がインストールされている場合	1-136
5.10.2 クライアントに OS がインストールされていない場合	1-142

第 6 章 インストール後の操作	1-143
-------------------------	--------------

6.1 バックアップディスクを作成する	1-143
6.2 メンテナンス区画について	1-144
6.2.1 メンテナンス区画からサーバを起動する	1-145
6.2.2 メンテナンス区画を作成する	1-145
6.2.3 メンテナンス区画の削除について	1-146
6.3 同様のシステムを構築するとき（サーバ情報ファイルの作成）	1-146
6.4 WizardMenu によるデスクトップメニューの作成について	1-147
6.4.1 動作環境	1-147
6.4.2 WizardMenu を作成する	1-148
6.5 アンインストール	1-151
6.5.1 WizardConsole のアンインストール	1-151
6.5.2 ClientWizard のアンインストール	1-152

第二部 導入編 高信頼ツールについて

第 1 章 高信頼ツールの紹介	2-3
------------------------	------------

1.1 サーバ監視ツール	2-4
1.2 運用管理支援ツール	2-4
1.3 システム診断支援ツール	2-5
1.4 遠隔保守支援ツール	2-6

第 2 章 サーバ監視ツールの概要	2-7
--------------------------	------------

2.1 異常発生のお知らせ	2-8
2.2 ハードウェアの監視	2-9
2.3 ハードウェアの状態の表示	2-10

2.4 集中管理/遠隔操作/サーバダウン時の通知	2-11
第3章 高信頼ツールの導入	2-13
3.1 ServerWizard により OS 導入時に一括インストールする	2-14
3.2 ServerWizard の高信頼ツールメニューからインストールする	2-14
3.3 各ツールの標準のインストーラによりインストールする	2-15
第4章 サーバ監視ツール[Servervisor]	2-17
4.1 動作環境	2-18
4.2 インストール手順の流れ	2-19
4.2.1 ServerWizard から新規にインストールした場合（継続作業）	2-19
4.2.2 標準のインストーラで新規にインストールする場合	2-20
4.2.3 導入済のサーバへ新規にオプション装置を搭載/接続する場合	2-21
4.2.4 導入済のサーバからオプション装置を取り外す場合	2-22
4.2.5 アンインストールする場合	2-23
4.3 インストールの準備	2-24
4.3.1 全機種共通の準備	2-24
4.3.1.1 オプション装置の監視機能を用意する	2-24
4.3.1.2 動作環境を準備する（SNMP サービスのインストール）	2-28
4.3.1.3 動作環境を準備する（システムイベントログの初期化）	2-29
4.4 インストーラの起動方法	2-30
4.5 サーバ本体の監視機能をインストールする	2-31
4.6 オプション装置の監視機能を追加インストールする	2-33
4.6.1 CD-ROM で提供されている場合	2-33
4.6.2 追加ディスクで提供されている場合	2-34
4.7 インストール後のサーバの設定について	2-35
4.8 アンインストール	2-36
4.8.1 オプション装置の監視機能をアンインストールする	2-36
4.8.2 サーバ本体の監視機能をアンインストールする	2-38
第5章 サーバ監視ツール [LDSM]	2-39
5.1 動作環境	2-40
5.2 インストール手順の流れ	2-41
5.2.1 2-新規にサーバに監視システムを構築する場合	2-42
5.2.2 新規に管理端末を構築する場合	2-43
5.2.3 導入済のサーバへ新規に SMM2 を搭載する場合	2-44

5.2.4	2-導入済のサーバから SMM2 を取り外す場合	2-44
5.2.5	導入済のサーバへ新規にオプション装置を搭載/接続する場合	2-45
5.2.6	導入済のサーバからオプション装置を取り外す場合	2-46
5.2.7	管理端末から管理コンソールをアンインストールする場合	2-47
5.2.8	サーバの監視システムをアンインストールする場合	2-48
5.3	インストールの準備	2-49
5.3.1	全機種共通の準備	2-49
5.3.1.1	オプション装置の監視機能/管理コンソールを用意する	2-49
5.3.1.2	動作環境を準備する (SNMP サービスのインストール)	2-53
5.3.1.3	動作環境を準備する (システムイベントログの初期化)	2-54
5.3.1.4	サーバに SMM2 を搭載している場合	2-54
5.3.2	PRIMERGY ES200/ES210/ES280/MS380 の場合	2-57
5.4	インストーラの起動	2-59
5.5	サーバ本体の監視機能をインストールする	2-60
5.6	サーバ本体の監視機能に追加インストールする	2-63
5.6.1	オプション装置の監視機能を追加インストールする	2-63
5.6.2	LDSM コンソールを追加インストールする	2-65
5.6.3	SMM2 用ドライバ/ファームウェアを追加インストールする	2-65
5.7	管理コンソールをインストールする	2-67
5.7.1	LDSM コンソールをインストールする	2-67
5.7.2	ISC コンソールをインストールする	2-69
5.7.3	オプション装置の管理コンソールをインストールする	2-69
5.8	インストール後のサーバの設定について	2-71
5.8.1	LDSM のリモートコントロール機能を設定する	2-71
5.8.2	LDSM コンソールのパスワードを変更する	2-72
5.8.3	サーバに SMM2 を取り付けた場合	2-73
5.8.4	Windows NT4.0 Service Pack 3 が適用されている場合	2-76
5.9	管理コンソールをアンインストールする	2-77
5.9.1	オプション装置の管理コンソールをアンインストールする	2-77
5.9.2	ISC コンソールをアンインストールする	2-78
5.9.3	LDSM コンソールをアンインストールする	2-78
5.10	サーバから監視機能をアンインストールする	2-80
5.10.1	オプション装置の監視機能をアンインストールする	2-80
5.10.2	サーバ本体の監視機能をアンインストールする	2-82

5.10.3	LDSM コンソールをアンインストールする	2-83
5.10.4	SMM2 用ドライバ/ファームウェアをアンインストールする	2-83
第6章 運用管理支援ツール		2-85
6.1	テープ装置のメンテナンス [Tape Maintenance Checker]	2-85
6.2	クライアントからのサーバの電源制御 [Power MANagement for Windows]	2-86
第7章 システム診断支援ツール		2-87
7.1	システム環境の診断機能 [FM Advisor]	2-87
7.1.1	診断方法	2-87
7.1.2	定義ファイルの入手方法	2-88
7.2	トラブル原因の早期発見 [PROBEPRO] —サーバ環境の更新履歴の確認	2-88
7.2.1	2-インストール方法	2-88
7.2.2	動作環境を定義する	2-89
7.2.3	初回インストール時の初期設定について	2-90
7.2.4	再インストール方法	2-90
7.2.5	アンインストール方法	2-90
7.3	トラブル原因の早期発見 [DSNAP] —サーバ環境情報の一括取得	2-90
第8章 遠隔保守支援ツール		2-91
8.1	サーバの遠隔操作 [SystemWalker / LiveHelp® Client V5.0]	2-91
8.1.1	インストール方法	2-91
8.1.2	操作概要	2-92
8.1.3	その他の機能	2-94

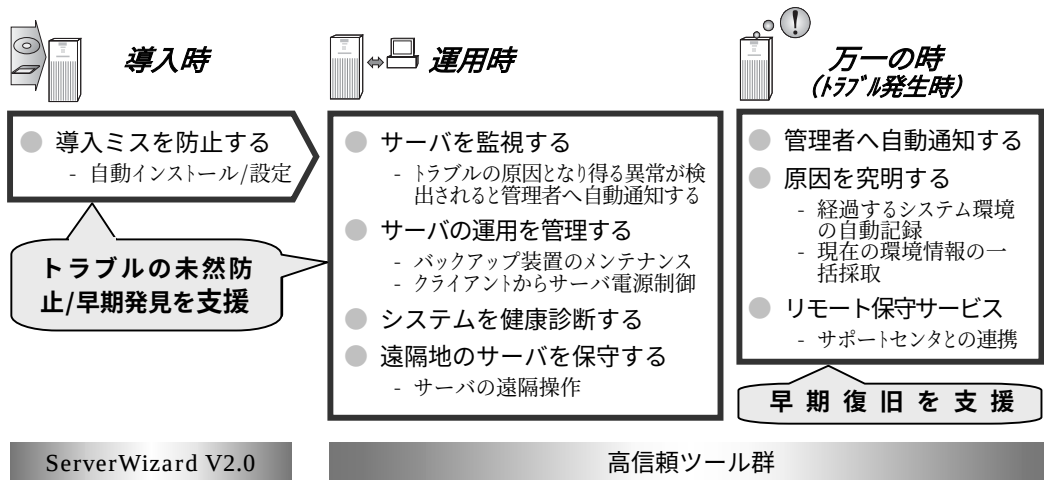
付 録

付録	付録-3
付録 A こんなときは (Q&A)	付録-3
Q. モデムを追加するには?	付録-3
Q. プリンタを追加するには?	付録-4
Q. 区画(パーティション)はどのように作成されますか?	付録-6
Q. RAID を構築するときの注意点は?	付録-7
Q. スーパーフロッピー形式の光磁気ディスクは使用できますか?	付録-8
付録 B ServerWizard V2.0 の版数について	付録-9

付録 B.1	ServerWizard V2.0 の版数の確認方法	付録-9
付録 B.2	ServerWizard V1.0/V2.0 の版数と対応内容	付録-9
付録 B.3	ブート可能なアレイカードとインストール可能な ServicePack	付録-10
付録 C	留意事項	付録-11
付録 C.1	ServerWizard V2.0 でサポートするオプションカード	付録-11
付録 C.2	ServerWizard V2.0 で対応する自動インストール	付録-12
付録 C.3	バックアップドメインコントローラに関する留意事項 (NT SV 4.0 の場合)	付録-13
付録 C.4	クライアントコンピュータの追加/変更時の留意事項	付録-14
付録 C.5	クライアントセットアップに関する留意事項	付録-14
付録 C.6	その他の留意事項	付録-17
付録 D	留意事項 [Servervisor / LDSM]	付録-18
付録 D.1	Servervisor / LDSM 共通の留意事項	付録-18
付録 D.2	LDSM のみの留意事項	付録-22
付録 E	トラブルシューティング	付録-28
	「サーバ内の資源情報を参照できませんでした。サーバの情報を最新に更新し てから再試行してください。」と表示された場合	付録-28
	クライアントコンピュータへのインストール中に「セットアップに失敗した資 源があります」と表示された場合	付録-28
	デスクトップ設計画面を閉じる時に「システムポリシーファイルの作成中に異 常が発生しました。」とエラーメッセージが表示された場合	付録-28
	ログオン時に自動的にインターネットエクスプローラが起動する場合	付録-29
	リモート OS セットアップ中に発生する可能性のあるエラーについて	付録-29
	電源スイッチを押しても電源が切斷できない場合	付録-30
付録 F	CSV ファイルフォーマットについて	付録-30
付録 G	デザインシート	付録-32
	DesignMagic (サーバ設計) Windows NT SV 4.0 選択時	付録-32
	DesignMagic (サーバ設計) SBS 選択時	付録-35
	DesignMagic (サーバ設計) Windows 2000 SV 選択時	付録-36
	DesignMagic (クライアントシステム設計)	付録-41
	DesignMagic (クライアントセットアップ)	付録-43
	DesignMagic (デスクトップ設計)	付録-45
	直接インストール時	付録-47

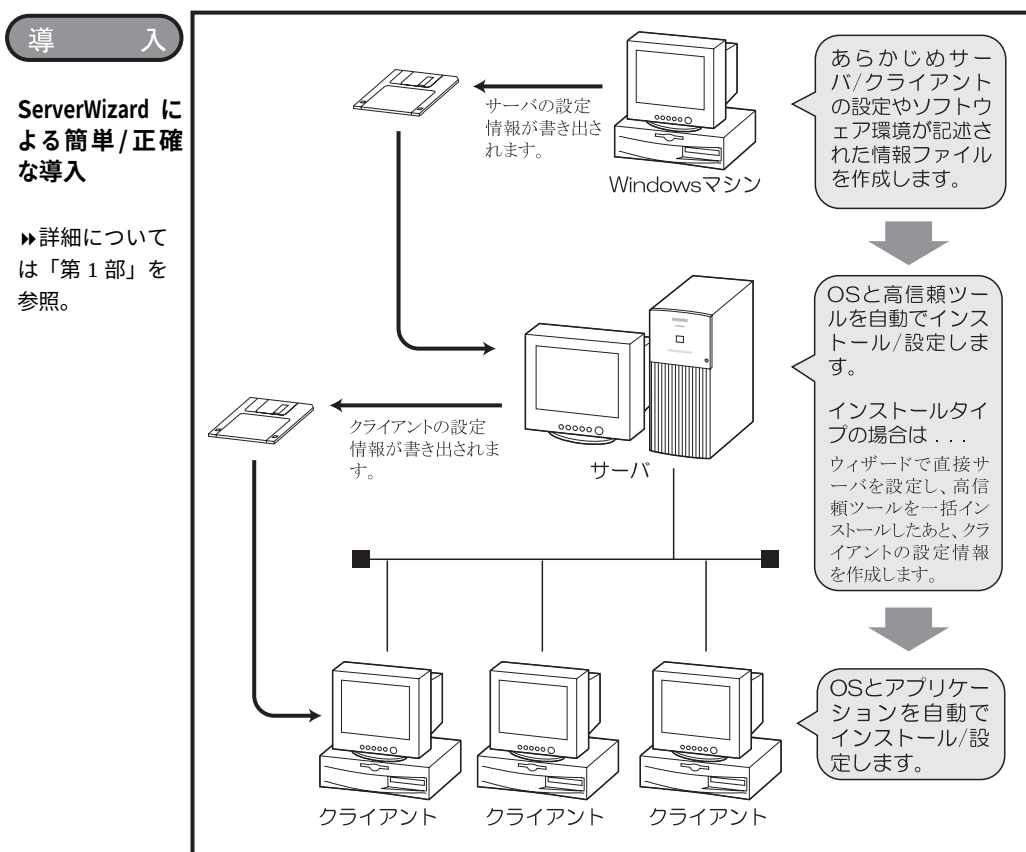
PRIMERGY の導入と運用

PRIMERGY では、弊社独自の支援ツール群により、サーバの簡単な導入と、万全な運用・管理を実現しています。導入から運用までを次の図のようにサポートします。



導入と運用の概要

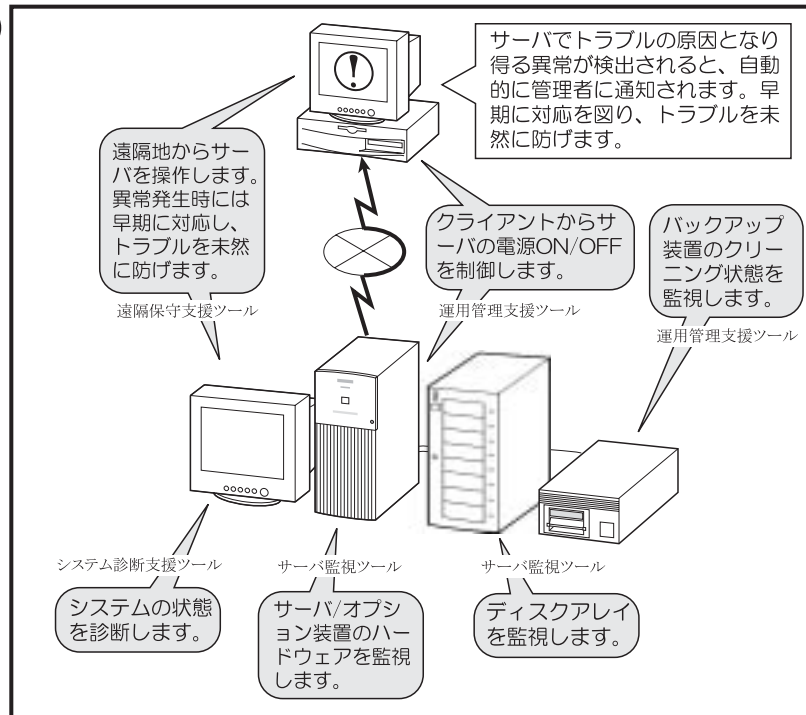
PRIMERGY の導入と運用は、ServerWizard と高信頼ツール群により次の図のように行えます。



運用

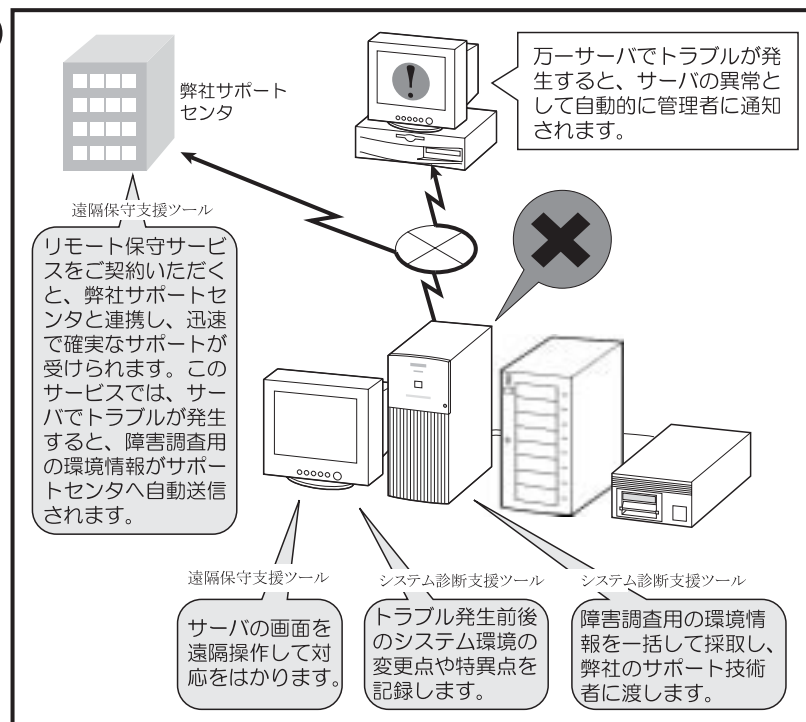
高信頼ツール群によるトラブルの未然防止/早期発見

▶ 詳細については「第2部」を参照。



万一の時

高信頼ツール群によるトラブル発生時の早期復旧



高信頼ツールについて

PRIMERGY では、サーバを万全にご利用いただけるように、システムの安定稼働を実現する「高信頼ツール」を標準で提供しています。高信頼ツールは、システムの安定稼働に必要なトラブルの未然防止／早期発見／早期復旧を、いくつかのツール群により強力にサポートします。高信頼ツールの各ツール群を導入することにより、トラブルの起こりにくい安定したシステム運用が実現できます。

▶▶詳細について→「第2部」参照

PRIMERGY に添付の高信頼ツールには、次の4つのツール群があります。

■サーバ監視ツール（早期発見/トラブルの未然防止）

サーバのディスクシステム、メモリ、電源、冷却ファンなどのハードウェアを常時監視することにより、トラブルの原因になり得る異常を早期に発見し、管理者へ速やかに通知します。管理者は、異常発生のお知らせを受け取ることで、早期対応を図り、トラブルを未然に防止できます。

■システム診断支援ツール（トラブルの未然防止/早期復旧）

Windows NT システムのシステムモジュール、ハードウェアドライバの版数をチェックするなど、システムの健康診断を行えます。また、管理者は、万一トラブルが発生した時にもシステムを診断し、原因を究明できます。

■運用管理支援ツール（トラブルの未然防止）

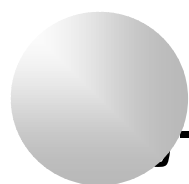
バックアップ装置によるバックアップを確実にを行うために、バックアップ装置のクリーニング間隔を監視し、クリーニングが必要な場合に管理者へ通知します。また、管理者は、クライアントから PRIMERGY の電源を制御することにより、サーバの運用を柔軟に行えます。

■遠隔保守支援ツール（トラブルの未然防止/早期復旧）

管理者は、遠隔地にいてもサーバを操作でき、異常発生時などすぐに対応を図れます。また、万一のトラブルが発生した場合の復旧作業では、リモート保守サービスをご利用いただくと、遠隔地にある弊社サポートセンタと連携し、迅速で確実なサポートが受けられます。このサービスをご利用いただくには、別途お客様とのご契約が必要となります。

PRIMERGY では、システムの安定稼働を実現する高信頼ツールを簡単に導入いただけるように、次のような「高信頼ツールメニュー」画面を提供しています。





第一部 導入編 サーバのセットアップ/ クライアントのセットアップ

ServerWizard V2.0 を使って、簡単にサーバやクライアントをセットアップする方法を説明しています。

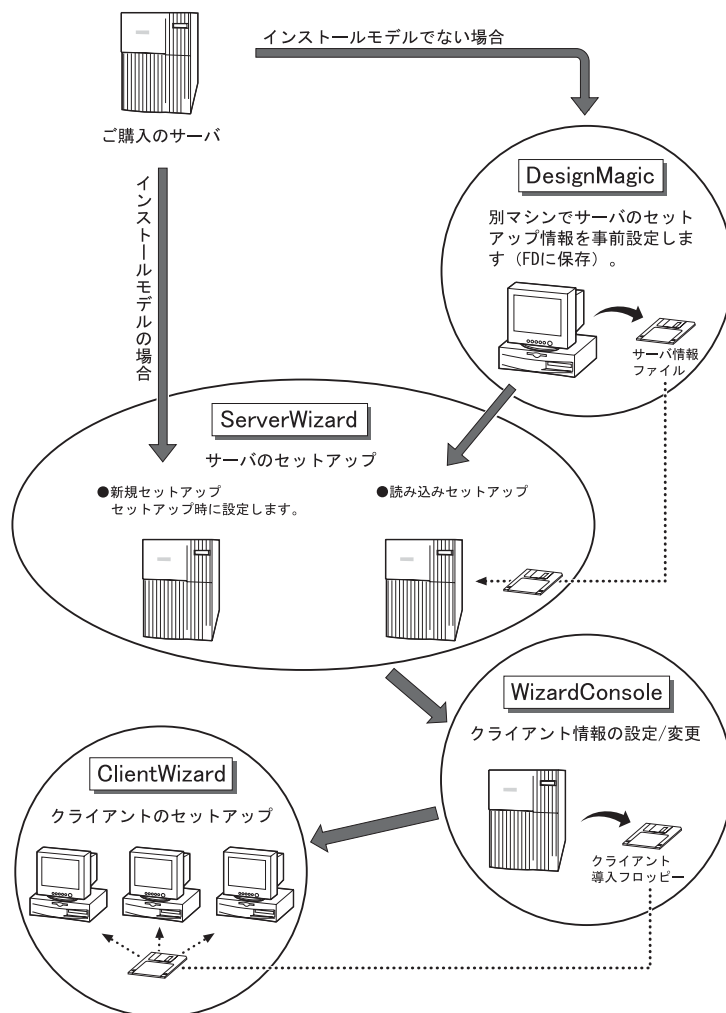
内 容

第 1 章	ServerWizard V2.0 の概要	1-3
第 2 章	サーバへのインストール（一括インストール）	1-29
第 3 章	サーバへのインストール（直接インストール）	1-77
第 4 章	サーバインストール後の状態と処理	1-99
第 5 章	クライアントへのインストール	1-103
第 6 章	インストール後の操作	1-143

第 1 章 ServerWizard V2.0 の概要

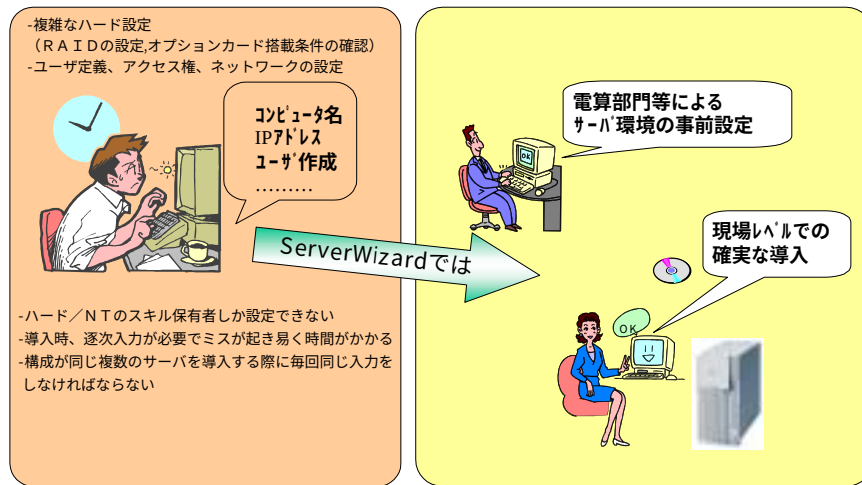
1.1 ServerWizard V2.0 とは

ServerWizard V2.0 は、PRIMERGY の初期導入を支援する、簡易セットアップツールです。ServerWizard V2.0 は、導入作業の簡素化、推奨ドライバの確実なインストールを実現します。これまでインストールしながら行っていた各種設定をウィザード形式でまとめて設定し、サーバおよびクライアントへのインストールを自動的行います。



ServerWizardの特長

事前設定により、インストールの煩雑さを改善し、確実な導入を行います



● ServerWizard でインストールした後の変更は・・・

インストール後のクライアントの追加、グループの追加など、サーバ運用に関する変更は、WizardConsoleで行います。



● ネットワークの構築ができます

ServerWizard では、サーバの導入時に Windows NT のワークグループ、ドメイン等のネットワークモデルでネットワークを構築できます。サーバをプライマリドメインコントローラとしてネットワークを構築する場合、クライアントのセットアップおよびアプリケーションのセットアップまで簡単に行うことができます。

設定したアカウント（ユーザ、グループ、共有資源）は一覧形式で表示されます。アカウントの関連付けも簡単にできます。

Windows NT、または Windows 2000 SV で構築できるネットワークドメインの詳細については各ソフトウェアのマニュアルを参照してください。

●クライアントのデスクトップ環境を一括管理

クライアントのデスクトップに、業務に必要な機能のみを表示させることができます。
Web 形式のメニュー(WizardMenu)を使って、クライアントから各アプリケーションを簡単に起動することもできます。

WizardMenu の起動ボタンは、WizardMenu 作成ツールを使用して作成します。大きさを変更したり、画像データをボタンに貼り付けるなど、自由な形式で作成することができます。
WizardMenu 作成ツールを起動するには、サーバインストール終了後に [スタート] - [プログラム] - [ServerWizard] - [WizardMenu 作成ツール] を選択します。

WizardMenu の作成例



WizardMenu と WizardMenu 作成ツールは、WizardConsole をインストールすると、同時にインストールされます。また、WizardMenu を使用するには、「デスクトップ環境設定」の [初期メニュー] タブで「Web メニュー」を指定します。デスクトップ環境設定、WizardMenu、WizardMenu 作成ツールについては、「第一部 2.5 クライアントのデスクトップ環境を設定する」および各機能のヘルプを参照してください。

1.2 ServerWizard V2.0 の機能

ServerWizardV2.0 を使用すると、サーバだけでなくクライアントへのインストールも簡単に行うことができます。

直接インストールの場合は、PRIMERGY で ServerWizard を起動し、ウィザード画面に必要な情報を入力しながら、インストールを行います。

ServerWizard でインストールすると、次の利点があります。

●オプションカードの自動認識

サーバに搭載されているオプションカードについて、機種情報からそのカードがサポートされているカードか、搭載位置が間違っていないか、搭載枚数は正しいかなどを判断し、搭載条件に合わない場合は警告メッセージにて変更を促します。さらに、PCI カードの IRQ のチェック機能もサポートしています。



ServerWizard V2.0 が自動認識するオプションカードは PCI カードのみです。なお、通信系カードは、上位アプリによりドライバが異なるため未サポートです。対応している

●ドライバの自動インストール

自動認識したオプションカードなどに対して、インストール時に最新ドライバを組み込みます。このことにより、誤って古いバージョンのドライバを組み込んだり、サーバに添付されているものの以外のドライバを組み込むというようなドライバの入れ間違いを防止し、潜在的なインストールのミスを防ぎます。

● RAID の自動構成

アレイコントローラカードを使用する場合は、事前に RAID の種類と使用するディスクの本数を指定し、サーバに搭載することにより、RAID のユーティリティを起動せずにディスクアレイを構成できます。



複数のフィジカルバックを作成する場合、2 つ目以降のフィジカルバックはアレイカード添付の DACCF を使用し、手動で行ってください。

1.2.1 ServerWizard V2.0 の各機能について

ServerWizard V2.0 の便利な各機能について、ご紹介します。

- | | |
|-----------------------|------------------------------|
| ・サーバへのセットアップ情報を事前設定する | →DesignMagic |
| ・サーバへのインストール | →ServerWizard |
| ・クライアント情報を設定する | →WizardConsole |
| ・クライアントへのインストール | |
| (OS をインストールしないとき) | →ClientWizard |
| (OS をインストールするとき) | →クライアント導入フロッピーをセットして
電源ON |

■DesignMagic でサーバへのセットアップ情報を設定し、フロッピーに保存する

DesignMagic では、サーバを導入する前に、以下の設定ができます。

- ・ サーバのセットアップ情報
- ・ サーバを使用するクライアントの情報
- ・ サーバに設定するグループや共有フォルダの設定
- ・ クライアントにインストールする資源の設計
- ・ クライアントのデスクトップ環境（表示内容）

Point

- DesignMagic は、Windows 95/98、Windows NT WS 4.0、または Windows 2000 Pro が動作する環境で操作を行うので、クライアントコンピュータのみでサーバの設定が可能です。
- 設定した情報は、サーバ情報ファイルとしてフロッピーディスクに登録します。すでに登録済みのサーバ情報ファイルを DesignMagic に読み込んで、設定情報を修正することもできます。
- サーバ情報ファイルを作成しておくことにより、専門知識がなくてもサーバのセットアップ、インストールを簡単に行うことができます。

Note

ユーザアカウントの設定、グループや共有フォルダの設定、クライアントにインストールするアプリケーションファイルの設定を行えるのは、プライマリドメインコントローラ Windows 2000 SV をインストールした場合のみです。

■ ServerWizard でサーバへインストールする

ServerWizard を使用してセットアップすることにより、メッセージに従って操作していただくだけで簡単にインストールできます。また、DesignMagic でセットアップ情報を事前設定していた場合は、セットアップの途中で指定内容を確認する必要がなく、その場にいなくてもセットアップが進むので、長い作業時間を有効に活用できます。

■サーバへインストールした後は WizardConsole でクライアント情報を設定する

サーバへのインストールが終了した後は、WizardConsole を使ってクライアントを追加したり、クライアントへのセットアップ情報を設定します。また、クライアントへのセットアップに必要な資源を準備します。クライアントに OS をインストールする場合、WizardConsole でクライアントへインストールする OS を設定します。WizardConsole では、修正した設定内容が即座に反映されます。

WizardConsole を利用するには、DesignMagic や ServerWizard で、WizardConsole をインストールするよう指定した上で ServerWizard を使ってサーバをセットアップします。

WizardConsole の起動は、[スタート] メニューから [プログラム] - [ServerWizard] - [WizardConsole] を選択します。

■クライアント情報をフロッピーに保存する

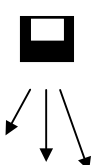
WizardConsole で、設定した情報はクライアント導入フロッピーに保存します。

●一枚のフロッピーに1クライアント



フロッピーをクライアント全員に配布して、同時にセットアップできます。

●一枚のフロッピーに複数のクライアント



各クライアントを順番にセットアップできます。ただし、クライアントセットアップ中に別のクライアントのセットアップを同時に行うことはできません。

■クライアントのセットアップを簡単に

WizardConsole でクライアント導入フロップピーを作成した後は、ネットワーク環境が設定されている各クライアントにフロップピーディスクをセットして、インストールを行います。複数のクライアントに同一アプリケーションや同一ファイルのインストールが簡単にできます。

クライアントへ OS をインストールする場合は、クライアント導入フロップピーをセットして電源を投入するだけでインストールできます。OS をインストールしない場合は、

「ClientWizard」を起動してインストールします。

Point ● クライアント導入フロップピーに複数のクライアントが登録されている場合は、自分が使用するコンピュータ名を選択して、あとは [OK] をクリックするだけで、登録されている情報が自動的にインストールされます。

- インストールが終了すると、クライアント導入フロップピーからインストールが完了したコンピュータの情報が削除されるので、間違えて同じコンピュータ名でインストールされることはありません。

1.3 必要なシステム

操作を始める前に、あらかじめ以下の CD-ROM、またはフロップピーディスクをお手元にご用意ください。

■サーバをセットアップするとき

ハードウェア	☐ お買い上げいただいた PRIMERGY 本体
ソフトウェア	☐ 使用する OS (Windows NT、Windows 2000 SV、または SBS) の CD-ROM ☐ ServerWizard の CD-ROM ● 同じモデルを複数台導入するとき、異なる版数(Lxx)の CD-ROM がある場合は、最新のものを使用してください。 ☐ サーバ情報ファイル登録用のフロップピーディスク (本製品に添付の「サーバ情報ファイル登録用」フロップピーディスクを用意し、a.b.のどちらかを行ってください。) a. DesignMagic でサーバ情報を登録しておく → 一括インストール b. そのまま使う → 直接インストール ☐ 修復ディスクを作成するためのフロップピーディスク (未使用のフロップピーディスク … 1 枚) ☐ Service Pack の CD-ROM (ServerWizard の CD-ROM に入っている Service Pack を使用する場合は不要です。) ☐ オプションカードに添付されているドライバのフロップピーディスク など
一括インストールで、サーバ情報を事前に設定する場合	
ハードウェア	☐ 当社 FMV シリーズなど Windows 95/98、Windows NT WS 4.0、Windows 2000 Pro が動作するパーソナルコンピュータ本体 (CD-ROM ドライブ必須、10MB 以上の空き容量が必要)
ソフトウェア	☐ ServerWizard の CD-ROM ☐ 「サーバ情報ファイル登録用」フロップピーディスク

■クライアントをセットアップするとき

ハードウェア	☐ 当社 FMV シリーズなど Windows 95/98、Windows NT WS 4.0、Windows 2000 Pro が動作するパーソナルコンピュータ本体 (LAN カード搭載) ☐ ハブユニット、ルータ ☐ LAN ケーブル (必要本数分) ● サーバのインストール後は、LAN などのご使用になる接続形態に合わせてクライアントコンピュータを接続してください。
ソフトウェア	☐ クライアント情報ファイル登録用のフロッピーディスク (未使用のフロッピーディスク … 必要枚数) ⇒「クライアント導入フロッピー」と呼びます。 ☐ Windows NT WS 4.0 の CD-ROM (クライアントに OS をインストールする場合) ☐ Microsoft®Internet Explorer 3.02 以上 (デスクトップ設計で Web メニューを使用する場合) ▶デスクトップ設計について →「第一部 2.5 クライアントのデスクトップ環境を設定する」参照

1.4 ServerWizard を起動する前に

ServerWizard をお使いになる前に、必ず本体マニュアルをよくお読みになり、以下の事項に留意してサーバの準備を行ってください。

1.4.1 サーバ導入前の準備

本体ハードウェアマニュアルをよく読み、サーバの組立て完了後、オプションカードが正しい位置に装着されていることを確認してください。

● 内蔵オプション取り付け時の注意

インストールタイプをご使用のとき、または ServerWizard を使用して OS をインストールするとき、内蔵オプションや周辺機器を使用する場合は、以下の点に注意してください。これらの注意を守っていただかない場合は、正常にインストールが行われません。

- ・ 本体マニュアルを参照し、正しいスロットにオプションカードを取り付けてください。
- ・ OS がインストールされるハードディスクは自動的に選択されます。OS のインストール先となるハードディスク以外は接続しないでください。
- ・ オプションの SCSI カードを搭載して、外部 SCSI オプション装置 (ハードディスクキャビネット、光磁気ディスクなど) を増設する場合は、OS のインストールおよびセットアップが終了してから電源を切断して接続を行ってください。

● BIOS セットアップユーティリティ

ServerWizard V2.0 はハードウェアセットアップ (BIOS、ICU ユーティリティ等) には対応していません。本体マニュアルを参照し、BIOS セットアップユーティリティにより以下の設定を行ってください。

- ・ PCI カードの設定 (PCI カードを使用する場合)
- ・ パスワードの設定 (パスワードを設定する場合)

- ・ サーバモニタモジュールの設定（サーバモニタモジュールを使用できる機種で、ご使用になる場合）

● SCSI コンフィグレーションユーティリティ

SCSI コンフィグレーションユーティリティの設定、および確認を行ってください。
なお、オプションの SCSI カードを搭載して、外部 SCSI オプション装置（ハードディスクキャビネット、光磁気ディスクユニットなど）を増設する場合は、OS のセットアップが終了してから電源を切断し、接続を行ってください。
操作方法について詳しくは本体マニュアルを参照してください。

● コンフィグレーションユーティリティ

ServerWizard V2.0 は ISA カードを自動認識しません。ご使用の機種により、オプションカードを使用する際にコンフィグレーションユーティリティ（ICU（ISA コンフィグレーションユーティリティ）または SSU（システムセットアップユーティリティ））を実行しておく必要があります。詳しくは、本体マニュアルを参照してください。

● サーバ導入時に搭載するメモリ容量について

Windows NT SV 4.0/SBS の場合、サーバ導入時に搭載するメモリ容量は、2GB 以下にしてください。2GB を超えるメモリを搭載する場合は、サーバ導入後にメモリの増設を行ってください。
ただし機種によっては、2GB より少ないメモリ容量に制限されている場合があります。サーバ機の取扱説明書でご確認ください。



Windows NT SV 4.0/SBS インストール時に、2GB を超えるメモリを搭載した場合、セットアップ起動時にエラーとなり、セットアップを継続することができなくなります。



- ServerWizard V2.0 がサポートするオプションカードや、自動インストールするデバイス、アプリケーションについては「付録 C 留意事項」を参照してください。

1.4.2 Service Pack について

ServerWizard の CD-ROM には、Microsoft® Windows NT® Version 4.0 Service Pack が収められています。Service Pack の種類については CD-ROM のレーベルに記述されているので確認してください。

● Service Pack の適用

事前設定で「Service Pack を適用する」を選択しなかった場合は、Service Pack は適用されません。「Service Pack を適用する」を選択した場合は、適用する Service Pack の種類を確認する画面が表示されます。ServerWizard の CD-ROM に収められている Service Pack を使用するときは、そのまま [OK] を選択してください。その他の Service Pack（Option Pack を含む）を使用するときは、画面の指示に従って CD-ROM をセットしてください。
適用可能な Service Pack に関しては、README を参照してください。

1.4.3 情報ファイルについて

ServerWizard V2.0 では、機種情報ファイル、サーバ情報ファイル、クライアント情報ファイルの3つのファイルを使用します。

● 機種情報ファイル (.MPD)

機種情報には、本体装置固有のハードウェア情報、OS 情報、インストールアプリケーション情報が記述されています。ServerWizard V2.0 の CD-ROM には、あらかじめ機種情報ファイルが登録されていますが、ハードウェア情報が更新されたり、追加された場合には、最新の機種情報でサーバのセットアップを行ってください。

最新の機種情報は、インターネットの弊社ホームページ（PRIME／GRANPOWER WORLD）に掲載されています。内容を確認の上、フロッピーディスクなどにダウンロードしてご使用ください。

ファイル名は、8 文字以内、拡張子は必ず".MPD"にしてください。

● サーバ情報ファイル (.SPD)

サーバ情報ファイルには、DesignMagic で設定した、サーバの情報およびクライアントの情報が登録されます。

ServerWizard でサーバを新規にセットアップするときに直接作成することもできます。ただし、この場合はサーバ設計情報のみとなります。

サーバ情報ファイルは、1 枚のフロッピーディスクに 1 ファイルのみ登録できます。

● クライアント情報ファイル (.CPD)

クライアントをセットアップするためのファイルです。ServerWizard でサーバをインストールしたあとに、WizardConsole 機能を使用して作成します。

クライアント情報ファイルを登録したフロッピーディスクを使うと、クライアントのセットアップが自動的に行えます。また、あらかじめクライアントに配布するアプリケーションなどの資源が登録されている場合は、セットアップ時にアプリケーションなどのインストールも自動的に行われます。

クライアントごとに 1 つのフロッピーディスクを作成した場合は、クライアントごとにセットアップします。全クライアントを 1 つのフロッピーディスクに作成した場合は、順番にセットアップが行えます。

1.5 機種情報について

1.5.1 機種情報の必要性

「機種情報ファイル」とは、ServerWizard V2.0 が対象とするサーバがサポートする拡張カードやアレイ情報などインストールに必要な様々な情報をまとめたファイルです。ServerWizard による導入では、この機種情報を参照してインストールを行います。

ServerWizard は、PRIMERGY の各種拡張カードの最適なドライバの導入を行います。ServerWizard V2.0 の CD-ROM には、その CD-ROM が提供された時にサポートしている拡張カードのドライバや、その拡張カードの情報（機種情報）が同梱されています。

しかし、以下の場合、ServerWizard による再インストール時に、ServerWizard はその拡張カードの情報を持っていないため、認識できません。

—PRIMERGY をお客様が導入した後にサポートされたカードを ServerWizard でインストールする場合

—PRIMERGY をお客様が導入した後に変更された最新のドライバを使用する場合

このような場合は、最新の拡張カード情報を持つ「機種情報ファイル」を入手する必要があります。「機種情報ファイル」は、ServerWizard によるインストール中にフロッピーディスクから読み込みますので、インストール前段階で最新の「機種情報ファイル」の準備が必要となります。

Note

すでに ServerWizard によって PRIMERGY が導入された後、最新の拡張カードを追加導入する場合は、手動による導入を行います。導入方法は PRIMERGY 取扱説明書や拡張カードに添付している取扱説明書を参照してください。

1.5.2 最新の機種情報を入手する

機種情報および最新のドライバは富士通公開WWWサーバ内の PRIME/GRANPOWER WORLD 内の「会員のページ」内で公開しています。

「会員のページ」(無料)では、PRIMERGY に関する有効な詳細技術情報、ご利用者間の情報交換の場(談話室)、新着情報やセミナーなどのメールサービスなどのサービスを提供しております。以下のページより入会していただくと、「会員のページ」がご利用いただけます。

● 入会の申し込み方法

以下のページをご覧ください。

<http://www.fujitsu.co.jp/hypertext/granpower/members.html>

● 会員のページ(利用者 ID/パスワードが必要)

<http://www.fujitsu.co.jp/hypertext/granpower/gp5/members/index2.html>

Note

ダウンロードした「機種情報」はフロッピーディスク(2HD、1.44MB フォーマット)に格納してください。

1.5.3 ServerWizard V2.0 の版数と機種情報の版数の対応

入手した機種情報を使用する場合は、ServerWizard V2.0 のレベルと機種情報のレベル(Lxx)を確認し、同じレベルのものを使用してください。

1.5.4 新しい機種情報を使ってインストールする

ダウンロードした機種情報ファイル(拡張子 mpd)を使用するには、ServerWizard を使ったインストール時に次のように指定します。

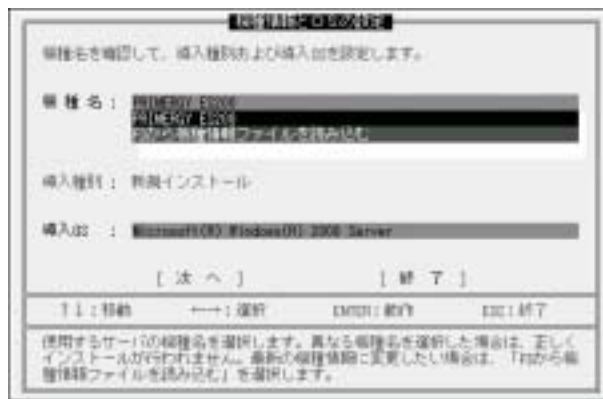
● 一括インストール（DesignMagic 使用）のとき

DesignMagic を起動し、「サーバ設計」の「機種名」で「機種情報ファイルの読み込み」を選び、入手した機種情報ファイルを指定します。



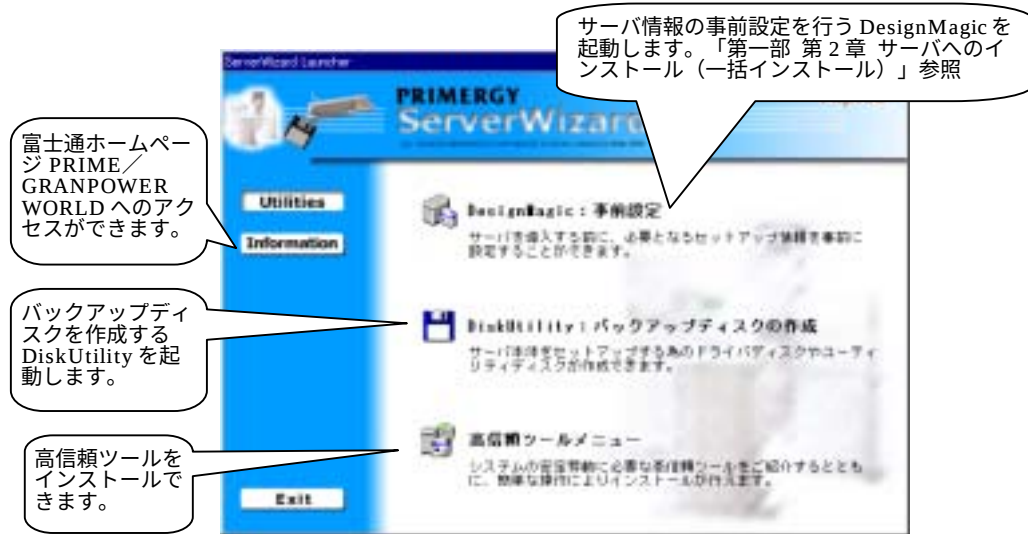
● 直接インストール（DOS 版使用）のとき

ServerWizard の新規インストールを起動し、「サーバ情報の設定」画面の「機種名」で「FD から機種情報ファイルを読み込む」を指定し、入手した機種情報ファイルを指定します。



1.6 ServerWizard を起動する

クライアントマシンに ServerWizard の CD-ROM をセットすると、AutoRun 機能により、プログラムが自動的に起動して次の画面が表示されます。

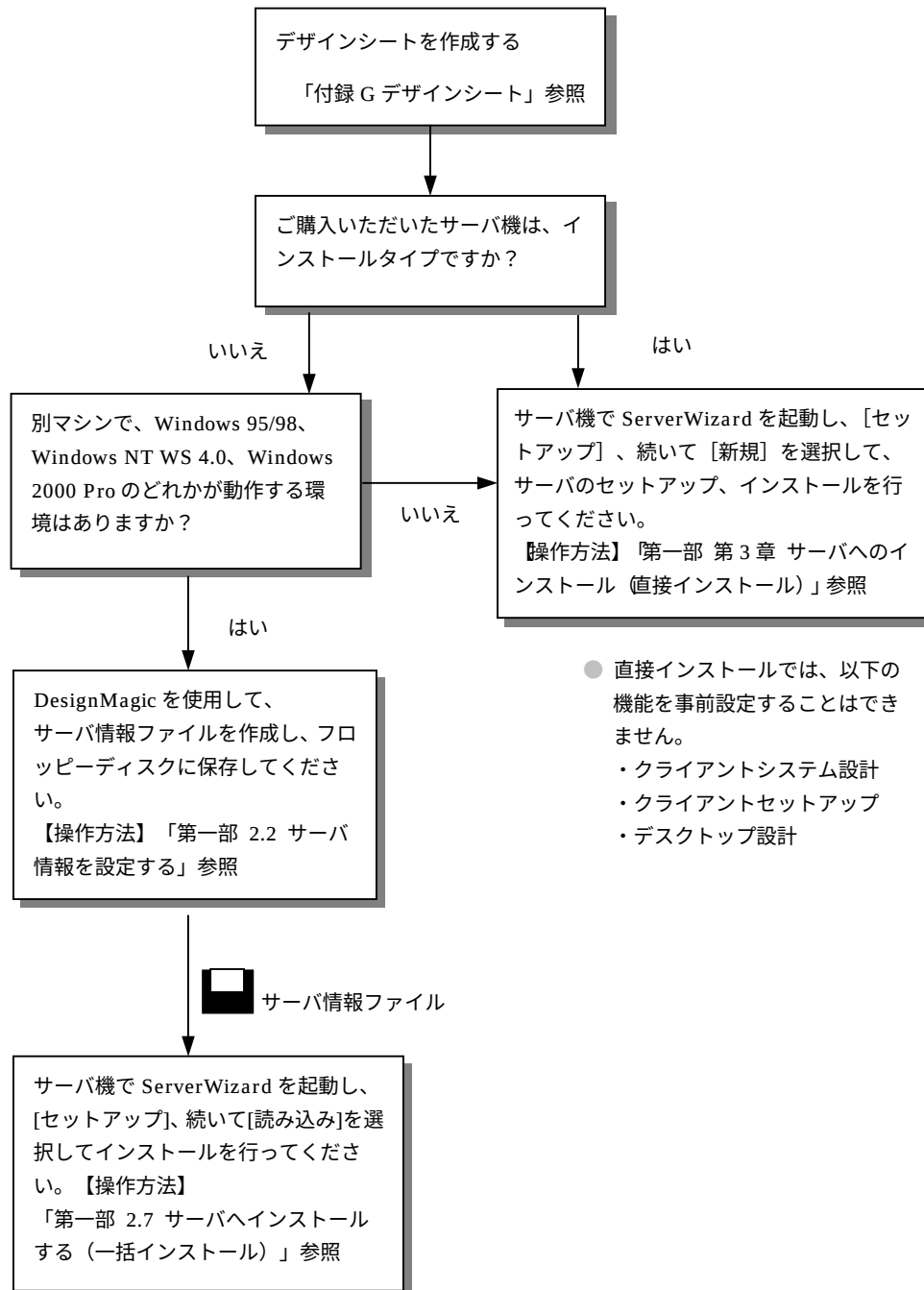


- 自動的に起動しない場合は、以下の方法で起動してください。
 - 1) [スタート] の [ファイル名を指定して実行] をクリックします。
ファイル名を指定して実行画面が表示されます。
 - 2) 「名前」に次のように入力して [OK] をクリックします。
D:¥SVWIZARD¥MENU¥INSTMENU.EXE
(CD-ROM ドライブが D の場合)
起動画面が表示されます。

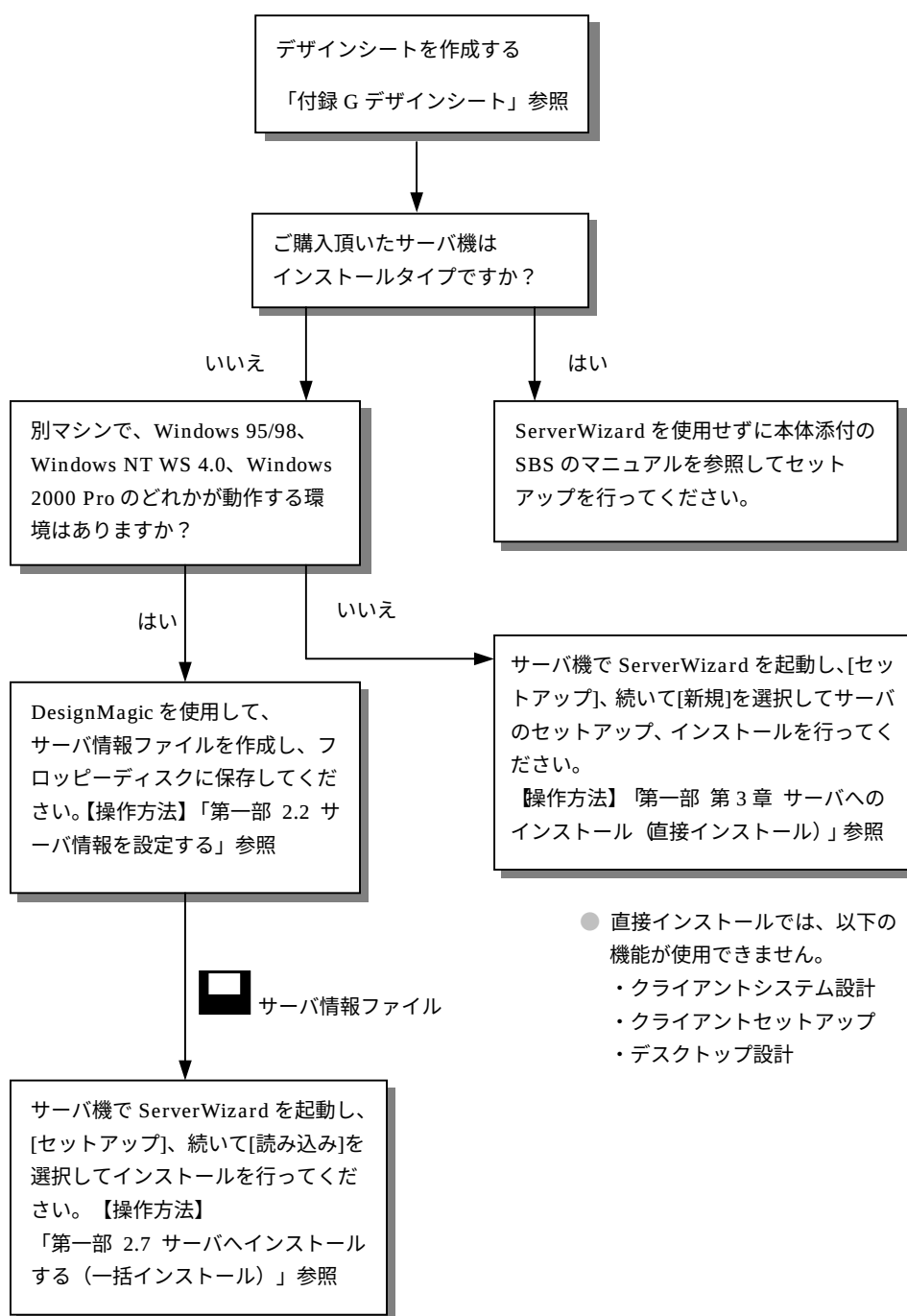
1.7 ServerWizard V2.0 でのセットアップ手順

ServerWizard V2.0 でサーバをセットアップする場合、次の条件に従って適切な方法を選択してください。

■Windows NT／Windows NT Server/E 4.0／Windows 2000 SV の場合



■SBS の場合



- 直接インストールでは、以下の機能が使用できません。
 - ・クライアントシステム設計
 - ・クライアントセットアップ
 - ・デスクトップ設計



SBS の場合には、添付アプリケーションや WizardConsole はインストールされません。

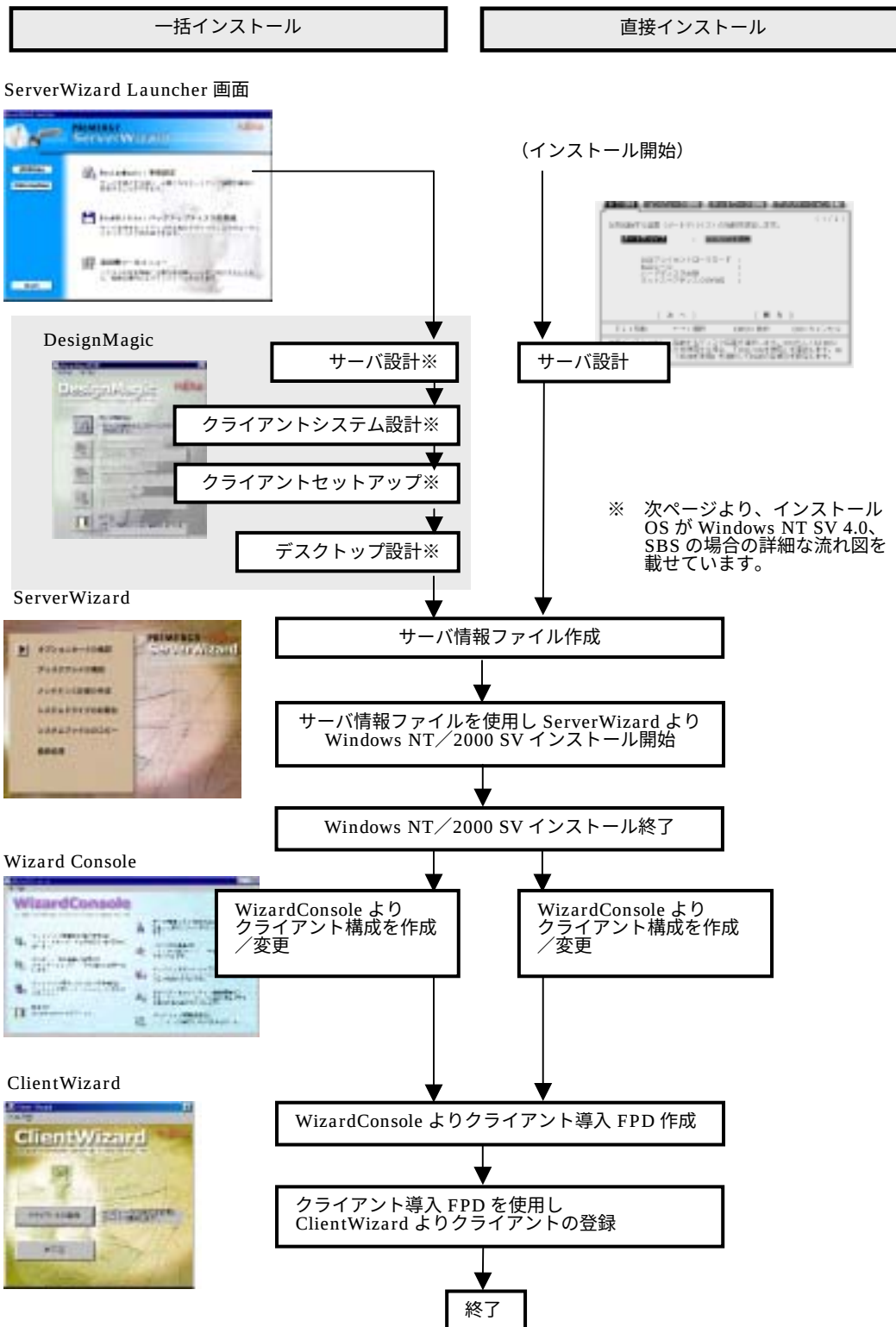
1.8 各機能の流れ

1.8.1 ServerWizard V2.0（全体）の流れ

ServerWizard V2.0 を使用して行うインストールの方法は 2 種類あります。

インストール方法	内容
一括インストール	事前に Windows 95／98、Windows NT WS 4.0、または Windows 2000 Pro 上で、DesignMagic を使ってサーバ情報ファイルを作成して、インストールを行う方法。 DesignMagic では、クライアントのセットアップ情報を設定することもできます。
直接インストール	ServerWizard V2.0 が添付されているサーバでサーバ情報ファイルを作成しながらインストールを行う方法。

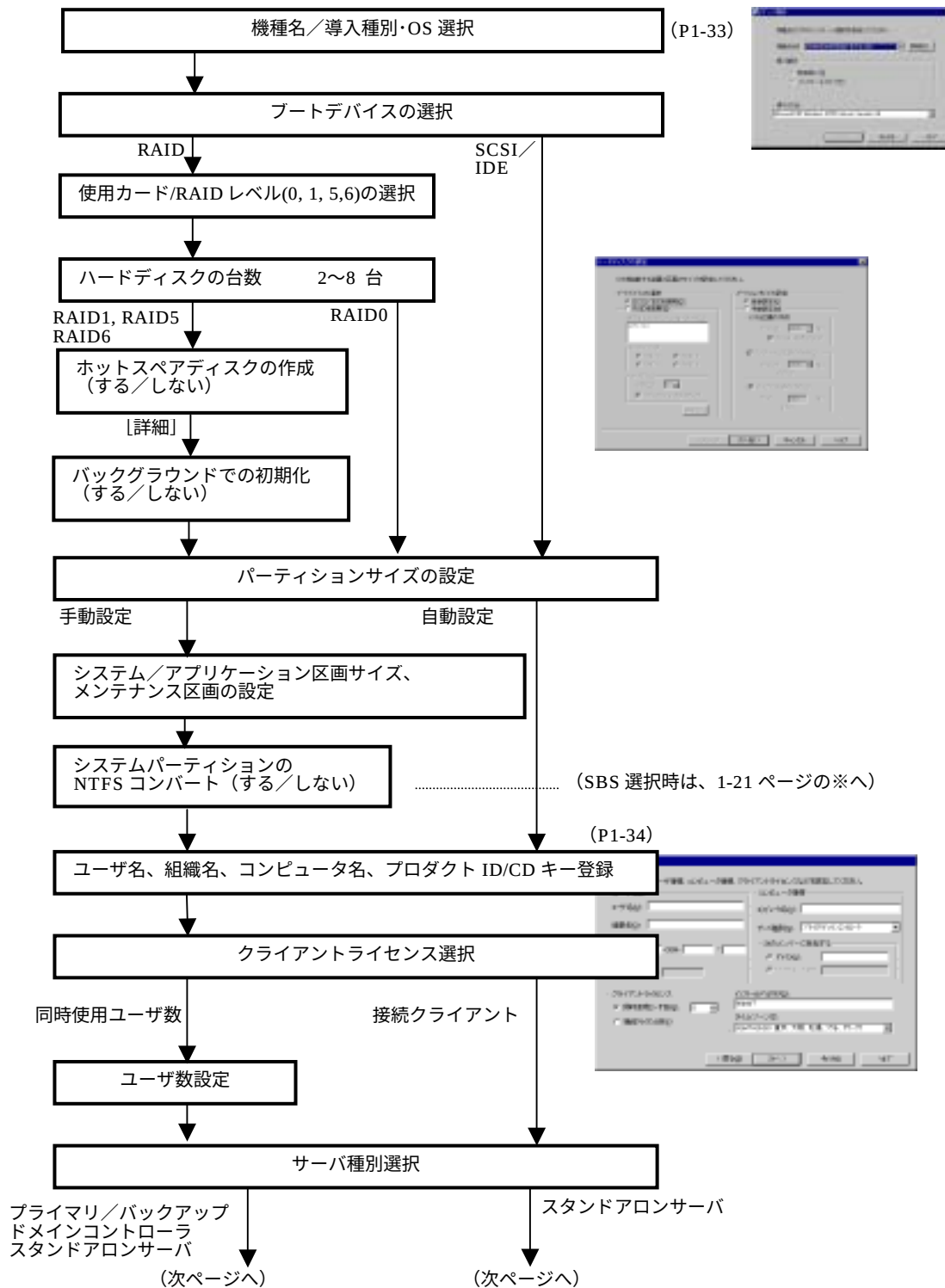
■インストールの流れ(全体)

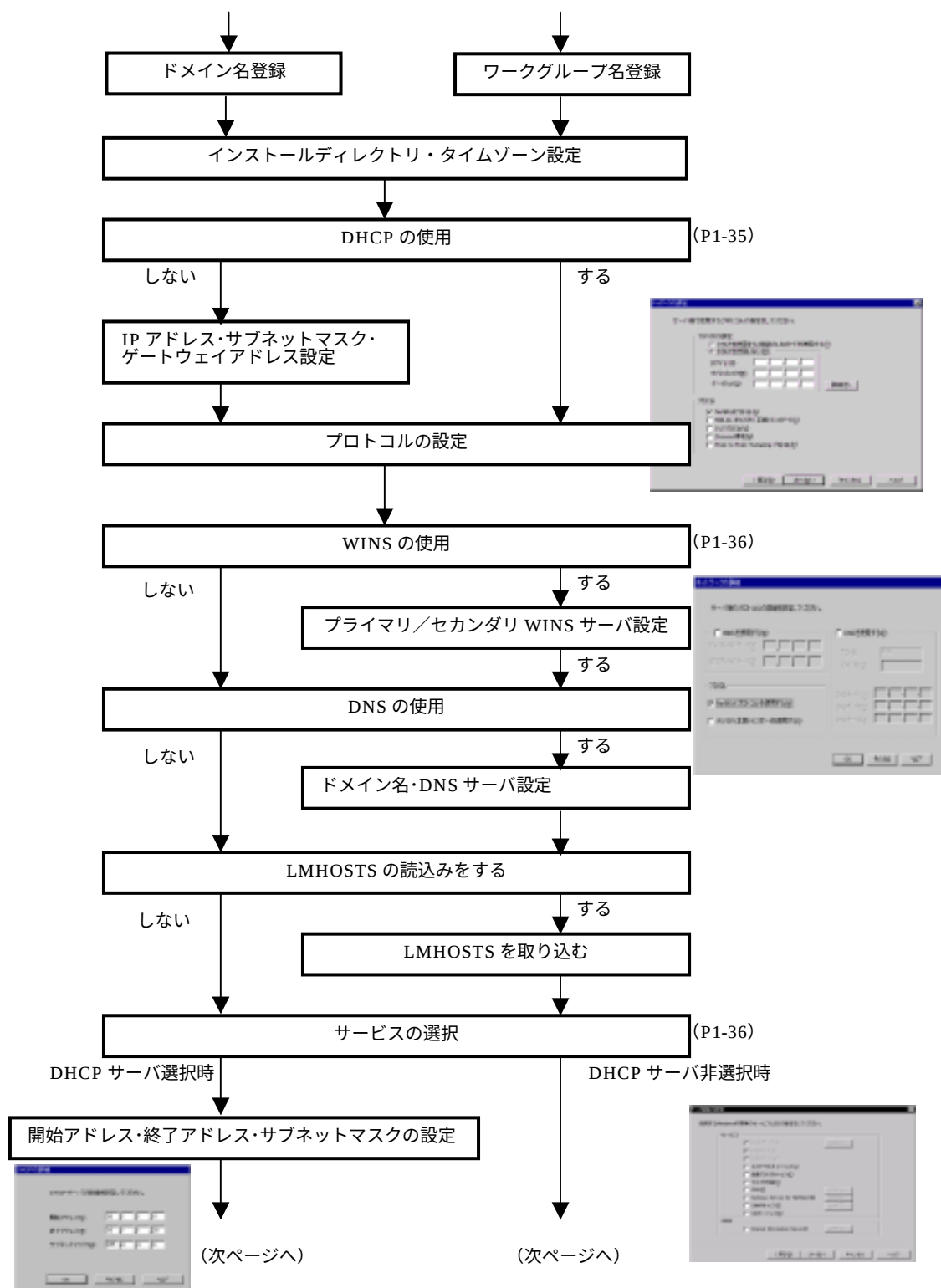


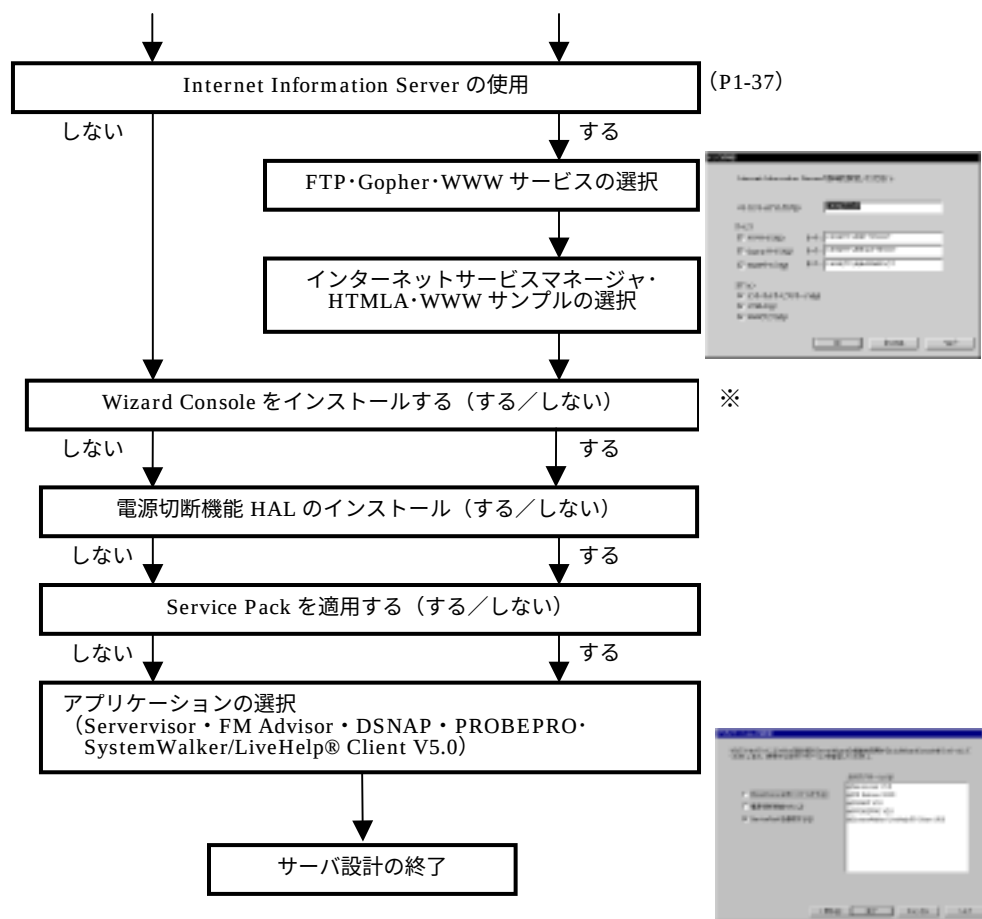
● 一括インストール時のサーバ設計 (DesignMagic) の流れ

[Windows NT SV 4.0、SBS の場合]

(詳細な操作方法および Windows 2000 SV の場合については「第一部 2.2 サーバ情報を設定する」参照)

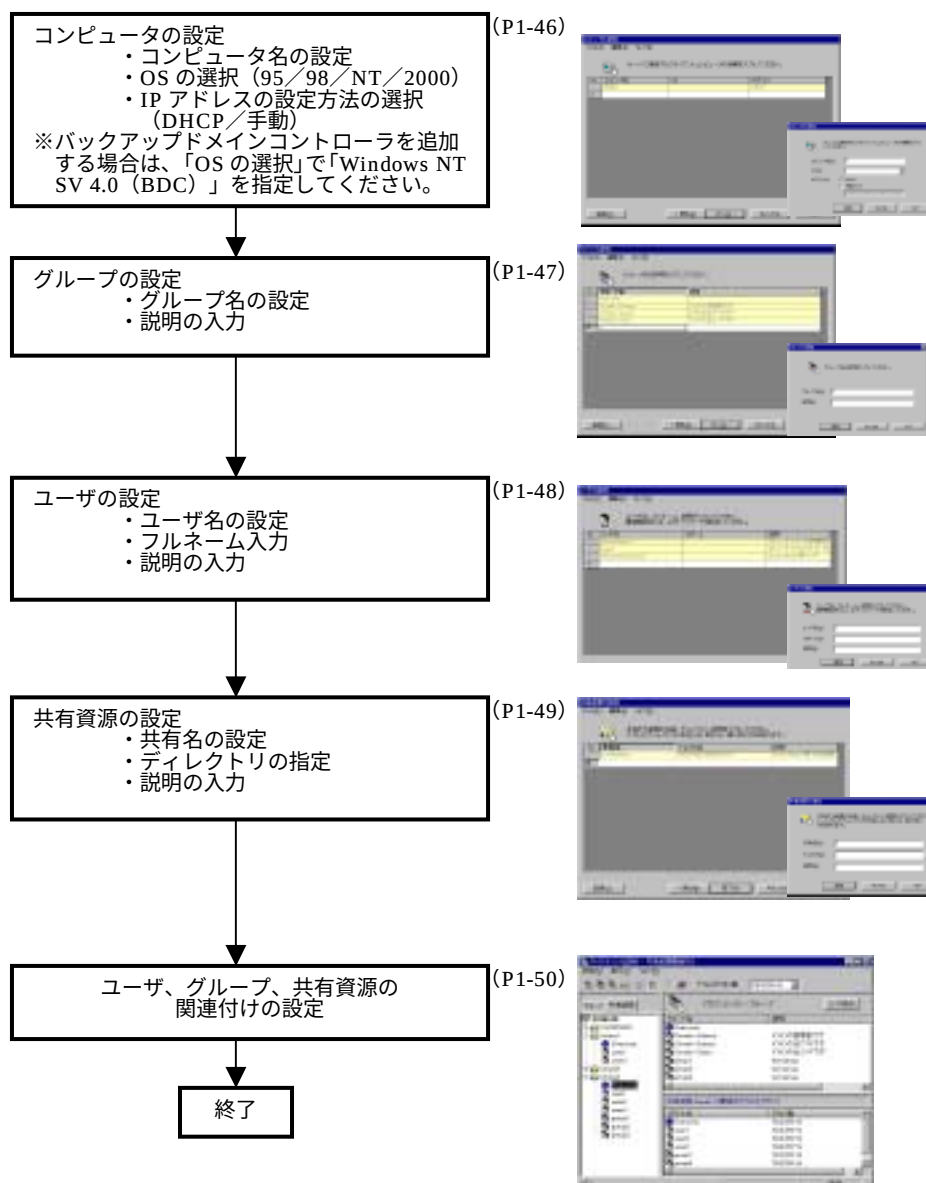






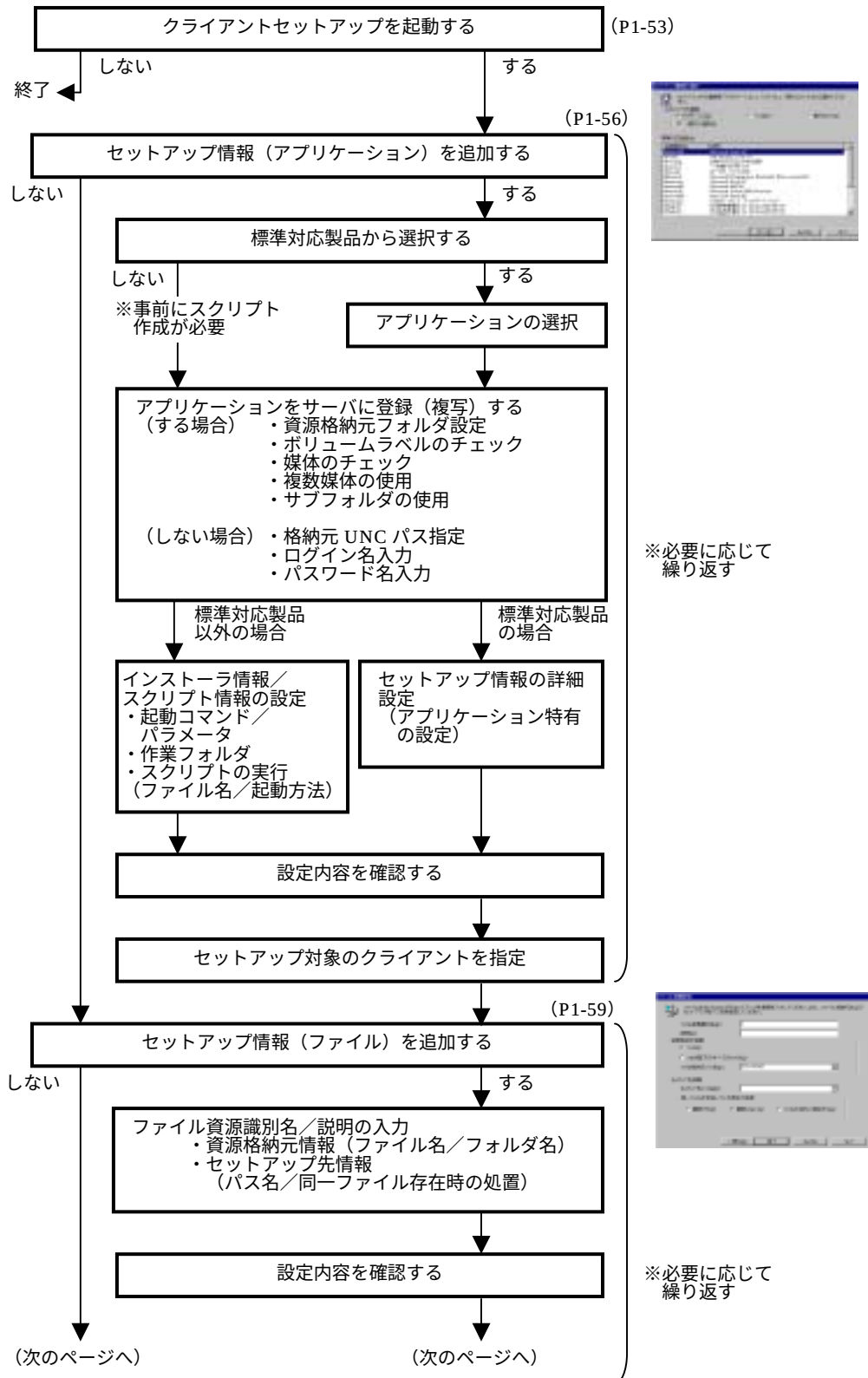
● クライアントシステム設計の流れ(DesignMagic)

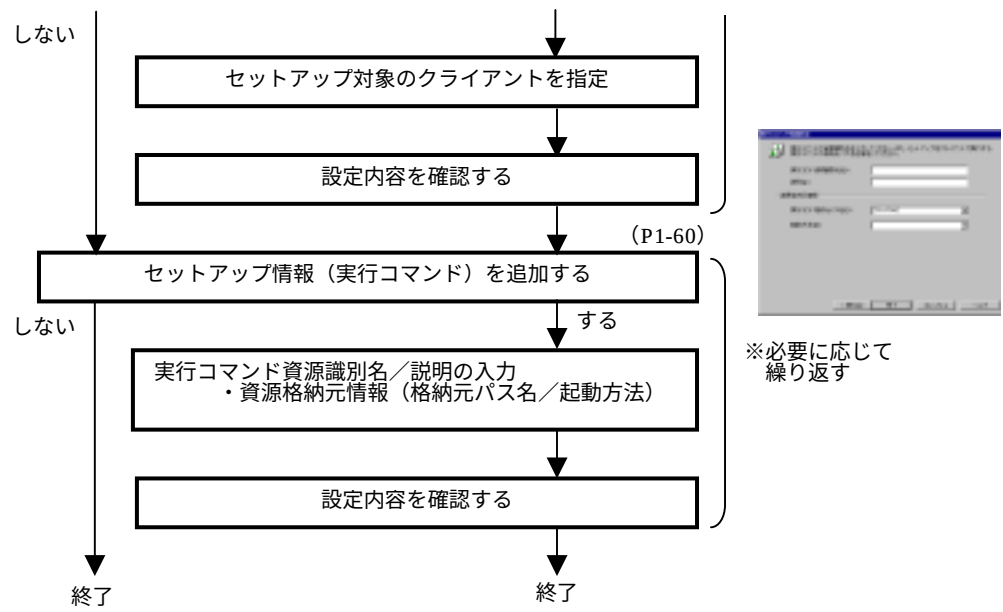
(詳細な操作方法は「第一部 2.3 クライアント情報を設定する」参照)



● クライアントセットアップの流れ

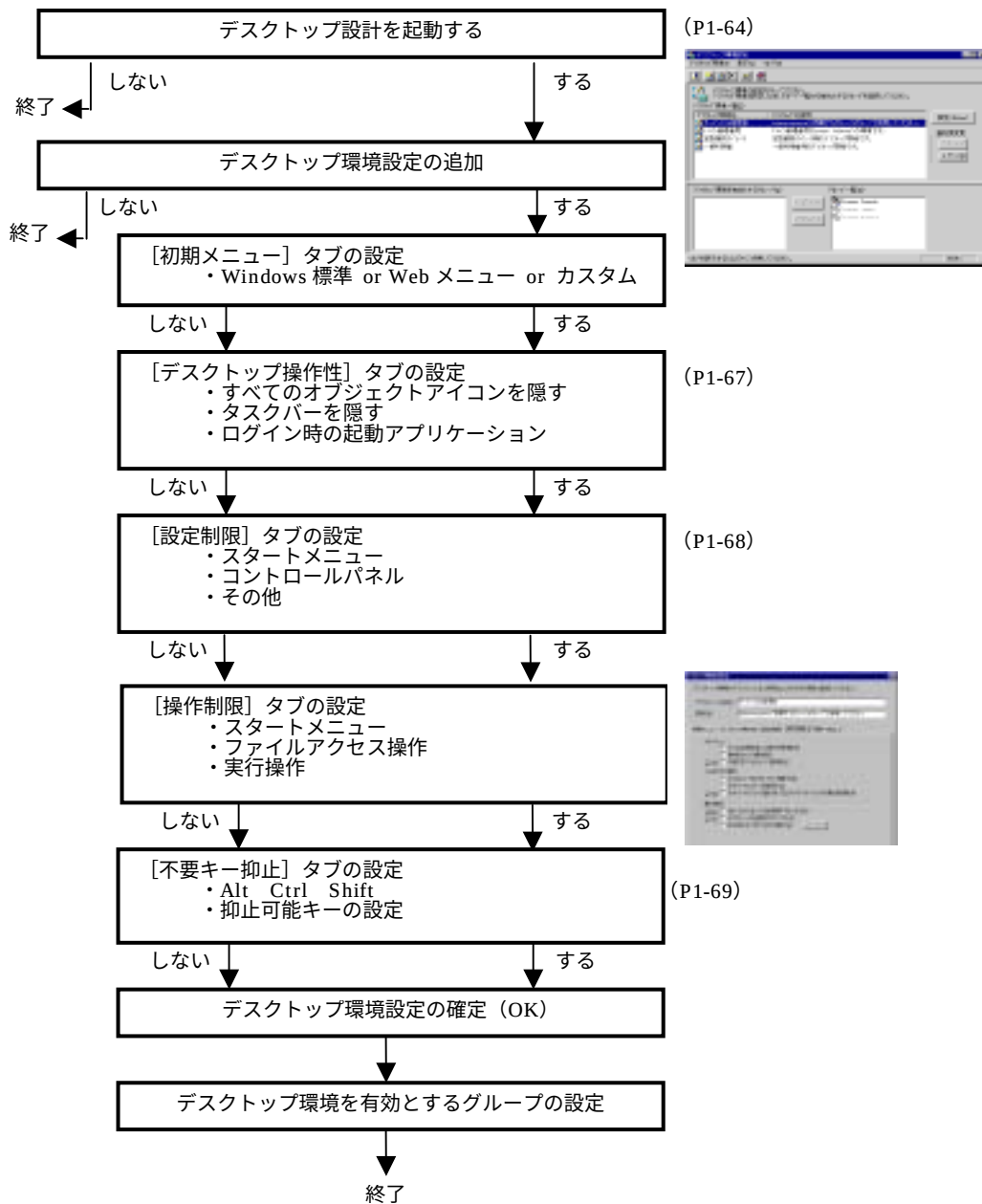
(詳細な操作方法は「第一部 2.4 クライアントへのセットアップ情報を設定する」参照)





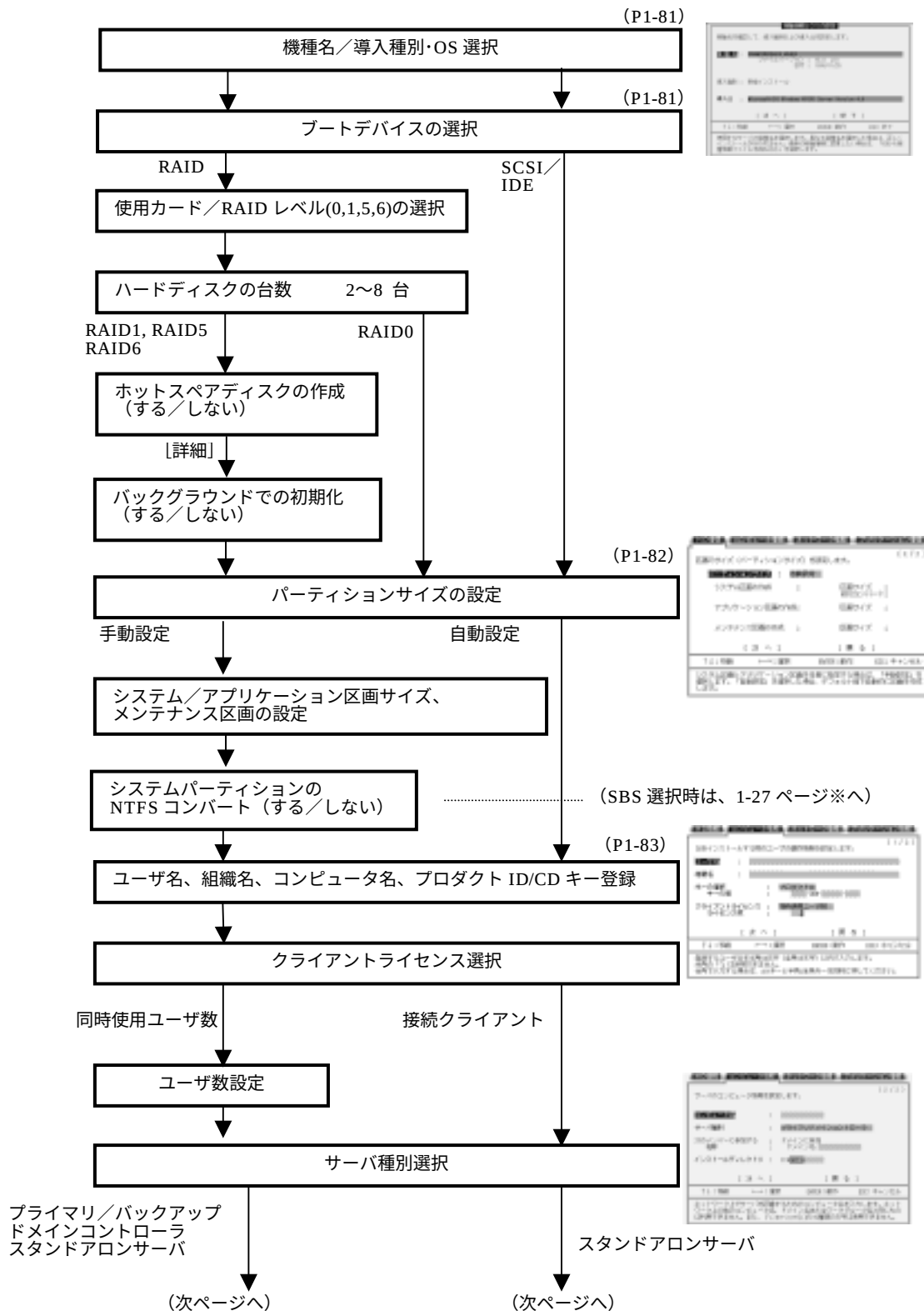
● デスクトップ環境設定の流れ

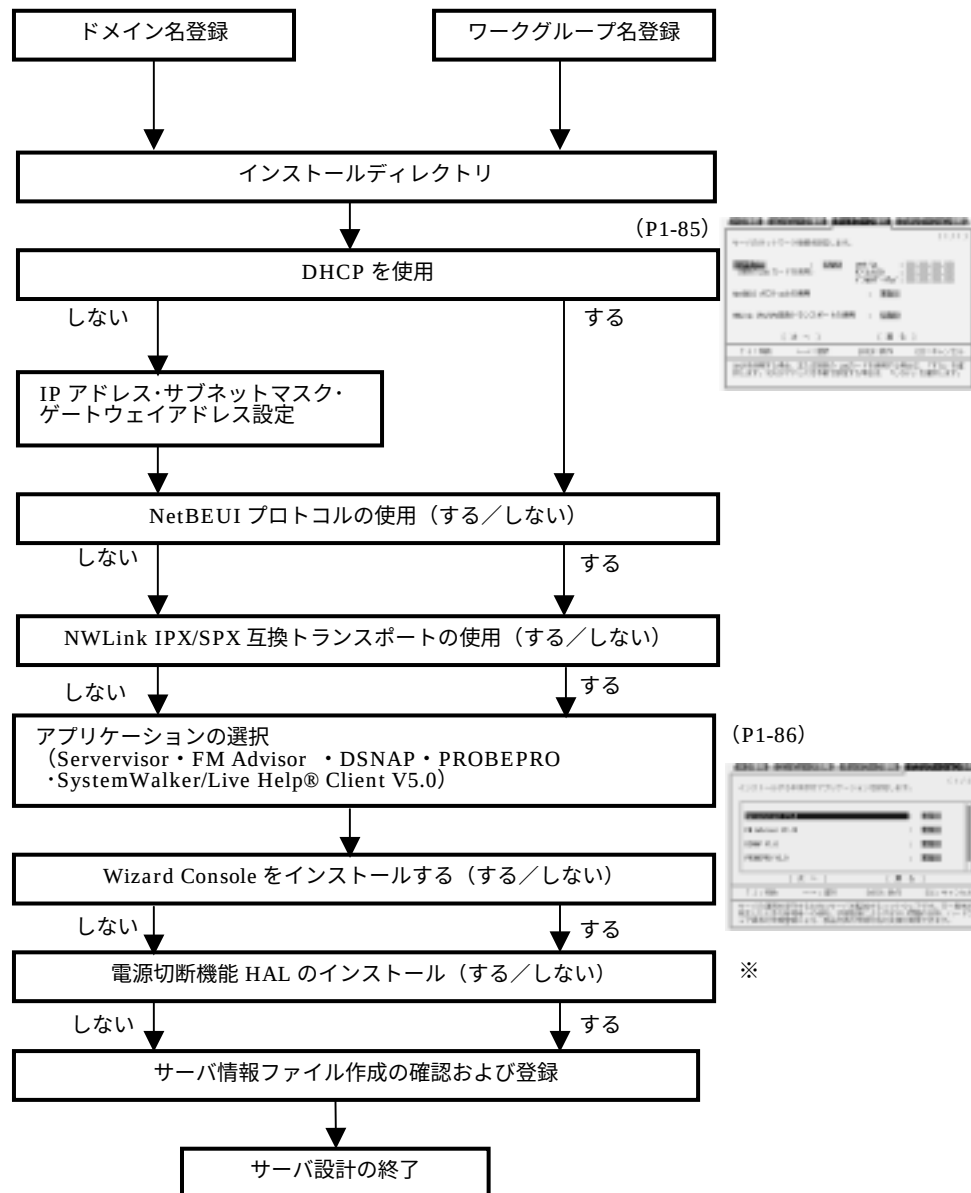
(詳細は「第一部 2.5 クライアントのデスクトップ環境を設定する」参照)



●直接インストール時のサーバ設計の流れ

(詳細は「第一部 第3章 サーバへのインストール(直接インストール)」参照)





第2章 サーバへのインストール（一括インストール）

[DesignMagic] + [ServerWizard]

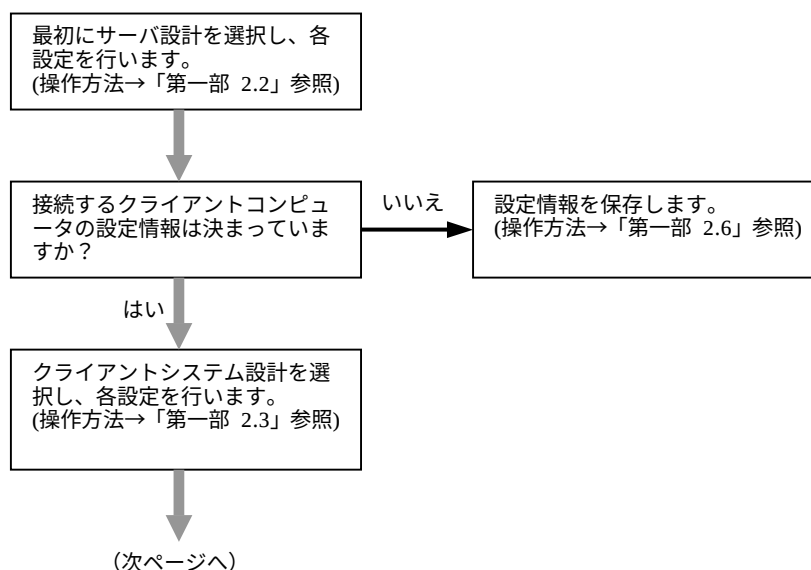
DesignMagic では、サーバ、クライアントのセットアップ情報を事前に設定し、サーバ情報ファイルを作成します。

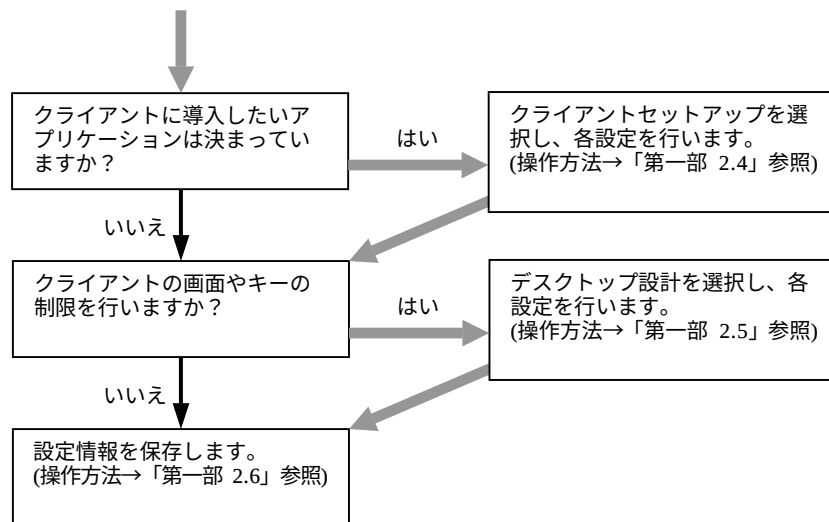
● DesignMagic を使うために必要な環境

- ☐ Windows 95/98、Windows NT WS 4.0、Windows 2000 Pro のどれかが動作するマシン（CD-ROM ドライブ必須）
- ☐ ServerWizard V2.0 の CD-ROM
- ☐ 「サーバ情報ファイル登録用ディスク」（1 枚：本製品に添付）

2.1 事前設定の操作フローチャート

DesignMagic で、サーバ設計のみ行った場合でも、サーバ情報ファイルは作成できます。クライアントシステム設計、クライアントセットアップ、デスクトップ設計などを行う際には、次の条件に従って適切な方法を選択してください。





[サーバ設計] で WizardConsole をインストールするように指定していない場合は、クライアントセットアップ、デスクトップ設計機能に対しての設定は行うことができません。

2.2 サーバ情報を設定する [DesignMagic－サーバ設計]

DesignMagic は、Windows 95/98、Windows NT WS 4.0、または Windows 2000 Pro 以上がインストールされているマシンで操作を行います。
他のアプリケーションなどが起動している場合は、終了してください。

2.2.1 DesignMagic を起動する

1 ServerWizard の CD-ROM をセットします。

ServerWizard Launcher 画面が表示されます。



2 「Utilities」の「DesignMagic」をクリックします。

DesignMagic が起動します。





ロック機能がある CD-ROM ドライブの場合、手順 1 の段階で、CD-ROM がロックされて取り出せなくなります。ロックは ServerWizard Launcher 終了時に解除されて、

Point

- CD-ROM をセットしても ServerWizard Launcher が起動しない場合は、以下の操作を行ってください。
 - 1) [スタート] の [ファイル名を指定して実行] をクリックします。
ファイル名を指定して実行画面が表示されます。
 - 2) 「名前」に次のように入力して [OK] をクリックします。(CD-ROM ドライブが E の場合)
E:\\$SVWIZARD\MENU\INSTMENU.EXE
ServerWizard Launcher が表示されます。
- DesignMagic での設定をすべて終了する前に DesignMagic を終了してしまった場合は、手順 2 を行ってください。
- サーバ設計で選択したインストール OS の種別によっては、「クライアントシステム設計」、「クライアントセットアップ」、「デスクトップ設計」の操作が行えない場合があります。

OS 種別	導入種別	サーバ設計	クライアントシステム設計	クライアントセットアップ	デスクトップ設計
Windows NT	新規インストール	○	○	○	○
	インストールタイプ	○	○	○	○
Windows NT Server/E 4.0	新規インストール	○	○	○	○
Windows 2000 SV	新規インストール	○	○	○	○
	インストールタイプ	○	○	○	○
SBS	新規インストール	△ (一部)	×	×	×
	インストールタイプ	×	×	×	×

● DesignMagic 画面のメニュー

項目	説明
[ファイル] メニュー	
新規作成	新規にサーバ設計、クライアントシステム設計、クライアントセットアップ、デスクトップ設計を行います。新規作成を行うと、設定中の情報を初期状態に戻すことができます。
開く	既存のサーバ情報ファイルを選択し、設定の確認、設定を行います。変更したファイルを上書き保存するか、別名で保存することで、新規にサーバ情報ファイルを作成できます。
別名で保存	現在設定中のサーバ情報ファイルを、別名で保存します。
プリンタの設定	使用するプリンタを設定をします。
印刷	サーバ設計、クライアントシステム設計、クライアントセットアップ、デスクトップ設計の設定内容を印刷します。印刷して設定内容を確認できます。
アプリケーションの終了	DesignMagic を終了します。現在設定中の内容が保存されていない場合は、フロッピーディスクへサーバ情報ファイルの保存を確認する画面が表示されます。保存せずに終了する場合は [いいえ] をクリックしてください。
[ヘルプ] メニュー	
トピックの検索	DesignMagic のヘルプが表示されます。ヘルプには、各設定画面の説明が書かれています。
バージョン情報	DesignMagic のバージョン情報が表示されます。

2.2.2 Windows NT/Windows NT Server/E 4.0/SBS の場合

1 DesignMagic 画面で [サーバ設計] をクリックします。

サーバ設計画面が表示されます。



2 ご使用になる「機種名」が正しく表示されていることを確認し、サーバにインストールする OS と、導入種別を指定します。

▶ 各項目の詳細説明 → [ヘルプ] をクリック

Print

- 最新の機種情報ファイルは、弊社のインターネットサービス（PRIME/GRANPOWER WORLD）で提供しています。フロッピーディスクなどにダウンロードしてご利用ください。
- インストールタイプでも、OS を再インストールする場合は、「新規導入」を選択してください。ハードディスクの初期化からインストールが行われます。

Note

ご使用になる機種を指定しなかった場合は、正常にインストールが行われません。

3 [OK] をクリックします。

ハードディスクの設定画面が表示されます。



Print

- サーバ設計画面で導入種別を「インストールタイプ」に指定した場合は、ハードディスクの設定画面は表示されません。手順 6 へ進んでください。

4 OS が起動する装置と、区画のサイズを指定します。

	サイズ [MB]	デフォルト値	ファイルシステム	ボリュームラベル
システム区画	2048～4096	(4096)	NTFS／FAT 選択	なし
アプリケーション区画	1～6144	(3996)	NTFS 固定	Swapldrv
メンテナンス区画	100 固定	(100)	FAT 固定	なし

※ 区画の合計サイズは、8192MB までです。

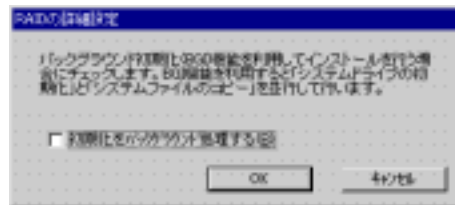
※メンテナンス区画とは、サーバメンテナンスに必要なユーティリティが導入される区画です。

▶各項目の詳細説明→[ヘルプ] をクリック

▶ハードディスクの台数について→「付録 A」の「Q.RAID を構築するときの注意点は？」参照

Point

- 使用する SCSI アレイコントローラカードによっては、RAID 6 はサポートされていない場合があります。
- 区画を管理する領域があるサーバでは、実際の区画は指定した容量より小さくなる場合があります。
- 指定した容量より小さなハードディスクが装着されていた場合、アプリケーション区画 (D:ドライブ) が作成されなかったり、自動的にサイズが変更される場合があります。
アプリケーション区画は、“NTFS”で初期化されます。システム区画は、「NTFS に変換する」が指定しなかった場合は“FAT”で初期化されます。
- [詳細] をクリックすると RAID の詳細設定画面が表示されます。



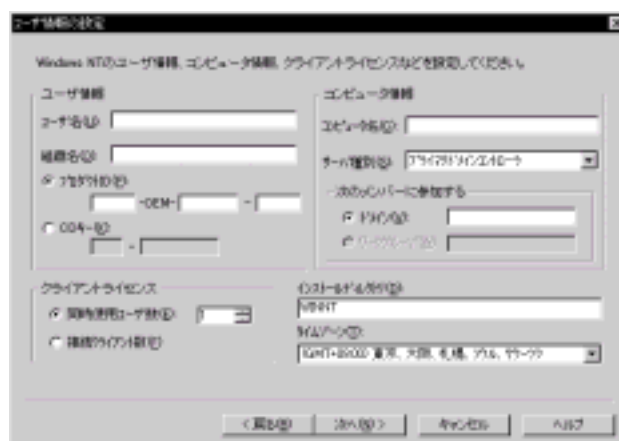
RAID を初期化する際に BGI 機能 (Background Initialization) を使用するかどうかを設定します。使用する SCSI アレイコントローラカードや RAID レベルによっては、BGI 機能はサポートされていない場合があります。

5 [次へ] をクリックします。

確認メッセージが表示されます。

6 内容を確認して [はい] をクリックします。

ユーザ情報の設定画面が表示されます。



7 ユーザ情報を設定します。

▶各項目の詳細説明→ [ヘルプ] をクリック

Print

- 「プロダクト ID」は、『ファーストステップガイド』を参照してください。
- 「CD キー」は、CD-ROM のケースを参照してください。
- 手順 1 のサーバ設計画面で、導入 OS を SBS に指定した場合は、手順 5 で次の画面が表示されます。選択したモデムカードの種類によって、設定する項目は異なります。各項目を設定し、[完了] をクリックすると設定が終了します。手順 13 へ進んでください。



Note

サーバ種別を「バックアップドメインコントローラ」に設定した場合は、あらかじめプライマリドメインコントローラのサーバ側に、コンピュータアカウントを作成しておく

設定した場合も、同様にコンピュータアカウントの作成が必要です。

作成していない場合には、プライマリドメインコントローラ側にアカウントを作成するため、管理者のユーザ名とパスワードを入力する必要があります。

8 [次へ] をクリックします。

ネットワークの設定画面が表示されます。



9 TCP/IP プロトコルを設定します。

▶各項目の詳細説明→ [ヘルプ] をクリック



- オプションの LAN カードを使用する場合は、カードごとの IP アドレスを指定することはできません。その場合は TCP/IP の設定で、「DHCP を使用する／複数の LAN カード」を選択し、その後、手動で IP アドレスを設定してください。
- Point to Point Tunneling プロトコルをインストールする場合は、リモートアクセスサービスのインストールも必要になります。

「詳細」をクリックすると、ネットワークの詳細画面が表示されますので、必要な項目を設定します。

▶各項目の詳細説明→「ヘルプ」をクリック



「OK」をクリックすると、設定が有効になり、ネットワークの設定画面に戻ります。

10 「次へ」をクリックします。

サーバ機能の設定画面が表示されます。

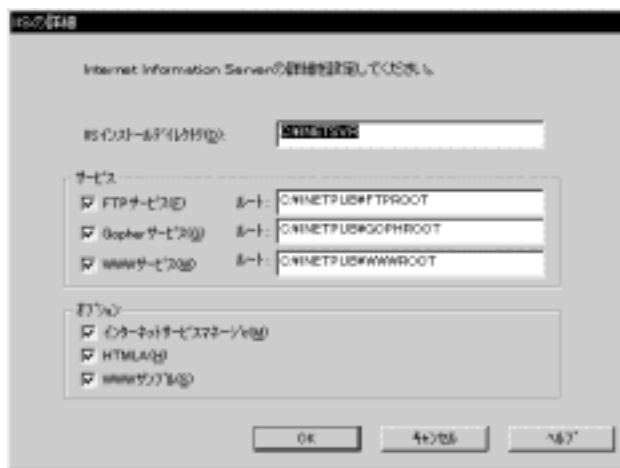


11 使用するサービス、アプリケーションを設定します。「詳細」があるサービスを使用する場合は、「詳細」をクリックして、各項目を設定してください。

▶各サービスの詳細設定について→「ヘルプ」をクリック

Internet Information Server の「詳細」をクリックすると IIS の詳細画面が表示されます。必要な項目を設定してください。

▶各項目の詳細説明→「ヘルプ」をクリック



サービス、オプションの詳細については、IIS のマニュアルを参照してください。
[OK] をクリックすると、設定が有効になり、サーバ機能の設定画面に戻ります。

Note

デスクトップ環境設定で WizardMenu を使用する場合は、必ず「Internet Information Server」をチェックし、IIS の詳細画面で「FTP サービス」をチェックしてください。

12 [次へ] をクリックします。

アプリケーションの設定画面が表示されます。



13 インストールするアプリケーションを選択します。

- ▶ 添付アプリケーションについて → 「第二部 高信頼ツールについて」 参照
- ▶ 各項目の詳細説明 → [ヘルプ] をクリック

Note

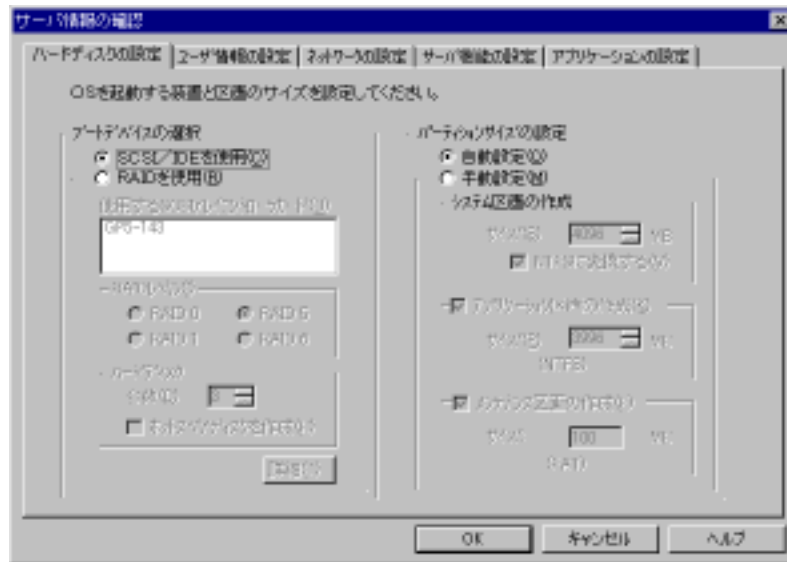
- ・添付アプリケーションに Serviserv を選択する場合は、必ず「ServicePack を適用する」をチェックしてください。
- ・インストールする OS のサーバ種別をバックアップドメインコントローラにした場合「WizardConsole をインストールする」を指定しても、DesignMagic でクライアントシステム設計、クライアントセットアップ、デスクトップ設計機能の設定は行えません。これらの機能は、OS インストール後に設定できるようになります。

14 [完了] をクリックします。

サーバ情報の確認画面が表示されます。



添付アプリケーションで Servvisor を選択している場合、SNMP サービスの設定（または設定内容の変更）が必要になります。その場合は確認のメッセージが表示されます



今まで設定してきた内容が確認できます。

15 確認したいタブをクリックし、内容を確認、修正します。

16 [OK] をクリックします。

DesignMagic の画面に戻ります。

2.2.3 Windows 2000 SV の場合

1 DesignMagic 画面から [サーバ設計] をクリックします。

サーバ設計画面が表示されます。



2 ご使用になる「機種名」が正しく表示されていることを確認し、サーバにインストールする OS と、導入種別を指定します。

▶各項目の詳細説明→ [ヘルプ] をクリック

Point

- 最新の機種情報ファイルは、弊社のインターネットサービス(PRIME/GRANPOWER WORLD)で提供しています。フロッピーディスクなどにダウンロードしてご利用ください。
- インストールタイプでも、OS を再インストールする場合は、「新規導入」を選択してください。ハードディスクの初期化からインストールが行われます。

Note

ご使用になる機種を指定しなかった場合は、正常にインストールが行われません。

3 [OK] をクリックします。

ハードディスクの設定画面が表示されます。



Point

- サーバ設計画面で導入種別を「インストールタイプ」に指定した場合は、ハードディスクの設定画面は表示されません。手順 6 へ進んでください。

4 OS が起動する装置と、区画のサイズを指定します。

	サイズ [MB]	デフォルト値	ファイルシステム	ボリュームラベル
システム区画	2048～4096	(4096)	NTFS/FAT 選択	なし
アプリケーション区画	1～6144	(3996)	NTFS 固定	Swapldrv
メンテナンス区画	100 固定	(100)	FAT 固定	なし

▶各項目の詳細説明→ [ヘルプ] をクリック

▶ハードディスクの台数について→「付録 A」の「Q.RAID を構築するときの注意点は?」参照

Point

- 使用する RAID カードによっては、RAID 6 はサポートされていない場合があります。
- 管理領域がある実際のサーバでは、区画は指定した容量より小さくなる場合があります。
- 指定した容量より小さなハードディスクが装着されていた場合、アプリケーション区画 (D:ドライブ) が作成されなかったり、自動的にサイズが変更される場合があります。
アプリケーション区画は、“NTFS”で初期化されます。システム区画は、「NTFS に変換する」が指定しなかった場合は“FAT”で初期化されます。

- システム区画のサイズを 2048MB 以外（2049～4096MB）で指定すると、自動的に “NTFS” で初期化されます。
- ActiveDirectory をインストールする場合は、「NTFS に変換する」を指定することをお勧めします。
- [詳細] をクリックすると RAID の詳細設定画面が表示されます。RAID を初期化する際に BGI 機能（Background Initialization）を使用するかしないかを設定します。RAID カードによっては、BGI 機能はサポートされていない場合があります。

5 [次へ] をクリックします。

確認メッセージが表示されます。

6 内容を確認して [はい] をクリックします。

ユーザ情報の設定画面が表示されます。



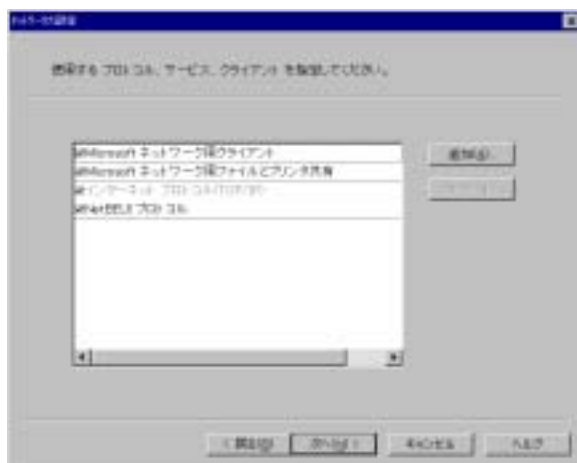
7 ユーザ情報を設定します。

▶各項目の詳細説明→ [ヘルプ] をクリック

- 「プロダクト キー」は、CD ケースの裏面か「Certificate of Authenticity」を参照してください。

8 [次へ] をクリックします。

ネットワークの設定画面が表示されます。



9 ネットワーク情報を設定します。

[追加] をクリックするとコンポーネントの選択画面が表示されます。
ネットワークの設定画面に表示されていてもチェックが外されたコンポーネントはインストールされません。

▶各項目の詳細説明→ [ヘルプ] をクリック

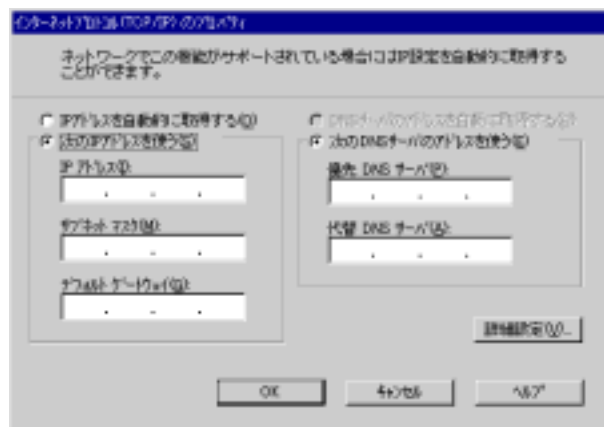


10 追加したいコンポーネントをチェックしてください。[OK] をクリックすると、ネットワークの設定画面の一覧に反映されます。

11 TCP/IP プロトコルを設定します。

ネットワークの設定画面で TCP/IP を選択し、[プロパティ] をクリックします。
インターネットプロトコル (TCP/IP) は必須です。削除はできません。IP アドレス、DNS サーバのアドレスを設定してください。[OK] をクリックすると設定が有効になり、ネットワーク設定の画面に戻ります。

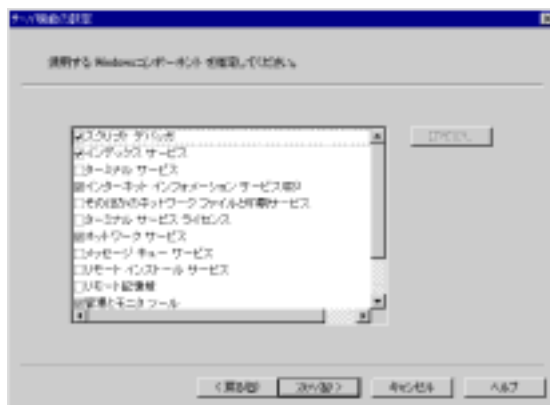
▶各項目の詳細説明→ [ヘルプ] をクリック



オプションの LAN カードを使用する場合は、カードごとの IP アドレスを指定することはできません。その場合は TCP/IP の設定で、「IP アドレスを自動的に取得する」を選択してください。

12 [次へ] をクリックします。

サーバ機能の設定画面が表示されます。



13 使用するサービス、アプリケーションを設定します。[詳細] があるサービスを使用する場合は、[詳細] をクリックすると、詳細な設定が行えます。

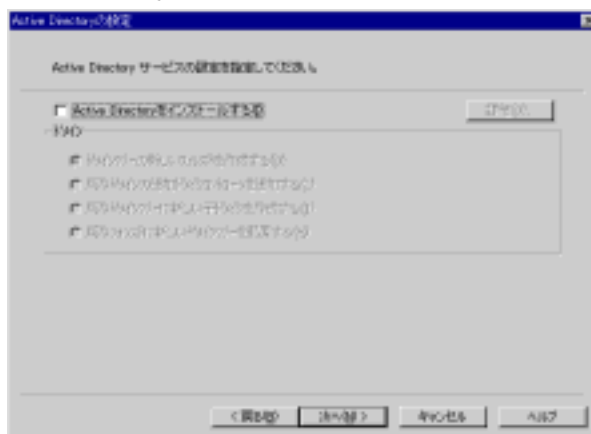
▶各項目の詳細説明→ [ヘルプ] をクリック

サービス、オプションの詳細については、Windows 2000 SV のマニュアルを参照してください。

[OK] をクリックすると、設定が有効になり、サーバ機能の設定画面に戻ります。

14 [次へ] をクリックします。

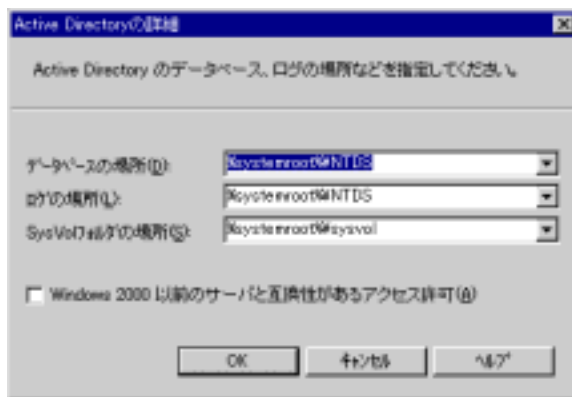
Active Directory の設定画面が表示されます。



15 Active Directory サービスの設定を指定します。ドメインの選択によって画面下部の入力内容が変わります。[詳細] をクリックすると、Active Directory の詳細画面が表示されます。

▶各項目の詳細説明→ [ヘルプ] をクリック

- 「Active Directory をインストールする」を指定しないと、クライアントシステム設計以降の処理と WizardConsole がインストールされません。
- Active Directory をインストールする場合、DNS と名前解決について事前に問題がないことを確認してからセットアップを始めてください。
- 何らかの理由で Active Directory のインストールウィザードが止まることがあります。その場合は、必ず画面の指示に従って、インストール操作を続けてください。再起動をうながすメッセージが表示されたら、必ず「再起動する」を選択してください。ウィザード画面で【キャンセル】を選択したり「再起動する」を選択しない場合は、

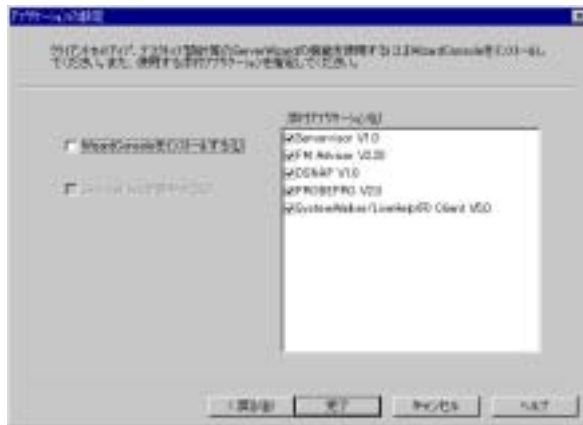


ActiveDirectory のデータベース、ログの場所などを指定します。

【OK】をクリックすると設定が有効になり、Active Directory の設定の画面に戻ります。

16 【次へ】をクリックします。

アプリケーションの設定画面が表示されます。



17 インストールするアプリケーションを選択します。

- ▶ 添付アプリケーションについて→「第二部 高信頼ツールについて」参照
- ▶ 各項目の詳細説明→【ヘルプ】をクリック

18 [完了] をクリックします。

サーバ情報の確認画面が表示されます。



今まで設定してきた内容が確認できます。

19 確認したいタブをクリックし、内容を確認、修正します。

20 [OK] をクリックします。

DesignMagic の画面に戻ります。

2.3 クライアント情報を設定する [DesignMagicクライアントシステム設計]

サーバを使用するクライアントの情報や、サーバに設定するグループ、共有フォルダの設定および関連付けを行います。

- Point** ● あらかじめ、CSV 形式（カンマ区切り）でアカウント（コンピュータ、グループ、ユーザ、共有資源）の一覧を作成し、[ファイル] から [CSV ファイル取込み] を選択して読み込むと、アカウントをまとめて設定することができます。

▶ CSV ファイルの記述方法 → 「付録 F CSV ファイルフォーマットについて」参照

● クライアントシステム設計の各設定画面でできる操作

クライアントシステム設計の各画面では、変更、削除、複写の操作が行えます。

- 変更するには、変更する項目欄を選択し、[変更] をクリックします。各設定の画面が表示されます。設定を変更し [OK] をクリックします。
- 削除するには、削除する No. を右クリックし、「削除」を選択します。【Delete】キーを押しても削除できます。
- 複写する No. を右クリックし、「コピー」を選択します。「切り取り」を選択すると移動になります。「貼り付け」を行うと、一番下に追加されます。

● クライアントシステム設計の各設定画面の見方

- 黄色の背景のアカウントは予約されていることを示します。
削除、変更の操作は行えません。
- 白色の背景の項目は直接入力、変更、削除が行えます。

- Point** ● Windows 2000 SV を選択していた場合は最初に以下の画面が表示されます。



OU を使用する場合は、「OU を作成する」を選択し、組織名などを入力してください。

ただし、” # + , ¥ = < > ; の 9 種類の文字は使用できません。

OU とは、"Organizational Unit"の略で、会社の部課や、学校の学部などの組織単位を意味します。

OU を作成し、OU の中にユーザやグループなどを作成することができます。OU に名前をつけて作成すると管理しやすくなります。

Note

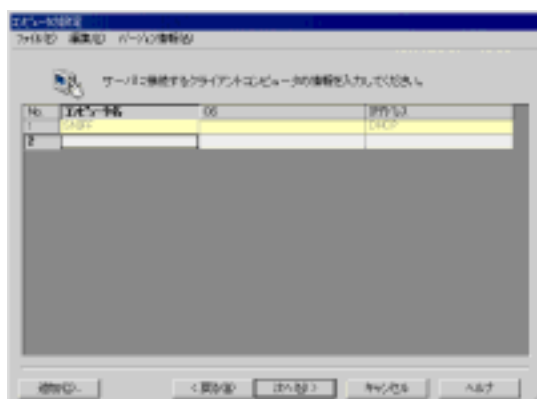
「デスクトップ環境設定」機能を使って、クライアントのデスクトップ環境を制御する場合は、必ず OU を作成してください。デスクトップ環境設定は、クライアントのデス

2.3.1 コンピュータの設定

1 [クライアントシステム設計] をクリックします。

コンピュータの設定画面が表示されます。

あらかじめサーバのコンピュータ名が表示されています。



コンピュータ名の欄をクリックすると、クライアントコンピュータ名を入力できます。

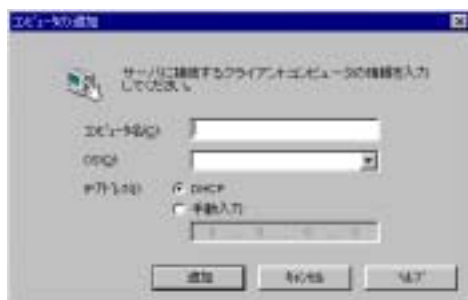
OSの欄をクリックすると▼が表示されます。▼からOSを選択します。

IPアドレスの欄をクリックすると、▼が表示されます。▼から指定方法を選択します。

「手動入力」を選択するとIPアドレスが入力できます。

2 サーバに接続するクライアントコンピュータの情報を設定します。

[追加] または [変更] をクリックすると、コンピュータの追加/変更画面が表示されますので、必要な項目を設定します。



各項目を設定し、[追加] または [変更] をクリックすると、続けて追加するコンピュータを設定できます。すべてのコンピュータを設定後、[閉じる] をクリックするとコンピュータ情報が登録され、コンピュータの設定画面に戻ります。

項目	説明
コンピュータ名	クライアントのコンピュータ名を入力してください。 15文字以内（半角の場合）で入力してください。 "/, ¥=+<>;*? [:] の15種類の文字は使用できません。設計しているサーバが Windows 2000 の場合、スペース・ピリオドも使用できません。サーバと同じコンピ ュータ名は使用できません。最大 256 件登録できます。
OS	クライアントのコンピュータで使用する OS を選択します。 バックアップドメインコントローラ（以下 BDC）を追加する場合には 「Windows NT SV 4.0（BDC）」を選択してください。なお、BDC はク ライアントセットアップ画面には表示されません。

(続く)

項目	説明
IP アドレス	クライアントコンピュータの IP アドレスの設定方法を選択します。 「手動入力」の場合、IP アドレスを設定します。 「DHCP」の場合、DHCP サーバが IP アドレスを自動的に割り当てます。

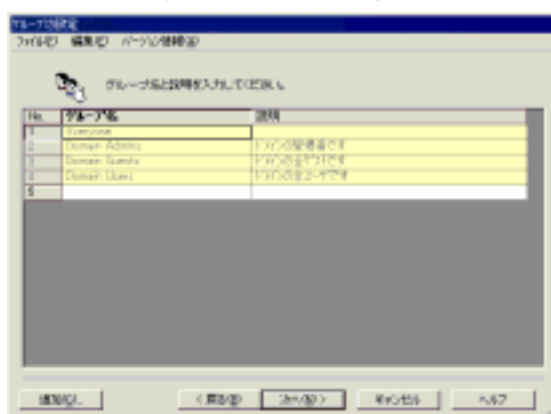


256 件のコンピュータが登録されているサーバ情報ファイル（WizardConsole で作成）を読み込んだとき、設計中のコンピュータ 1 件と、読み込んだ 256 件（No.2～No.257）の計 257 件が表示されることがあります。この場合、登録されるのは No.2～No.257 の 256 件のみです。No.258 も入力可能状態になりますが、入力は無効になります。

- 3 [次へ] をクリックします。
グループの設定画面が表示されます。

2.3.2 グループ、ユーザ、共有資源の設定

あらかじめ設計しているサーバで予約されているグループ名が表示されます。



- 1 サーバを利用するグループを登録します。
[追加] または [変更] をクリックすると、グループの追加／変更画面が表示されますので、必要な項目を設定します。



項目	説明
グループ名	ユーザグループ名を入力します。 20 文字以内（半角の場合）で入力してください。 "/, ¥=+<>;*? [:] の 15 種類の文字は使用できません。すでに入力されているグループ名およびユーザ名と同じグループ名は使用できません。最大 256 件登録できます。
説明	作成したグループに対する説明を入力します。64 文字以内（半角の場合）で入力してください。省略できます。

各項目を設定し、「追加」または「変更」をクリックすると、続けて追加するグループを設定できます。

すべてのグループを設定後、「閉じる」をクリックするとグループ情報が登録され、グループの設定画面に戻ります。

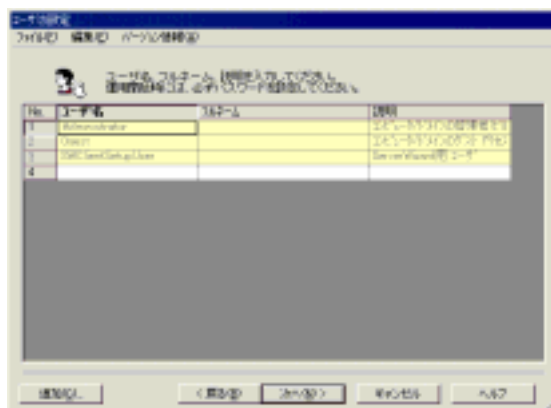


設計しているサーバで予約されているグループ名は作成できません。

2 「次へ」をクリックします。

ユーザの設定画面が表示されます。

設計しているサーバおよび ServerWizard で予約されているユーザ名が表示されています。



3 サーバを利用するユーザの情報を登録します。

「追加」または「変更」をクリックすると、ユーザの追加／変更画面が表示されますので、必要な項目を設定します。



項目	説明
ユーザ名	コンピュータ上のユーザ名を入力します。20 文字以内で（半角の場合）入力してください。 "/, ¥=+<>;*? [:] の 15 種類の文字は使用できません。また、すでに入力されているグループ名およびユーザ名と同じ名前は使用できません。最大 256 件登録できます。
フルネーム	ユーザのフルネームを入力します。64 文字以内（半角の場合）で入力してください。省略できます。
説明	ユーザに対する説明を入力します。48 文字以内（半角の場合）で入力してください。省略できます。

各項目を設定し、「追加」または「変更」をクリックすると、続けて追加するユーザを設定できます。すべてのユーザを設定後、「閉じる」をクリックするとユーザ情報が登録され、ユーザの設定画面に戻ります。

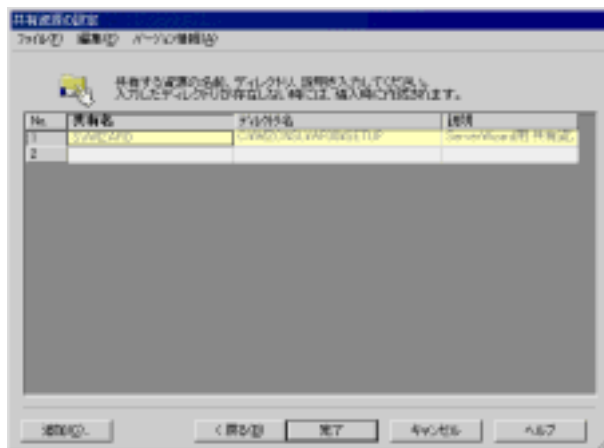


- ・ここでは、ユーザのパスワードは設定できません。セキュリティのためにも運用開始時に必ずパスワードを設定してください。
- ・設計しているサーバで予約されているユーザ名および ServerWizard で予約されているユーザ名 (SwClientSetupUser) は作成できません。

4 [次へ] をクリックします。

共有資源の設定が表示されます。

ServerWizard で予約されている共有名が表示されます。



5 ユーザ、グループ等で共有して利用するフォルダ名を登録します。

[追加] または [変更] をクリックすると、共有資源の追加／変更画面が表示されますので、必要な項目を設定します。



項目	説明
共有名	共有するディスク資源を入力します。80 文字以内（半角の場合）で入力してください。最大 32 件登録できます。 "/, ¥=+<>;*? [:] の 15 種類の文字は使用できません。
ディレクトリ	共有する資源のディレクトリ名を入力します。246 文字まで（半角の場合）入力できます。
説明	共有資源に対する説明を入力します。48 文字以内（半角の場合）で入力してください。省略できます。

共有資源名を設定する際、以下のことにご注意ください。

- ・ 8.3 形式 (xxxxxxx.xxx) より大きい長さで入力した場合は、MS-DOS のワークステーションから共有できない可能性があります。
- ・ ServerWizard で予約されている以下の名称を使用して作成することはできません。
SVWIZARD

各項目を設定し、「追加」または「変更」をクリックすると、続けて追加する共有資源を設定できます。すべての共有資源を設定後、「閉じる」をクリックすると、共有資源情報が登録され、共有資源の設定画面に戻ります。

6 [完了] をクリックします。

クライアントシステム設計画面が表示されます。続いて「関連付け」の操作を行います。

2.3.3 グループ、ユーザ、共有資源の関連付け

ユーザがどのグループに所属するか、利用する共有資源はどれかの関連付けを行います。

● ユーザの所属グループの設定

[グループ]
[共有資源]
タブをクリック
すると表示
が切り替わ
ります。

選択可能なユーザ
名が表示され
ます。ユーザ
名を右クリッ
クするとその
ユーザに関連
付けられてい
るグループ、
共有資源を確
認できます。

グループに関連
付けられたユー
ザ名が表示さ
れます。

ユーザをグループに関連付けするには、「アカウントリスト - ユーザ」から左側の「グループ」タブ内の目的グループ、または右下側の「グループ xx に関連付けられたアカウント」のリスト内にドラッグ&ドロップします (xx は、選択されているグループ名)。

● 共有資源の設定（ユーザ／グループ単位）



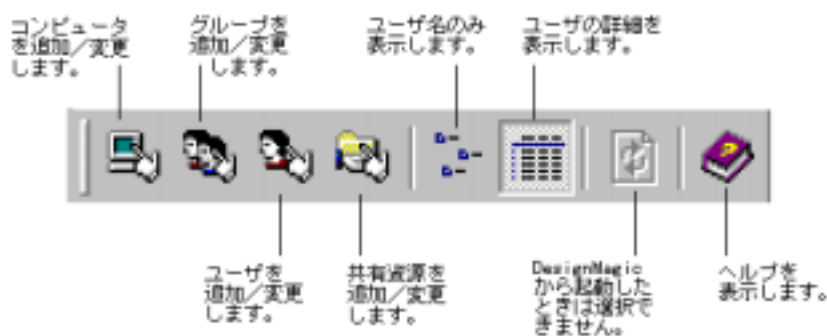
グループ、ユーザを共有資源に関連付けするには、「アカウントリスト」から左側の「共有資源」タブ内の目的共通資源、または右下側の「共有資源 xx に関連付けられたアカウント」のリスト内にドラッグ&ドロップします（xx は選択されている共有資源名）。

Point

- ツールバーのアクセス権を変更するとデフォルトのアクセス権を変更できます。
- 【Ctrl】を押しながらクリックすると、複数選択できます。
- アカウントの関連付けをキー操作で行うこともできます。
 - 1) 「アカウントリスト」の目的のアカウントをクリックし、【Ctrl】+【C】キーを押します。
 - 2) 左側の「グループ」または「共有資源」タブ内の目的のアカウントをクリックする。
 - 3) 【Ctrl】+【V】キーを押します。

● クライアントシステム設計画面のツールバー

「表示」メニューの「ツールバー」表示が有効の場合、以下のアイコンが表示されます。



Note

アクセス権を設定しない場合は、他のアクセス権の状態に依存します。依存の関係については OS のマニュアルを参照してください。

● クライアントシステム設計画面のメニュー

項目	説明
〔設定〕メニュー	
追加／変更	追加／変更には以下のサブメニューがあります。 コンピュータ：コンピュータ情報を追加、または変更します。 グループ：グループ情報を追加、または変更します。 ユーザ：ユーザ情報を追加、または変更します。 共有資源：共有資源情報を追加、または変更します。
デフォルトアクセス権	表示されたサブメニューからアクセス権を選択します。 フルコントロール：すべての操作が行えます。 変更のみ：変更のみ行えます。 読込みのみ：読込みのみ行えます。 アクセス権なし：アクセスすることはできません。
保存せずに終了	クライアントシステム設計で設定した内容を保存せずに終了します。
終了	クライアントシステム設計で設定した内容を保存して、クライアントシステム設計を終了します。
〔表示〕メニュー	
ツールバー	ツールバーの表示、非表示を切り替えます。
デフォルトアクセス権	アクセス権を変更するプルダウンメニューの表示、非表示を切り替えます。
ステータスバー	ステータスバーの表示、非表示を切り替えます。
関連付け画面切替	関連付けの表示を〔グループ〕タブと〔共有資源〕タブとで切り替えます。 〔グループ〕タブ：関連付けのツリーをグループに切り替えます。 〔共有資源〕タブ：関連付けのツリーを共有資源に切り替えます。
アカウントリスト切替	共有資源タブ選択中に、アカウントリストの表示をユーザとグループに切り替えます。 ユーザー一覧：アカウントリストにユーザのリストを表示します。 グループ一覧：アカウントリストにグループのリストを表示します。
関連付け一覧表示切替	画面右下の関連付けられたアカウントの表示方法を切り替えます。 小さいアイコン：関連付けされたアカウントを小さいアイコンで表示します。 詳細：関連付けされたアカウントの詳細情報を表示します。
〔ヘルプ〕メニュー	
トピックの検索	DesignMagic のヘルプが表示されます。ヘルプには、各設定画面の説明が書かれています。
バージョン情報	DesignMagic のバージョン情報が表示されます。

2.3.4 クライアントシステム設計の終了

1 〔設定〕メニューから〔終了〕を選択します。

設定が登録され、DesignMagic の画面に戻ります。



〔保存せずに終了〕を選択した場合は、クライアントシステム設計での設定は登録されません。

2.4 クライアントへのセットアップ情報を設定する [クライアントセットアップ]

「クライアントセットアップ」は、クライアント側にインストールするアプリケーション、コピーするファイル、およびクライアント側で実行するコマンドを指定する機能です。クライアントセットアップで指定した内容は ClientWizard でクライアントをセットアップする際に利用されます。

● クライアントセットアップの準備内容

- ☐ 「サーバ設計」のアプリケーションの設定画面で「WizardConsole をインストールする」を指定している。
- ☐ 「クライアントシステム設計」機能を使用して、クライアントコンピュータを登録している。

▶ クライアントシステム設計について

→ 「第一部 2.3 クライアント情報を設定する」参照



WizardConsole、クライアントセットアップを使用する場合は、必ず「サーバ設計」時に、これらの機能をインストールするように指定してください。

■ セットアップする内容

● アプリケーション

アプリケーションソフト（複数のファイルで構成され、setup コマンドなどのインストーラが使われるもの）をクライアント側にインストールするように指定します。

インストールが自動化されておらず、インストール時に設定操作が必要なアプリケーションソフトを指定するには、事前に Rational Visual Test®などを使って事前にスクリプトを作成しておく必要があります。標準的なアプリケーションについては、本製品にスクリプトが用意されています。

▶ 「付録 C.5 クライアントセットアップに関する留意事項」参照

● ファイル

クライアント側にコピーするファイルを指定します。ディレクトリを指定すると複数のファイルを一度にコピーするように指定できます。

● 実行コマンド

クライアント側で最初のログオン時に実行するコマンドを指定します。ファイルのコピーは行われず、コマンドの実行のみが行われます。例えば、インストールしたアプリケーションソフトの環境設定を自動化するバッチファイルなどを指定できます。

2.4.1 クライアントセットアップを起動する

- 1 DesignMagic 画面で、[クライアントセットアップ] をクリックします。

クライアントセットアップウィンドウが表示されます。



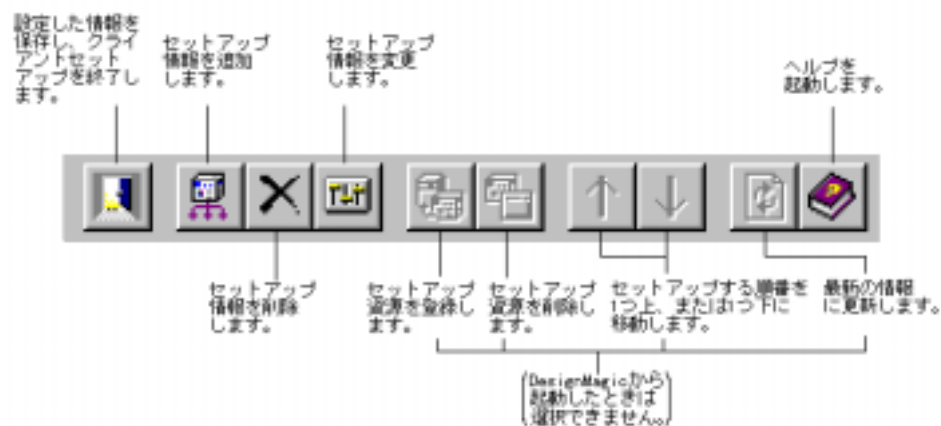
項目	説明
セットアップ情報一覧	セットアップ情報が設定されている資源の一覧が表示されます。64 個まで追加できます。
資源識別名	セットアップ情報が設定されている資源識別名が表示されます。資源識別名とは、セットアップ資源を識別するためにユーザが指定する名前です。標準対応製品については、スクリプトが用意されており、資源識別名の先頭に@が付いています。
説明	セットアップ情報が設定されている資源の説明が表示されます。
種類	セットアップ情報が設定されている資源の種類が表示されます。資源の種類には以下の3通りあります。 -アプリケーション -ファイル -実行コマンド
クライアント一覧	セットアップ情報一覧で選択されている資源ごとに、セットアップ対象のコンピュータの一覧が表示されます。セットアップ対象のクライアントを選択します。 初期状態は、すべてのクライアントが選択状態です。
全選択	表示されているすべてのクライアントコンピュータを選択状態にします。
全解除	表示されているすべてのクライアントコンピュータを非選択状態にします。
コンピュータ名	DesignMagic の「クライアントシステム設計」で設定したクライアントのコンピュータ名が表示されます。
状態	資源のセットアップ状態が表示されます。初期状態はすべて「未完了」です。

● クライアントセットアップのメニュー

項目	説明
[セットアップ情報の設定] メニュー	
追加	セットアップ情報を追加します。詳細は「2.4.2～2.4.4」を参照してください。セットアップ情報は 64 個まで追加できます。64 個を超えて追加しようとすると、追加できない旨のメッセージが表示されます。
削除	「セットアップ情報一覧」で選択されているセットアップ情報を削除します。セットアップ情報の削除を確認する画面が表示されます。

(続く)

項目	説明
設定変更	「セットアップ情報一覧」で選択されているセットアップ資源の情報を変更します。詳細は「第一部 2.4.6 セットアップ情報の設定を変更する」を参照してください。
設定確認	セットアップ情報の設定内容を表示します。
終了	設定した情報を保存し、クライアントセットアップウィンドウを終了します。
[セットアップ資源の操作] メニュー（DesignMagic から起動した場合は、選択できません。）	
[表示] メニュー	
ツールバー	ツールバーの表示／非表示を切り換えます。
ステータスバー	ステータスバーの表示／非表示を切り換えます。
最新に更新	（DesignMagic から起動した場合は、選択できません。）
動作環境設定	動作環境設定ダイアログが表示されます。 クライアントセットアップで使用するセットアップ資源の格納先の共有フォルダを入力し、セットアップ資源の登録を行うタイミングを選択します。 ▶ 詳細説明→「第一部 2.4.5 セットアップ資源の格納先／サーバへ登録するタイミングを設定する（動作環境設定）」参照
[ヘルプ] メニュー	
トピックの検索	クライアントセットアップのヘルプが表示されます。ヘルプには、各画面の説明が書かれています。
クライアントセットアップのバージョン情報	クライアントセットアップのバージョン情報が表示されます。



クライアントセットアップウィンドウでは、以下の操作ができます。

- ・セットアップ情報の追加（アプリケーション／ファイル／実行コマンド）
- ・セットアップ情報の設定変更
- ・セットアップ情報の削除
- ・セットアップ情報設定確認
- ・動作環境設定（資源の格納先フォルダ指定/資源の登録の時期）

2.4.2 セットアップ情報（アプリケーション）を追加する

クライアント側にインストールするアプリケーションを指定します。

- 1 クライアントセットアップウィンドウで、[セットアップ情報の設定] メニューから[追加]を選択します。

「セットアップ種類の選択」ダイアログが表示されます。



▶ 各項目の詳細説明→ヘルプをクリック

- 2 「アプリケーション」「一覧から選択」が選択されていることを確認します。
- 3 「標準対応製品」から、インストールしたいアプリケーションソフトを選択し、[次へ]をクリックします。

「標準対応製品」にインストールしたいアプリケーションが表示されていない場合は、「一覧から選択」のチェックをはずして[次へ]をクリックします。

- Print**
- 「標準対応製品」にないアプリケーションで、対話型インストールを行うアプリケーションを指定するには、事前にスクリプトの作成が必要になります。スクリプトを作成していない場合は、[キャンセル]をクリックして作業を中断し、Rational Visual Test®などを使ってスクリプトを作成してください。
 - 「標準対応製品」のアプリケーションによって、インストールできるOSは異なります。「付録 C.5 クライアントセットアップに関する留意事項」の「■標準対応製品をインストールする際の注意事項」でサポートしているOSを確認してください。サポートしていないOSにインストールすると、アプリケーションを正しくインストールできない可能性があります。

「アプリケーション資源格納元の設定」ダイアログが表示されます。

- 6 各項目を設定して、[次へ] をクリックします。
セットアップ情報の設定確認ダイアログが表示されます。 手順 9 へ
- 7 「インストーラ情報／スクリプト情報の設定」ダイアログが表示されます。



▶▶各項目の詳細説明→ヘルプをクリック

Point ● Windows インストーラ製品を選択すると、設定項目が切り替わります。



▶▶各項目の詳細説明→ヘルプをクリック

- 8 各項目を設定して、[次へ] をクリックします。
セットアップ情報の設定確認ダイアログが表示されます。 手順 9 へ



▶各項目の詳細説明→ヘルプをクリック

9 設定内容を確認して、[完了] をクリックします。

アプリケーションのセットアップ情報が設定され、クライアントセットアップウィンドウに戻ります。

10 必要に応じてセットアップ対象となるクライアントを指定します。

初期状態のとき、すべてのクライアントがセットアップ対象（緑色）になっています。特定のクライアントをセットアップ対象から外すには、クライアント一覧内をクリックして、選択状態（緑色）を解除してください。

2.4.3 セットアップ情報（ファイル）を追加する

クライアント側にコピーするファイルを指定します。

1 クライアントセットアップウィンドウで、[セットアップ情報の設定] メニューから[追加] を選択します。

「セットアップ種類の選択」ダイアログが表示されます。

2 「ファイル」を選択し、[次へ] をクリックします。

「ファイル情報設定」ダイアログが表示されます。



▶各項目の詳細説明→ヘルプをクリック

3 各項目を設定し、[完了] をクリックします。

ファイルの情報が設定され、クライアントセットアップウィンドウに戻ります。

4 必要に応じてセットアップ対象となるクライアントを指定します。

初期状態のとき、すべてのクライアントがセットアップ対象（緑色）になっています。特定のクライアントをセットアップ対象から外すには、クライアント一覧内をクリックして、選択状態（緑色）を解除してください。

2.4.4 セットアップ情報（実行コマンド）を追加する

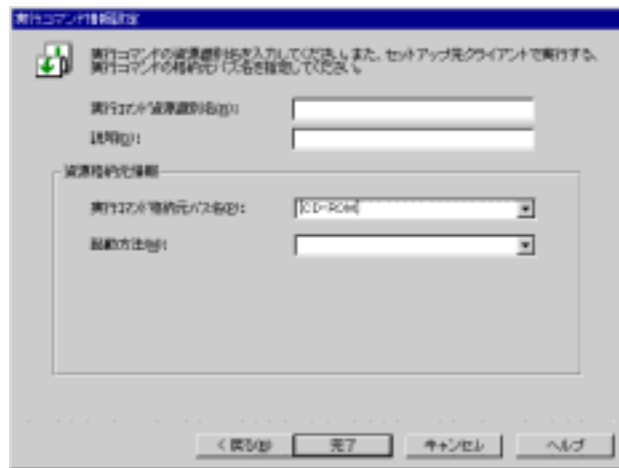
クライアント側で実行するコマンドを指定します。

1 クライアントセットアップウィンドウで、[セットアップ情報の設定] から [追加] を選択します。

「セットアップ種類の選択」ダイアログが表示されます。

2 「実行コマンド」を選択し、[次へ] をクリックします。

「実行コマンド詳細設定」ダイアログが表示されます。



▶各項目の詳細説明→ヘルプをクリック

3 各項目を設定し、[完了] をクリックします。

実行するコマンドの情報が設定され、クライアントセットアップウィンドウに戻ります。

4 必要に応じてセットアップ対象となるクライアントを指定します。

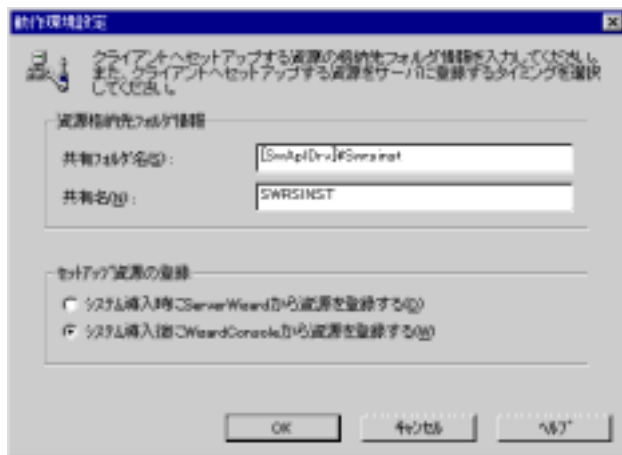
初期状態のとき、すべてのクライアントがセットアップ対象（緑色）になっています。特定のクライアントをセットアップ対象から外すには、クライアント一覧内をクリックして、選択状態（緑色）を解除してください。

2.4.5 セットアップ資源の格納先／サーバへ登録するタイミングを設定する（動作環境設定）

セットアップする資源の格納先や、サーバへ登録するタイミングを設定します。

- 1 クライアントセットアップウィンドウで、[表示] メニューから [動作環境設定] を選択します。

「動作環境設定」ダイアログが表示されます。



▶各項目の詳細説明→ヘルプをクリック

Point ● 「システム導入時に ServerWizard から資源を登録する」を選択すると、ServerWizard でのサーバのセットアップに続いてセットアップ資源のサーバへの登録が行われます。登録方法は「第一部 5.7.3 セットアップ資源をまとめてサーバのディスクに登録する」を参照してください。

- 2 クライアントへセットアップする資源の格納場所（インストール元のサーバ上のフォルダ）を入力し、セットアップ資源をサーバに取り込むタイミングを指定して、[OK] をクリックします。

Note

- ・セットアップ資源の格納場所をどこにするかは、DesignMagic のときのみ指定できます。ServerWizard でインストールした後は指定できません。
- ・セットアップ資源の登録には、ハードディスクに十分な空き容量が必要です。「付録 C.5」の「標準対応製品をインストールする際の注意事項」を参照して、各資源に必要な空き容量がハードディスクにあるか確認してください。
- ・資源格納先フォルダに、サーバインストール時に存在しないドライブを設定した場合（例えばシステムドライブしか作成しない設定において F:¥RSC と指定）、資源格納先フォルダ情報は以下のようになります。
共有フォルダ名: C:¥Swrsint (アプリケーション区画が存在する場合は D:¥Swrsint)
共有名 : SWRSINT
- ・OS のインストール後、資源格納先フォルダの共有名を変更、削除、アクセス権の変更を行うと、正常に資源の配布／登録ができなくなりますので、一切の変更をしないでください。

2.4.6 セットアップ情報の設定を変更する

セットアップ情報の設定内容を変更します。

- 1 クライアントセットアップウィンドウで、設定を変更するセットアップ情報を選択します。

- 2 [セットアップ情報の設定] メニューから [設定変更] を選択します。

各セットアップ情報の設定画面が表示されます。

操作方法は、追加する場合と同じです。

▶ 「第一部 2.4.2 セットアップ情報（アプリケーション）を追加する」参照

▶ 「第一部 2.4.3 セットアップ情報（ファイル）を追加する」参照

▶ 「第一部 2.4.4 セットアップ情報（実行コマンド）を追加する」参照

2.4.7 セットアップ情報の設定内容を確認する

セットアップ情報の設定内容を確認します。

- 1 クライアントセットアップウィンドウで、設定を確認するセットアップ情報を選択します。

- 2 [セットアップ情報の設定] メニューから [設定確認] を選択します。

各セットアップ情報の設定確認ダイアログが表示されます。

2.5 クライアントのデスクトップ環境を設定する [DesignMagic –デスクトップ環境設定]

サーバ側で、クライアントのデスクトップ環境を一括管理します。業務に必要な機能のみをクライアントのデスクトップに表示することで、ユーザが業務に集中しやすい環境を作ります。

また、システムに習熟していないユーザによる偶発的な事故を防ぐこともできます。

● デスクトップ環境設定の準備内容

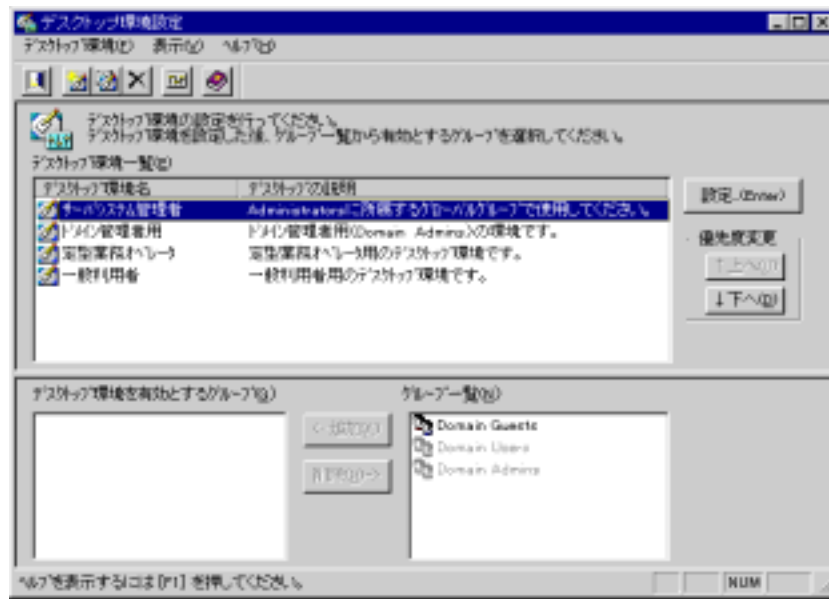
- ☐ 「サーバ設計」のアプリケーションの設定画面で「WizardConsole をインストールする」を指定している。
- ☐ Windows 2000 SV の場合、DesignMagic の「クライアントシステム設計」で「OU」を作成している。
- ☐ 「クライアントシステム設計」の設定を完了している。
 - ▶ クライアントシステム設計について
→ 「第一部 2.3 クライアント情報を設定する」参照

Note

- デスクトップ環境設定を使用する場合は、必ず「サーバ設計」時に、WizardConsole をインストールするように指定してください。OS のセットアップ終了後に手動でイン
- Windows 2000 SV の場合、DesignMagic の「クライアントシステム設計」で必ず OU を作成してください。OU の作成を指定せずサーバを構成した場合、デスクトップ環境設定で、クライアント環境制御は行えません。
- またサーバ側で設定したポリシー情報の変更は、必ずデスクトップ環境設定を使用してください。デスクトップ環境設定で作成したポリシーをデスクトップ環境設定を使用せずに変更、削除すると、誤動作の原因となります。

1 「デスクトップ設計」をクリックします。

デスクトップ環境設定ウィンドウが表示されます。



Point

- デスクトップ環境設定ウィンドウでは、デスクトップ環境の追加、複写、削除を行うことができます。

追加するには：[デスクトップ環境] メニューから[追加]を選択するか、[デスクトップ環境の追加] アイコンをクリックします。デスクトップ環境の設定画面が表示されますので、設定を行ってください。

複写するには：複写するデスクトップ環境名をクリックし、[デスクトップ環境] メニューから[コピー]を選択するか、[デスクトップ環境のコピー] アイコンをクリックします。

削除するには：削除するデスクトップ環境名をクリックし、[デスクトップ環境] メニューから[削除]を選択するか、[デスクトップ環境の削除] アイコンをクリックします。

項目	説明
デスクトップ環境一覧	設定されているデスクトップ環境の一覧が表示されます。一覧の上にあるほど優先度が高くなります。デスクトップ環境は 15 個まで作成できます。
[設定..(Enter)]	選択しているデスクトップ環境の設定を変更します。クリックまたは、【Enter】キーを押すとデスクトップ環境の設定画面が表示されます。
優先度変更	選択しているデスクトップ環境の優先度を[↑上へ][↓下へ]で変更します。また、【↑】【↓】キーで変更することもできます。
デスクトップ環境を有効とするグループ	デスクトップ環境一覧で選択されているデスクトップ環境を使用するグループが表示されます。
グループ一覧	存在しているグループの一覧が表示されます。この一覧から「デスクトップ環境を有効とするグループ」へ追加することができます。グレー表示になっているグループは他のデスクトップ環境に割り当てられているので、追加することはできません。

■デスクトップ環境設定画面のツールバー

「表示」メニューの「ツールバー」表示が有効の場合、以下のアイコンが表示されます。



●デスクトップ環境設定画面のメニュー

デスクトップ環境設定画面には、次のメニューがあります。

項目	設定
[デスクトップ環境] メニュー	
追加	デスクトップ環境を追加します。クリックするとデスクトップ環境の設定画面が表示されます。
コピー	デスクトップ環境をコピーします。
削除	デスクトップ環境を削除します。
設定	デスクトップ環境の設定を変更します。クリックするとデスクトップ環境の設定画面が表示されます。
優先度上へ	デスクトップ環境の優先度を1つ上げます。
優先度下へ	デスクトップ環境の優先度を1つ下げます。
終了	デスクトップ環境設定画面を閉じます。
[表示] メニュー	
ツールバー	ツールバーの表示、非表示を切り替えます。
ステータスバー	ステータスバーの表示、非表示を切り替えます。
[ヘルプ] メニュー	
トピックの検索	デスクトップ環境設定のヘルプが表示されます。
バージョン情報	デスクトップ環境設定のバージョン情報が表示されます。

2.5.1 デスクトップ環境の設定

各デスクトップ環境の詳細設定を行います。初期メニュー、各種設定、操作性、キー抑止に関する設定ができます。各項目の詳細説明は、[ヘルプ]をクリックすると表示されます。

1 デスクトップ環境設定画面で、次のいずれかの操作をします。

設定を変更する場合

- ・デスクトップ環境名を選択し、[設定]をクリックする。
- ・デスクトップ環境名をダブルクリックする。

追加する場合

- ・ [デスクトップ環境の追加] アイコンをクリックする。
- ・ [デスクトップ環境] メニューから [追加] を選択する。

デスクトップ環境の設定画面が表示されます。

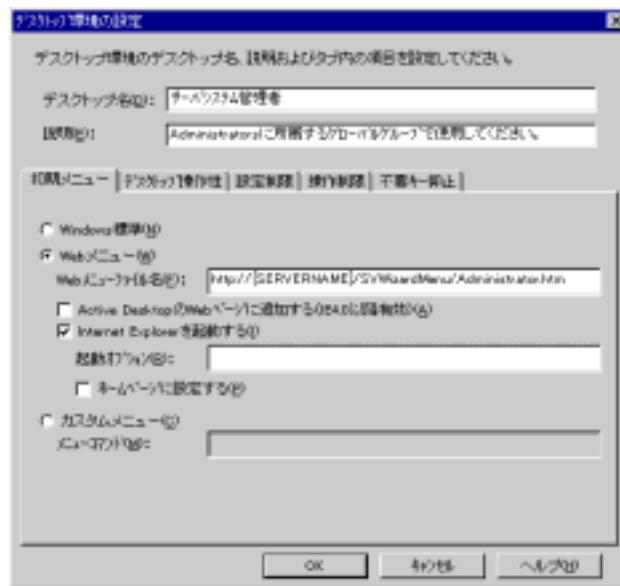
■デスクトップ環境の設定画面の共通部分

項目	説明
デスクトップ名	変更、追加するデスクトップ環境名を入力します。
説明	デスクトップ環境の使用基準などの説明を入力します。

■デスクトップ環境の設定画面（初期メニュータブ）

クライアントのログオン直後に表示される初期メニューの設定を行います。

▶各項目の詳細説明→ [ヘルプ] をクリック



Point

- Web メニュー（WizardMenu）は、インターネットエクスプローラ上で、ボタンを選択してアプリケーションを起動する機能です。Web メニュー上のボタンは、WizardMenu 作成ツールを使用して、大きさを変更したり、画像データをボタンに貼り付けるなど、自由な形式で作成することができます。WizardMenu 作成ツールを起動するには、サーバインストール終了後に [スタート] - [プログラム] - [ServerWizard] - [WizardMenu 作成ツール] を選択します。
- Web メニュー、WizardMenu 作成ツールについての詳細は、それぞれのヘルプを参照してください。

IIS が構成されていない状態で WizardConsole をインストールすると、WizardMenu が利用できません。その場合は、以下の操作を行ってください。

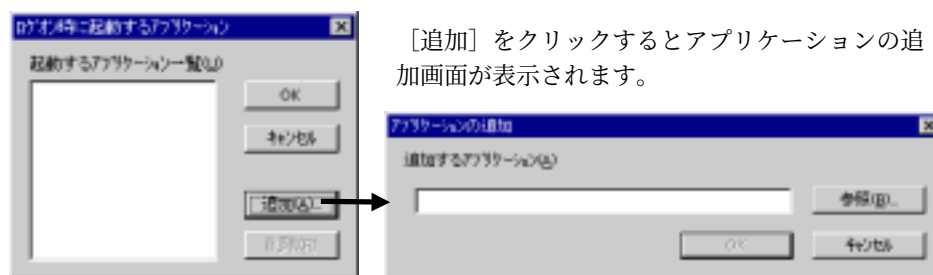
- 1) サーバ上に IIS（バージョン 3.0 以上）を構成します。
- 2) c:\wizcns\af13\inetpub フォルダにインターネット エイリアス（SVWizardMenu）を追加します。
- 3) デスクトップ環境設定の「初期メニュー」タブで「Web メニュー」を選択します。

■デスクトップ操作性タブ

デスクトップの操作性に関する制限を行います。▶各項目の詳細説明→[ヘルプ] をクリック



[設定] をクリックすると、ログオン時に起動するアプリケーション画面が表示されますので、起動するアプリケーションを設定します。



[OK] をクリックすると、設定が有効になり、デスクトップ環境設定画面に戻ります。



Note

・「タスクバーを隠す」をチェックすると、スタートメニューからのログオフ操作ができなくなります。この項目を設定する場合には、メニューにログオフの項目を追加する

ログオフを行うには、"ExitWin.exe" コマンドを実行してください。

"ExitWin.exe" コマンドは、"C:\¥Symfocmn" ディレクトリに格納されています。

・チェックボックスの横に表示されるアイコンは、設定が有効になる OS の種類を示します。各アイコンは以下の OS を示します。アイコンが表示されていない項目は、すべてのクライアント OS に設定が反映されます。

- 2K : Windows 2000 Pro
- NT : Windows NT WS 4.0
- 95 : Windows 95
- 98 : Windows 98

■デスクトップ環境の設定画面（設定制限タブ）

各種設定に関する制限を行います。

▶各項目の詳細説明→[ヘルプ] をクリック



●デスクトップ環境の設定画面（操作制限タブ）

ユーザの操作に関する制限を行います。

▶各項目の詳細説明→[ヘルプ] をクリック



【ユーザ操作制限でなにも起動できなくなった場合】

「許可されたプログラムだけ実行」を選択した場合、設定されたグループのユーザでロ
ります。

(続く)

この設定を管理者権限のグループに適用した場合、管理者でもポリシーの設定が反映され、アプリケーションの実行が制限されます。
万一、管理者権限グループに誤って適用し、何も起動できなくなった場合は、次の手順で回避してください。

- 1) 【Ctrl】 + 【Alt】 + 【Delete】で「Windows NT のセキュリティ」画面を表示します。
- 2) 「タスクマネージャ」をクリックして「Windows NT タスクマネージャ」を起動します。
- 3) [ファイル] - [新しいタスクの実行] を実行します。
- 4) 「名前」に「C:¥Wizcns¥AF00¥Wconsole.exe」と入力し [OK] をクリックします。
WizardConsole が起動します。
- 5) WizardConsole 画面で [デスクトップ環境設定] を選択します。
- 6) 管理者グループに対して適切なポリシー設定を行います。
- 7) ログオンし直します。

■デスクトップ環境の設定画面（不要キー抑止タブ）

入力操作を無効にするキーの設定を行います。 ▶各項目の詳細説明→ [ヘルプ] をクリック



2 デスクトップ環境の設定をして [OK] をクリックします。

デスクトップ環境が変更、設定されます。

- Print** ● デスクトップ環境設定に関する詳細やトラブルシューティングについては、ヘルプを参照してください。

2.6 設定情報の確認する、フロッピーに登録する [DesignMagic]

サーバ設計、クライアントシステム設計、クライアントセットアップ、デスクトップ設計で設定した内容をフロッピーディスクに保存します。これらの情報は、サーバ情報ファイルとして保存され、サーバのセットアップ時に使用します。

2.6.1 設定内容を出力して確認する

サーバ設計、クライアントシステム設計、クライアントセットアップ、デスクトップ設計で設定した内容を、印刷して確認できます。

印刷するプリンタの設定は、あらかじめ [プリンタの設定] で行っておいてください。

1 DesignMagic 画面の [ファイル] メニューから [印刷] を選択します。

帳票の選択画面が表示されます。



2 印刷したい項目を選択し、[印刷] をクリックします。

印刷の設定の確認画面が表示されます。

3 [OK] をクリックします。

設定されている内容が印刷されます。



- 手順 2 で「テキストファイルに出力」を選択しておくと、設定されている内容をテキストファイルで保存することができます。

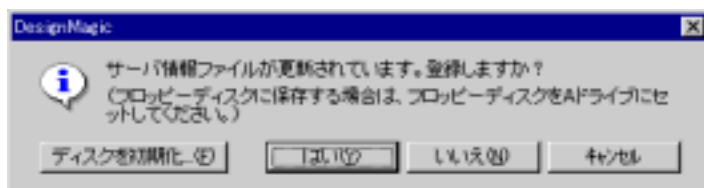


スプールするデータ形式が EMF 形式の場合、印刷が正しく行われない場合があります。必ず RAW 形式に変更してください。変更方法は、各 OS のマニュアルを参照してくだ

2.6.2 設定情報をサーバ情報フロッピーに登録する

1 DesignMagic 画面で [終了] をクリックします。

設定した内容が保存されていない場合は、メッセージが表示されます。



2 初期化済みのフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブにセットし、[はい] をクリックします。

- Print** ● フロッピーディスクが初期化されていない場合は、[ディスクを初期化] ボタンをクリックします。フロッピーディスクが初期化されます。

保存の画面が表示されます。

3 ファイル名を入力して [保存] をクリックします。

ファイル名は MS-DOS の規約にしたがって指定してください (8.3 形式)。拡張子は ".SPD" です。

フロッピーディスクへの登録が終了すると、DesignMagic が終了します。

2.7 サーバへインストールする（一括インストール）

サーバの電源を入れる前に、CRT ディスプレイ／キーボード／マウス／電源ケーブルが正しく接続されているかを確認してください。

Note

Windows NT Server インストールタイプのセットアップを行うには、システムの開封作業を ServerWizard で行う必要があります。
ServerWizard V2.0 の CD-ROM をセットする前に、Windows NT のソフトウェア使用許諾契約同意画面が表示された場合には、導入種別に「インストールタイプ」を指定してインストールすることができません。[同意しません(D)] を選択し、シャットダウン操作をしてから、導入種別に「新規導入」を指定してインストール作業を行ってください。

2.7.1 ServerWizard を起動する

1 電源を入れます。

RAM モジュールの確認や POST 処理が開始されます。

2 CD-ROM ドライブに、ServerWizard V2.0 の CD-ROM をセットします。

次の画面が表示されます（機種によって画面は異なります）。

```
MS-DOS 6.2 Startup Menu
-----
1. ServerWizard
2. System Setup Utility(SSU)
3. Basic(BIOS Environment Support Tools)
4. Basic(DACCFG)
5. SMM Utility(Setup/Test)
6. RCI Utility
7. HDD firmware update

Enter a choice:          Time remaining: 30
```

3 ServerWizard を選択し【Enter】キーを押します。

ServerWizard が起動します。

ServerWizard を選択せずに、そのままの状態でも自動的に ServerWizard が起動します。



項目	説明
セットアップ	サーバのセットアップ、インストールを行います。
ユーティリティ	バックアップディスクの作成やメンテナンス区画の設定を行います。
ソフトウェア説明書	ServerWizard に関する説明を表示します。マニュアルに書かれていない注意事項や制限などが記述されています。ServerWizard をお使いになる前に必ずお読みください。
終了	ServerWizard を終了します。



ServerWizard が起動できない場合は、サーバ本体に添付のマニュアルに従い、CD-ROM のブートが可能になっているか、項目の値が以下の順番になっているか確認してください。

1. CD-ROM
2. フロッピーディスク
3. ハードディスク

2.7.2 サーバ情報を読み込んでインストールする

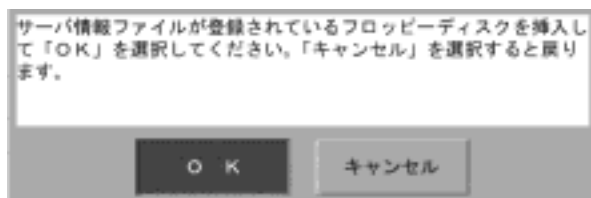
サーバ情報ファイルに登録されている設定に従って自動的にセットアップ、インストールが行われます。



セットアップ、インストール途中で、エラーや電源切断などで中断した場合は、必ず最初からセットアップをやり直してください。

- 1 ServerWizard 画面で「セットアップ」を選択し、【Enter】キーを押します。
- 2 「読み込み」を選択し、【Enter】キーを押します。

指示に従ってサーバ情報ファイルの入ったフロッピーディスクを挿入します。



3 【Enter】キーを押します。

サーバ情報ファイルの内容が表示されます。

サーバ情報ファイルの確認

ファイル名 XXXXXXXX.SPD 作成日 200x/xx/xx

機種名 PRIMERGY ES200

機種情報バージョン V2.0 Lxxx コンピュータ名 XXXXXXXXXXXXXXXX

このサーバ情報ファイルでよろしいですか？
機種名を確認してください。
表示されている機種名とご使用のサーバが異なる場合は利用できません。

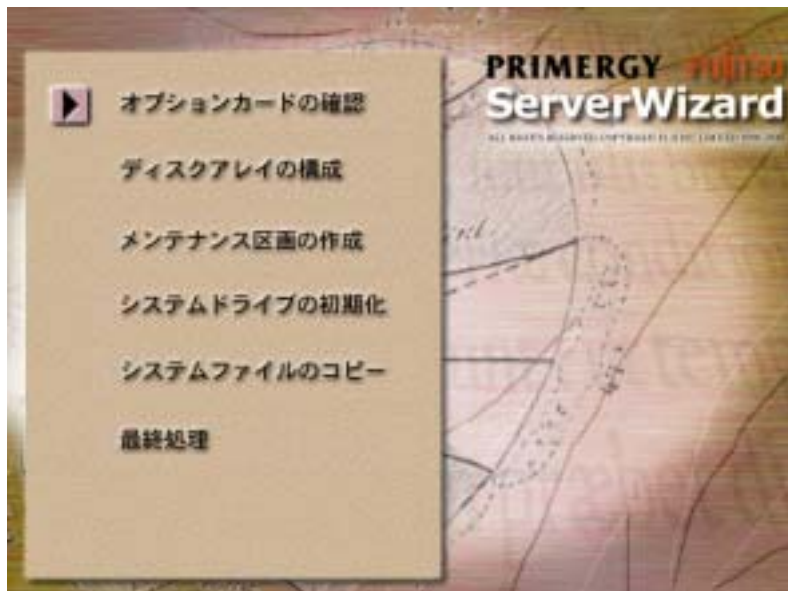
はい いいえ

4 使用するサーバ情報ファイルと機種名を確認して【Enter】キーを押します。

サーバ情報ファイルの内容に従ってセットアップ、およびインストールが開始されます。

機種名が正しくない場合には、正常にインストールは行われません。

以降は、画面の指示に従って操作を行ってください。



Note

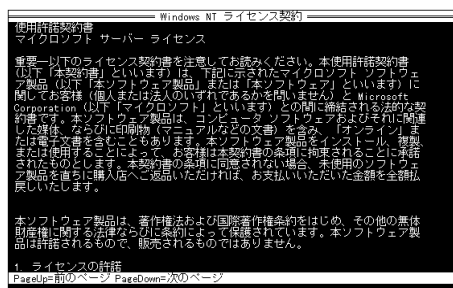
セットアップ項目の処理が終了するごとに画面がリセット状態になります。すべての処理が終了するまでフロッピーディスクは絶対に抜かないでください。

Print

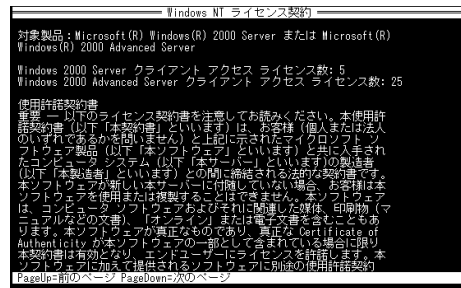
- 「ディスクアレイの構成」は、ブートデバイスに「RAID を使用」を選択した場合のみ表示され、自動的に行われます。
- 「メンテナンス区画の作成」は以下の場合に自動的に行われます。
 - パーティションサイズで「自動設定」を選択した場合
 - パーティションサイズで「手動設定」を選択し、かつ、メンテナンス区画の作成で「する」を選択した場合

5 「最終処理」でファイルのコピーが終了すると、ライセンス契約の同意画面が表示されます。以降の手順で引き続き操作を行ってください。

●Windows NT SV のとき



●Windows 2000 SV のとき



6 内容を確認して同意する場合は【F8】キーを押してください。

Windows NT のインストールが開始されます。

画面の指示に従って操作してください。インストールには時間がかかります。

Note

- ・ライセンス契約に同意しない場合は【Esc】キーを押します。その場合、処理が終了し、インストールは行われません。再び ServerWizard からインストールを行う場合は、最初から操作しなおしてください。
- ・インストール中、あらかじめ設定した内容（CD キーなど）に誤りがあるとエラー画面が表示されます。正しい値を直接インストール中の画面で入力して処理を続行してください。ただし、ここで修正した内容はサーバ情報ファイルには反映されません。

7 インストールが終了すると、パスワード設定の画面が表示されます。

管理者用パスワードを入力し、パスワード確認入力にも同じパスワードを入力します。パスワードは半角 14 文字以内で入力します。パスワードは必ず設定してください。

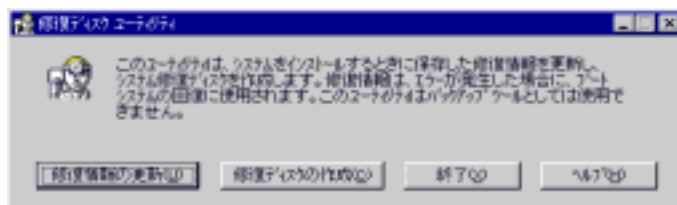


8 [OK] をクリックします。

修復ディスクのユーティリティ画面が表示されます。

[修復ディスクの作成] をクリックし、画面の指示に従って操作してください。

修復ディスクの作成には、新しいフロッピーディスクが 1 枚必要です。



Print

- 万一、Windows NT システムファイル、システム構成、およびスタートアップ時の環境変数などが損傷を受けた場合は、修復ディスク上に保存した情報を使ってこれらを再構築できます。
- システムの修復方法については、添付の『Windows NT Server コンセプトアンドプランニングガイド』等のマニュアルを参照してください。

9 すべての処理が終了すると、インストールした OS が起動します。



これでサーバのセットアップ、インストールは終了です。続いて「第一部 第4章 サーバインストール後の状態と処理」を確認してください。また、クライアントのインストールを行う場合は、「第一部 第5章 クライアントへのインストール」を参照してください。

Print

- インストール時に、クライアントシステム設計やクライアントセットアップで登録した項目の設定に失敗した場合はエラーが記録され、表示されます。原因などを確認してください。

第3章 サーバへのインストール（直接インストール）

[ServerWizard]

サーバのインストール、セットアップが、画面の指示に従って操作するだけで簡単に行えます。また、設定した内容は、サーバ情報ファイルとしてフロッピーディスクに保存することができます。

● ServerWizard を使うために必要な環境

- ☐ ご使用になるサーバ機
 - ☐ ネットワーク環境
 - ☐ ServerWizard の CD-ROM
 - ☐ セットアップする OS の CD-ROM
 - ☐ ServicePack の CD-ROM
- ServerWizard の CD-ROM に入っている Service Pack を使用する場合は不要です（「第一部 1.4.2 ServicePack について」を参照してください）。
- ☐ サーバ情報ファイルが登録されているフロッピーディスク（1 枚）
（ない場合は、サーバ情報ファイルを保存するための未使用のフロッピーディスク）
 - ☐ 修復ディスクを作成するための未使用のフロッピーディスク（1 枚）

3.1 インストール前の確認事項（直接インストール）

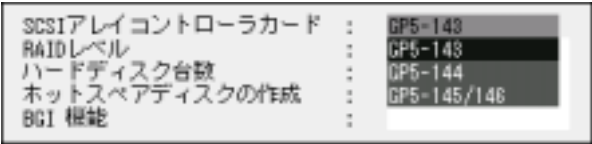
サーバのセットアップ情報を設定し、セットアップ、インストールを行います。ここで設定したセットアップ情報は、サーバ情報ファイルとしてフロッピーディスクに登録されます。

Note

セットアップ、インストール途中で、エラーや電源切断などで中断した場合は、必ず最初からセットアップをやり直してください。

3.1.1 サーバ情報設定画面の共通操作

直接インストールでの、項目の選択方法は以下のとおりです。

操作	操作方法
項目の移動	【↑】 【↓】 キーで前後の項目へ移動します。 選択途中、入力途中の場合は、【Enter】、【Esc】キーでカーソルを項目名に移動してから項目間の移動を行ってください。 ● 【Tab】、【Shift】 + 【Tab】 キーでも同様の操作が行えます。 ● [次へ] [戻る] は【←】 【→】 キーでも移動できます。
項目内容の選択方法	1) 項目名を選択し【Enter】キーを押します。 ドロップダウンリストが表示されます。  2) 【↑】 【↓】 キーでドロップダウンリストから選択します。 選択できない項目は、グレーの文字で表示されカーソルが移動できません。 3) 【Enter】キーを押します。 選択した内容が確定され、カーソルは次の項目へ移動します。 ● ドロップダウンリストを表示しない状態でも項目内容の選択ができます。 1) 項目名を選択した状態で【←】 【→】 キーを押します。 項目内容部分が切り替わります。 2) 【↓】 キーで次項目へ移動します。
文字列、値の入力方法	1) 文字列、値の入力のある項目にカーソルを移動します。 2) 【Enter】キーを押します。 入力部分にカーソルが移動し、点滅します。 3) 文字列、数値を入力します。 ◇半角文字入力の場合 テキストボックスに入力文字列が表示されます。 【Enter】キーを押すと、入力内容が確定され、カーソルは次項目へ移動します。 【Esc】キーを押すと、入力内容が確定されないまま、カーソルは次項目へ移動します。 ◇全角文字入力の場合 ● ユーザ名、組織名には、全角文字が使用できます。全角文字を使用する場合には【Alt】 + 【半角/全角】キーを押してください。 画面最下行に入力した文字列が表示されます。 【Enter】キーを押して文字列が確定すると、テキストボックスに文字列が表示されます。 もう一度【Enter】キーを押すと入力内容が確定され、カーソルは次項目へ移動します。 途中【Esc】キーを押すと入力文字列、内容とも確定されず、カーソルは項目部分に移動します。

(続く)

操作	操作方法
ページの移動	1) 「次へ」「戻る」にカーソルを合わせ【Enter】キーを押します。前後のページに移動します。 ● 【PageUp】、【PageDown】キーでもページ移動ができます。

選択しているタブの背景が黄色で表示されます。

(1 / 2)

OSを起動する装置（ブートデバイス）を設定します。

タブ内のページ数が表示されます。

3.2 サーバへインストールする（直接インストール）

3.2.1 ServerWizard を起動する

1 電源を入れます。

RAM モジュールの確認や POST 処理が開始されます。

2 CD-ROM ドライブに、ServerWizard V2.0 の CD-ROM をセットします。

次の画面が表示されます（機種によって画面は異なります）。

```

MS-DOS 6.2 Startup Menu
-----
1. ServerWizard
2. System Setup Utility(SSU)
3. Basic(BIOS Environment Support Tools)
4. Basic(DACCFG)
5. SMM Utility(Setup/Test)
6. RCI Utility
7. HDD firmware update

Enter a choice:          Time remaining: 30

```

3 ServerWizard を選択し【Enter】キーを押します。

ServerWizard が起動します。

ServerWizard を選択せずに、そのままの状態でも自動的に ServerWizard が起動します。



項目	説明
セットアップ	サーバのセットアップ、インストールを行います。
ユーティリティ	バックアップディスクの作成やメンテナンス区画の作成を行います。
ソフトウェア説明書	ServerWizard に関する説明を表示します。マニュアルに書かれていない注意事項や制限などが記述されています。ServerWizard をお使いになる前に必ずお読みください。
終了	ServerWizard を終了します。



ServerWizard が起動できない場合は、サーバ本体に添付のマニュアルに従い、CD-ROM のブートが可能になっているか、項目の値が以下の順番になっているか確認してください。

1. CD-ROM
2. フロッピーディスク
3. ハードディスク

3.2.2 Windows NT／Windows NT Server/E 4.0／SBS の場合

1 ServerWizard 画面で【セットアップ】を選択し、【Enter】キーを押します。

2 【新規】を選択し、【Enter】キーを押します。

機種情報と OS の設定画面が表示されます。



- サーバ情報ファイルが登録されているフロッピーディスクがある場合は、「読み込み」を選択します。詳しくは「第一部 2.7 サーバへインストールする（一括インストール）」を参照してください。
- サーバ情報の設定を途中で終了する場合は、【Esc】キーを押します。



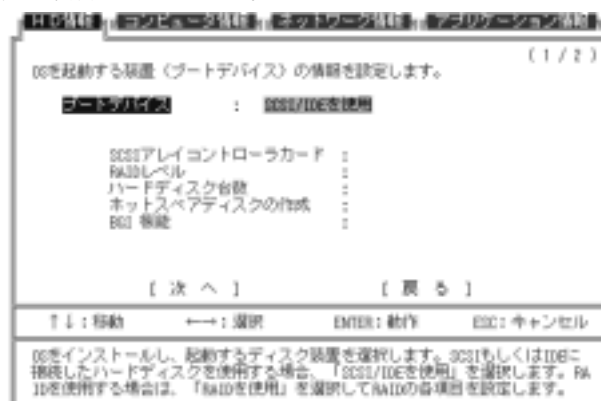
3 機種名、導入種別、インストールする OS を設定します。

項目	説明
機種名	ご使用になる「機種名」が正しく表示されていることを確認してください。なお、異なる機種を指定した場合は、正常にインストールが行われません。
導入種別	サーバに OS がブレイインストールされている場合は「新規インストール」か「インストールタイプ」かを選択します。OS がブレイインストールされていない場合は「新規インストール」になります。
導入 OS	サーバで使用する OS を選択します。

Print ● 「機種名」で「FD から機種情報ファイルを読み込む」を選択して【Enter】キーを押すとフロッピーディスクから機種情報ファイルを読み込むことができます。

4 [次へ] を選択し【Enter】キーを押します。

HD 情報-1/2 の設定画面が表示されます。導入種別でインストールタイプを選択した場合は手順 9 へ進みます。



5 OS を起動する装置を設定します。

項目	説明
ブートデバイス	OS を起動する装置を RAID、SCSI/IDE から選択します。RAID を選択した場合は、RAID の各項目を設定します。
SCSI アレイ コントローラカード	使用する SCSI アレイコントローラカードを選択します。
RAID レベル	RAID のレベルを選択します。

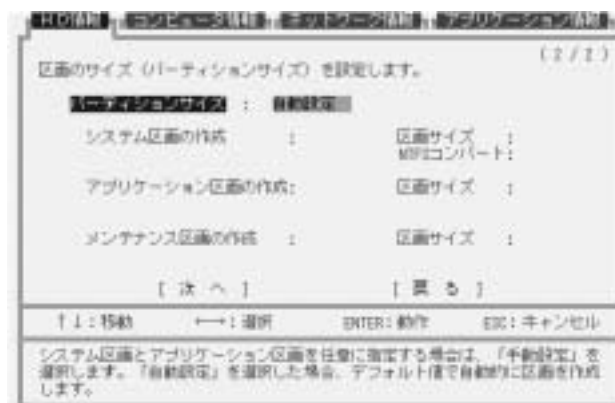
項目	説明
ハードディスク台数	サーバで使用するハードディスクの台数を選択します。実際に装着している台数（ホットスペアディスクを除く）を指定してください。
ホットスペアディスクの作成	ホットスペアディスクを作成するかしないかを選択します。 「する」を選択した場合、実際に装着するディスク台数は「ハードディスク台数」で指定した台数+1 台となります。たとえば、台数を 3 台指定しホットスペアディスクを作成すると指定した場合は、サーバには必ず 4 台のハードディスクを装着してください。 ▶▶ハードディスクの台数について →「付録 A」の「Q. RAID を構築するときの注意点は？」参照
BGI 機能	バックグラウンド初期化（BGI）機能を使用するかしないかを選択します。「ON」を選択すると SCSI アレイコントローラカード配下にあるシステム区画の初期化をバックグラウンドで処理します。SCSI アレイコントローラカードが BGI 機能をサポートしていない場合は「OFF」となります。



ブートデバイスに RAID を設定した場合、存在する区画はすべて初期化されます。

6 【次へ】を選択し【Enter】キーを押します。

HD 情報－2/2 の設定画面が表示されます。



7 区画を設定します。

項目	説明
パーティションサイズ	システム区画（C:ドライブ）とアプリケーション区画（D:ドライブ）の設定方法を選択します。「自動設定」を選択した場合はデフォルト値で設定されます。「手動設定」を選択した場合は、システム区画、アプリケーション区画、メンテナンス区画のサイズを設定します。合計で 8192MB までの区画を作成できます。
システム区画の作成	「区画サイズ」「NTFS コンバート」を設定します。 「区画サイズ」のサイズ範囲は 2048～4096MB です。 「NTFS コンバート」ではシステム区画のファイルシステムを NTFS に変換するかしないかを選択します。
アプリケーション区画の作成	アプリケーション区画を作成するかしないかを選択します。「する」を選択した場合は、「区画サイズ」を入力します。区画サイズは 1～（8192MB－システム区画－メンテナンス区画）です。
メンテナンス区画の作成	メンテナンス区画を作成するかしないかを選択します。区画サイズは 100MB 固定です。

- Point** ● 実際のサーバでは、管理領域に使用されるため、区画は指定した容量より小さくなる場合があります。また、指定した容量より小さなハードディスクが装着されていた場合、区画（D:ドライブ）が作成されなかったり、自動的にサイズを変更する場合があります。
- アプリケーション区画は、NTFS で初期化します。システム区画は、「NTFS コンバート」で「しない」を指定した場合は FAT で初期化します。

	サイズ [MB]	デフォルト値	ファイルシステム	ボリュームラベル
システム区画	2048～4096	(4096)	NTFS／FAT 選択	なし
アプリケーション区画	1～6144	(3996)	NTFS 固定	Swapldrv
メンテナンス区画	100 固定	(100)	FAT 固定	なし

※ 区画の合計サイズは、8192MB までです。

8 [次へ] を選択し【Enter】キーを押します。

コンピュータ情報－1/2 の設定画面が表示されます。

導入 OS で SBS を選択した場合は手順 17 へ進みます。

OSをインストールする際のユーザの登録情報を設定します。 (1/2)

ユーザ名 :

組織名 :

キーの選択 : ☐ プロダクトID ☐ CDキー

キーの値 :

クライアントライセンス : ☐ 同時使用ユーザ数 ☐ ライセンス数

ライセンス数 :

[次 へ] [戻 る]

↑↓: 移動 ←→: 選択 ENTER: 動作 ESC: キャンセル

登録するユーザ名を半角50文字（全角25文字）以内で入力します。
半角の" "は使用できません。
全角で入力する場合は、Altキーと半角/全角キーを同時に押してください。

9 ユーザ情報、コンピュータ情報、クライアントライセンス情報を入力します。

項目	説明
ユーザ名	OS をインストールする際に登録するユーザ名を半角 50 文字（全角 25 文字）以内で入力します。 半角の"（ダブルクォーテーション）は使用できません。
組織名	OS をインストールする際に登録する組織名を半角 50 文字（全角 25 文字）以内で入力します。 半角の"（ダブルクォーテーション）は使用できません。
キーの選択	プロダクト ID と CD キーのどちらかを選択します。 キーの値：プロダクト ID または CD キーを入力します。プロダクト ID はファーストステップガイドの表紙、CD キーは CD ケースの裏を確認してください。
クライアントライセンス	NT クライアントのライセンスの形態を選択します。 ライセンス数：クライアントライセンスで「同時使用ユーザ数」を指定した場合には、同時に使用するユーザ数を入力します。

- Point** ● ユーザ名、組織名には、全角文字が使用できます。全角文字を使用する場合には【Alt】＋【半角 / 全角】キーを押してください。

- 10 【次へ】を選択し【Enter】キーを押します。
コンピュータ情報－2/2 の設定画面が表示されます。

コンピュータ情報－2/2

サーバのコンピュータ情報を設定します。 (2 / 2)

コンピュータ名 :

サーバ種別 : プライマリドメインコントローラ

次のメンバーに参加する : ドメインに参加
名称 : ドメイン名

インストールディレクトリ : C:\OSWIN

[次 へ] [戻 る]

↑↓: 移動 ←→: 選択 ENTER: 動作 ESC: キャンセル

ネットワーク上でサーバを認識するためのコンピュータ名を入力します。ネットワーク上の他のコンピュータ名、ドメイン名またはワークグループ名と同じものは利用できません。また、「"/、¥=+<>;*? [:]」の15種類の文字は使用できません。

- 11 コンピュータ名、サーバ種別等を設定します。

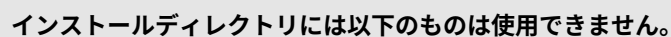
項目	説明
コンピュータ名	サーバのコンピュータ名を半角 15 文字以内で入力します。 "/、¥=+<>;*? [:] の 15 種類の文字は使用できません。
サーバ種別	サーバ種別を選択します。 プライマリドメインコントローラ ドメインのすべてのコンピュータアカウントの変更情報を追跡するサーバです。プライマリドメインコントローラは、以降 PDC と表記します。 バックアップドメインコントローラ PDC のディレクトリデータベースのコピーを保持するサーバです。 スタンドアロンサーバ PDC、バックアップドメインコントローラのどちらでもないサーバです。ワークグループに参加する場合はスタンドアロンサーバを選択します。



サーバ種別を「バックアップドメインコントローラ」に設定した場合は、あらかじめプライマリドメインコントローラのサーバ側に、コンピュータアカウントを作成しておく

設定した場合も、同様にコンピュータアカウントの作成が必要です。作成していない場合には、プライマリドメインコントローラ側にアカウントを作成するため、管理者のユーザ名とパスワードを入力する必要があります。

項目	説明
次のメンバーに参加する	サーバ種別で「スタンドアロンサーバ」を選択した場合のみ、ドメインに参加するかワークグループに参加するかを選択します。 名称：ワークグループ名／ドメイン名を入力します。半角 15 文字以内で入力してください。コンピュータ名と同じ名前は使用できません。 "/、¥=+<>;*? [:] および、空白の 16 種類の文字は使用できません。
インストールディレクトリ	OS をインストールするディレクトリを入力します。MS-DOS のファイル名の規約に従って入力してください。



◆リザーブされている文字列

AUX / COMx / LPTx / NUL / PRN / CON / TEMP / RECYCLER / RECYCLED

ABC.

12 [次へ] を選択し【Enter】キーを押します。

ネットワーク情報の設定画面が表示されます。



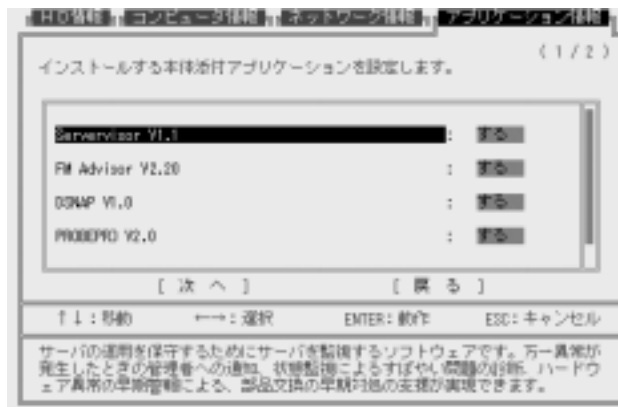
Note

オプションの LAN カードを使用する場合は、カードごとに IP アドレスを指定することはできません。その場合は、「DHCP を使用（複数の LAN カードを使用）」を「する」

で IP アドレスの設定を行ってください。

14 [次へ] を選択し【Enter】キーを押します。

アプリケーション情報-1/2 の設定画面が表示されます。

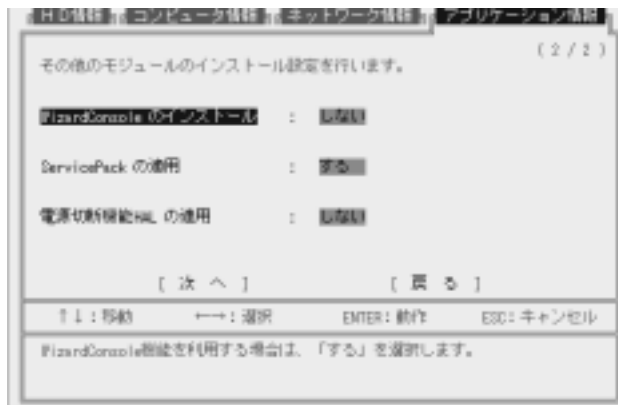


15 本体添付アプリケーションのインストール設定を行います。

画面右側にスクロールバーが表示されます。項目を移動すると、アプリケーションの一覧部分がスクロールされます。

16 [次へ] を選択し【Enter】キーを押します。

アプリケーション情報-2/2 の設定画面が表示されます。



17 その他のモジュールのインストール設定を行います。

項目	説明
WizardConsole のインストール	WizardConsole をインストールするかどうかを選択します。 なお、この設定は、サーバ種別に「プライマリドメインコントローラ」、または「バックアップドメインコントローラ」が設定されている場合に選択できます。 WizardConsole について詳しくは「第一部 第 5 章 クライアントへのインストール」を参照してください。
ServicePack の適用	添付されている ServicePack を自動的に適用するかどうかを選択します。なお、導入種別を「新規インストール」、導入 OS を「Windows NT SV4.0」または「Windows NT Server/E 4.0」に設定した場合のみ選択できます。
電源切断機能 HAL の適用	電源切断機能 HAL をインストールするかどうかを選択します。 電源切断機能 HAL について、詳しくは本体添付マニュアルを参照してください。なお、導入種別が「新規インストール」に設定されている場合のみ選択できます。ご使用の機種によっては、選択できません。



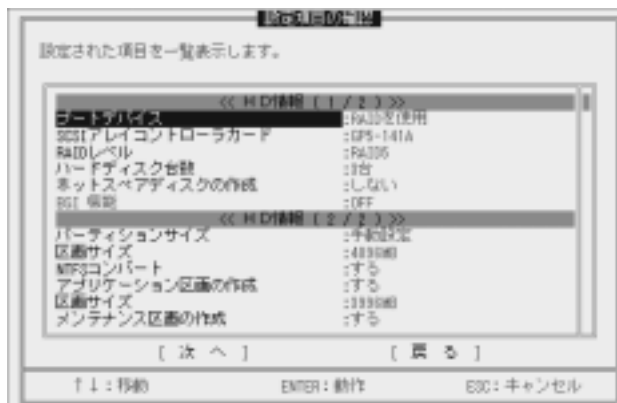
- ・導入 OS に SBS を選択した場合は、「電源切断機能 HAL の適用」のみ表示されます。
- ・導入種別にインストールタイプを選択した場合は、「WizardConsole のインストール」
- ・サーバ監視ソフトウェア（LDSM または Servervisor）をインストールする場合は、必ず ServicePack を導入してください。

18 【次へ】を選択し【Enter】キーを押します。

設定項目の確認画面が表示されます。

変更したい場合はその項目を選択し、【Enter】キーを押します。

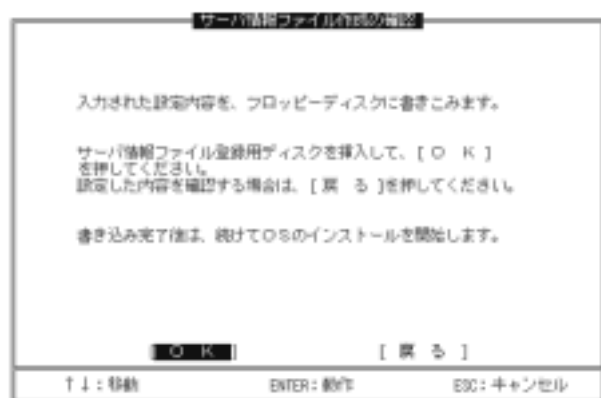
各設定画面に移動し、変更できます。



各設定画面で「次へ」「戻る」を選択し【Enter】キーを押すと、変更が反映され設定項目の確認画面に戻ります。

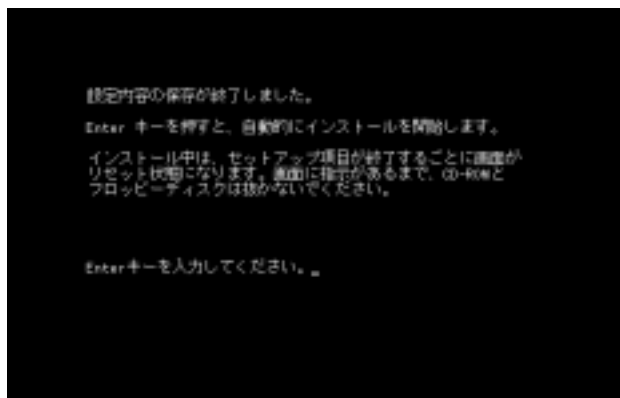
19 【次へ】を選択し【Enter】キーを押します。

サーバ情報ファイル作成の確認の画面が表示されます。



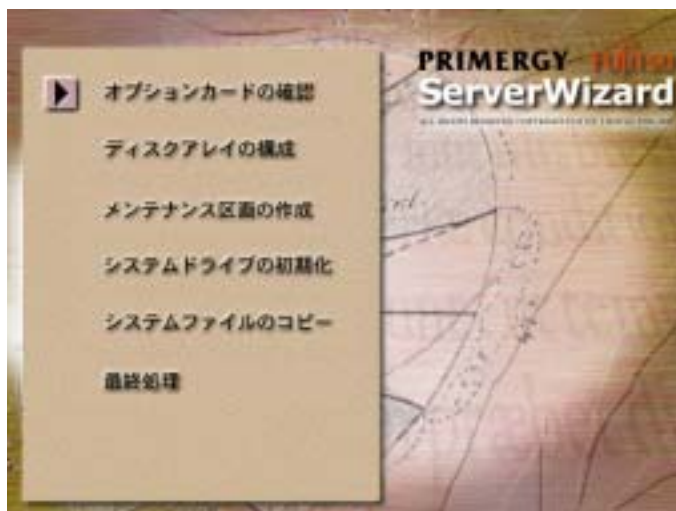
20 初期化してもよい 2HD のフロッピーディスクをセットし、【OK】を選択し、【Enter】キーを押します。

フロッピーディスクがフォーマットされ、サーバ情報が"DOSPTNR.SPD"のファイル名で登録されます。登録が終了すると、設定終了画面が表示されます。



21 【Enter】キーを押します。

セットアップ、およびインストールが開始されます。
以降は、画面の指示に従って操作を行ってください。



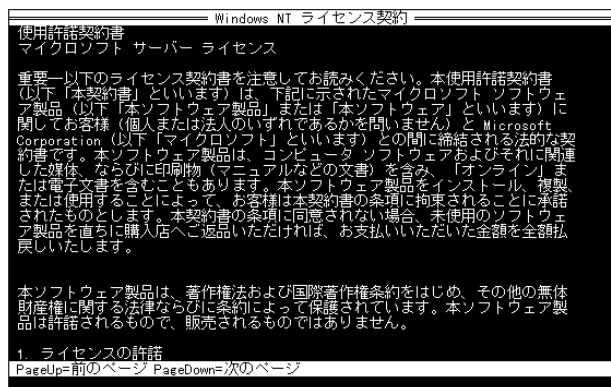
Note

セットアップ項目の処理が終了するごとに画面がリセット状態になります。すべての処理が終了するまでフロッピーディスクは絶対に抜かないでください。

Point

- 「ディスクアレイの構成」は、ブートデバイスに「RAID を使用」を選択した場合のみ表示され、自動的に行われます。
- 「メンテナンス区画」の作成は、以下の場合に自動的に行われます。
 - パーティションサイズで「自動設定」を選択した場合
 - パーティションサイズで「手動設定」を選択し、かつ、メンテナンス区画の作成で「する」を選択した場合

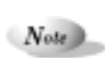
22 「最終処理」でドライバのコピーが終了すると、Windows NT のライセンス契約の同意画面が表示されます。



23 内容を確認して同意する場合は【F8】キーを押してください。

Windows NT のインストールが開始されます。

以降は、画面の指示に従って操作してください。



- ・ライセンス契約に同意しない場合は【Esc】キーを押します。その場合、処理が終了し、インストールは行われません。

操作しなおしてください。作成した.SPD ファイルはそのまま使用できます。

- ・インストール中、あらかじめ設定した内容（CD キーなど）に誤りがあるとエラー画面が表示されます。正しい値を直接インストール中の画面で入力して処理を続行してください。ただし、ここで修正した内容はサーバ情報ファイルには反映されません。

24 インストールが終了すると、パスワード設定の画面が表示されます。

管理者用パスワードを入力し、パスワード確認入力にも同じパスワードを入力します。

パスワードは半角 14 文字以内で入力します。パスワードは必ず設定してください。

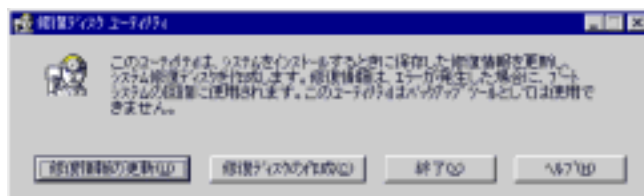


25 【OK】 をクリックします。

修復ディスクのユーティリティ画面が表示されます。

修復ディスクの作成を選択し、画面の指示に従って操作してください。

修復ディスクの作成には、新しいフロッピーディスクが 1 枚必要です。



- Print**
- 万一、Windows NT システムファイル、システム構成、およびスタートアップ時の環境変数などが損傷を受けた場合は、修復ディスク上に保存した情報を使ってこれらを再構築できます。
 - システムの修復方法については、添付の『Windows NT Server コンセプトアンドプランニングガイド』などのマニュアルを参照してください。

26 すべての処理が終了すると、インストールした OS が起動します。



これでサーバのセットアップ、インストールは終了です。
 続いて、「第一部 第4章 サーバインストール後の状態と処理」を参照してください。

3.2.3 Windows 2000 SV の場合

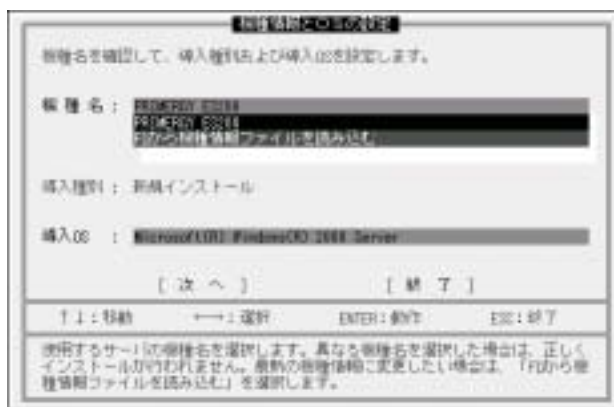


Windows 2000 SV の場合は、WizardConsole をインストールできません。

- 1 ServerWizard 画面で【セットアップ】を選択し、【Enter】キーを押します。
- 2 【新規】を選択し、【Enter】キーを押します。
機種情報と OS の設定画面が表示されます。



- サーバ情報ファイルが登録されているフロッピーディスクがある場合は、「読み込み」を選択します。詳しくは「第一部 2.7.2 サーバ情報を読み込んでインストールする」を参照してください。
- サーバ情報の設定を途中で終了する場合は、【Esc】キーを押します。



3 機種名、導入種別、インストールする OS を設定します。

項目	説明
機種名	ご使用になる「機種名」が正しく表示されていることを確認してください。なお、異なる機種を指定した場合は、正常にインストールが行われません。
導入種別	サーバに OS がプレインストールされている場合は「新規インストール」か「インストールタイプ」かを選択します。OS がプレインストールされていない場合は「新規インストール」になります。
導入 OS	サーバで使用する OS を選択します。

Print ● 「機種名」で「FD から機種情報ファイルを読み込む」を選択して【Enter】キーを押すとフロッピーディスクから機種情報ファイルを読み込むことができます。

4 【次へ】を選択し【Enter】キーを押します。

HD 情報-1/2 の設定画面が表示されます。導入種別でインストールタイプを選択した場合は手順 9 へ進みます。



5 OS を起動する装置を設定します。

項目	説明
ブートデバイス	OS を起動する装置を RAID、SCSI/IDE から選択します。RAID を選択した場合は、RAID の各項目を設定します。
SCSI アレイ コントローラカード	使用する SCSI アレイコントローラカードを選択します。
RAID レベル	RAID のレベルを選択します。

項目	説明
ハードディスク台数	サーバで使用するハードディスクの台数を選択します。実際に装着している台数（ホットスペアディスクを除く）を指定してください。
ホットスペアディスクの作成	ホットスペアディスクを作成するかしないかを選択します。 「する」を選択した場合、実際に装着するディスク台数は「ハードディスク台数」で指定した台数+1 台となります。たとえば、台数を 3 台指定しホットスペアディスクを作成すると指定した場合は、サーバには必ず 4 台のハードディスクを装着してください。 ▶▶ハードディスクの台数について →「付録 A」の「Q. RAID を構築するときの注意点は？」参照
BGI 機能	バックグラウンド初期化（BGI）機能を使用するかしないかを選択します。「ON」を選択すると SCSI アレイコントローラカード配下にあるシステム区画の初期化をバックグラウンドで処理します。SCSI アレイコントローラカードが BGI 機能をサポートしていない場合は「OFF」となります。



ブートデバイスに RAID を設定した場合、存在する区画はすべて初期化されます。

6 【次へ】を選択し【Enter】キーを押します。

HD 情報－2/2 の設定画面が表示されます。

7 区画を設定します。

項目	説明
パーティションサイズ	システム区画（C:ドライブ）とアプリケーション区画（D:ドライブ）の設定方法を選択します。「自動設定」を選択した場合はデフォルト値で設定されます。「手動設定」を選択した場合は、システム区画、アプリケーション区画、メンテナンス区画のサイズを設定します。合計で 8192MB までの区画を作成できます。
システム区画の作成	「区画サイズ」「NTFS コンバート」を設定します。 「区画サイズ」のサイズ範囲は 2048～4096MB です。 「NTFS コンバート」ではシステム区画のファイルシステムを NTFS に変換するかしないかを選択します。
アプリケーション区画の作成	アプリケーション区画を作成するかしないかを選択します。「する」を選択した場合は、「区画サイズ」を入力します。区画サイズは 1～（8192MB－システム区画－メンテナンス区画）です。
メンテナンス区画の作成	メンテナンス区画を作成するかしないかを選択します。区画サイズは 100MB 固定です。

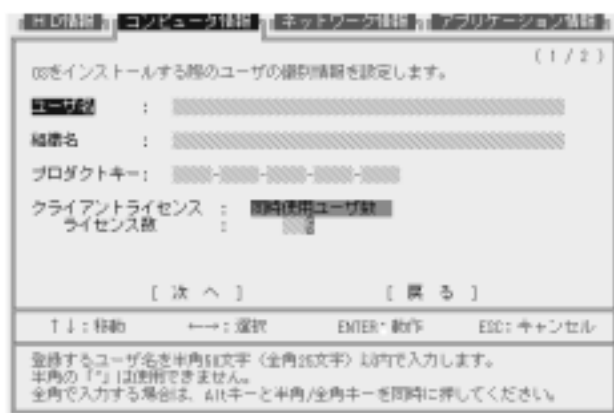
- Print** ● 実際のサーバでは、管理領域に使用されるため、区画は指定した容量より小さくなる場合があります。また、指定した容量より小さなハードディスクが装着されていた場合、区画（D:ドライブ）が作成されなかったり、自動的にサイズを変更する場合があります。
- アプリケーション区画は、「NTFS」で初期化されます。システム区画は、「NTFS コンバート」で「しない」を指定した場合は「FAT」で初期化されます。
- システム区画のサイズを 2048MB 以外（2049～4096MB）で指定すると、自動的に「NTFS」で初期化されます。

	サイズ [MB]	デフォルト値	ファイルシステム	ボリュームラベル
システム区画	2048～4096	(4096)	NTFS／FAT 選択	なし
アプリケーション区画	1～6144	(3996)	NTFS 固定	Swapldriv
メンテナンス区画	100 固定	(100)	FAT 固定	なし

※ 区画の合計サイズは、8192MB までです。

8 [次へ] を選択し【Enter】キーを押します。

コンピュータ情報－1/2 の設定画面が表示されます。



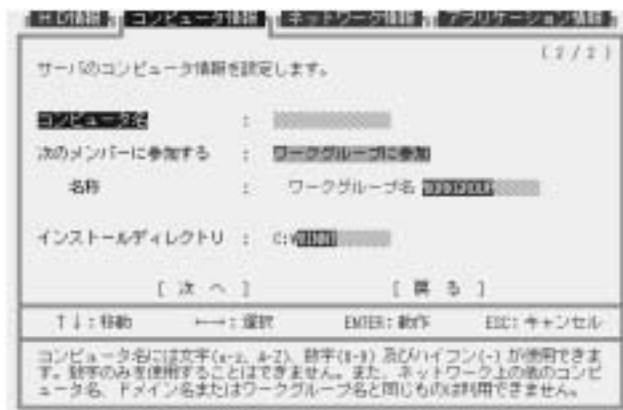
9 ユーザ情報、コンピュータ情報、クライアントライセンス情報を入力します。

項目	説明
ユーザ名	OS をインストールする際に登録するユーザ名を半角 50 文字（全角 25 文字）以内で入力します。 半角の"（ダブルクォーテーション）は使用できません。
組織名	OS をインストールする際に登録する組織名を半角 50 文字（全角 25 文字）以内で入力します。 半角の"（ダブルクォーテーション）は使用できません。
プロダクトキー	プロダクトキーを入力します。プロダクトキーは CD ケース裏面か、「Certificate of Authenticity」を確認してください。
クライアントライセンス	Windows 2000 クライアントのライセンスの形態を選択します。 ライセンス数：クライアントライセンスで「同時使用ユーザ数」を指定した場合に、同時に使用するユーザ数を入力します。

- Print** ● ユーザ名、組織名には、全角文字が使用できます。全角文字を使用する場合には
【Alt】＋【半角 / 全角】キーを押してください。

10 [次へ] を選択し【Enter】キーを押します。

コンピュータ情報－2/2 の設定画面が表示されます。



11 コンピュータ名、サーバ種別等を設定します。

項目	説明
コンピュータ名	サーバのコンピュータ名を半角 15 文字以内で入力します。 "/, ¥=+<>;*? [:] . および空白の 17 種類の文字は使用できません。コンピュータ名には文字(a-z, A-Z)、数字(0-9)およびハイフン(-)が使用できます。数字のみを使用することはできません。また、ネットワーク上の他のコンピュータ名、ドメイン名またはワークグループ名と同じものは利用できません。
次のメンバーに参加する	ワークグループに参加するかドメインに参加するかを選択します。 名称：ワークグループ名/ドメイン名を入力します。半角 15 文字以内で入力してください。コンピュータ名と同じ名前は使用できません。 "/, ¥=+<>;*? [:] および、空白の 16 種類の文字は使用できません。
インストールディレクトリ	OS をインストールするディレクトリを入力します。MS-DOS のファイル名の規約に従って入力してください。

Note

インストールディレクトリには以下のものは使用できません。

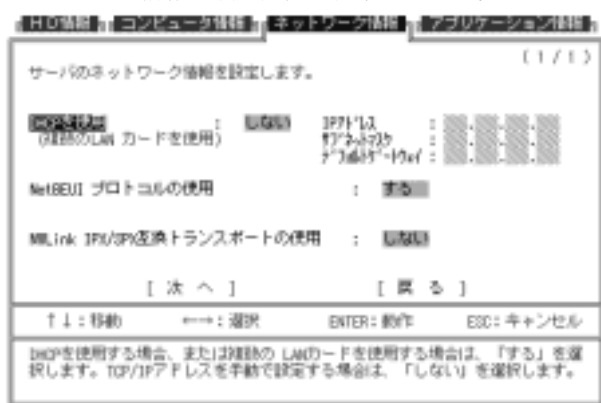
◆リザーブされている文字列

◆その他の不正なディレクトリ名

ABC.

12 [次へ] を選択し【Enter】キーを押します。

ネットワーク情報の設定画面が表示されます。



13 サーバのプロトコル情報を設定します。

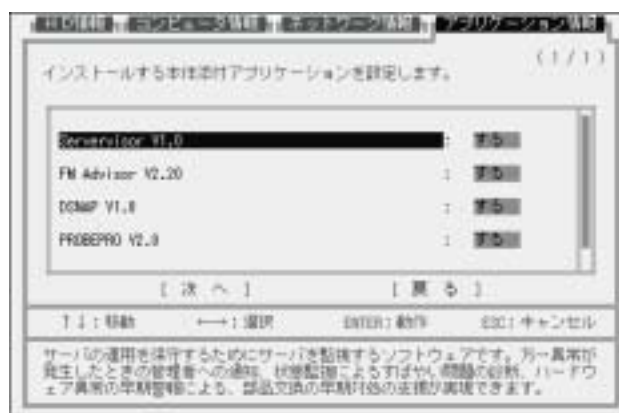
項目	説明
DHCP を使用 (複数の LAN カードを使用)	ネットワーク上に他の DHCP サーバがある場合は「する」を選択します。「しない」を選択した場合は、IP アドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイを入力します。デフォルトゲートウェイは省略可能です。
NetBEUI プロトコルの使用	NetBEUI プロトコルを使用するかしないかを選択します。
NWLink IPX/SPX 互換 トランスポートの使用	NWLink IPX/SPX 互換トランスポートを使用するかしないかを選択します。

Note

オプションの LAN カードを使用する場合は、カードごとに IP アドレスを指定することはできません。その場合は、「DHCP を使用 (複数の LAN カードを使用)」を「する」で IP アドレスの設定を行ってください。

14 [次へ] を選択し【Enter】キーを押します。

アプリケーション情報-1/1 の設定画面が表示されます。



Point ● Windows 2000 SV に Service Pack があるときは、Service Pack の適用を指定する画面が表示されます。

15 本体添付アプリケーションのインストール設定を行います。

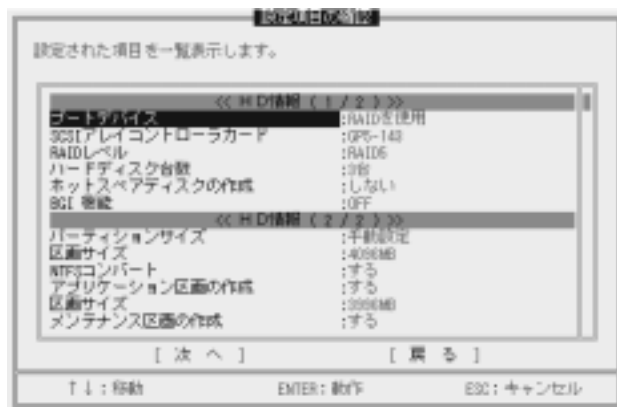
画面右側にスクロールバーが表示されます。項目を移動すると、アプリケーションの一覧部分がスクロールされます。

16 [次へ] を選択し【Enter】キーを押します。

設定項目の確認画面が表示されます。

変更したい場合はその項目を選択し、【Enter】キーを押します。

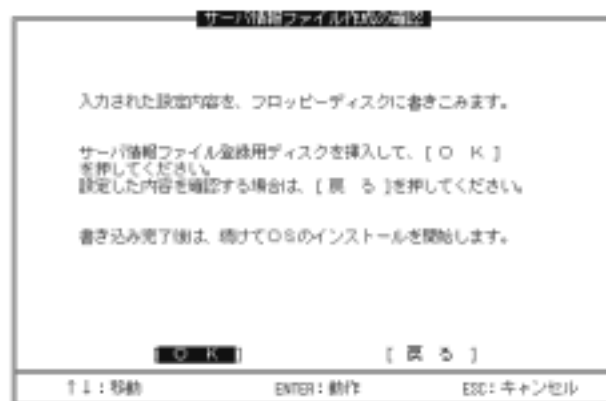
各設定画面に移動し、変更できます。



各設定画面で「次へ」「戻る」を選択し【Enter】キーを押すと、変更が反映され設定項目の確認画面に戻ります。

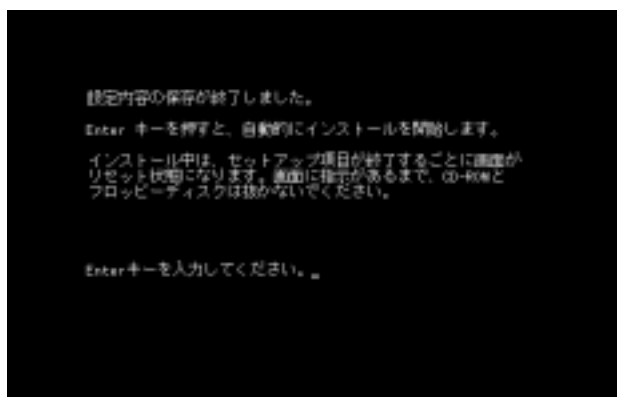
17 「次へ」を選択し【Enter】キーを押します。

サーバ情報ファイル作成の確認の画面が表示されます。



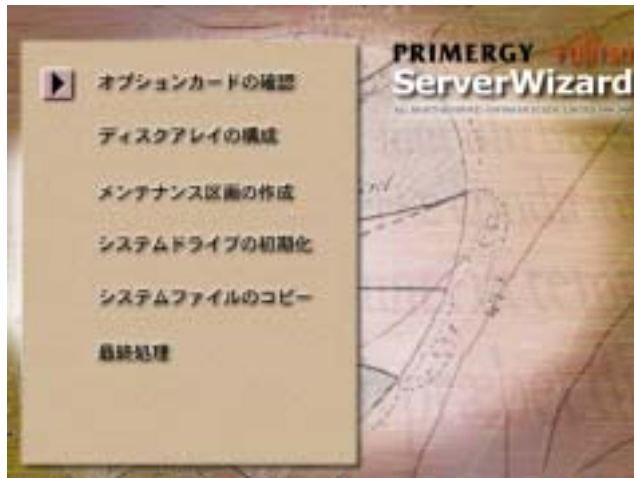
18 初期化してもよい 2HD のフロッピーディスクをセットし、【OK】を選択し、【Enter】キーを押します。

フロッピーディスクがフォーマットされ、サーバ情報が"DOSPTNR.SPD"のファイル名で登録されます。登録が終了すると、設定終了画面が表示されます。



19【Enter】キーを押します。

セットアップ、およびインストールが開始されます。
以降は、画面の指示に従って操作を行ってください。

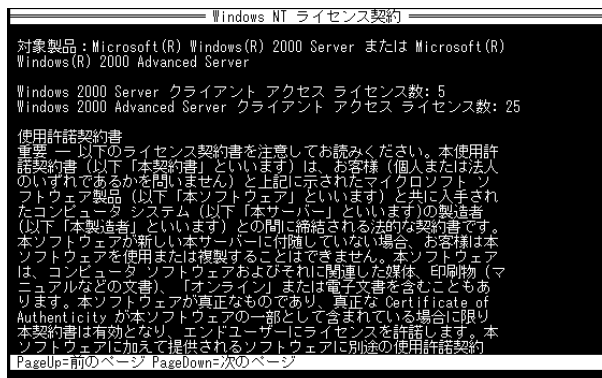


セットアップ項目の処理が終了するごとに画面がリセット状態になります。すべての処理が終了するまでフロッピーディスクは絶対に抜かないでください。



- 「ディスクアレイの構成」は、ブートデバイスに「RAID を使用」を選択した場合のみ表示され、自動的に行われます。
- 「メンテナンス区画」の作成は、以下の場合に自動的に行われます。
 - パーティションサイズで「自動設定」を選択した場合
 - パーティションサイズで「手動設定」を選択し、かつ、メンテナンス区画の作成で「する」を選択した場合

20「最終処理」でドライバのコピーが終了すると、Windows 2000 SV のライセンス契約の同意画面が表示されます。



21 内容を確認して同意する場合は【F8】キーを押してください。

Windows 2000 SV のインストールが開始されます。
以降は、画面の指示に従って操作してください。



- ・ライセンス契約に同意しない場合は【Esc】キーを押します。その場合、処理が終了し、インストールは行われません。

操作しなおしてください。作成した.SPD ファイルはそのまま使用できます。

- ・インストール中、あらかじめ設定した内容（プロダクトキーなど）に誤りがあるとエラー画面が表示されます。正しい値を直接インストール中の画面で入力して処理を続行してください。ただし、ここで修正した内容はサーバ情報ファイルには反映されません。

22 インストールが終了すると、パスワード設定の画面が表示されます。

管理者用パスワードを入力し、パスワード確認画面にも同じパスワードを入力します。パスワードは半角 14 文字以内で入力します。パスワードは必ず設定してください。



23 [OK] をクリックします。

24 すべての処理が終了すると、インストールした OS が起動します。



25 をクリックします。

これでサーバのセットアップ、インストールは終了です。

続いて、「第一部 第 4 章 サーバインストール後の状態と処理」を参照してください。

第 4 章 サーバインストール後の状態と処理

ServerWizard を使って PRIMERGY にインストールした後の操作を説明します。

4.1 サーバインストール後のディスプレイの状態

セットアップが終了した時点での、サーバのディスプレイの設定は次のとおりです。
お使いのディスプレイにあわせて、設定を変更してください。

	解像度	リフレッシュレート
Windows 2000 SV の場合	640*480 ドット/ハイカラー (16ビット)	60Hz
Windows NT の場合	640*480 ドット/65536 色	60Hz
SBS の場合	800*600 ドット/65536 色	60Hz

※ リフレッシュレートは、モニタにより最適値に変更されます。



WindowsNT、SBS を導入する場合は、電源切断機能 HAL または添付の Service Pack をインストールしない限り、AGP のディスプレイドライバは、自動的にインストール

4.2 CD-ROM からの自動実行機能について

サーバインストール直後は、CD-ROM からの自動実行機能は解除されています。自動実行をするには、以下の操作を行い設定を変更してください。

- 1 レジストリを編集できる状態にし、以下のレジストリキーの Autorun の値を 0 に変更します。

HKEY_LOCAL_MACHINE¥System¥CurrentControlSet¥Services¥CDRom

- 2 マシンを再起動します。

4.3 インストールタイプをお使いの方へ

4.3.1 インストール環境

インストールタイプ（Windows NT Server の場合）での OS のインストール環境は以下のとおりです。

項目	説明
システムドライブ	C ドライブ
ドライブの容量	4GB
アプリケーションドライブ	D ドライブ
ドライブの容量	残り容量にあわせて自動的に作成されます。
ファイルシステム	NTFS
ディレクトリ名	WINNT

4.3.2 SCSI アレイカード搭載モデルをお使いの場合

インストールタイプの SCSI アレイコントローラカードが搭載されているモデルで、導入種別を「インストールタイプ」に指定した場合は、SCSI アレイコントローラカードの管理ソフトウェアはインストールされません。サーバ本体、または SCSI アレイコントローラカードに添付の取扱説明書を参照して、管理ソフトウェアをインストールしてください。

4.3.3 Windows NT Server のインストールを失敗したとき

ServerWizard からサーバへのインストールを行っている途中に失敗があった場合は、再インストールを行う必要があります。「導入種別」で「新規インストール」を選択して、再度やりなおしてください。ただし、インストール時に使用していたサーバ情報ファイルは、再インストールには利用できません。一度フロッピーディスクを初期化して最初からやり直してください。

4.4 LDSM／Servervisor をインストールした場合

LDSM、または Servervisor をインストールする場合、Server Manager エージェントのみインストールされます。オプションのサーバモニタモジュール（SMM）を使用する場合には、ドライバ、およびファームウェアをインストールしてください。

▶ Servervisor について→「第二部 第4章 サーバ監視ツール [Servervisor] 」参照

▶ LDSM について→「第二部 第5章 サーバ監視ツール [LDSM] 」参照

4.5 サーバ運用の前に

サーバの運用を始める前に、以下の設定を行ってください。
各設定については『Windows NT Server ファーストステップガイド』を参照してください。

- ・ LAN カードを増設する場合、本体に添付の取扱説明書を参照してドライバをインストールしてください。
- ・ SCSI 外部オプション装置（ハードディスクキャビネット、光磁気ディスクユニットなど）を接続する場合、本体に添付の取扱説明書を参照して接続してください。
- ・ インストールした添付アプリケーションの設定を、各アプリケーションの取扱説明書を参照して行ってください。

4.6 SBS インストール後の注意事項

- ・ Windows NT Service Pack について
SBS は Windows NT Service Pack が適用されています。SBS には、Windows NT Service Pack を絶対にインストールしないでください。誤動作の原因になります。
- ・ FAX モデムカードを使用する COM ポートの設定について
SBS インストール直後は、FAX モデムカードは指定した COM ポートを使用するように設定されています。それ以外の COM ポートを使用する場合は、いったん FAX モデムカードを削除し、使用する COM ポートを追加設定し、再度 FAX モデムカードを追加してください。また、FAX プリンタを使用する場合も、FAX モデムカードと同様に FAX プリンタを一度削除してから、追加してください。

● COM ポートの追加設定方法

- 1) 「コントロールパネル」から「シリアルポート」を選択します。
現在使用できるシリアルポートの一覧が表示されます。
- 2) 「追加 (A)...」を選択します。
「新しいポートの詳細設定」画面が表示されます。
- 3) I/O ポートアドレス、割り込み番号 (IRQ) を正しく設定し、[OK] をクリックします。
ICU で設定した値および FAX モデムカードに設定した値と合わせます。
再起動するかどうかのメッセージが表示されます
- 4) 「再起動する」を選択します。
再起動されます。



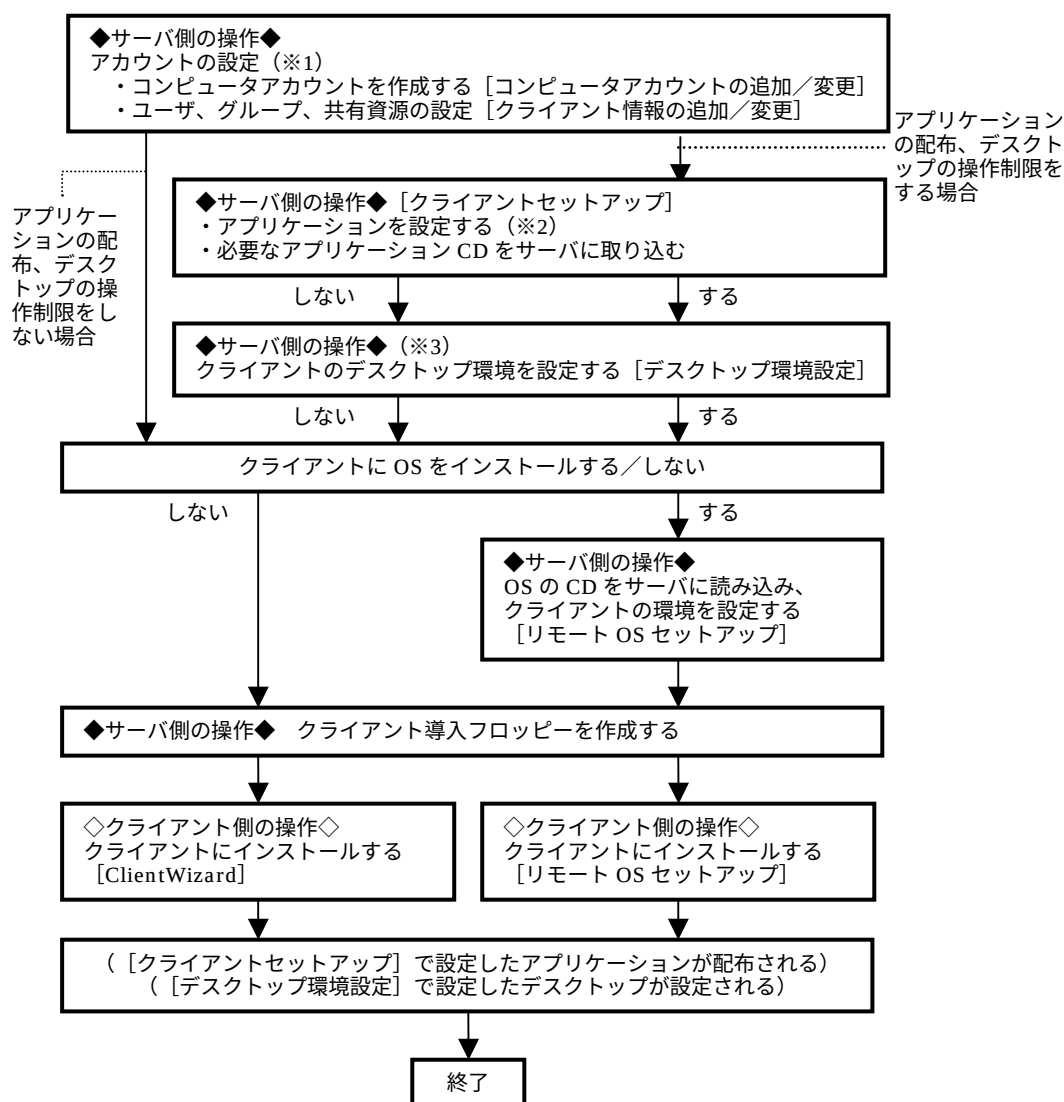
- FAX モデムおよび FAX プリンタの追加／削除方法の詳細については、SBS 管理コンソールのオンラインガイドで、FAX の項目を参照してください。

第 5 章 クライアントへのインストール

[WizardConsole] + [ClientWizard]

サーバのインストールが終了したら、クライアントの設定とインストールを行います。
クライアントへのインストールは WizardConsole から実行します。

5.1 クライアントにインストールする流れ





● (※)の操作は、一括インストールのとき、DesignMagic の以下の機能で設定しておくこともできます。

※1→クライアントシステム設計、※2→クライアントセットアップ、※3→デスクトップ設計

5.1.1 サーバ側の準備

■クライアントコンピュータの情報を登録する

クライアントコンピュータの情報を登録するには、WizardConsole から「第一部 5.4 クライアントコンピュータを追加／変更する」と「第一部 5.3 ユーザ、グループ、共有資源を追加／変更する」を行ってください。

また、サーバ情報設定時に DesignMagic の「クライアントシステム設計」で設定しておくこともできます。すでに ServerWizard でサーバのセットアップ、インストールが完了している場合は、WizardConsole で操作を行ってください。

■クライアントへセットアップする資源の取り込み

DesignMagic のクライアントセットアップで定義したアプリケーションやファイルなどの資源をクライアントにインストールするには、サーバ上にアプリケーションやファイルを取り込んでおく必要があります。サーバ上にこれらの資源を取り込むには、「第一部 5.7.2 セットアップ資源をサーバのディスクに登録する」を行ってください。

■クライアント導入フロッピーを作成する

クライアントにインストールするには、クライアントコンピュータの情報を登録したクライアント導入フロッピーが必要です。クライアント導入フロッピーを作成するには「第一部 5.9 クライアント導入フロッピーを作成する」を行ってください。

5.1.2 ネットワーク環境の準備

LAN ケーブルを接続し、サーバと接続できる状態にしておきます。

接続方法など、詳しくはご使用の各装置に添付のマニュアルを参照してください。

■ネットワーク環境の設定

- ・ LAN カードを装着し、LAN ドライバをインストールします。
LAN カードの装着方法、LAN ドライバのインストール方法については、それぞれ添付のマニュアルを参照してください。
- ・ 「コントロールパネル」の「ネットワーク」で、Microsoft ネットワーククライアントサービスをインストール、セットアップしておきます。
- ・ クライアントコンピュータに複数の LAN カードが装着されていた場合、サーバに正常に接続できない場合があります。LAN カードの装着は 1 つのみに変更してください。

■TCP/IP プロトコルの設定

あらかじめセットアップを行うクライアントコンピュータにおいて、TCP/IP プロトコルを設定しておいてください。

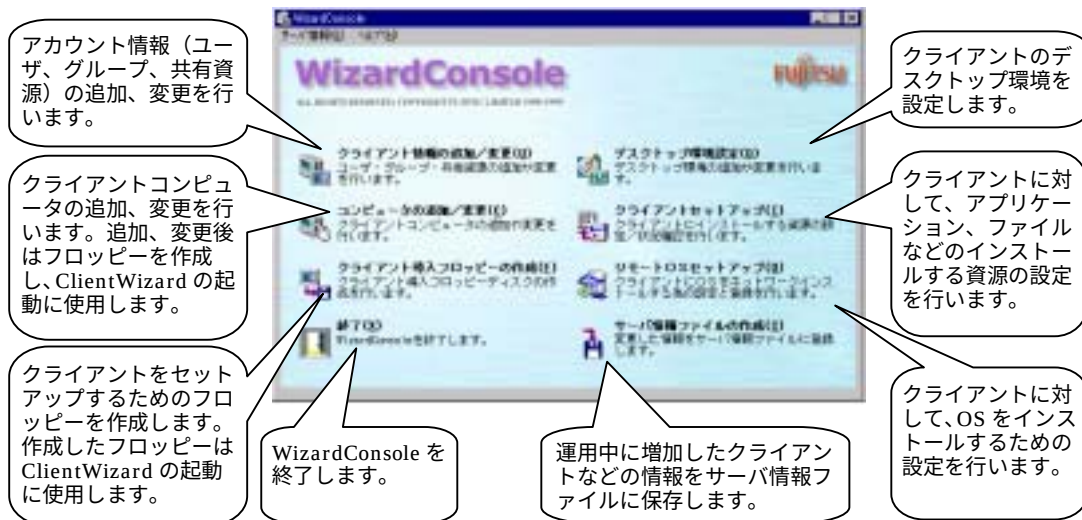
IP アドレスの種別を「手動設定」に設定する場合も、「DHCP」に設定する場合も、TCP/IP

を設定しておく必要があります。ただし、「DHCP」に設定した場合は、自動的に IP アドレスの種別が DHCP に設定しなおされます。

5.2 WizardConsole を起動する

1 [スタート]をクリックし、[プログラム] – [ServerWizard] – [WizardConsole] を選択します。

WizardConsole が起動します。



● WizardConsole の機能一覧

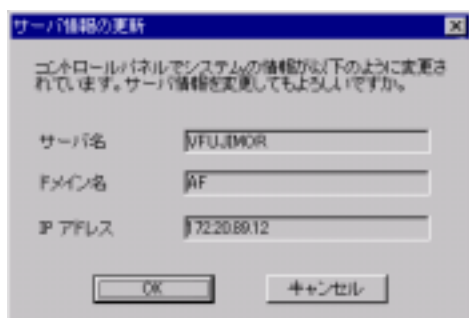
項目	説明
クライアント情報の追加／変更	ユーザ、グループ、共有資源に関する情報を追加、変更します。追加、変更した情報は、クライアントシステム設計画面で関連付けを行います。
コンピュータの追加／変更	クライアントとなるコンピュータの情報を追加、変更します。
クライアント導入フロッピーの作成	WizardConsole クライアントをインストールするためのフロッピーディスクを作成します。
終了	WizardConsole を終了します。
デスクトップ環境設定	サーバ側で一括管理するクライアントのデスクトップ環境を設定します。
クライアントセットアップ	クライアントにインストールする資源の設定／情報確認を行います。
リモート OS セットアップ	クライアントにインストールする OS の設定／情報確認を行います。
サーバ情報ファイルの作成	WizardConsole で変更した情報を、サーバ情報ファイルに登録、または更新します。
[サーバ情報] メニュー	
サーバ情報確認	ServerWizard で設定されているサーバ情報が表示されます。

(続く)

項目	説明
[ヘルプ] メニュー	
トピックの検索	WizardConsole のヘルプが表示されます。ヘルプには、各設定画面の説明が書かれています。
バージョン情報	WizardConsole のバージョン情報が表示されます。



- WizardConsole 起動時に以下の画面が表示される場合があります。[OK] をクリックすると WizardConsole で使用されるサーバ情報が書き換えられます。サーバ情報を有効にしたい場合は、[サーバ情報] - [サーバ情報確認] を選択して現在のサーバ情報の内容を確認し、コントロールパネルでシステムの情報を変更してください。システムの情報とサーバ情報が異なったまま操作を続けると、正常に動作しなくなる可能性があります。



5.3 ユーザ、グループ、共有資源を追加／変更する



- 背景が黄色で表示されているアカウントはすでに 登録済みであることを表します。登録済みのアカウントを変更する場合は [変更] をクリックして、ダイアログを表示する場合は十分注意してください。
- 背景が白色で表示されているアカウントは、[適用] または [OK] をクリックすると登録されます。

- 1 WizardConsole 画面で [クライアント情報の追加／変更] を選択します。
クライアント情報の追加／変更画面が表示され、[ユーザの設定] タブ画面が表示されます。各タブをクリックすると [グループの設定] タブ画面、[共有資源の設定] タブ画面にも切り替わります。



2 各タブをクリックして設定します。

- ▶設定方法 → 「第一部 5.3.1 ユーザを追加／変更する」参照
- 「第一部 5.3.2 グループを追加／変更する」参照
- 「第一部 5.3.3 共有資源フォルダを追加／変更する」参照

5.3.1 ユーザを追加／変更する

「ユーザの設定」タブが表示されていることを確認してください。

Point

- あらかじめ複数のユーザの情報を CSV 形式で記述してファイルを作成しておきます。[ファイル] - [CSV ファイル取込み] でファイルを取り込むことによって、まとめてユーザを登録することができます。

▶CSV ファイルの記述方法 → 「付録 F CSV ファイルフォーマットについて」

また、登録したユーザの情報は [ファイル] - [CSV ファイル出力] で CSV 形式のファイルに書き出すことができます。

1 ユーザの情報を設定します。

新規にユーザを追加する場合は、[追加] をクリックします。2048 件まで設定できます。ユーザの追加画面が表示されます。入力する欄をクリックし、直接入力することもできます。



2 追加するユーザの情報を設定します。

項目	説明
ユーザ名	コンピュータ上のユーザ名を入力します。20 文字以内（半角の場合）で入力してください。 "/, ¥=+<>;*? [:] の 15 種類の文字は使用できません。また、すでに入力されているグループ名およびユーザ名と同じ名前は使用できません。
フルネーム	ユーザのフルネームを入力します。64 文字以内（半角の場合）で入力してください。省略できます。
説明	ユーザに対する説明を入力します。48 文字以内（半角の場合）で入力してください。省略できます。
パスワード	ログオン時のパスワードを設定します。半角 14 文字以内で入力してください。全角文字は入力できません。ここで設定したパスワードは、ユーザがサーバログオン時に任意に変更できます。
確認入力	「パスワード」で入力した文字列を、確認のために再度入力します。
次回ログイン時に変更する	設定したパスワードをユーザが次回サーバ接続時に変更する場合にチェックします。
パスワードを変更できない	ここで設定したパスワードを固定し、変更できないようにする場合にチェックします。
パスワードを無期限にする	ここで設定したパスワードを、無期限に利用できる場合にチェックします。
アカウントを無効にする	アカウントを無効にする場合にチェックします。

3 [追加] をクリックします。

ユーザが追加されます。追加するユーザの情報を続けて設定できます。

4 すべてのユーザの追加が終わったら [閉じる] をクリックします。

クライアント情報の追加／変更画面に戻ります。



● ユーザ情報の変更

変更するユーザを選択して [変更] をクリックするか、変更するユーザをダブルクリックします。ユーザの変更画面が表示されます。設定を変更し [OK] をクリックします。

● ユーザの削除

削除するユーザを右クリックし、[削除] を選択します。【Delete】キーを押しても削除できます。



• Windows NT の [スタート] - [管理ツール] の [ユーザマネージャ]、または Windows 2000 SV の [スタート] - [コントロールパネル] - [管理ツール] の [Active

件以上の情報を正常に反映できない場合があります。

• 256 件以上のユーザを登録した場合、操作は続行できますが、サーバ情報ファイルには 256 件までしか登録されません。

5.3.2 グループを追加／変更する

1 [グループの設定] タブをクリックします。

[グループの設定] タブ画面が表示されます。



Point

- あらかじめ複数のグループの情報を CSV 形式で記述してファイルを作成しておきます。[ファイル] - [CSV ファイル取込み] でファイルを取り込むことによって、まとめてグループを登録することができます。

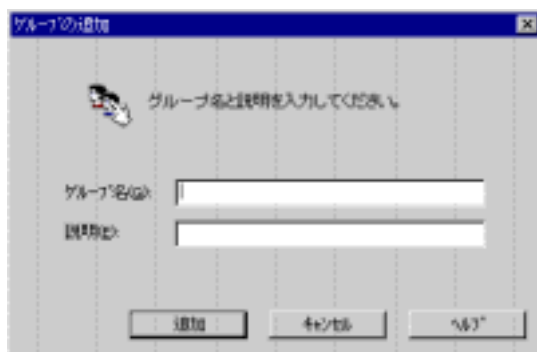
▶ CSV ファイルの記述方法 → 「付録 F CSV ファイルフォーマットについて」

また、登録したグループの情報は [ファイル] - [CSV ファイル出力] で CSV 形式のファイルに書き出すことができます。

2 グループの情報を設定します。

新規にグループを追加する場合は、[追加] をクリックします。2048 件まで設定できます。

グループの追加画面が表示されます。



3 追加するグループの情報を設定します。

項目	説明
グループ名	ユーザグループ名を入力します。 20 文字以内（半角の場合）で入力してください。 "/, ¥=+<>;*? [:] の 15 種類の文字は使用できません。すでに入力されているグループ 名およびユーザ名と同じグループ名は使用できません。
説明	作成したグループに対する説明を入力します。64 文字以内（半角の場合） で入力してください。省略できます。

4 [追加] をクリックします。

グループが追加されます。追加するグループを続けて設定できます。

5 すべてのグループの追加が終わったら [閉じる] をクリックします。

クライアント情報の追加／変更画面に戻ります。

Point

- グループ情報の変更
変更するグループを選択して [変更] をクリックするか、変更するグループをダブルクリックします。
グループの変更画面が表示されます。設定を変更し [OK] をクリックします。
- グループの削除
削除するグループを右クリックし、[削除] を選択します。【Delete】キーを押しても削除できません。

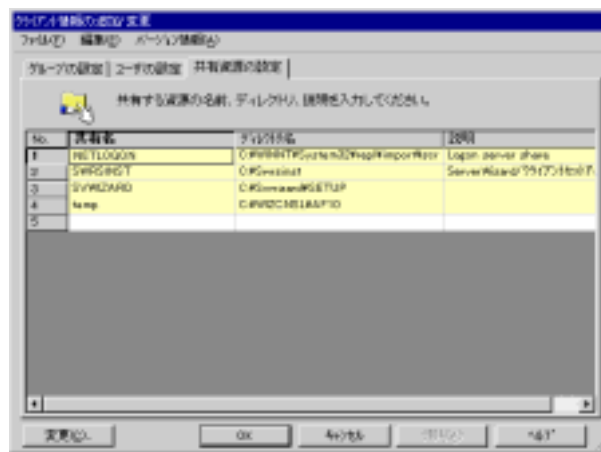
Note

- Windows NT の [スタート] - [管理ツール] の [ユーザマネージャ]、または Windows 2000 SV の [スタート] - [コントロールパネル] - [管理ツール] の [Active Directory ユーザーとグループ] の [グループ] タブで、2048 件以上の情報を、正常に反映できないことがあります。
- 256 件以上のグループを登録した場合、操作は続行できますが、サーバ情報ファイルには 256 件までしか登録されません。

5.3.3 共有資源フォルダを追加／変更する

1 [共有資源の設定] タブをクリックします。

[共有資源の設定] タブ画面が表示されます。



Point

- あらかじめ複数の共有資源の情報を CSV 形式で記述してファイルを作成しておきます。[ファイル] - [CSV ファイル取込み] でファイルを取り込むことによって、まとめて共有資源を登録することができます。

▶ CSV ファイルの記述方法 → 「付録 F CSV ファイルフォーマットについて」

また、登録した共有資源の情報は [ファイル] - [CSV ファイル出力] で CSV 形式のファイルに書き出すことができます。

2 共有資源の情報を設定します。

新規にグループを追加する場合は、[追加] をクリックします。2048 件まで設定できます。入力する欄をクリックし、直接入力することもできます。共有資源の追加画面が表示されます。



3 追加する共有資源の情報を設定します。

項目	説明
共有名	共有するディスク資源を入力します。80 文字以内（半角の場合）で入力してください。 ServerWizard であらかじめ予約されている共有名(SVWIZARD)は使用できません。8.3 形式(xxxxxxxx.xxx)以上の長さで入力した場合は、MS-DOS のワークステーションから共有できない可能性があります。
ディレクトリ	共有する資源のディレクトリ名を入力します。246 文字まで（半角の場合）入力できます。"/:;<>* ¥ の 9 種類の文字は使用できません。絶対パスで入力してください。[...] ボタンをクリックして、ディレクトリ一覧から選択することもできます。
説明	共有資源に対する説明を入力します。48 文字以内（半角の場合）で入力してください。省略できます。

4 [追加] をクリックします。

共有資源が追加されます。続けて追加する共有資源を設定できます。

5 すべての共有資源の追加が終わったら [閉じる] をクリックします。

項目の追加／変更画面に戻ります。



- 共有資源情報を変更する

変更する共有資源を選択して [変更] をクリックするか、変更する共有資源をダブルクリックします。

共有資源の変更画面が表示されます。設定を変更し [OK] をクリックします。

- 共有資源を削除する

削除する共有資源を右クリックし、[削除] を選択します。【Delete】キーを押しても削除できません。



- 共有資源の"SVWIZARD"とユーザ名の"SWClientSetupUser"は、ServerWizard でクライアントコンピュータの登録に使用するために作成されます。

更等を行わないでください。

インターネット等の他のネットワークに接続しているサーバでは、セキュリティ確保のため、ClientWizard ですべてのクライアントに登録が終了したら削除してください。

- ただし、デスクトップ設計をお使いになる場合は、共有資源の"SVWIZARD"を削除しないでください。

- 32 件以上の共有資源を登録した場合、操作は続行できますが、サーバ情報ファイルには 32 件までしか登録できません。

- Windows NT の [スタート] - [管理ツール] の [ユーザマネージャ]、または Windows 2000 SV の [スタート] - [コントロールパネル] - [管理ツール] の [Active Directory ユーザとコンピュータ] を使用して共有資源を追加、変更した場合は、2048 件以上の情報を正常に反映できないことがあります。

6 [OK] をクリックします。

追加変更画面が閉じて、クライアントシステム設計画面が表示されます。続いて「第一部 5.5 ユーザ、グループ、共有資源の関連付け」の操作を行います。

5.4 クライアントコンピュータを追加／変更する

Note

・背景が黄色で表示されているアカウントはすでに 登録済みであることを表します。
登録済みのアカウントを変更する場合は [変更] をクリックして、ダイアログを表現する場合は十分注意してください。

- 1 WizardConsole 画面で [コンピュータの追加／変更] を選択します。
コンピュータの設定画面が表示されます。



Point

- あらかじめ複数のコンピュータの情報を CSV 形式で記述してファイルを作成しておきます。
[ファイル] - [CSV ファイル取込み] でファイルを取り込むことによって、まとめてコンピュータを登録することができます。
 ▶ CSV ファイルの記述方法 → 「付録 F CSV ファイルフォーマットについて」
また、登録したコンピュータの情報は [ファイル] - [CSV ファイル出力] で CSV 形式のファイルに書き出すことができます。

- 2 コンピュータの情報を設定します。

コンピュータは 2048 件まで登録できます。新規にコンピュータを追加する場合は、[追加] をクリックします。入力する欄をクリックし、直接入力することもできます。コンピュータ名の欄をクリックすると、クライアントコンピュータ名を入力できます。OS の欄をクリックすると ▼ が表示されます。▼ から OS を選択します。IP アドレスの欄をクリックすると、▼ が表示されます。▼ から指定方法を選択します。「手動入力」を選択すると IP アドレスが入力できます。コンピュータの追加画面が表示されます（変更時も同様の画面が表示されます）。



↑ [再作成] ボタンは、変更画面で、Windows NT WS 4.0、Windows NT SV 4.0 (バックアップドメインコントローラ)、または Windows 2000 Pro を指定した場合に表示されます。

3 追加するコンピュータの情報を設定します。

項目	説明
コンピュータ名	クライアントのコンピュータ名を入力してください。 15 文字以内（半角の場合）で入力してください。 "/, ¥=+<>;*? [:] の 15 種類の文字は使用できません。サーバと同じコンピュータ名は 使用できません。
OS	クライアントのコンピュータで使用する OS を選択します。 バックアップドメインコントローラ（以下、BDC と記述します）を追加 することもできます。BDC を追加するには「Windows NT SV4.0 (BDC)」 を選択してください。なお、BDC のセットアップは、サーバへのインス トール方法と同じです。クライアント導入フロッピーを作成して BDC をセ ットアップすることはできません。
IP アドレス	クライアントコンピュータの IP アドレスの設定方法を選択します。 「手動設定」の場合、IP アドレスを設定します。 「DHCP」の場合、DHCP サーバが IP アドレスを自動的に割り当てます。
[再作成]	Windows NT WS 4.0、Windows NT SV 4.0 (BDC)、Windows2000 Pro を 使用しているクライアントコンピュータで OS の再インストールを行った 場合に、アカウントを再登録します。アカウントの削除、追加の操作は必 要ありません。 ドメイン参加中に、[再作成] を選択してしまうと、そのドメインにログ オンできなくなります。ログオンするには、いったんワークグループに移 動し、あらためてドメインに参加してください。

4 [追加] をクリックします。

コンピュータが追加されます。続けて追加するコンピュータを設定できます。

5 すべてのコンピュータの追加が終わったら [閉じる] をクリックします。

コンピュータアカウントの画面に戻ります。

Point

- 登録済のコンピュータを変更する
変更するコンピュータを選択して [変更] をクリックするか、変更するコンピュータをダブルク
リックします。
コンピュータの変更画面が表示されます。設定を変更し [OK] をクリックします。
- コンピュータを削除する
削除するコンピュータを右クリックし、[削除] を選択します。【Delete】キーを押しても削除
できます。

Note

- Windows NT の [スタート] – [管理ツール] の [サーバマネージャ]、または Windows2000 の [スタート] – [コントロールパネル] – [管理ツール] – [Active Directory 管理コンソール] の [サーバー] 画面で、サーバーのリストに 2048 件以上の情報を正常に反映できないことがあります。
- 256 件以上のコンピュータを登録した場合、操作は続行できますが、サーバ情報ファイルには 256 件までしか登録されません。

6 [FD 作成] をクリックします。

「作成フロッピーの選択」ダイアログが表示されます。



続いて、クライアント導入フロッピーの作成操作を行います。

操作方法については、「第一部 5.9 クライアント導入フロッピーを作成する」を参照してください。

登録、修正、削除を行った場合は [キャンセル] が [閉じる] に変わります。

クライアント導入フロッピーを作成しない場合は、[キャンセル] または [閉じる] をクリックします。

WizardConsole 画面に戻ります。

Print

- クライアント導入フロッピーの作成は、デフォルトではフロッピーに登録していない全クライアントが対象となります。
- 一度クライアント導入フロッピーに登録したクライアントの OS の種別を変更した場合 (たとえば、Windows 95 から Windows 98 に変更) も、フロッピーに登録していないコンピュータとして表示されます。クライアントで OS をアップグレードインストールではなく、新規インストールした場合は、再度クライアント導入フロッピーを作成し、ClientWizard からインストールし直すこともできます。
- 新規に追加したコンピュータは、背景が白色で表示されています。「FD 作成」または「適用」をクリックすると、登録処理が行われます。

Note

クライアントコンピュータの追加を行った場合、追加したクライアントにアプリケーションやファイルをインストールするには、クライアントセットアップ画面から次の

- セットアップ資源がまだ取り込まれていない場合は、セットアップ資源の取り込み画面からセットアップ資源の取り込みを行ってください。
- セットアップ資源がすでに取り込まれている場合は、「登録済みセットアップ一覧」からセットアップ資源を選択して、「クライアント一覧」の追加したクライアントを選択状態にしてください。

5.5 ユーザ、グループ、共有資源の関連付け

ユーザのグループ構成、およびユーザ／グループ単位で利用できる共有資源の関連付けをします。

● ユーザの所属グループの設定

[グループ] / [共有資源] タブをクリックすると表示が切り替わります。

選択可能なユーザ名が表示されます。ユーザ名を右クリックするとそのユーザに関連付けられているグループ、共有資源を確認できます。

グループに関連付けられたユーザ名が表示されます。

ユーザをグループに関連付けするには、「アカウントリスト - ユーザ」から左側の「グループ」タブ内の目的のグループ、または右下側の「グループ xx に関連付けられたアカウント」のリスト内にドラッグ&ドロップします（xx は選択されているグループ名）。

● 共有資源の設定（ユーザ／グループ単位）

クリックするとグループ表示 / ユーザ表示が切り換わります。

選択可能なグループ名、ユーザ名が表示されます。【Ctrl】キーを押しながら選択すると複数選択できます。

共有資源に関連付けられたユーザ名またはグループ名が表示されます。右クリックするとアクセス権を変更できます。

グループ、ユーザを共有資源に関連付けするには、「アカウントリスト」から左側の「共有資源」タブ内の目的の共有資源、または右下側の「共有資源 xx に関連付けられたアカウント」のリスト内にドラッグ&ドロップします（xx は選択されている共有資源名）。

選択状態の共有資源に関連付けられたユーザ、またはグループのアクセス権は次の方法で変更できます。

- 1 「関連画面」の「関連付け一覧」の設定アカウントをダブルクリックします。
アクセス権の変更ダイアログが表示されます。

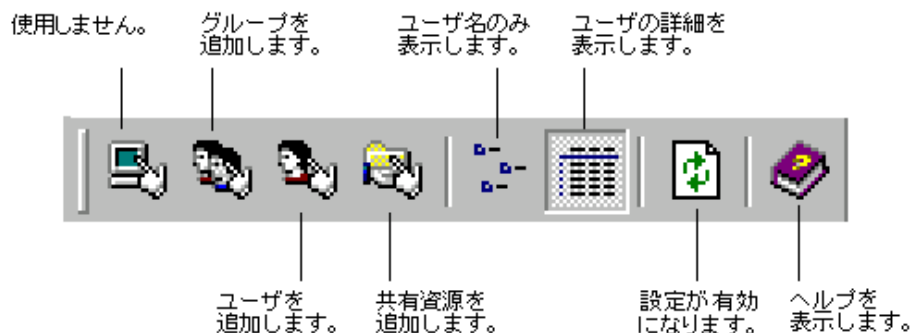


- 2 変更したいアクセス権を選択し、[OK] をクリックします。

- Print**
- ツールバーのアクセス権を変更すると、デフォルトのアクセス権を変更できます。
 - アカウントの関連付けをキー操作で行うこともできます。
 - 1) 「アカウントリスト」の目的のアカウントをクリックし、【Ctrl】+【C】キーを押します。
 - 2) 左側の「グループ」または「共有資源」タブ内の目的のアカウントをクリックする。
 - 3) 【Ctrl】+【V】キーを押します。
 - ユーザ、またはグループの関連付けを確認したい場合は、アカウントを選択し右クリックのポップアップメニューから「関連付け確認」を選択します。関連付け確認ダイアログが表示されます。

● クライアントシステム設計画面のツールバー

「表示」メニューの「ツールバー」表示が有効の場合、以下のアイコンが表示されます。



● クライアントシステム設計画面のメニュー

項目	説明
[設定] メニュー	
追加／変更	追加／変更には以下のサブメニューがあります。 コンピュータ：使用しません。 グループ：グループ情報を追加、または変更します。 ユーザ：ユーザ情報を追加、または変更します。 共有資源：共有資源情報を追加、または変更します。
デフォルトアク	表示されたサブメニューからアクセス権を選択します。

項目	説明
セス権	フルコントロール：すべての操作が行えます。 変更のみ：変更のみ行えます。 読み込みのみ：読み込みのみ行えます。 アクセス権なし：アクセスすることはできません。
適用	クライアントシステム設計で設定した内容を保存します。
終了	クライアントシステム設計で設定した内容を保存するかを確認するメッセージが表示されます。[OK] をクリックすると、設定内容を保存してクライアントシステム設計を終了します。
[表示] メニュー	
ツールバー	ツールバーの表示、非表示を切り替えます。
デフォルトアクセス権	ツールバー上のデフォルトアクセス権の表示、非表示を切り替えます。
ステータスバー	ステータスバーの表示、非表示を切り替えます。
関連付け画面切替え	グループと共有資源の画面を切り替えます。 グループ：関連付けのツリーをグループに切り替えます。 共有資源：関連付けのツリーを共有資源に切り替えます。
アカウントリスト切替え	共有資源タブ選択中に、アカウントリストの表示をユーザとグループに切り替えます。 ユーザー一覧：アカウントリストにユーザのリストを表示します。 グループ一覧：アカウントリストにグループのリストを表示します。
関連付け一覧表示切替え	画面右下の関連付けられたアカウントの表示方法を切り替えます。 小さいアイコン：関連付けられたアカウントを小さいアイコンで表示します。 詳細：関連付けられたアカウントの詳細情報を表示します。
[ヘルプ] メニュー	
トピックの検索	リモート OS セットアップのヘルプが表示されます。ヘルプには、各画面の説明が書かれています。
クライアントシステム設計のバージョン情報	バージョン情報が表示されます。



クライアントシステム設計での設定を反映するには、[適用] をクリックするか、[設定] メニューの [適用] を選択してください。

3 [設定] メニューから [終了] を選択します。

WizardConsole 画面に戻ります。

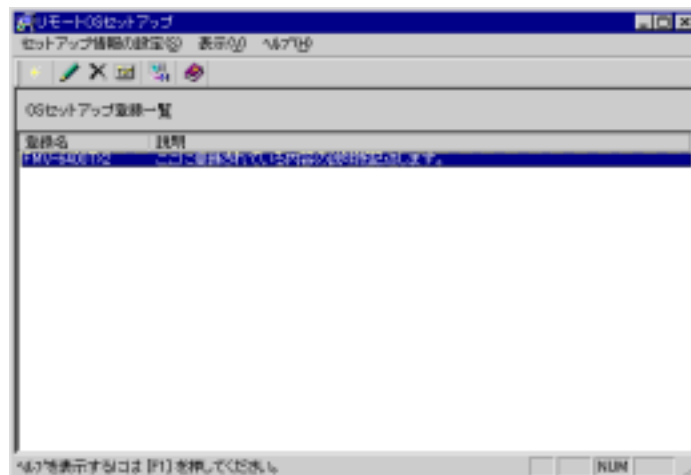
5.6 クライアントに OS をインストールする準備 [リモート OS セットアップ]

クライアント側に OS をインストールする際の情報を設定します。

- リモート OS セットアップを利用するのに必要な環境
 - ☐ ServerWizard V2.0 以降でインストールした Windows NT SV 4.0 ドメインコントローラまたは Windows 2000 SV ドメインコントローラであること
 - ☐ サーバ設計で WizardConsole をインストールするよう指定していること
- リモート OS セットアップを利用するのに必要な媒体
 - ☐ NT 4.0 WS の CD-ROM
 - ☐ クライアントのドライバーズ CD
 - ☐ クライアントの DOS LAN ドライバ（ドライバーズ CD の FDBACKUP から「LAN ドライバ」で作成）
 - ☐ MS-DOS のブート用フロッピーディスク（FDBACKUP で作成）
 - ☐ NT 4.0 SV の CD-ROM または
以下のサイトからダウンロードした LANMAN モジュール
<ftp://ftp.microsoft.com/bussys/Clients/MSCLIENT>

5.6.1 リモート OS セットアップを起動する

- 1 WizardConsole 画面で、[リモート OS セットアップ] を選択します。
「リモート OS セットアップ」ウィンドウが表示されます。



● リモート OS セットアップ画面のツールバー



● リモート OS セットアップ画面の説明

項目	説明
OS セットアップ登録一覧	登録したクライアントへの OS セットアップ情報の一覧が表示されます。最大、64 個まで登録できます。
登録名	入力したセットアップ情報の登録名が表示されます。
説明	セットアップ情報の説明が表示されます。

● リモート OS セットアップ画面のメニュー

項目	説明
[セットアップ情報の設定] メニュー	
新規作成	クライアントへの OS セットアップ情報を新規に作成します。
登録名の変更	クライアントへの OS セットアップ情報の登録名、説明を変更します。
削除	クライアントへの OS セットアップ情報を削除します。
プロパティ	セットアップ情報の内容を確認します。
導入 FD 作成起動	クライアント導入フロッピーの作成機能が起動します。 ▶作成方法→「第一部 5.9.2 クライアント導入フロッピーを作成する（クライアントに OS のインストールも行う場合）」参照
アプリケーションの終了	リモート OS セットアップが終了します。
[表示] メニュー	
ツールバー	ツールバーの表示／非表示を切り換えます。
ステータスバー	ステータスバーの表示／非表示を切り換えます。
[ヘルプ] メニュー	
トピックの検索	リモート OS セットアップのヘルプが表示されます。ヘルプには、各画面の説明が書かれています。
リモート OS セットアップのバージョン情報	バージョン情報が表示されます。

Print ● 「登録名の変更」、「削除」、「プロパティ」「導入 FD 作成起動」はリモート OS セットアップウィンドウで「登録名」を選択した時のポップアップメニューからも操作できます。

5.6.2 OS セットアップ情報を設定する

インストール対象のクライアントコンピュータを指定します。

1 [セットアップ情報の設定] メニューから [新規作成] を選択します。

「新規登録ーリモート OS セットアップ」ダイアログが表示されます。

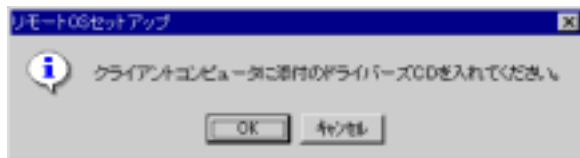


▶各項目の詳細説明 → [ヘルプ] をクリック

- リモート OS セットアップは、以下の 3 つの条件を満たす FMV シリーズで利用できます。これらの条件を満たす機種の名称が「機種名」に一覧表示されます。
 - ・ Windows NT 4.0 Workstation のインストールタイプモデル
 - ・ リカバリ CD が添付されている
 - ・ MS-DOS 上で動作する NDIS の LAN ドライバが添付されているまた、99 年冬モデル以降（99 年 10 月以降に出荷されたモデル）の機種名はドライバース CD を入れた後、[CD 読み込み] ボタンを押すと表示されます。
- 「登録名」は半角 15 文字以内で、「説明」は、半角 128 文字（全角 64 文字）以内で入力してください。

2 クライアントの機種名、登録名などを指定して [OK] をクリックします。

ドライバース CD の挿入をうながすメッセージが表示されます。



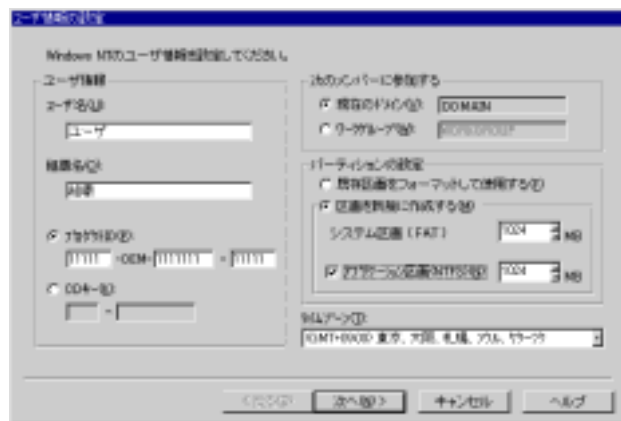
3 ドライバース CD をセットして、[OK] をクリックします。

サーバにドライバース CD の情報がコピーされます。コピーが終了すると Windows NT WS の CD の挿入をうながすメッセージが表示されます。

ただし、すでに一回以上 OS セットアップ情報の登録操作をしていた場合、挿入をうながすメッセージの前にハードディスクの CD イメージを上書きするかの確認メッセージが表示されます。Windows NT WS を再度コピーする必要がないときは [キャンセル] をクリックしてください。「ユーザ情報の設定」ダイアログが表示されます。

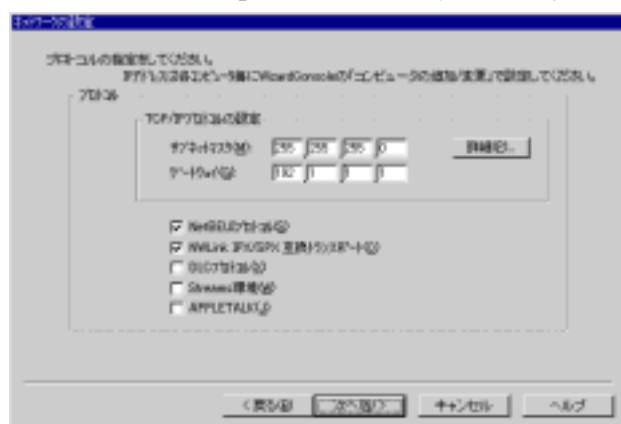
4 Windows NT の CD-ROM をセットして、[OK] をクリックします。

ファイルのコピーが開始されます。コピーが終了すると「ユーザ情報の設定」ダイアログが表示されます。



▶各項目の詳細説明 → [ヘルプ] をクリック

- 5 ユーザ情報を設定して [次へ] をクリックします。
「ネットワークの設定」ダイアログが表示されます。



▶各項目の詳細説明 → [ヘルプ] をクリック

- 6 プロトコルを指定します。
[詳細] をクリックすると、「ネットワークの詳細」ダイアログが表示されますので、必要な項目を設定します。

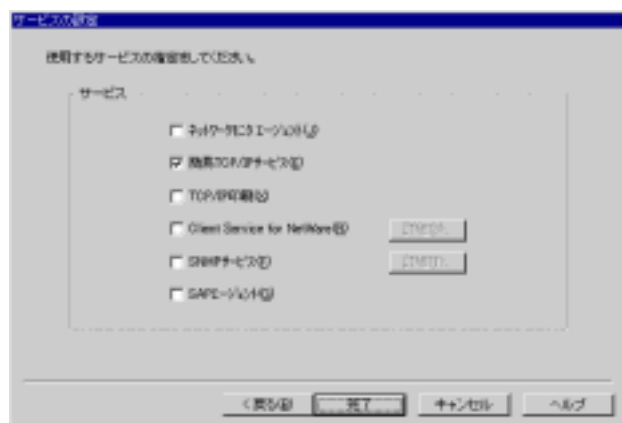


▶各項目の詳細説明 → [ヘルプ] をクリック

[OK] をクリックすると設定が有効になり、「ネットワークの設定」ダイアログへ戻ります。

7 [次へ] をクリックします。

「サービスの設定」ダイアログが表示されます。[詳細] があるサービスを使用する場合は [詳細] をクリックして、各項目を設定してください。



▶各項目の詳細説明 → [ヘルプ] をクリック

8 設定するサービスを選択して [完了] をクリックします。

OS セットアップ情報が設定されます。

5.6.3 OS セットアップ情報の登録名を変更する

OS セットアップ情報の登録名と説明を変更します。

1 [セットアップ情報の設定] から [変更] を選択します。

「リモート OS セットアップ」ダイアログが表示されます。



▶各項目の詳細説明 → [ヘルプ] をクリック

2 登録名、説明を変更して [OK] をクリックします。

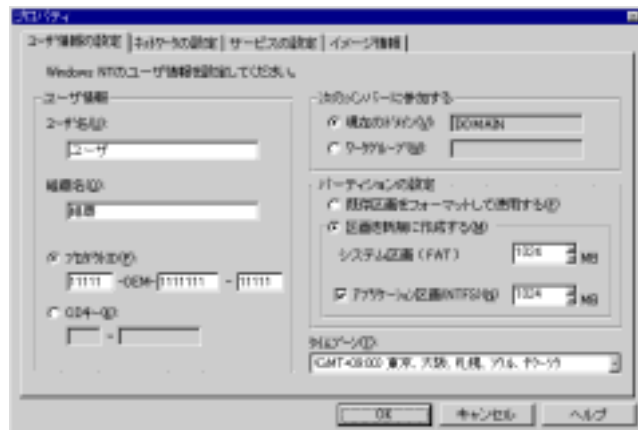
OS セットアップ情報が変更されます。

5.6.4 OS セットアップ情報の内容を確認／変更する（プロパティ）

設定した OS セットアップ情報の内容を確認／変更します。

- 1 **【セットアップ情報の設定】から【プロパティ】を選択します。**

「OS セットアップ情報のプロパティ」ダイアログが表示されます。



▶各項目の詳細説明 → **【ヘルプ】** をクリック

- 2 **各設定のタブを選択し、確認／変更して【OK】をクリックします。**

5.6.5 OS セットアップ情報を削除する

OS セットアップ情報を削除します。

- 1 **OS セットアップ登録一覧から削除する OS セットアップ情報を選択します。**

- 2 **【セットアップ情報の設定】メニューから【削除】を選択します。**

削除を確認するメッセージが表示されます。

- 3 **【はい】をクリックします。**

OS セットアップ情報が削除されます。

5.7 クライアントへのセットアップ情報、セットアップ資源を設定する

「クライアントセットアップ」は、クライアントにセットアップする資源を指定する機能です。クライアントにセットアップできる資源は、「アプリケーション」「ファイル」「実行コマンド」の3種類です。

● アプリケーション

複数のファイルで構成され、`setup` コマンドなどのインストーラを使うアプリケーションソフトを指定します。

インストール時に設定操作が必要なアプリケーションは、Rational Visual Test®などで作成したスクリプトが必要です。標準的なアプリケーションについては、本製品にスクリプトが用意されています。

● ファイル

ファイルをクライアント側にコピーするように指定します。ディレクトリを指定すると複数のファイルを一度にコピーするように指定できます。

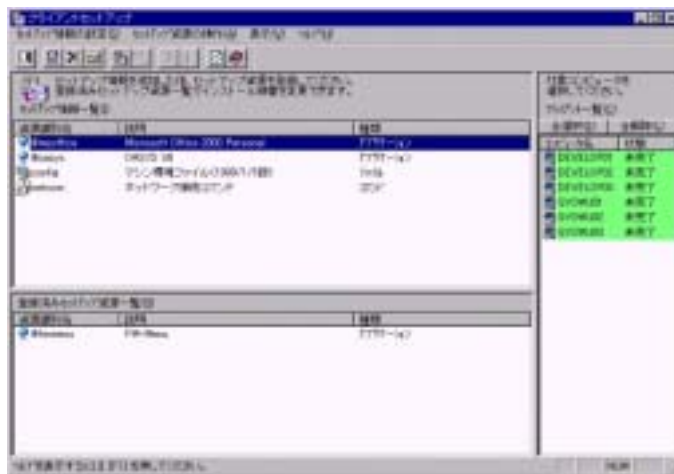
● 実行コマンド

クライアント側で実行するコマンドを指定します。ファイルのコピーは行われません。例えば、インストールしたアプリケーションの環境設定を自動化するバッチファイルなどを指定できます。

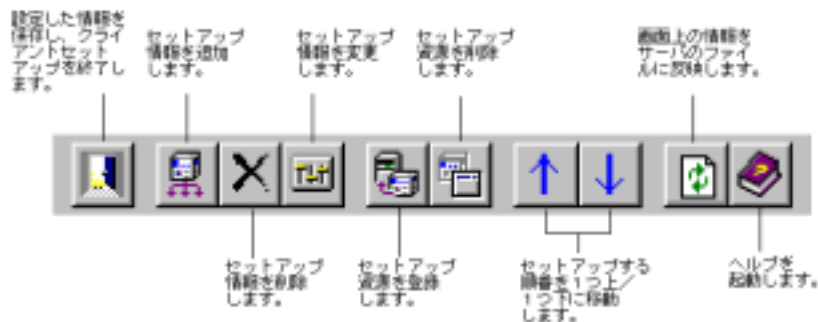
あらかじめ「クライアントシステム設計」機能を使用して、クライアントを設定しておきます。クライアントシステム設計については「第一部 2.3 クライアント情報を設定する」を参照してください。

5.7.1 クライアントセットアップを起動する

- 1 WizardConsole 画面で、[クライアントセットアップ] をクリックします。
クライアントセットアップウィンドウが表示されます。



● クライアントセットアップ画面のツールバー



● クライアントセットアップ画面の説明

項目	説明
セットアップ情報一覧	セットアップ情報が設定されている資源の一覧が表示されます。登録済み資源とあわせて、64 個まで追加できます。複数選択はできません。
資源識別名	セットアップ情報が設定されている資源識別名が表示されます。資源識別名とは、セットアップ資源を識別するためにユーザが指定する名前です。標準対応製品については、スクリプトが用意されており、資源識別名の先頭に@が付いています。
説明	セットアップ情報が設定されている資源の説明が表示されます。
種類	セットアップ情報が設定されている資源の種類が表示されます。資源の種類には以下の 3 通りあります。 - アプリケーション - ファイル - 実行コマンド

(続く)

項目	説明
登録済みセットアップ資源一覧	登録済みのセットアップ資源の一覧が表示されます。登録済み資源とは、クライアントにセットアップする資源をサーバ上のディスクに登録した資源です。表示される情報は「セットアップ情報一覧」と同じです。クライアントへのインストールは、この一覧の順に行われます。 「セットアップ情報一覧」からセットアップ情報を選択し、資源の登録を行うと、資源がサーバのディスクに登録され、「セットアップ情報一覧」に表示されていた情報が「登録済みセットアップ資源一覧」に移動します。複数選択はできません。
クライアント一覧	セットアップ情報一覧または登録済みセットアップ資源一覧で選択している情報（資源）のセットアップ対象のクライアントを選択します。 初期状態は、すべてのクライアントが選択されています。複数選択できます。なお、バックアップドメインコントローラはセットアップ対象のクライアントとしては表示されません。
全選択	表示されているすべてのクライアントコンピュータを選択状態にします。
全解除	表示されているすべてのクライアントコンピュータを非選択状態にします。
コンピュータ名	DesignMagic の「クライアントシステム設計」、または WizardConsole の「コンピュータの追加／変更」で設定したクライアントのコンピュータ名が表示されます。
状態	資源のセットアップ状態が表示されます。以下の状態があります。 完了：セットアップ済みです。 未完了：セットアップしていません。 エラー：セットアップ情報に異常があり、セットアップに失敗しました。 セットアップ情報が正しいか確認してください。

● クライアントセットアップ画面のメニュー

項目	説明
セットアップ情報の設定	
追加	セットアップ情報を追加します。詳細は「第一部 2.4.2～2.4.4 セットアップ情報（～）を追加する」を参照してください。 セットアップ情報は、登録済み資源の情報とあわせて 64 個まで追加できます。64 個を超えて追加しようとすると、メッセージが表示されます。
削除	セットアップ情報一覧で選択されているセットアップ情報を削除します。削除の操作を行うと、セットアップ情報の削除を確認する画面が表示されます。
設定変更	「セットアップ情報一覧」で選択されているセットアップ資源の情報を変更します。詳細は「第一部 2.4.6 セットアップ情報の設定を変更する」を参照してください。 登録済み資源のセットアップ情報は変更できません。登録済み資源のセットアップ情報を変更したい場合は、セットアップ資源の削除をしてから、セットアップ情報の変更をします。
設定確認	セットアップ情報の設定内容を表示します。
終了	設定した情報を保存し、クライアントセットアップウィンドウを終了します。
セットアップ資源の操作	
資源の登録	「セットアップ情報一覧」で選択されているセットアップ資源をサーバのディスクに登録します。登録先のフォルダは「動作環境設定」で設定した「共有フォルダ」配下です。「セットアップ情報一覧」から、セットアップ情報を選択し、[資源の登録]を選択すると、「資源の登録」ダイアログが表示されます。詳細は「第一部 5.7.2 セットアップ資源をサーバのディスクに登録する」を参照してください。登録したセットアップ情報は「登録済みセットアップ資源一覧」に移動します。

(続く)

項目	説明
資源の削除	「登録済みセットアップ資源一覧」で選択しているセットアップ資源をサーバのディスクから削除します。資源の削除確認が表示されます。削除されたセットアップ資源は「セットアップ情報一覧」に移動し、「クライアント一覧」の「状態」が「未完了」に戻ります。
資源の全登録	「セットアップ情報一覧」に表示されているすべてのセットアップ資源をサーバのディスクに登録します。登録されたセットアップ情報は「登録済みセットアップ資源一覧」の最後尾に、そのままの順番で移動します。
資源の全削除	「登録済みセットアップ資源一覧」に表示されているすべてのセットアップ資源をサーバのディスクから削除します。資源の削除確認画面が表示されます。
インストール順番上へ／インストール順番下へ	「登録済みセットアップ資源一覧」で選択されているセットアップ資源のインストール順番を1つ上、または下に移動します。表示順番を上に移動すると、クライアントでのセットアップ順番が早くなります。
表示	
ツールバー	ツールバーの表示／非表示を切り換えます。
ステータスバー	ステータスバーの表示／非表示を切り換えます。
最新に更新	画面上の情報をサーバ上のファイルに反映します。サーバでセットアップ情報および登録済み資源を操作している間、クライアントセットアップウィンドウの情報と、クライアントから参照できる情報が一致しないため、クライアントへのインストールは実行できません。クライアントセットアップウィンドウを終了せずに、インストールしたい場合、[表示]メニューから[最新に更新]を選択してからインストールしてください。サーバ上の情報が更新され、クライアントから最新の情報が参照できるようになります。
動作環境設定	選択できません。淡色表示されます。
[ヘルプ] メニュー	
トピックの検索	クライアントセットアップのヘルプが表示されます。ヘルプには、各画面の説明が書かれています。
クライアントセットアップのバージョン情報	クライアントセットアップのバージョン情報が表示されます。

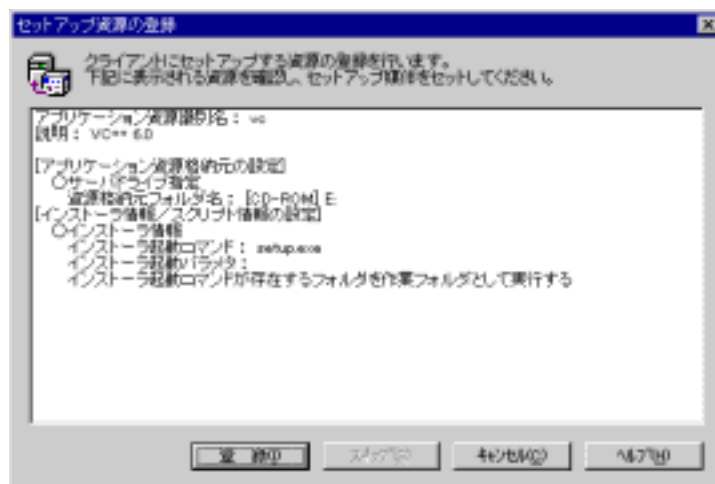
- Point** ● セットアップ情報に関する以下の操作は、DesignMagic からクライアントセットアップを起動した場合と同じです。操作の詳細は、「第一部 2.4 クライアントへのセットアップ情報を設定する」を参照してください。
- ・セットアップ情報の追加
 - ・セットアップ情報の設定変更
 - ・セットアップ情報の削除
 - ・セットアップ情報の設定確認

5.7.2 セットアップ資源をサーバのディスクに登録する

セットアップ情報で設定した資源をサーバのディスクに登録します。登録先のフォルダは「動作環境設定」で指定した共有フォルダです。

▶動作環境設定について→「第一部 2.4.5 セットアップ資源の格納先／サーバへ登録するタイミングを設定する（動作環境設定）」参照

- 1 クライアントセットアップウィンドウで、「セットアップ情報一覧」からセットアップ資源をサーバに登録するセットアップ情報を選択します。
- 2 [セットアップ資源の操作] メニューから[資源の登録]を選択します。
「セットアップ資源の登録」ダイアログが表示されます。



▶各項目の詳細説明 → [ヘルプ] をクリック

- 3 内容を確認して、[登録]をクリックします。

セットアップ資源がサーバに登録されます。クライアントセットアップウィンドウの「登録済みセットアップ資源一覧」に資源識別名などが追加されます。

Point

- クライアントへのインストールは、「登録済みセットアップ資源一覧」に表示されている順番（上から）で行われます。インストール順を変更するには、「第一部 5.7.4 クライアントへのインストール順を変更する」を参照してください。
- 「システム導入時に ServerWizard から登録する」を選択すると、ServerWizard でサーバのセットアップが終了した続きで登録できます。操作方法は全登録の操作と同じです。
- 「標準対応製品」のアプリケーションによって、インストールできる OS は異なります。「付録 C.5 クライアントセットアップに関する留意事項」の「■標準対応製品をインストールする際の注意事項」でサポートしている OS を確認してください。サポートしていない OS にインストールすると、アプリケーションを正しくインストールできない可能性があります。

Note

- ・セットアップ資源の格納場所をどこにするかは、DesignMagic のときのみ指定できます。ServerWizard でインストールした後は指定できません。
- ・セットアップ資源の登録には、ハードディスクに十分な空き容量が必要です。「付録 C.5 クライアントセットアップに関する留意事項」の「■標準対応製品をインストールする際の注意事項」を参照して、各資源に必要な空き容量がハードディスクにあるか確認してください。

5.7.3 セットアップ資源をまとめてサーバのディスクに登録する

セットアップ情報で設定したすべての資源をサーバに登録（サーバのディスクに保存すること）します。特定のセットアップ資源の登録を行わないようにスキップすることもできます。登録先のフォルダは「動作環境設定」で指定した共有フォルダです。

▶動作環境設定について→「第一部 2.4.5 セットアップ資源の格納先／サーバへ登録するタイミングを設定する（動作環境設定）」参照

- 1 クライアントセットアップウィンドウで、[セットアップ資源の操作] メニューから[資源の全登録]を選択します。

1つめの「セットアップ資源の登録」ダイアログが表示されます。



▶各項目の詳細説明 → [ヘルプ] をクリック

- 2 内容を確認して、[登録]をクリックします。登録しない場合は、[スキップ]をクリックします。

セットアップ資源がサーバに登録され、次の「セットアップ資源の登録」ダイアログが表示されます。

- 3 必要に応じて、手順2をくり返します。

すべてのセットアップ資源の登録が完了すると、クライアントセットアップウィンドウの「登録済みセットアップ資源一覧」に登録が完了した資源名が追加されます。

Print ● セットアップ資源の全登録中に[キャンセル]をクリックすると、セットアップ資源の全登録が中断されます。すでに登録が完了したセットアップ資源は削除されません。

5.7.4 クライアントへのインストール順を変更する

クライアントへのインストールは、「登録済みセットアップ資源一覧」に表示されている順番に行われます。インストール順を変更するには、以下の操作を行います。

- 1 「登録済みセットアップ資源一覧」で、インストール順を変更するセットアップ資源を選択します。

- 2 ツールバーの[↑] [↓]をクリックして、任意の位置へ移動します。
または[セットアップ資源の操作]メニューから[インストール順番上へ] [インストール順番下へ]を選択します。
インストール順が変更されます。

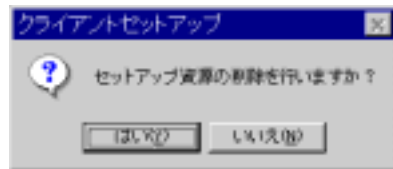


- アプリケーションの中には、インストール順が動作に影響するものがあります。標準対応製品のインストール順については「付録 C.5 クライアントセットアップに関する留意事項」の「■ 標準対応製品をインストールする際の注意事項」を参照してください。

5.7.5 セットアップ資源をサーバから登録解除する

サーバに登録したセットアップ資源を削除します。

- 1 クライアントセットアップウィンドウで、「登録済みセットアップ情報一覧」からセットアップ資源を削除するセットアップ情報を選択します。
- 2 [セットアップ資源の操作] メニューから[資源の削除]を選択します。
セットアップ資源を削除するかの確認メッセージが表示されます。



- 3 [はい] をクリックします。
「登録済みセットアップ資源一覧」で選択されているセットアップ資源がサーバから削除されます。

5.7.6 セットアップ資源をサーバからまとめて登録解除する

「登録済みセットアップ資源一覧」に表示されているすべてのセットアップ資源をサーバから削除します。

- 1 [セットアップ資源の操作] メニューから[資源の全削除]を選択します。
セットアップ資源を削除するかの確認メッセージが表示されます。



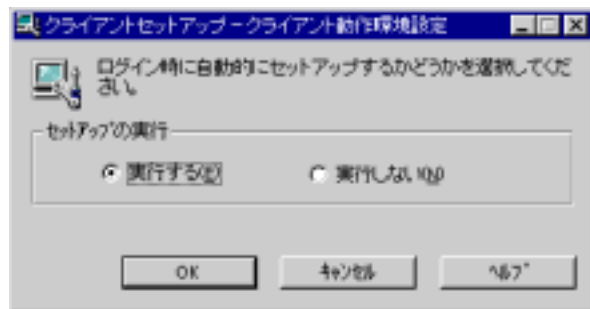
- 2 [はい] をクリックします。
「登録済みセットアップ資源一覧」に表示されているすべてのセットアップ資源がサーバから削除されます。

5.7.7 クライアントのインストール動作を設定する（クライアント側）

セットアップ資源をクライアントにインストールするかどうかを指定します。初期状態は、次にクライアントログイン時にセットアップ資源がインストールされるように設定されています。

- 1 **【スタート】をクリックし、【プログラム】－【ServerWizard】－【クライアントセットアップ－クライアントセットアップ動作環境】を選択します。**

クライアント動作環境設定ダイアログが表示されます。



▶各項目の詳細説明 → **【ヘルプ】** をクリック

- 2 **クライアントログイン時に自動的にインストールするかを選択して【OK】をクリックします。**

「実行する」を選択した場合は、次回クライアントコンピュータのログイン時にセットアップ資源が自動的にインストールされます。

Note

セットアップ資源のインストールに失敗した場合、クライアントセットアップウィンドウで設定したセットアップ情報がまちがっていることが考えられます。セットアップ情報を見直してください。

Point

- 以下のような場合、セットアップ資源が再インストールされます。再インストールを行いたくない場合は、クライアントセットアップウィンドウのクライアント一覧に表示されるクライアントコンピュータを非選択状態にしてください。
 - ・サーバに同一製品が異なる資源識別名で登録された場合
 - ・サーバで同一製品を再登録した場合
 - ・クライアントの OS を入れ替えたことにより、クライアントからクライアントセットアップを使用してインストールした資源の情報が削除されてしまった場合

5.8 クライアントのデスクトップ環境を設定する

クライアントのデスクトップ環境を設定します。

- 1 **【デスクトップ環境設定】を選択します。**

デスクトップ環境設定画面が表示されます。

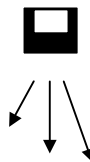
操作については「第一部 2.5 クライアントのデスクトップ環境を設定する」と同様です。

5.9 クライアント導入フロッピーを作成する

クライアントをセットアップするためのクライアント導入フロッピーを作成します。

クライアント導入フロッピーは、インストール先のクライアントコンピュータに OS がインストールされているかいないかで 2 通りの作成方法があります。

通常、クライアント 1 台につき、クライアント導入フロッピー 1 枚を作成しますが、クライアントに OS がインストールされている場合は、1 枚のクライアント導入フロッピーに全クライアントの情報を入れ、順次セットアップを行っていくこともできます。ただし、クライアントセットアップ中に別のクライアントのセットアップを同時に行うことはできません。



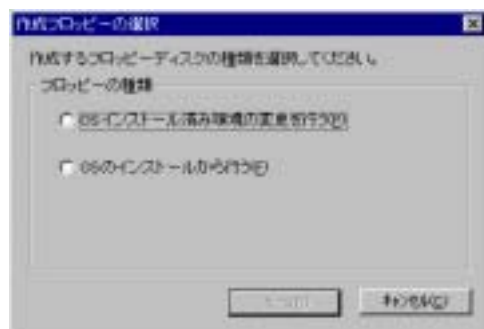
ご利用形態にあわせてクライアント導入フロッピーを作成してください。

5.9.1 クライアントに OS がインストールされている場合

すでに OS がインストールされているクライアント用の「クライアント導入フロッピー」を作成します。

1 [クライアント導入フロッピーの作成] を選択します。

作成フロッピーの選択ダイアログが表示されます。



2 「OS インストール済み環境の変更を行う」を選択して [次へ] をクリックします。

クライアント導入フロッピーの作成ダイアログが表示されます。



3 クライアント導入フロッピーに登録するコンピュータを選択します。

項目	説明
登録していないコンピュータをすべて選択	クライアント情報ファイルを作成していないコンピュータをすべて選択し、フロッピーディスクに登録します。
一覧から選択	表示されているコンピューター一覧から、クライアントとして登録するコンピュータ名を選択します。複数のコンピュータを選択できます。バックアップドメインコントローラは選択できません。表示されている項目は次のとおりです。
コンピュータ名	クライアントコンピュータ名が表示されます。 コンピュータ名の先頭のアイコンは以下の意味を表しています。 登録用フロッピーディスクがまだ作成されていません。 登録用フロッピーディスクが作成済みです。 すでにコンピュータの登録が完了している可能性があります。
OS	クライアントコンピュータの OS が表示されます。
IP アドレス	クライアントコンピュータの IP アドレスが表示されます。 「手動設定」の場合、IP アドレスを設定します。 「DHCP」の場合、IP アドレスを DHCP サーバが自動的に設定します。
登録済みのコンピュータも表示する	チェックすると、すでに登録用フロッピーディスクを作成したコンピュータもすべて表示されます。

4 [OK] をクリックします。

クライアント情報ファイルの作成ダイアログが表示されます。

Print ● 初期化されていないフロッピーディスクの場合は「初期化する」をクリックし、フロッピーディスクを初期化します。ただし、初期化を実行しても不良セクタがある場合は、そのフロッピーディスクは使用しないでください。

5 フロッピーディスクをセットし、[OK] をクリックします。

クライアント情報ファイルが作成され、フロッピーディスクに登録されます。登録が終了すると WizardConsole 画面に戻ります。

5.9.2 クライアントに OS のインストールも行う場合

OS をインストールするクライアント用の「クライアント導入フロッピー」を作成します。

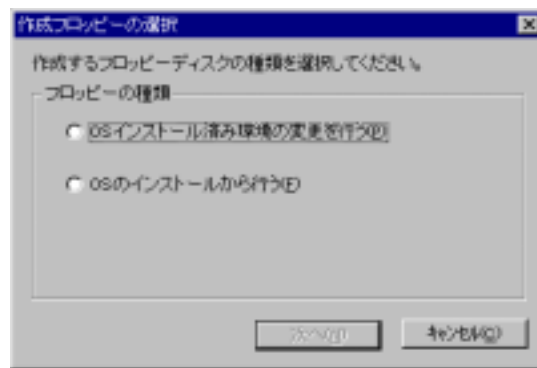
■MS-DOS のブート用フロッピーを作成する

あらかじめ、MS-DOS のブート用フロッピーを作成しておきます。「format /s」で作成せずに以下の操作を行ってください。

- 1 クライアントに添付のドライバズ CD から FDBACKUP ユーティリティを実行します。
- 2 「ブートディスク」を指定し、[バックアップ開始] をクリックします。
- 3 画面の指示に従い、フロッピーディスクをセットします。

■クライアント導入フロッピーを作成する

- 1 [クライアント導入フロッピーの作成] を選択します。
「作成フロッピーの選択」ダイアログが表示されます。



- 2 「OS のインストールから行う」を選択して [次へ] をクリックします。
「OS からの導入用」ダイアログが表示されます。



- 3 「リモート OS セットアップ」で設定した登録名を選択し、インストール先のクライアントコンピュータを指定します。

項目	説明
登録名	「リモート OS セットアップ」で設定した登録名から指定します。
コンピュータ名	クライアントのコンピュータ名が表示されます。 (ここで表示されるのは NT WS 4.0 で作成したアカウントのみです) コンピュータ名の先頭のアイコンは以下の意味を表しています。  : 登録用フロッピーディスクがまだ作成されていません。  : 登録用フロッピーディスクが作成済みです。
登録済みのコンピュータも表示する	チェックすると、すでに登録用フロッピーディスクを作成したコンピュータもすべて表示されます。

- 4 [OK] をクリックします。

LAN ドライバの選択ダイアログが表示されます。



- 5 LAN ドライバファイルを選択し、[OK] をクリックします。
DOS フロッピー挿入メッセージが表示されます。
- 6 MS-DOS のブートフロッピーをセットし [次へ] をクリックします。
LAN ドライバのセットアップの情報がフロッピーに登録されます。
登録が完了すると「OS からの導入用」ダイアログに戻ります。
- 7 MS-DOS のブートフロッピーをセットしたまま、[OK] をクリックします。
クライアント情報ファイルが作成され、フロッピーディスクに登録されます。登録が完了すると WizardConsole 画面に戻ります。

5.10 クライアントのインストール

クライアントのインストールを行う前に、起動中のアプリケーションをすべて終了しておいてください。Windows NT WS 4.0 を使用している場合は、管理者用アカウントでログオンしてください。

5.10.1 クライアントに OS がインストールされている場合

- 1 セットアップを行うクライアントコンピュータに、クライアント導入フロッピーを挿入します。フロッピーは、書き込み可能な状態にしておいてください。

- 2 エクスプローラなどでフロッピーディスクドライブをクリックします。



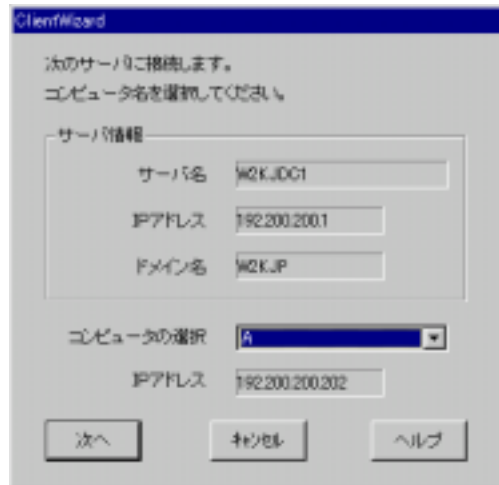
- 3 [CWizard] をダブルクリックします。

ClientWizard が起動します。



- 4 「クライアントの登録」をクリックします。

コンピュータ選択画面が表示されます。



接続するサーバ情報が表示されます。

サーバ名、IP アドレス、ドメイン名は変更できません。

5 セットアップするコンピュータを選択します。

項目	説明
コンピュータの選択	 をクリックし、コンピュータ名の一覧からセットアップするコンピュータ名を選択します。ご使用のコンピュータと同じ OS が設定されているコンピュータ名のみ表示されます。
IP アドレス	IP アドレスの種別が表示されます。変更はできません。

6 [次へ] をクリックします。

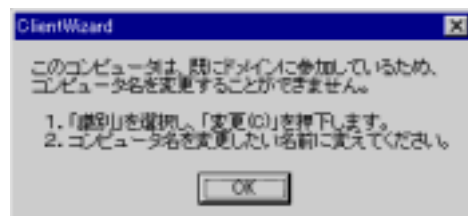
設定の確認画面が表示されます。



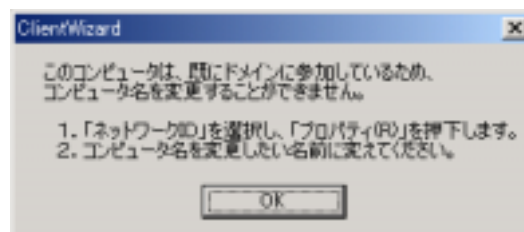
セットアップが開始されます。

すでにドメインに参加していて、かつコンピュータ名を変更するときは、コンピュータ名の変更ダイアログが表示されます。

[Windows NT の場合]



[Windows 2000 SV の場合]



7 [OK] をクリックします。

8 画面の記述に従って、コンピュータ名を変更します。

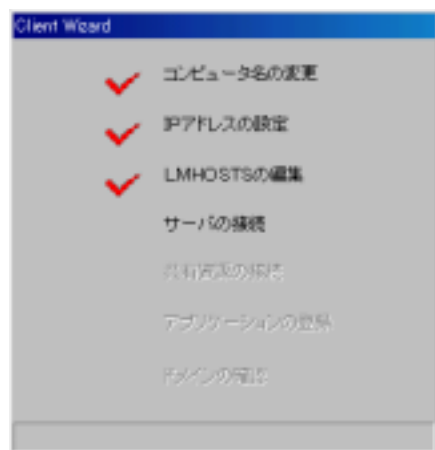


クライアントが Windows 2000 SV の場合、ドメイン参加中にコンピュータ名を変更することができません。以下の操作を行って、ワークグループに変更し、もう一度最

- 1) 「システムのプロパティ」ダイアログで [ネットワーク] タブをクリックします。
- 2) [プロパティ] をクリックします。
- 3) 「識別の変更」ダイアログの「次のメンバ」で「ワークグループ」を選択します。
- 4) ワークグループ名 (WORKGROUP など) を入力し、[OK] をクリックします。
- 5) 画面の指示にしたがって、再起動します。

9 [実行] をクリックします。

セットアップが開始されます。



セットアップが終了した項目にはチェックマークが付きます。

10 LMHOSTS の編集が終了すると、再起動のメッセージが表示される場合があります。

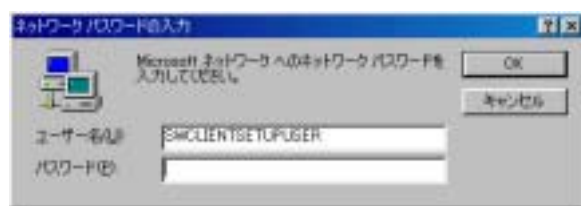
その場合は、フロッピーディスクを取り出して [OK] をクリックします。

再起動され、ログオン画面が表示されます。

Windows 95/98 の場合は、手順 11～手順 14 を操作してください。

Windows NT/2000 の場合は、手順 15～手順 18 を操作してください。

11 (Windows 95/98 の場合) ユーザ名はデフォルトで表示されますので、ユーザ名を変更せず、パスワードを入力しないで [OK] をクリックします。



● はじめてサーバにログオンする場合、パスワードの確認画面が表示されますが、何も入力せずに [OK] をクリックしてください。

12 アプリケーションの登録が終了すると、途中再起動を行っていた場合は次の画面が表示されます。



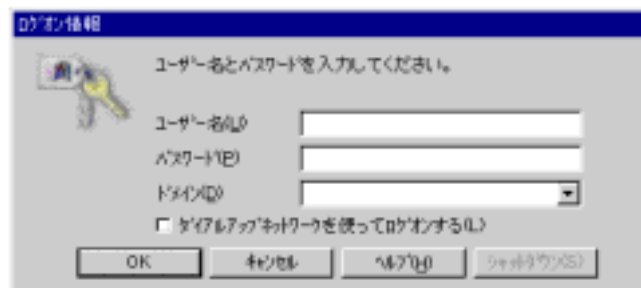
- 13 フロッピーディスクを再度挿入して [OK] をクリックします。**

セットアップが終了すると、システムが再起動されます。

- 14 フロッピーディスクを取り出して [OK] をクリックします。**

手順 19 へ進んでください。

- 15 (Windows NT/2000 SV の場合) 管理者用アカウントでログオンしてください。**



以前に別のドメインに参加していた場合、そのドメイン名が表示されますが、「ドメイン」には、▼ をクリックしてローカルコンピュータアカウントを指定してください。引き続きセットアップの処理が行われます。

- 16 アプリケーションの登録が終了すると、途中再起動を行っていた場合は次の画面が表示されます。**



- 17 フロッピーディスクを再度挿入して [OK] をクリックします。**

セットアップが終了すると、システムが再起動されます。

- 18 ドメイン名変更要求の画面が表示されたら [OK] をクリックします。ネットワークパネルが表示されますのでドメイン名を指定どおり変更し、再起動してください。**

再起動後、ログオン画面が表示されます。



- 19 実際にログオンするユーザ名、パスワードを入力して [OK] をクリックします。**
パスワードの確認画面（変更）が表示されます。

Print ● ユーザ名とパスワードはサーバの管理者に確認してください。

- 20 「パスワード」「パスワード確認」にパスワードを入力して [OK] をクリックします。**
ログオン画面が表示されます。

- 21 パスワードを入力して [OK] をクリックします。**

OS の起動画面が表示されます。

クライアントセットアップの設定が行われていた場合は、サーバで設定したセットアップ指示に従い、アプリケーションやファイルがインストールされます。

Note

クライアントセットアップによるクライアントへの資源自動インストールは、ClientWizard 起動後の初回ログオン時に一度だけ行われます。ただし、この時にセッ

一度だけ行われます。

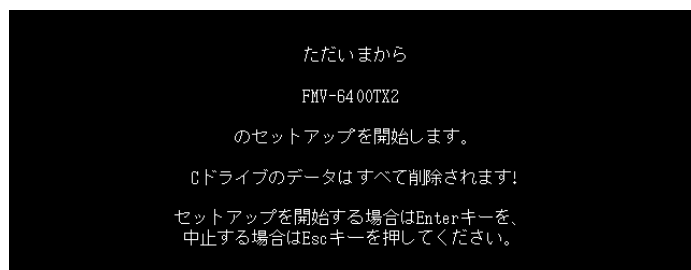
Print

- 一度セットアップしたコンピュータ名は、クライアント導入フロッピーから削除されます。
- セットアップ後のクライアントコンピュータにおいて、OS を再インストールし、前回のセットアップ時と同じコンピュータ名でセットアップを行う場合は、WizardConsole で一度コンピュータ名を削除してください。その後、新しくコンピュータを追加し、クライアント導入フロッピーを作成し、セットアップを行ってください。
- Windows 95/98 でデスクトップ環境設定を使用する場合は、自動的にユーザプロファイルを有効とする環境に設定されます。ユーザプロファイルが有効になると、それぞれのユーザが独自のデスクトップ環境を保持できるようになります。この設定は、「コントロールパネル」の「パスワード」画面の「ユーザ別の設定」タブで確認することができます。
- Windows 2000 SV ドメインにログオンするクライアントは、ネットワークの DNS サーバの設定を行ってください。正しく設定を行わなかった場合、デスクトップ環境設定で行ったポリシー設定をクライアントに適用できません。
- Windows 2000 SV ドメインに Windows 2000 SV クライアントから Administrator アカウントでログオンする場合、デフォルトではポリシー設定は適用されません。管理者にもポリシー設定を反映させる場合は、管理者用のアカウントを「クライアント情報の追加／変更」で作成し、そのアカウントが属するグループに対してポリシー設定を行ってください。

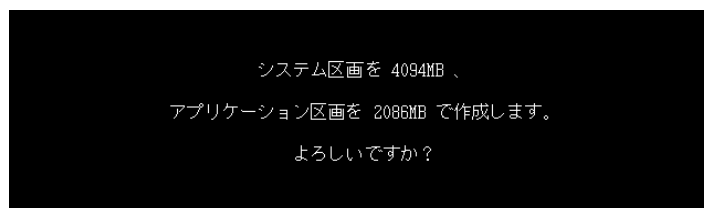
5.10.2 クライアントに OS がインストールされていない場合

リモート OS セットアップで設定した情報を使って、クライアントコンピュータに OS をインストールします。

- 1 クライアント導入フロッピーをセットして、コンピュータの電源を入れます。
OS セットアップ起動画面が表示されます。



- 2 登録名が正しいことを確認して【Enter】キーを押します。
「ユーザ情報の設定」ダイアログで指定した区画サイズを設定できない場合、区画サイズを調整する旨の確認の画面が表示されます。



- 3 表示された区画サイズで区画を作成する場合は【Enter】キーを押します。

Cドライブのフォーマットに続いて、セットアップに必要なファイルがコピーされ、OSのインストールが開始されます。

Windows NT のインストール終了後、デスクトップ上にある「クライアントセットアップ機能のインストール」アイコンをダブルクリックします。

クライアントセットアップ機能がインストールされます。

セットアップを正しく行うには管理者権限が必要です。また、クライアントセットアップ機能を有効にするには、インストール終了後、再起動してください。



- セットアップ中に「ウィンドウステーションがシャットダウン中であるため、初期化に失敗しました。」というメッセージが表示されることがありますが、運用上の支障はありません。



セットアップする機種によってはインストール中に Internet Explorer や ServicePack の CD の挿入をうながすメッセージが表示されることがあります。

メッセージにしたがって CD を挿入してください。CD を挿入せずに操作を進めた場合、以降のセットアップが正しく進行しなくなる可能性があります。

その他の注意点に関して、リモート OS セットアップを開始する前に本体添付のマニュアルの「システムの修復と再インストール」の説明などをご確認ください。

第 6 章 インストール後の操作

6.1 バックアップディスクを作成する

ServerWizard V2.0 の CD-ROM には、サーバ本体に標準添付されているバックアップディスクや、各種デバイスに添付されるドライバディスク、アプリケーションが収められており、バックアップディスクが簡単に作成できます。

新しいフロッピーディスク (2HD) が、作成するバックアップディスクの枚数分必要です。

主な添付アプリケーションは、ServerWizard でサーバのインストールをする際、同時にインストールされますが、それ以外のデバイスなどをインストールするには、バックアップディスクが必要です。



- 添付アプリケーションは、サーバのインストール後、手動で ServerWizard V2.0 の CD-ROM からインストールすることもできます。その場合は、ServerWizard V2.0 の CD-ROM をセットして、表示される画面から「高信頼ツール」を選択してください。

▶ 添付アプリケーションのインストールについて

→ 「第二部 高信頼ツールについて」参照

- Windows マシン上でバックアップディスクを作成することもできます。ServerWizard V2.0 の CD-ROM をセットして、表示される画面から「バックアップディスクの作成」を選択してください。その場合は、初期化済みのフロッピーディスクを用意してください。

- 1 ServerWizard の CD-ROM からシステムを起動します。
- 2 ServerWizard の画面で「ユーティリティ」を選択し、【Enter】キーを押します。
- 3 「FD 作成」を選択し、【Enter】キーを押します。
バックアップディスク作成ツールの画面が表示されます。
画面は機種ごとに異なります。



4 作成するバックアップディスクを選択し、【Enter】キーを押します。

メッセージに従ってフロッピーディスクを A ドライブに挿入してください。

5 【Enter】キーを押します。

自動的にフォーマットされ、ファイルのコピーが開始されます。

バックアップディスクの作成が終了すると、バックアップディスクのラベル画面が表示されます。内容を確認して【Enter】キーを押すと、バックアップディスク作成ツールの画面に戻ります。

引き続きバックアップディスクを作成する場合は、手順 **4**、**5** を繰り返してください。

【Esc】キーを押すとバックアップディスクの作成を終了し、ServerWizard 画面に戻ります。

Print

- サーバ機種によって画面および作成できるバックアップディスクは異なります。

6.2 メンテナンス区画について

ServerWizard V2.0 では、CD-ROM 内に収められているサーバ保守用のアプリケーションをメンテナンス区画に保存して利用できます。

この区画からサーバを起動することにより各ユーティリティを使用することができます。

また、サポートサービスを利用する場合にメンテナンス区画が必要となります。

■区画サイズ

ServerWizard でのインストール時に、メンテナンス区画を使用すると指定した場合は、メンテナンス区画が 100MB で作成されます。

Windows NT のディスクアドミニストレータを使用した場合には、メンテナンス区画のことが「EISA ユーティリティ」と表示されます。そのまま、削除せずに使用してください。



システム区画	アプリケーション区画	EISA ユーティリティ
2048～4096 (指定した容量)	1～6144 (指定した容量)	100MB

6.2.1 メンテナンス区画からサーバを起動する

メンテナンス区画からサーバを起動することによりサーバ保守の各ユーティリティを使用することができます。

- 1 サーバ機の電源を ON にします。
- 2 以下のメッセージが表示されてから **10 秒以内**に【F10】キーを押します。

Press F10 to start tools of Maintenance Partition.

メンテナンス区画からサーバが起動します。

6.2.2 メンテナンス区画を作成する

メンテナンス区画は、ServerWizard でのインストール時に作成されますが、以下の方法で手動で作成することもできます。



RAID 構成の場合は、DACCF ユーティリティなどを利用してディスクをバックしてお

- 1 ServerWizard の CD-ROM からシステムを起動します。
- 2 ServerWizard の画面で「ユーティリティ」を選択し、【Enter】キーを押します。
- 3 「メンテナンス区画の作成」を選択し、【Enter】キーを押します。

- 4 MS-DOS の使用許諾が表示されます。

MS-DOS の使用許諾に同意しない場合は、メンテナンス区画は作成されません。

許諾に同意した場合は、自動的にメンテナンス区画が作成されます。

以下の場合には、メンテナンス区画を作成するか、しないかの確認画面が表示されます。

- ・すでにメンテナンス区画が存在する場合
- ・すでに OS のインストールが終了している場合
- ・すでに他の区画が存在する場合

6.2.3 メンテナンス区画の削除について

メンテナンス区画のみ削除した場合、OS が起動しなくなります。メンテナンス区画を削除する場合、以下の手順でシステム区画を含むすべての区画を削除してください。

- 1 ServerWizard の CD-ROM からシステムを起動します。
- 2 ServerWizard の画面で [終了] を選択し、【Enter】キーを押します。
- 3 以下のコマンドを実行して、マスタブートレコードを書き換えます。
FDISK /MBR 【Enter】
- 4 以下のコマンドを実行して、FDISK を起動します。
FDISK 【Enter】
- 5 「領域または論理 MS-DOS ドライブを削除」を選択します。
画面の指示にしたがって操作し、すべての区画を削除してください。

6.3 同様のシステムを構築するとき（サーバ情報ファイルの作成）

WizardConsole で追加、変更したサーバ情報ファイルをフロッピーディスク、またはハードディスクに保存します。

サーバ情報ファイルは、別のサーバ構築時に使用できます。



パスワード、サーバの IP アドレス、添付アプリケーションの設定等、運用中に更新・変更されたサーバの情報は、サーバ情報ファイルに保存されません。そのため、システムのバックアップは、専用のソフトウェアを使用して定期的に行ってください。

- 1 WizardConsole 画面で [サーバ情報ファイルの作成] を選択します。
ファイル名を付けて保存画面が表示されます。
- 2 サーバ情報ファイルの保存先を指定し、MS-DOS のファイル名の規約に従ってファイル名を入力します。拡張子は".SPD"です。
- 3 [保存] をクリックします。
サーバ情報ファイルが作成され、WizardConsole 画面に戻ります。



- WizardConsole で作成したサーバ情報ファイルは、ServerWizard のセットアップ（読み込み）では使用できません。必ず DesignMagic を起動し、「ファイル」メニュー
なおしてご使用ください。
- Windows NT、Windows 2000 および ServerWizard で予約されているグループ、ユーザ、共有資源の設定を変更した場合、サーバを再インストールしても設定は更新されません。再インストール後、WizardConsole で設定しなおしてください。

6.4 WizardMenu によるデスクトップメニューの作成について

WizardMenu とは、クライアントコンピュータに表示するアプリケーション起動ツールです。ボタンにアプリケーションの起動を割り当てたり、画像を利用して自由に作成することができます。

WizardMenu は、IE 上で、ボタンを選択してアプリケーションを起動する機能です。WizardMenu 上のボタンは、WizardMenu 作成ツールを使用して作成します。ボタンの大きさを変更したり、画像データをボタンにはり付けたり、自由な形式で作成することができます。

● メニュー作成例



WizardMenu を作成するには、「WizardMenu 作成ツール」を使用します。WizardMenu 作成ツールは、サーバインストール終了後に [スタート] ボタンから [プログラム] — [ServerWizard] — [Wizard Menu 作成ツール] を選択して起動します。

6.4.1 動作環境

項目	説明
動作 OS	Windows NT SV 4.0
必須ソフトウェア (WWW サーバ)	Microsoft® Internet Information Server 3.0 以降 未インストールの場合、Wizard Menu が正しく表示されません。
必須ソフトウェア (WWW クライアント)	Microsoft® Internet Explorer 3.02 以降
選択ソフトウェア	WizardMenu 作成ツールで作成した Web メニューを編集するとき に必要です。 • Microsoft® FrontPage® Express (Microsoft インターネット エクスプローラ 4.0 に添付) • Microsoft® FrontPage® • Microsoft® Visual InterDev™

6.4.2 WizardMenu を作成する

WizardMenu 作成ツールで作成した WizardMenu は、HTML ファイルとして指定のディレクトリに格納します。なお、WizardMenu 作成ツールでは、HTML ファイルとしての保存はできますが、再度、その HTML ファイルを編集することはできません。

編集する場合は、WizardMenu 作成ツールの [ファイル] メニューの [WizardMenu 形式]（拡張子:SWM）で保存してから編集操作を行ってください。

- 1 [スタート] ボタンから [プログラム] - [ServerWizard] - [WizardMenu 作成ツール] を選択します。
- 2 [ファイル情報] タブを選択し、HTML ファイルの格納先、ファイル名を指定します。



項目	説明
ファイル名	保存するファイル名を指定します。指定できる文字列長は、保存先と合わせて 259 バイトまでです。
保存先	保存するファイルのディレクトリを指定します。指定できる文字列長は、ファイル名と合わせて 259 バイトまでです。
[参照] ボタン	ファイル名を指定するダイアログが表示されます。ファイル名を指定すると「ファイル名」と「保存先」に情報が表示されます。

Point

- ファイル名と保存先に情報を入力するまで、他のタブ情報（ボタンの配置／メニューのタイトル／背景の設定）を表示することはできません。

- 3 [ボタンの配置] タブを選択し、表示するボタンの情報を設定します。



項目	内容
ボタンの個数	ボタンの個数を縦×横で指定します。デフォルトでは、縦は 3、横は 4 が設定されています。ボタンの個数（縦と横）は、カーソルが次のフィールドへ移動した時点で反映されます。個数に変更がある場合は、行が追加または削除されるメッセージが表示されます。指定できる範囲は、1～20 です。

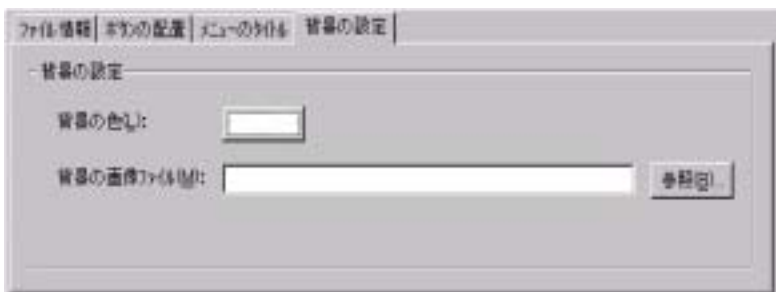
（続く）

項目	内容
ボタンの大きさ	ボタンの大きさを縦×横で指定します。デフォルトでは、縦は 80、横は 180 が設定されています。指定できる範囲は、縦が 20～200、横が 20～600 です。
ボタンの間隔	ボタンとボタンの間隔をドット単位で指定します。デフォルトでは、5 が設定されています。指定できる範囲は、1～100 です。

- 4 [メニューのタイトル] タブを選択し、表示するメニュータイトルのフォントの大きさや色を設定します。



- 5 [背景の設定] タブを選択し、表示する背景の情報を設定します。



項目	内容
背景の色	背景の色を指定します。デフォルトは、白です。ボタンを選択すると、色を選択するダイアログが表示され、色を変更できます。
背景の画像ファイル	背景で表示する画像ファイルを指定します。[参照] ボタンを選択すると、ファイル名を指定するダイアログが表示されます。ファイル名を指定するダイアログでファイルを選択すると、ファイル名が表示されます。指定できる画像データは、BMP、GIF、JPG です。

6 各ボタンの設定をします。

項目	内容
表題	ボタンに表示する表題を指定します。指定可能な文字列長は、64 文字です。表題は、ボタン上にセンタリングされて表示されます。そのため、ボタンの大きさより長い文字列を指定すると、文字列の両端が欠けたように表示されます。
フォント名	表題のフォント名を指定します。
表題の色	表題の文字の色を指定します。
ボタンの色	ボタンの色を指定します。
通常時の画像ファイル	ボタンが選択されていないとき表示する画像データを指定します。
押下時の画像ファイル	ボタンが選択されているとき表示する画像データを指定します。
フォーカス時の画像ファイル	ボタンにフォーカスが当たっているとき表示する画像データを指定します。
上書き表示	ON にすると表題の文字を画像データの上に表示します。
ボタンの形状	ON にすると立体タイプ、OFF にすると平面タイプのボタンを表示します。
二重起動抑止	ON にすると起動するコマンドの二重起動を抑止します。
コマンド	ボタンを押したときに起動するコマンドを指定します。
起動先	
Client	Web メニューが表示されているクライアントコンピュータで指定したコマンドを起動します。
Server	サーバで指定したコマンドを起動します。
起動ホスト名	起動するサーバ名を指定します。「起動先」に「Server」を指定しているときのみ選択できます。
タイムアウト	サーバとの通信タイムアウト時間をしています。「起動先」に「Server」を指定しているときのみ選択できます。
ユーザ認証	
指定なし	ユーザ名、パスワードの指定をしません。
1 回のみ	ボタンを選択した 1 回目だけにユーザ名とパスワードを入力する画面が表示されます。
必ず指定	ボタンを選択する度に、必ずユーザ名とパスワードを入力する画面が表示されます。「起動先」に「Server」を指定しているときのみ選択できます。

7 [ファイル] - [WizardMenu 形式] - [保存] を選択します。

WizardMenu を WizardMenu 形式(拡張子.SWM)で保存します。

6.5 アンインストール

WizardConsole、ClientWizard のアンインストール方法について説明します。

6.5.1 WizardConsole のアンインストール

WizardConsole 機能を削除する場合は、「コントロールパネル」の「アプリケーションの追加と削除」で行ってください。

Note

WizardConsole のアンインストールを行う前に、起動しているすべてのプログラムを終了させてください。

- 1 コントロールパネルから「アプリケーションの追加と削除」をダブルクリックします。
- 2 「ServerWizard WizardConsole」を選択し、[追加と削除]をクリックします。
アンインストールするコンポーネントの選択画面が表示されます。



- 3 [次へ] をクリックします。
選択した機能のアンインストールが行われ、以下の画面が表示されます。



- 4 Windows 2000 SV をお使いの場合は、「はい、直ちにコンピュータを再起動します。」を選択して、[終了] をクリックします。
その他の場合は、コンピュータをすぐに再起動するか、後で再起動するかを選択して [終了] をクリックします。



「いいえ、後でコンピュータを再起動します。」を選択した場合は、作業終了後手で再起動してください。

6.5.2 ClientWizard のアンインストール

ClientWizard 機能を削除する場合は、「コントロールパネル」の「アプリケーションの追加と削除」で行ってください。



ClientWizard のアンインストールを行う前に、起動しているすべてのプログラムを終了させてください。

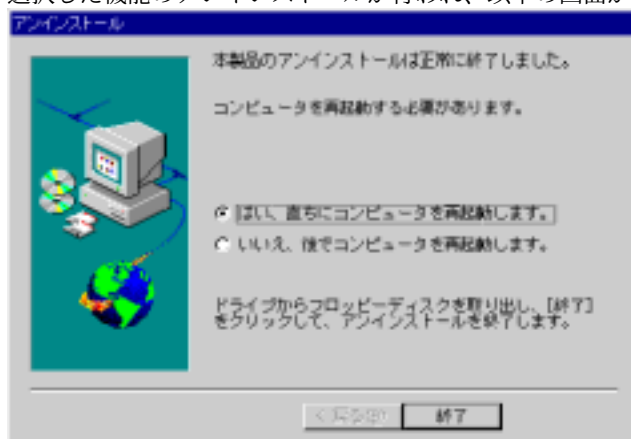
限を持ったユーザでログオンし、アンインストールを行ってください。

- 1 コントロールパネルから「アプリケーションの追加と削除」をダブルクリックします。
- 2 Windows NT/2000 クライアントの場合は、「ServerWizard (Windows NT/2000 クライアント)」Windows 95/98 クライアントの場合は、「ServerWizard (95/98 クライアント)」を選択し、[追加と削除] をクリックします。
アンインストールするコンポーネントの選択画面が表示されます。



3 [次へ] をクリックします。

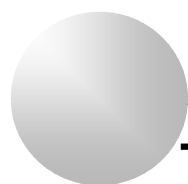
選択した機能のアンインストールが行われ、以下の画面が表示されます。



4 コンピュータをすぐに再起動するか、後で再起動するかを選択し、[終了] をクリックします。



「いいえ、後でコンピュータを再起動します。」を選択した場合は、作業終了後手で再起動してください。



二部 運用編 高信頼ツールについて

PRIMARGY に添付されているサーバ監視ツール、システム診断ツールなどの概要とインストール方法について説明しています。

内 容

第1章	高信頼ツールの紹介	2-3
第2章	サーバ監視ツールの概要	2-7
第3章	高信頼ツールの導入	2-13
第4章	サーバ監視ツール [Servervisor]	2-17
第5章	サーバ監視ツール [LDSM]	2-39
第6章	運用管理支援ツール	2-85
第7章	システム診断支援ツール	2-87
第8章	遠隔保守支援ツール	2-91

第1章 高信頼ツールの紹介

高信頼ツールは、サーバの管理において、システムの安定稼動のために総合力を発揮するソフトウェア群です。通常運用時からトラブル発生時の復旧までを次の各ツールが役割を分担します。

- サーバ監視ツール
- 運用管理支援ツール
- システム診断支援ツール
- 遠隔保守支援ツール

高信頼ツールを使用することで、管理者はさまざまな状況に備えることができ、万一の場合にもより確実に早期対応を図れます。

本章では、高信頼ツール群のそれぞれのツールの役割について紹介しています。

1.1 サーバ監視ツール

サーバ監視ツールとは、管理者に代わってハードウェアの状態を監視し、異常発生時には管理者に通知を行うツールのことです。次の2つの役割があります。

役 割	サーバ監視ツール
サーバ異常の早期発見	Servervisor
	Intel® LANDesk® Server Manager (LDSM)
ディスク異常の早期発見	RAID 管理ツール

■サーバ異常の早期発見 [Servervisor / LDSM]

Servervisor / LDSM は、サーバの大切な資源を保護するために、サーバのハードウェアが正常な状態にあるかどうかを監視するソフトウェアです。Servervisor / LDSM を使用すると、サーバのハードウェアが常時監視下に置かれ、万一トラブルの原因となり得る異常が検出された場合には、管理者にリアルタイムに通知されるため早期発見ができます。これにより、サーバの管理者は早期に対応してシステムの異常を取り除き、トラブルを未然に防ぐことができます。

ツールは、目的に応じて選んでご使用いただけるように、Servervisor と LDSM の2つが用意されています。 ▶Servervisor と LDSM の機能比較について→「第2部2章」参照

■ディスク異常の早期発見 [RAID 管理ツール]

RAID 管理ツールは、ディスクアレイの監視を行うソフトウェアです。RAID 管理ツールは Windows NT/2000 システムのサービスとして動作し、イベントが発生した場合、イベントビューアのアプリケーションログにイベントログを残し、同時にウィンドウがポップアップしてハードディスクの故障、リビルド状況などを表示して知らせます。

1.2 運用管理支援ツール

運用管理支援ツールとは、サーバの運用が常にうまく行われるようにするための装置の管理を支援するツールのことです。次の2つの役割があります。

役 割	運用管理支援ツール
テープ装置の管理	Tape Maintenance Checker
効率的な電源制御	Power MANagement for Windows

■テープ装置の管理 [Tape Maintenance Checker]

テープ装置のクリーニング間隔を監視し、クリーニングが必要な場合に管理者へ通知することにより、確実なバックアップを実現します。

■効率的な電源制御 [Power MANagement for Windows]

コンソール側のソフトウェア（電源制御）から Wakeup On LAN 対応機のエージェントの電源を投入および切断（自動シャットダウン）します。

1.3 システム診断支援ツール

システム診断支援ツールとは、通常の運用時や万一のトラブル発生時などのシステム状態の診断を支援するツールのことです。次の2つの役割があります。

役 割	システム診断支援ツール
システムの健康診断	FM Advisor
トラブル原因の早期発見	PROBEPRO
	DSNAP

■システムの健康診断 [FM Advisor]

FM Advisor は、お使いのコンピュータの動作環境を調査し、アドバイスすべき情報がないかをチェックするアプリケーションです。また、コンピュータの動作環境取得ツールとしてもお使いいただくことができ、これらの情報を利用して、問題の解決に役立てることができます。

■トラブル原因の早期発見 [PROBEPRO / DSNAP]

PROBEPRO

PROBEPRO は、お客様の Windows NT システムでトラブルが発生した際に、弊社サポート技術者がトラブル発生前後のシステム環境の変更点や特異点を客観的に特定し、トラブル解決をより迅速に行うことを目的としたトラブル解決支援プログラムです。

PROBEPRO は、Windows NT システムのトラブル発生に備えて、システム稼動中にシステム情報（モジュール情報、レジストリ情報、パフォーマンス情報）を収集します。収集したパフォーマンス情報から、システム全体やプログラム単位のメモリ使用量をグラフ作成することができます。

DSNAP

DSNAP は、障害調査用資料を一括して採取するコマンドラインユーティリティです。システムファイルの構成情報や主要なレジストリの設定、イベントログをコマンドライン操作で容易に採取できます。

DSNAP は、お客様の Windows NT/2000 システムに問題が発生した際に、弊社サポート技術者がお客様のシステム・ソフトウェア構成および設定状況を正確に把握し、調査を円滑に進めるために使用します。メモリダンプと共に弊社サポート技術者にお渡しください。

1.4 遠隔保守支援ツール

遠隔保守支援ツールとは、遠隔地からのサーバの保守を支援するツールのことです。次の2つの役割があります。

役 割	遠隔保守支援ツール
サーバの遠隔操作	SystemWalker / LiveHelp® Client V5.0
サポートサービス	REMCS エージェント

■サーバの遠隔操作 [SystemWalker/LiveHelp® Client V5.0]

SystemWalker／LiveHelp®Client V5.0（以下 LiveHelp Client と略します）は、離れた場所に設置されたサーバをリモート操作するためのソフトウェアです。LiveHelp Client を使うことにより、サーバの管理者は自席に居ながら、離れた場所に設置されたサーバを自由に操作できます。

▶操作などについて→「第2部 8.1」参照

■サポートサービス [REMCS エージェント]

弊社サポートセンタとの連携サービス（リモート保守サービス）をご利用になる際に使用するソフトウェアです。

REMCS エージェントを使用するには、「Servervisor」「PROBEPRO」が必要です。

「Servervisor」「PROBEPRO」は、REMCS エージェントをインストールすると同時に自動でインストールされますので、単独でインストール操作を行う必要はありません。

第2章 サーバ監視ツールの概要

Servervisor と LDSM の機能比較

サーバ監視ツールは、目的に応じて選んでご使用いただけるように、Servervisor と LDSM の2つが用意されています。Servervisor と LDSM は、それぞれ次のようなネットワークの規模に合わせて、サーバ管理のための機能を提供しています。

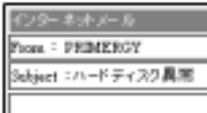
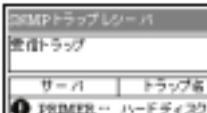
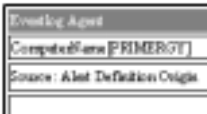
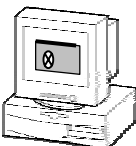
- Servervisor — 中小規模のネットワーク
- LDSM — 大規模のネットワーク

どちらかを選んでご使用いただくことにより、ネットワークを管理しやすい監視システムを構築できます。

本章では、Servervisor と LDSM の主な機能を説明しながら、2つのソフトウェアのちがいを示しています。管理するネットワークの規模を考慮に入れて本章をお読みにになり、使用したい機能を確認しながら最適なツールをお選びください。

2.1 異常発生のお知らせ

Servvisor / LDSM は、サーバのハードウェアの監視により異常を発見すると、リアルタイムにさまざまな方法で管理者に通知します。異常の通知方法は、次の表のとおり豊富に用意されています。サーバの管理者はどこにいてもすぐに通知を確認することができます。

サーバ監視ツール		Servvisor	LDSM
異常発生時の通知方法			
自動送信	E - m a i l 送 信 	○	○
	SNMP トラップの送信 	○	○
	ポ ケ ッ ト ベ ル 送 信 	SystemWalker*との連携により可能。Servvisorからの異常発生のお知らせはイベントログを通してSystemWalker が受け取り、SystemWalker のポケットベル送信機能で再度通知される。	○
	メッセージボックス 	○	○
	ブ ロ ード キ ャ ス ト 	ES200 を除き可能。	○
イベントログへの記録 		○	○
プ ロ グ ラ ム の 実 行 		SystemWalker*との連携により可能。Servvisorからの異常発生のお知らせはイベントログを通してSystemWalker が受け取り、SystemWalker の機能によりプログラムが実行される。	○

*サーバ本体には、SystemWalker / LiveHelpR Client V5.0 が標準で添付されています。

2.2 ハードウェアの監視

Servervisor / LDSM は、管理者に代わってサーバのハードウェアの状態が正常かどうかを常時監視します。サーバのハードウェアの各部からサーバに搭載されたオプション装置にいたるまで必要な監視を行います。Servervisor/LDSM で監視できるサーバのハードウェアおよびオプション装置は次のとおりです。

■サーバ

監視できるハードウェア	監視内容
電圧センサ	サーバの電圧
温度センサ	CPU・筐体内の温度
CPU	エラー
ファン	CPU・筐体内・電源のファンの障害
筐 体	筐体の開閉
メモリ	エラー
電 源	故 障

■オプション装置

サポート：○
アラート通知機能のみ使用可：△
(Servervisor コンソールによる監視は未サポート)
未サポート：－

監視できるオプション装置	Servervisor	LDSM
IDE ハードディスク	○	○
IDE RAID カード	○	○
オンボード SCSI に取り付けた内蔵ハードディスクユニット	○	○
SCSI カード (GP5-123/125/126/127)	○	○
SCSI アレイコントローラカード (GP5-141/143/144/146)	○	○
ハードディスクキャビネット (GP5-R1DC4)	○	○
ディスクアレイ装置 (GP5-DxS1 または GP5DxS1R [x=8,16,32])	－	○
ファイバーチャネルカード (GP5-FC101)	△*1	○*1
LAN カード (GP5-184/185/186)	△	○

*1 サーバの OS が Windows NT 4.0 の場合にのみ監視できます。

Note

表中に「○」と記されているオプション装置は、PRIMERGY の機種によっては監視がサポートされていない場合があります。ご購入のモデルによりあらかじめご確認ください。

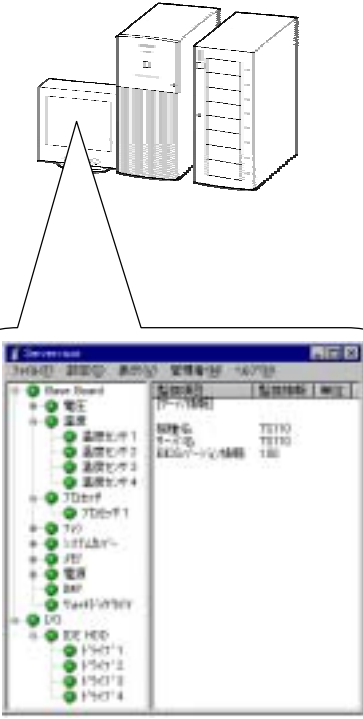
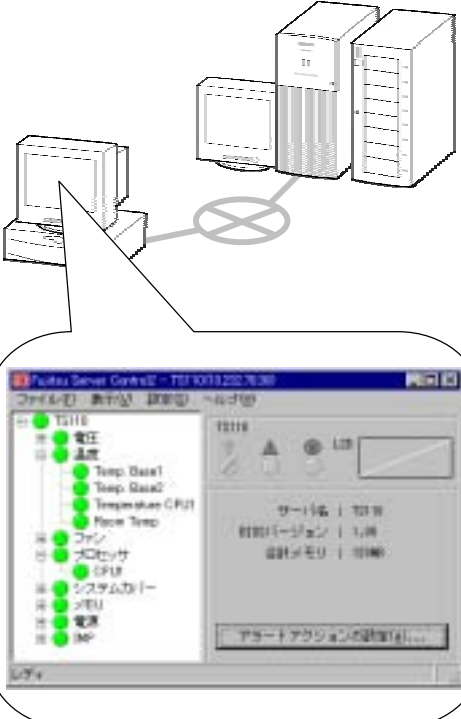
▶機種別のサポート状況 (Servervisor) → 「第 2 部 4.3.1.1」 参照

▶機種別のサポート状況 (LDSM) → 「第 2 部 5.3.1.1」 参照

2.3 ハードウェアの状態の表示

サーバの管理者は、Servervisor / LDSM により監視されたサーバの現在のハードウェアの状態を管理コンソールに表示させて確認できます。管理コンソールは、小規模ネットワーク対応の Servervisor と大規模ネットワーク対応の LDSM で、それぞれ表示できる場所が異なります。どちらかを選択して使用することにより、ネットワークが大規模であっても小規模であっても管理しやすいように監視システムを構築できます。

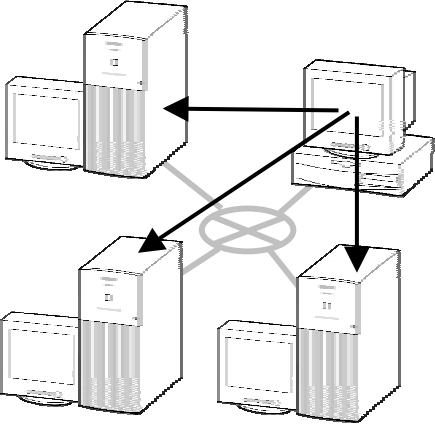
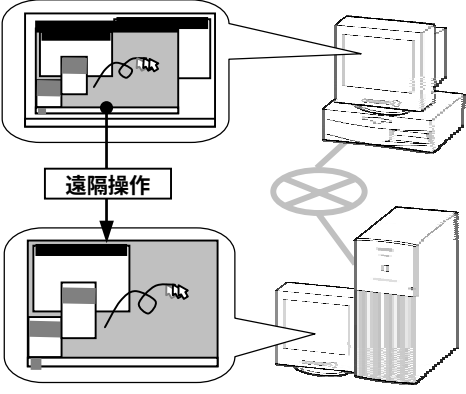
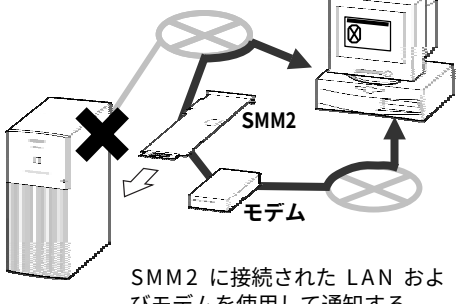
Servervisor と LDSM では、それぞれ次の表のように管理コンソールを表示できます。

Servervisor	LDSM
監視されるサーバのディスプレイに管理コンソールを表示させ、自サーバの状態のみ確認できる。監視対象のサーバには Servervisor をインストールする。 管理するネットワークが小規模で、監視したいサーバが管理者の近くにある場合などに最適。 	任意のパソコンに管理コンソールを表示させ、WAN および LAN を使用して監視対象のサーバの状態を確認できる。パソコンには LDSM の管理コンソールをインストールする (*1)。管理コンソールがインストールされたパソコンは、管理端末と呼ばれる。 管理するネットワークが大規模で、監視したいサーバが管理者から離れた場所にある場合などに最適。 

*1 監視対象のサーバに管理コンソールをインストールすることは推奨しません。

2.4 集中管理/遠隔操作/サーバダウン時の通知

これまでに紹介された基本的な機能の他に、ツールの選択と運用時のヒントとなる集中管理、遠隔操作、サーバダウン時の通知について、次の表に示します。

サーバ監視ツール	Servervisor	LDSM
重要な機能 集中管理 	LiveHelp^{*1}の機能により、一箇所で、複数のサーバの状態を、一台ずつ単独でディスプレイに表示させ、管理できる。 SystemWalker と併用すると各サーバ（LAN 内）のイベントログを収集できる。	管理端末の管理コンソールに、複数のサーバの状態を一括して表示させ、一括管理できる。
遠隔操作 	LiveHelp^{*1}の機能により、サーバの画面をリモートで操作できる。 異常発生のお知らせを受けた場合などに早期対応が図れる。	管理端末の管理コンソールからサーバの画面をリモートで操作できる。
サーバダウン/OS ハング時の通知  SMM2 に接続された LAN およびモデムを使用して通知する。	—	サーバに SMM2（オプションハードウェア製品）を搭載することにより可

*1 サーバ本体には、監視される側のサーバにインストールする LiveHelp Client V5.0 が標準で添付されています。LiveHelp の機能をご使用いただくためには、サーバを監視する側のパソコンにインストールするソフトウェアを別途ご購入いただく必要があります。詳細については「第2部 8.1.2」を参照してください。

第3章 高信頼ツールの導入

PRIMERGY に添付の高信頼ツールは、各ツールの標準のインストーラで導入する方法のほかに、PRIMERGY に添付のサーバ導入支援ツール「ServerWizard」により簡単に導入する方法が提供されています。高信頼ツールは、次のいずれかの方法で導入できます。

- ServerWizard により OS 導入時に一括インストールする
- ServerWizard の高信頼ツールメニューからインストールする
- 各ツールの標準のインストーラによりインストールする

PRIMERGY では、高信頼ツールを ServerWizard により導入することを推奨しています。本章では、それぞれのインストール方法について説明しています。

3.1 ServerWizard により OS 導入時に一括インストールする

ServerWizard は、サーバの導入時に高信頼ツールを一括してインストールする導入支援機能を提供しています。

▶サーバの導入時の一括インストールについて→「第 1 部」参照

Note

- 一括インストールは、LDSM、Tape Maintenance Checker、Power MANagement for Windows を除く高信頼ツールについて行えます。

▶LDSM のインストール方法→「第 2 部 5 章」参照

▶Tape Maintenance Checker / Power MANagement for Windows のインストール方法
→「第 2 部 3.2」参照

- 高信頼ツールを ServerWizard で一括インストールした場合には、Servvisor および PROBEPRO についてのみ、継続して標準のインストーラによるインストール/設定作業が必要です。

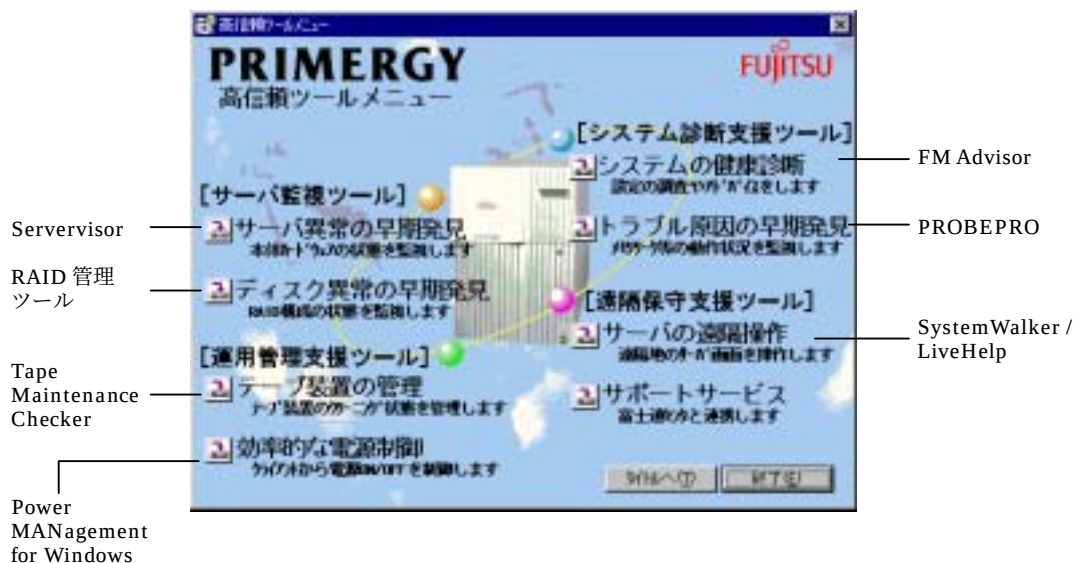
▶Servvisor の継続作業について→「第 2 部 4.2.1」参照

▶PROBEPRO の継続作業について→「第 2 部 7.2.2」参照

- RAID 管理ツールは、RAID カードが搭載されている場合に自動でインストールされます。

3.2 ServerWizard の高信頼ツールメニューからインストールする

ServerWizard では、OS 導入済の場合にツール一覧から必要なツールを選択してインストールできる「高信頼ツールメニュー」画面が提供されています。



Note

LDSM は、ServerWizard からインストールできません。LDSM をインストールしたい場合は、LDSM の標準のインストーラを使用してインストールしてください。

▶LDSM のインストール方法→「第 2 部 5 章」参照

高信頼ツールメニューを使用したインストール作業は、「高信頼ツールメニュー」画面を表示させてインストールしたいツールを選択したあと、画面のメッセージにしたがってインストールするだけです。各ツールとも次の共通操作でインストールします。

Note

Servervisor および PROBEPRO についてのみ、「高信頼ツールメニュー」からインストールしたあとにも、継続して標準のインストーラによるインストール/設定作業が必要です。

▶ Servervisor の継続作業について→「第 2 部 4.2.1」参照

▶ PROBEPRO の継続作業について→「第 2 部 7.2.2」参照

- 1 管理者権限を持つアカウントでサーバにログインします。
- 2 デスクトップ上の「高信頼ツールメニュー」アイコンをダブルクリックします。
「高信頼ツールメニュー」画面が表示されます。
- 3 [ツール一覧へ] をクリックします。
「高信頼ツールメニュー」画面にツール一覧が表示されます。
- 4 インストールしたいツールのボタンをクリックします。
- 5 画面のメッセージに従ってインストール操作を行います。
- 6 インストール終了後、システムを再起動します。

3.3 各ツールの標準のインストーラによりインストールする

高信頼ツールには、各ツールごとにそれぞれ標準のインストーラが添付されています。各ツールはこのインストーラを使用してインストールすることもできます。標準のインストーラを使用したインストール方法については、各ツールの章を参照してください。

▶ Servervisor→「第 2 部 4 章」参照

▶ LDSM→「第 2 部 5 章」参照

▶ Tape Maintenance Checker→「第 2 部 6.1」参照

▶ Power MANagement for Windows→「第 2 部 6.2」参照

▶ FM Advisor→「第 2 部 7.1」参照

▶ PROBEPRO→「第 2 部 7.2」参照

▶ DSNAP→「第 2 部 7.3」参照

▶ SystemWalker / LiveHelp® Client V5.0→「第 2 部 8.1」参照

第4章 サーバ監視ツール[Servervisor]

Servervisor の監視システムは、サーバの本体装置にオプション装置を追加してシステムを構築する場合と同じように、サーバ本体の監視機能にオプション装置の監視機能を追加して構築できます。したがって、サーバの監視システムを構築する際には、サーバ本体の監視機能をインストールしたあとに、搭載されているオプション装置の監視機能を追加インストールする方法で行います。また、監視システムを再構築する場合にも、オプション装置の監視機能をアンインストールしたあとで、サーバ本体の監視機能をアンインストールできます。Servervisor の導入/運用時の次のようなさまざまな場合のインストール/アンインストール作業をこの方法で行います。

- ServerWizard から新規にインストールした場合（継続作業）
- 標準のインストーラで新規にインストールする場合
- 導入済のサーバへ新規にオプション装置を搭載/接続する場合
- 導入済のサーバからオプション装置を取り外す場合
- アンインストールする場合

▶それぞれの場合の作業について→「第2部 4.2」参照

Servervisor では、いずれの場合にも標準のインストーラを起動することで、インストール/アンインストール作業を行えます。

本章では、それぞれの場合のインストール/アンインストール作業において、標準のインストーラを使用したインストール/アンインストール手順を説明しています。

4.1 動作環境

Servervisor が動作するのに必要なシステムの環境は次のとおりです。

サーバのシステム		動作条件
ハードウェア	使用メモリ	10MB 以上
	ハードディスク	空き領域が 20MB 以上
ソフトウェア	ネットワーク OS	Microsoft Windows 2000 Server Operating System または Microsoft Windows 2000 Advanced Server Operating System (V6.0 L50A は未サポート) Microsoft Windows NT Server Network Operating System Version 4.0
	プロトコル	TCP/IP が動作していること
	サービス	SNMP が動作していること
	アカウント	Administrator と同等の権限が割り当てられていること

4.2 インストール手順の流れ

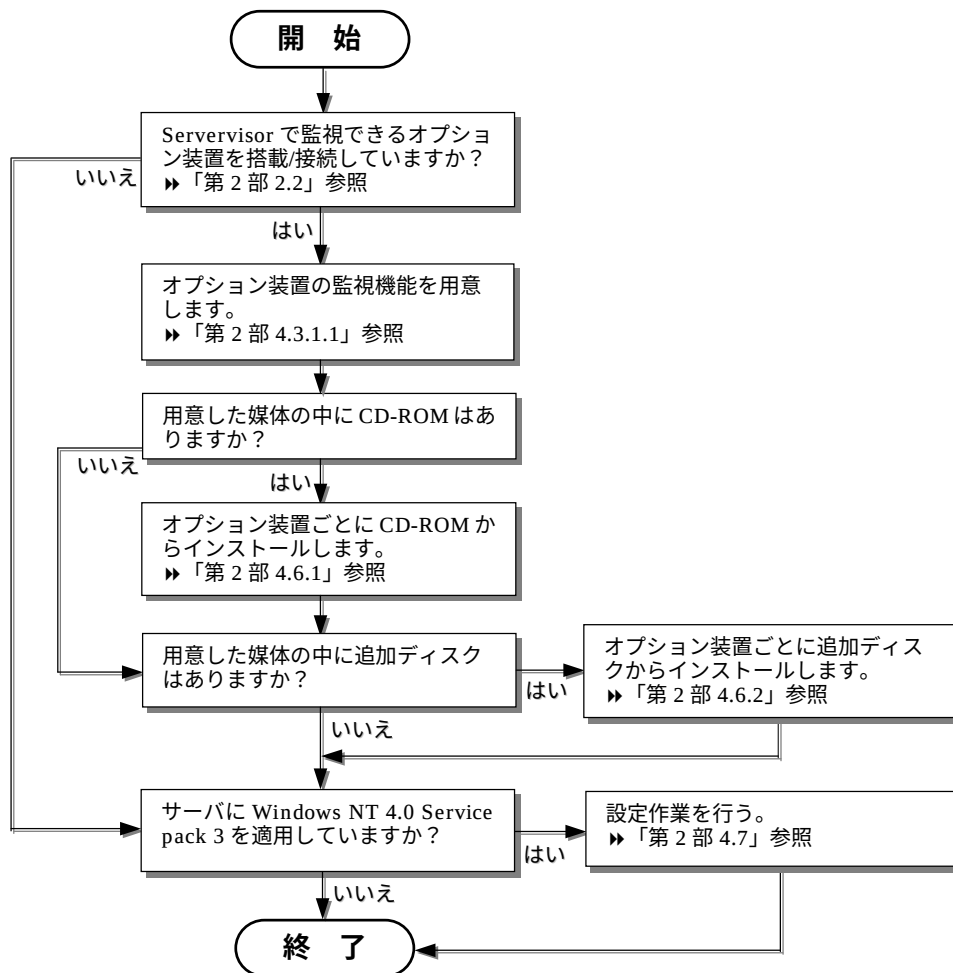
インストール手順の流れを、フローチャートに示します。フローチャートは、インストール作業のケースに応じて5つ用意されています。監視システムを構築するときは、これらのフローチャートに従ってインストールすることにより、さまざまな作業のケースに応じた手順の流れを組み立て、スムーズに作業を行うことができます。

4.2.1 ServerWizard から新規にインストールした場合（継続作業）

Servervisor に添付の標準のインストーラを使用しないで、ServerWizard から新規に Servervisor をインストールした場合には、継続して次のフローチャートにしたがってインストール作業を行います。

Note

作業をはじめる前に、サーバで使用するオプション装置は、サーバ本体またはオプション装置の取扱説明書にしたがってあらかじめ取り付けられています。

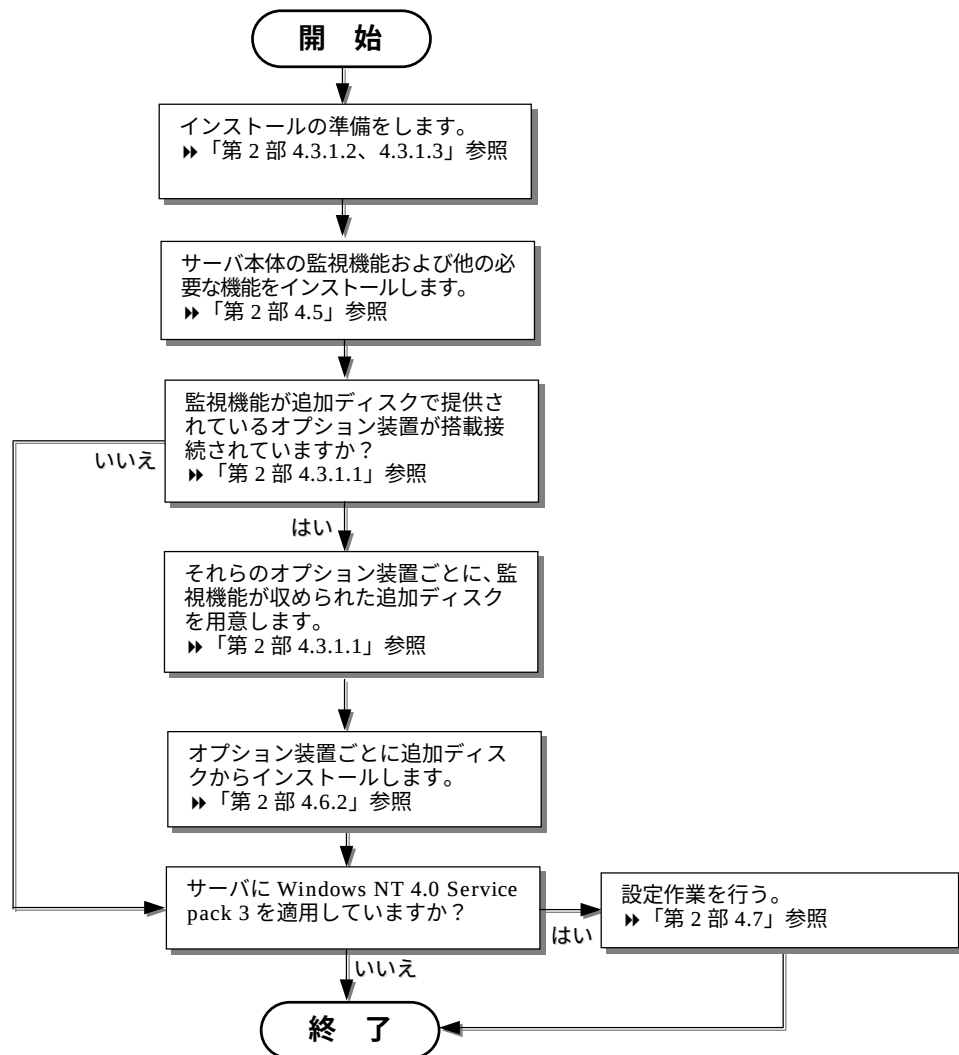


4.2.2 標準のインストーラで新規にインストールする場合

サーバの購入時など、ServerWizard からインストールしないで、Servervisor に添付の標準のインストーラを使用して新規にインストールする場合に、次のフローチャートにしたがってインストールします。



作業をはじめる前に、サーバで使用するオプション装置は、サーバ本体またはオプション装置の取扱説明書にしたがってあらかじめ取り付けしておいてください。

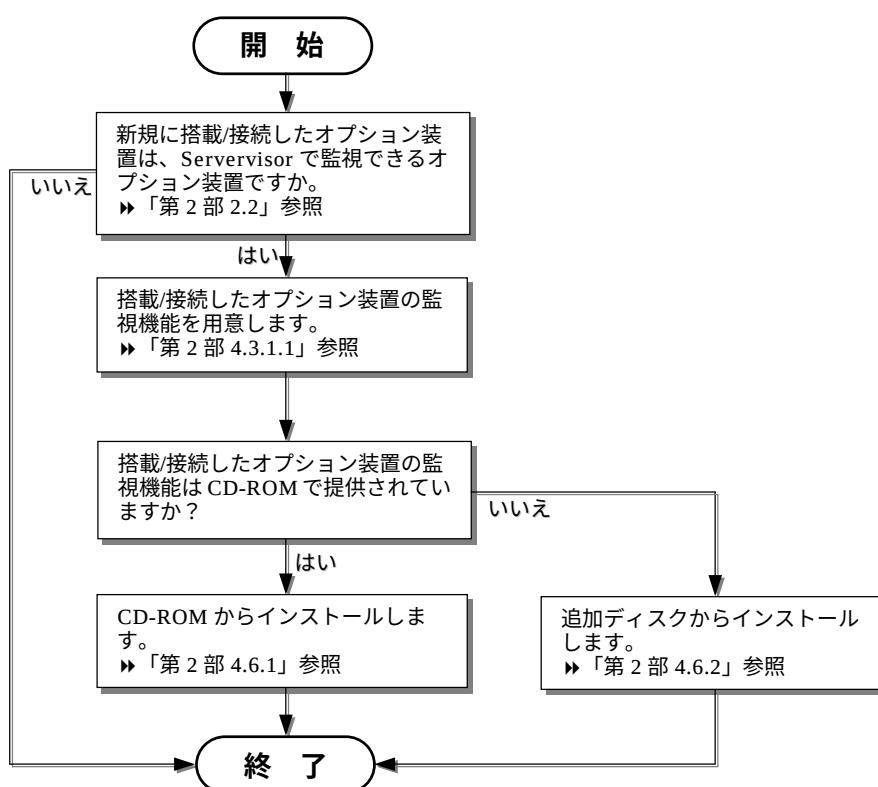


4.2.3 導入済のサーバへ新規にオプション装置を搭載/接続する場合

オプション装置を新規に購入した時など、Servervisor の監視システムを構築済のサーバに新規にオプション装置を搭載/接続する場合に、次のフローチャートにしたがってインストールします。



作業をはじめる前に、サーバで使用するオプション装置は、サーバ本体またはオプション装置の取扱説明書にしたがってあらかじめ取り付けられています。

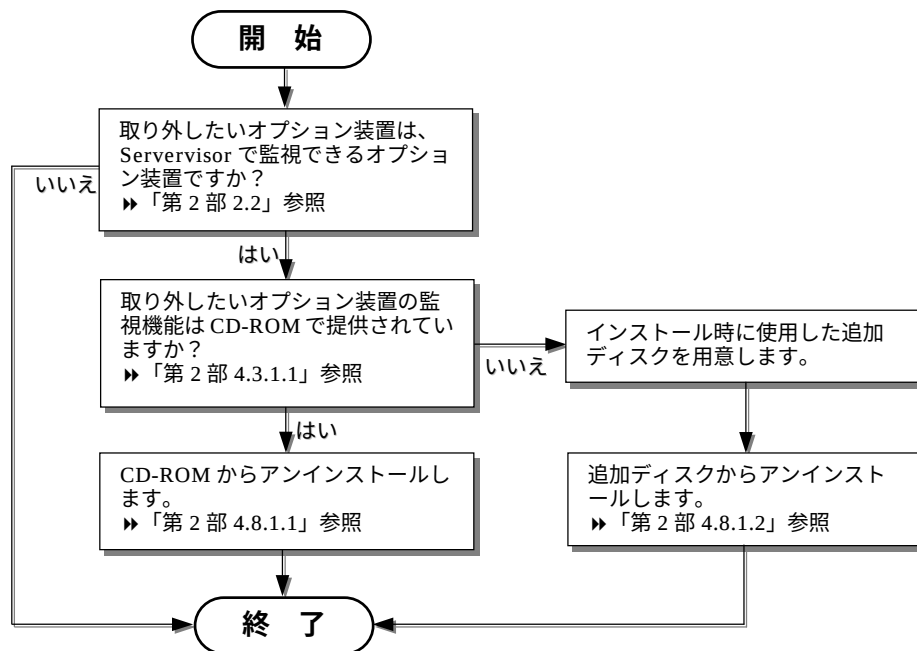


4.2.4 導入済のサーバからオプション装置を取り外す場合

Servervisor の監視システムを構築済のサーバからオプション装置を取り外す場合に、次のフローチャートにしたがってアンインストールします。

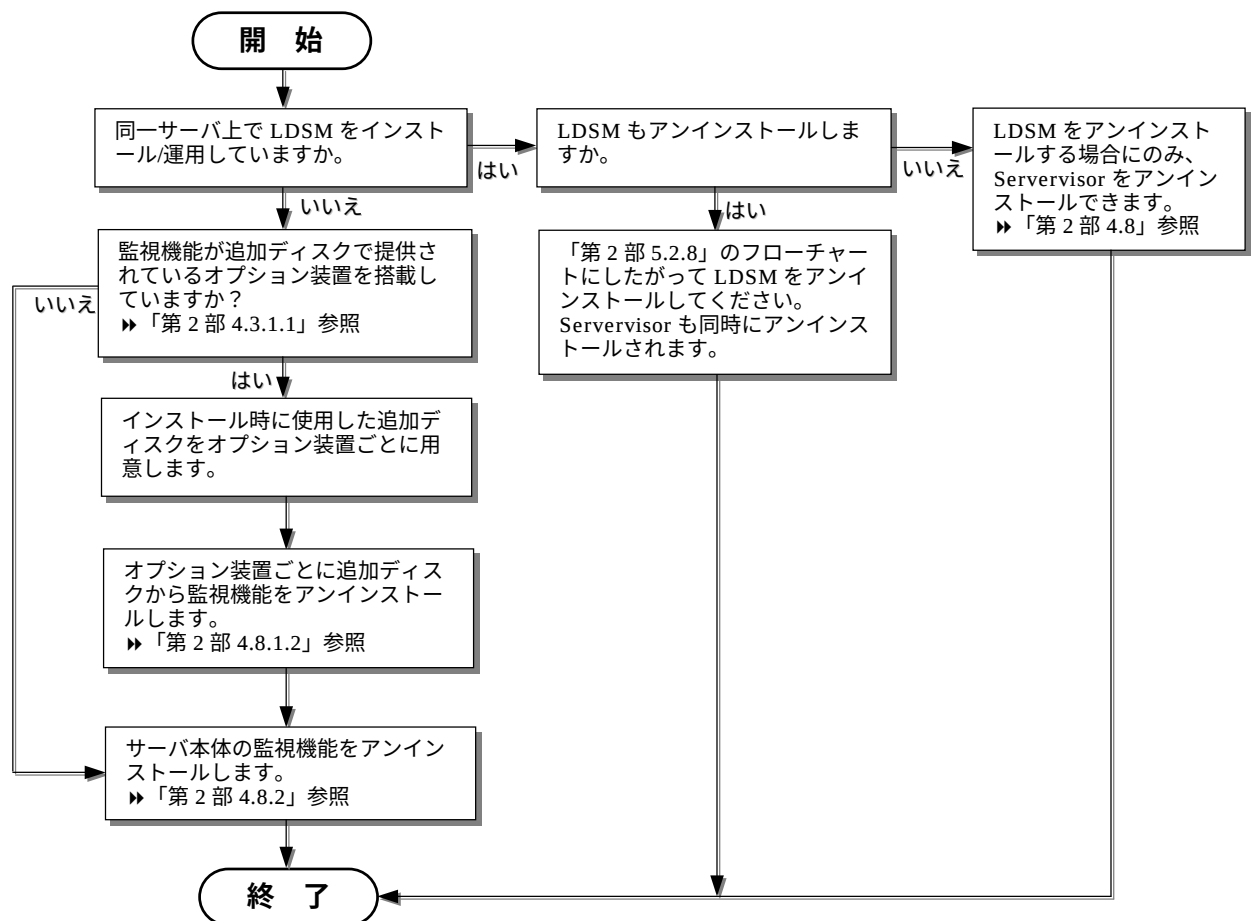


本作業のあとに、オプション装置をサーバから取り外してください。



4.2.5 アンインストールする場合

Servervisor をレベルアップする場合など、サーバから Servervisor の監視システムをアンインストールする場合に、次のフローチャートにしたがってアンインストールします。



4.3 インストールの準備

Servervisor をインストールする前に、インストールが正しく行われるように準備しておく必要があります。インストールするサーバの機種により必要な準備を行ってください。インストール前の準備は次のとおりです。

4.3.1 全機種共通の準備

4.3.1.1 オプション装置の監視機能を用意する

サーバにオプション装置が搭載/接続されている場合は、オプション装置の監視機能が収められた媒体を用意する必要があります。オプション装置の監視機能は、オプション装置により提供媒体が異なります。次の表により、搭載/接続されているオプション装置の監視機能が収められている媒体を、インストールするサーバの機種で監視機能がサポートされているかどうかをご確認の上、ご用意ください。



インストールの際には、表中の提供媒体からのみインストールを行ってください。他の媒体からインストールを行うと監視機能が正常に動作しません。

■ Windows NT の場合

サポート：○

Servervisor のアラート通知機能のみ使用可：△
(Servervisor コンソールによる監視は未サポート)

オプション装置		提供媒体 ラベル名	機種別のサポート状況						
			TS110	ES200	ES210	ES280	ES310	MS380	MS410
SCSI カード	GP5-123		ServerWizard V2.0						
	GP5-125					○			
	GP5-126			○	○				
	GP5-127			○	○		○	○	○
Adaptec 社製オンボード SCSI に取り付けられた内蔵ハードディスク			ServerWizard V2.0				○		○
Symbios 社製オンボード SCSI に取り付けられた内蔵ハードディスク			ServerWizard V2.0		○	○		○	
IDE ハードディスク			ServerWizard V2.0	○	○	○			
IDE RAID カード			ServerWizard V2.0		○	○			
ハードディスクキャビネット GP5-R1DC4			ServerWizard V2.0				○	○	○

(続く)

オプション装置		提供媒体		機種別のサポート状況						
		ラベル名	TS110	ES200	ES210	ES280	ES310	MS380	MS410	
SCSI アレイコントローラカード*1	GP5-141		SCSI アレイコントローラカード GP5-141 追加ディスク L10A				V6.0 用に更新して使用可*4			
			SCSI アレイコントローラカード GP5-141/142 追加ディスク L10B							
			SCSI アレイコントローラカード GP5-141/142 追加ディスク L20*2				○			
			SCSI アレイコントローラカード GP5-141/142 監視機能追加ディスク L20A*2				○			
	GP5-143		SCSI アレイコントローラカード GP5-143/144 監視機能追加ディスク L10*2		○	○	○	L20 に更新して使用可*3		L20 に更新して使用可*3
			SCSI アレイコントローラカード GP5-143/144/145 監視機能追加ディスク L10A*2		○	○	○			
			SCSI アレイコントローラカード GP5-143/144/145/146 監視機能追加ディスク L10B		○	○	○			
			SCSI アレイコントローラカード GP5-143/144/145/146 監視機能追加ディスク L20		○	○	○	○		○
	GP5-144		SCSI アレイコントローラカード GP5-144 監視機能追加ディスク L10*2					L20 に更新して使用可*3	○	L20 に更新して使用可*3
			SCSI アレイコントローラカード GP5-143/144 監視機能追加ディスク L10*2						○	
			SCSI アレイコントローラカード GP5-143/144/145 監視機能追加ディスク L10A*2						○	
			SCSI アレイコントローラカード GP5-143/144/145/146 監視機能追加ディスク L10B						○	
			SCSI アレイコントローラカード GP5-143/144/145/146 監視機能追加ディスク L20					○	○	○
	GP5-146		SCSI アレイコントローラカード GP5-143/144/145/146 監視機能追加ディスク L10B		○	○		L20 に更新して使用可*3	○	L20 に更新して使用可*3
			SCSI アレイコントローラカード GP5-143/144/145/146 監視機能追加ディスク L20		○	○		○	○	○
ファイバーチャネルカード GP5-FC101*1			ファイバーチャネルカード GP5-FC101 監視機能追加ディスク L10*2	L20 に更新して使用可*3	△	△	△	L20 に更新して使用可*3	△	L20 に更新して使用可*3
			ファイバーチャネルカード GP5-FC101 監視機能追加ディスク L20*2	△	△	△	△	△	△	△

(続く)

オプション装置		提供媒体	機種別のサポート状況							
			ラベル名	TS110	ES200	ES210	ES280	ES310	MS380	MS410
LAN カード	GP5-184		Additional Disk for LAN Card AFT L25	△	△	△	△	△	△	△
	GP5-185			△	△	△	△	△	△	△
	GP5-186			△	△	△	△	△	△	△

- *1 ラベルに「Intel LANDesk® Server Manager V6.0 用」と記載されていても、Servervisor でご使用になれます。
- *2 一つのオプション装置につき使用できる媒体が複数ある場合には、いずれか一つをご用意ください。レベルの新しい監視機能をご使用になることを推奨します。
- *3 表中に「L20 に更新して使用可」と記されている追加ディスクは、L20 に更新することで使用することができます。この追加ディスクをお持ちの方は、表中に「○」または「△」と記されている追加ディスクをお持ちでない場合に、更新してご用意ください。ご購入いただいた PRIMERGY に添付の ServerWizard の CD-ROM により更新できます。

L20 へ更新する場合は、次の操作を行います。

1. 更新したい追加ディスクの複製を作成します。
更新したい追加ディスクと同じ枚数のフォーマット済みのフロッピーディスクを用意し、Windows NT / Windows 2000 / Windows 98 の「DISKCOPY」コマンドで複製します。
2. ServerWizard の CD-ROM をセットし、更新プログラムを起動します。
更新したい追加ディスクの更新プログラムを起動するには、それぞれ次のディレクトリ配下から「UPDATE.EXE」を実行します。

更新する追加ディスク	更新プログラムが格納されているディレクトリ
SCSI アレイコントローラカード GP5-144 監視機能追加ディスク L10	¥SVMANAGE¥UPDATE¥GP5-144
SCSI アレイコントローラカード GP5-143/144 監視機能追加ディスク L10	
SCSI アレイコントローラカード GP5-143/144/145 監視機能追加ディスク L10A	
SCSI アレイコントローラカード GP5-143/144/145/146 監視機能追加ディスク L10B	
ファイバーチャネルカード GP5-FC101 監視機能追加ディスク L10	¥SVMANAGE¥UPDATE¥FC101 または ¥SVMANAGE¥NT4¥UPDATE¥FC101

更新プログラムが起動します。

Point

「UPDATE.EXE」は、サーバの機種によって格納先が異なります。格納先を確認した上でコマンドを入力してください。

3. 1.で複製した追加ディスクの 1 枚目をフロッピーディスクドライブにセットしたあと、メッセージにしたがってフロッピーディスクを更新します。
- *4 表中に「V6.0 用に更新して使用可」と記されている追加ディスクは、V6.0 用に更新することで使用することができます。この追加ディスクをお持ちの方は、表中に「○」または「△」と記されている追加ディスクをお持ちでない場合に、更新してご用意ください。ご購入いただいた PRIMERGY に添付の ServerWizard の CD-ROM により更新できます。

V6.0 用へ更新する場合は、次の操作を行います。

1. 更新したい追加ディスクの複製を作成します。

更新したい追加ディスクと同じ枚数のフォーマット済のフロッピーディスクを用意し、Windows NT / Windows 2000 / Windows 98 の「DISKCOPY」コマンドで複製します。

2. ServerWizard の CD-ROM をセットし、更新プログラムを起動します。

更新したい追加ディスクの更新プログラムを起動するには、それぞれ次のディレクトリ配下から「UPDATE.EXE」を実行します。

更新する追加ディスク	更新プログラムが格納されているディレクトリ
SCSI アレイコントローラカード GP5-141 追加ディスク L10A	¥SVMANAGE¥NT4¥UPDATE¥GP5-141¥L10A
SCSI アレイコントローラカード GP5-141/142 追加ディスク L10B	¥SVMANAGE¥NT4¥UPDATE¥GP5-141¥L10B

更新プログラムが起動します。

Point

「UPDATE.EXE」は、追加ディスクの版数によって格納先が異なります。格納先を確認した上でコマンドを入力してください。

3. 1.で複製した追加ディスクの 1 枚目をフロッピーディスクドライブにセットしたあと、メッセージにしたがってフロッピーディスクを更新します。

■Windows 2000 の場合

サポート：○

Servvisor のアラート通知機能のみ使用可：△
(Servvisor コンソールによる監視は未サポート)

オプション装置		提供媒体		機種別のサポート状況						
		ラベル名		TS110	ES200	ES210	ES280	ES310	MS380	MS410
SCSI カード	GP5-123		ServerWizard V2.0						○	
	GP5-125						○			
	GP5-126				○	○				
	GP5-127				○	○			○	
Symbios 社製オンボード SCSI に取り付けた内蔵ハードディスク			ServerWizard V2.0			○	○		○	
IDE ハードディスク			ServerWizard V2.0	○	○	○				
IDE RAID カード			ServerWizard V2.0		○	○				
ハードディスクキャビネット GP5-R1DC4			ServerWizard V2.0						○	
SCSI アレイコントローラカード	GP5-141		Additional Disk for RAID Card GP5-141/142/143/144/145/146 L25				○			
	GP5-143				○	○	○			
	GP5-144								○	
	GP5-146				○	○			○	
LAN カード	GP5-184		Additional Disk for LAN Card AFT L25	△	△	△	△		△	
	GP5-185			△	△	△	△		△	
	GP5-186			△	△	△	△		△	

4.3.1.2 動作環境を準備する（SNMP サービスのインストール）

Servervisor が正しく動作するためには、監視機能をインストールするサーバに、SNMP サービスがインストールされている必要があります。Servervisor をインストールする前に、SNMP サービスがインストールされているかどうかを確認し、インストールされていない場合にはあらかじめインストールしておいてください。

確認あるいはインストールする場合には、次の操作を行います。

■Windows NT の場合

- 1 Windows NT のコントロールパネルから「ネットワーク」アイコンをダブルクリックします。
- 2 「ネットワーク」ダイアログボックスで、「サービス」タブを選択します。
- 3 次のいずれかの操作を行います。
 - ・「ネットワークサービス」ボックスのリストの中に「SNMP サービス」が表示されている場合は、「ネットワーク」ダイアログボックスを閉じて、処理を終了します。この場合は、SNMP サービスがインストールされています。
 - ・「ネットワークサービス」ボックスのリストの中に「SNMP サービス」が表示されていない場合は、次の操作で SNMP サービスをインストールします。
 1. [追加] をクリックします。
 2. 「ネットワークサービス」ボックスのリストの中から「SNMP サービス」を選択し、[OK] をクリックします。
 3. メッセージにしたがって操作します。



Windows NT のインストールの際に、サービスパックを適用してから SNMP サービスをインストールした場合は、再度サービスパックを適用してください。

■Windows 2000 の場合

- 1 Windows 2000 コントロールパネルから「ネットワークとダイヤルアップ接続」アイコンをダブルクリックします。
- 2 メニューバーの「詳細設定」より、「オプションネットワークコンポーネント」を選択します。
- 3 次のいずれかの操作を行います。
 - ・「オプションネットワークコンポーネントウィザード」において「管理とモニタツール」が既にチェックされていた場合は、「管理とモニタツール」を選択し、「詳細」ボタンを押下して、「簡易ネットワーク管理プロトコル（SNMP）」がサブコンポーネントとしてチェックされているかを確認して下さい。チェックされている場合は、既に SNMP サービスがインストールされています。この場合は、処理を終了して下さい。

- 「オプションネットワークコンポーネントウィザード」において「管理とモニタツール」がチェックされていない場合は、次の操作で SNMP サービスをインストールします。
 1. 「オプションネットワークコンポーネントウィザード」で「管理とモニタツール」のチェックボックスをクリックして選択します。
 2. 「詳細」ボタンを押下し、「管理とモニタツール」のサブコンポーネントとして「簡易ネットワーク管理プロトコル(SNMP)」が選択されていることを確認し、[OK] をクリックします。
 3. 「オプションネットワークコンポーネントウィザード」で [次へ] をクリックします。
 4. メッセージにしたがって操作します。

4.3.1.3 動作環境を準備する（システムイベントログの初期化）

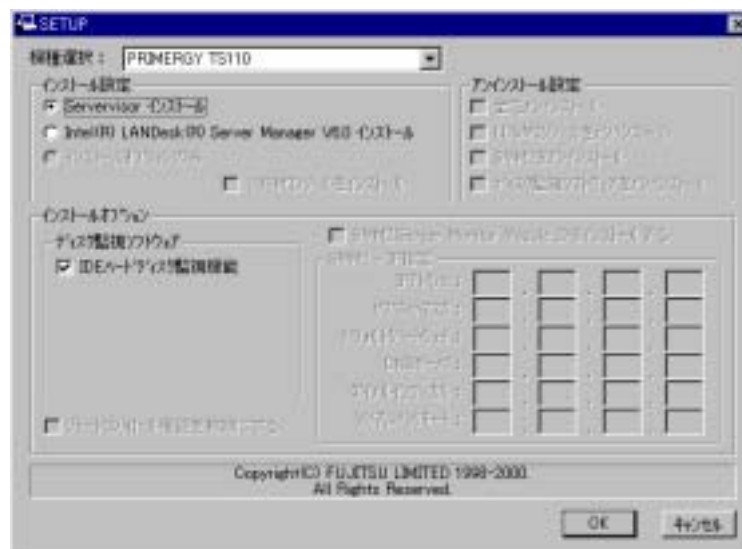
すべての監視機能が正しく動作するためには、サーバのイベントログ情報を格納しているシステムイベントログを初期化しておく必要があります。

▶▶初期化の方法について→『PRIMERGY 取扱説明書』参照

4.4 インストーラの起動方法

Servervisor に添付の標準のインストーラは、次の操作で起動します。

- 1 サーバに、管理者または管理者と同等の権限をもつユーザとしてログインします。
- 2 実行中のアプリケーションをすべて終了させます。
- 3 ServerWizard の CD-ROM から、「SVMANAGE」ディレクトリ配下の「SETUP.EXE」を実行します。
「SETUP」ダイアログボックスが表示されます。



4.5 サーバ本体の監視機能をインストールする

Servervisor に添付の標準のインストーラで新規にインストールする場合は、最初にサーバ本体の監視機能をインストールします。またその際、次のソフトウェアを同時にインストールすることもできます。

- CD-ROM で提供されているオプション装置の監視機能
オプション装置の監視機能は、搭載/接続されているオプション装置を監視する場合に、そのオプション装置ごとに必要です。
▶ オプション装置の監視機能の提供について→「第 2 章 4.3.1.1」参照

監視機能が追加ディスクで別途提供されているオプション装置が搭載/接続されていない場合には、サーバ本体の監視機能をインストールする際に、Servervisor のインストールを完了させることもできます。

サーバ本体の監視機能および CD-ROM で提供されているオプション装置の監視機能をインストールするには、次の操作を行います。

Note

- 作業をはじめる前に、サーバで使用するオプション装置は、サーバ本体またはオプション装置の取扱説明書にしたがってあらかじめ取り付けておいてください。
- 追加ディスクで提供されているオプション装置は、サーバ本体の監視機能と同時にインストールできません。サーバ本体の監視機能をインストールしたあとに、追加インストールしてください。
▶ 追加インストールの方法→「第 2 部 4.6」参照
- ServerWizard から Servervisor をインストールした場合には、本操作は行えません。ServerWizard から Servervisor をインストールすると、サーバ本体の監視機能だけがインストールされます。この場合には、サーバに搭載/接続されているオプション装置の監視機能だけをすべて追加インストールすると、Servervisor のインストールが完了します。
▶ 追加インストールの方法→「第 2 部 4.6」参照
- サーバに新規に監視システムを構築する場合、最初にオプション装置の監視機能のみをインストールすることはできません。オプション装置の監視機能は、サーバ本体の監視機能に追加することで動作するソフトウェアです。

1 Servervisor をインストールするサーバで、インストーラを起動します。

▶ インストーラの起動方法→「第 2 部 4.4」参照

「SETUP」ダイアログボックスが表示されます。

Point

「ディスク監視ソフトウェア」グループは、サーバの機種ごとに表示されるオプションが異なります。それぞれの機種でインストールできる監視機能だけが表示されます。

2 次のとおり設定し、[OK] をクリックします。

- 「インストール設定」グループで、「Servervisor インストール」を選択します。
- 「インストールオプション」グループの「ディスク監視ソフトウェア」グループで、次のいずれかのオプション装置がサーバに搭載/接続されている場合に、それぞれのオプションをチェックします。
 - SCSI カード、または Adaptec 社製オンボード SCSI を使用する内蔵ハードディスク
「Adaptec SCSI 監視機能」オプションをチェックします。アレイタイプなどで、SCSI カードおよびオンボード SCSI を使用しない場合は、チェックを外してください。
 - オンボード IDE コントローラに取り付けられた IDE ハードディスク
「IDE ハードディスク監視機能」オプションをチェックします。
 - IDE RAID カード
「IDE RAID カード監視機能」オプションをチェックします。
 - Symbios 社製オンボード SCSI を使用する内蔵ハードディスク
「Symbios SCSI 監視機能」オプションをチェックします。アレイタイプなどで、オンボード SCSI を使用しない場合は、チェックを外してください。
 - RCI ケーブルで接続されたハードディスクキャビネット
「ハードディスクキャビネット監視機能」オプションをチェックします。

3 「使用許諾契約」ダイアログボックスで、「はい、同意します」を選択し、[OK] をクリックします。

インストールが開始します。インストールが完了すると、インストールを終了するメッセージが表示されます。

4 [OK] をクリックします。

システムが自動的に再起動します。



[キャンセル] をクリックした場合は、システムは再起動されません。追加インストールを行う場合や運用を開始する前には、必ずシステムを再起動してください。

4.6 オプション装置の監視機能を追加インストールする

サーバ本体の監視機能がインストール済のサーバには、オプション装置の監視機能のみを追加インストールできます。Servervisor の監視システムは、搭載/接続されているオプション装置のうち、Servervisor で監視できるオプション装置の監視機能がサーバ本体の監視機能にすべて追加されると、構築が完了します。サーバ本体の監視機能がインストール済のサーバでは、未インストールのオプション装置の監視機能がある場合に追加インストールしてください。

▶オプション装置の監視機能を用意する→「第 2 部 4.3.1.1」参照

オプション装置の監視機能を追加インストールするには、次の操作を行います。

Note

- 作業をはじめる前に、サーバで使用するオプション装置は、サーバ本体またはオプション装置の取扱説明書にしたがってあらかじめ取り付け付けておいてください。
- ServerWizard から Servervisor をインストールすると、サーバ本体の監視機能だけがインストールされます。ServerWizard から Servervisor をインストールした場合には、本操作にしたがってサーバに搭載/接続されているオプション装置の監視機能のみをすべて追加インストールすると、Servervisor のインストールが完了します。

4.6.1 CD-ROM で提供されている場合

1 オプション装置の監視機能をインストールするサーバで、インストーラを起動します。

▶インストーラの起動方法→「第 2 部 4.4」参照

「SETUP」ダイアログボックスが表示されます。

Point

「ディスク監視ソフトウェア」グループは、サーバの機種ごとに表示されるオプションが異なります。それぞれの機種でインストールできる監視機能のみが表示されます。

2 次のとおり設定し、[OK] をクリックします。

- 「インストール設定」グループで、「インストールオプションのみ」を選択します。
- 「インストールオプション」グループの「ディスク監視ソフトウェア」グループで、次のいずれかのオプション装置の監視機能をインストールする場合に、それぞれのオプションをチェックします。

Point

すでにインストール済の監視機能は、グレーで表示されます。

- SCSI カード、または Adaptec 社製オンボード SCSI を使用する内蔵ハードディスク
「Adaptec SCSI 監視機能」オプションをチェックします。
- オンボード IDE コントローラに取り付けられた IDE ハードディスク
「IDE ハードディスク監視機能」オプションをチェックします。
- IDE RAID カード
「IDE RAID カード監視機能」オプションをチェックします。
- Symbios 社製オンボード SCSI を使用する内蔵ハードディスク
「Symbios SCSI 監視機能」オプションをチェックします。

- ー RCI ケーブルで接続されたハードディスクキャビネット
「ハードディスクキャビネット監視機能」オプションをチェックします。

3 「使用許諾契約」ダイアログボックスで、「はい、同意します」を選択し、[OK] をクリックします。

インストールが開始します。インストールが完了すると、インストールを終了するメッセージが表示されます。

4 [OK] をクリックします。

システムが自動的に再起動します。

Note

[キャンセル] をクリックした場合は、システムは再起動されません。運用を開始する前には、必ずシステムを再起動してください。

4.6.2 追加ディスクで提供されている場合

1 サーバに、管理者または同等の権限をもつユーザとしてログインします。

2 実行中のアプリケーションをすべて終了させます。

3 オプション装置の監視機能が収められた追加ディスク（複数枚で構成されている場合は1枚目）をフロッピードライブに挿入し、「SERVER」ディレクトリ配下の「SETUP.EXE」を実行します。

インストールを開始するメッセージが表示されます。

4 [はい] をクリックします。

インストールが開始します。インストールが完了すると、インストールを終了するメッセージが表示されます。

Point

インストール中に、サービスが停止するというメッセージが表示される場合は、[続行] をクリックします。停止したサービスは、インストールが終了したあと、システムを再起動するときに自動で起動します。

5 [OK] をクリックします。

6 オプション装置の監視機能が収められた追加ディスクをフロッピードライブから取り出します。

Note

他のオプション装置の監視機能をインストールする場合は、手順 3 に戻ります。

7 システムを再起動します。

4.7 インストール後のサーバの設定について

サーバに Windows NT4.0 Service Pack 3 が適用されている場合は、Servervisor をインストールしたあとに次の設定作業が必要です。

Note

- 設定作業は必ず行ってください。行わない場合は、Windows NT のシャットダウン処理を含む操作を行っているときに、次のようなエラーメッセージが表示され、シャットダウンが中止されます。

Dr.Wtsn32.exe – DLL 初期化の失敗

ウィンドウステーションがシャットダウン中であるため、アプリケーションが初期化に失敗しました。

- Windows NT4.0 Service Pack 4 以降が適用されているサーバでは、設定作業を行わないでください。

1 コマンドプロンプトを起動し、以下のとおり順に入力します。

E: 【Enter】 (CD-ROM ドライブがEの場合) CD ¥SVMANAGE¥RECOVERY¥UPD-SVCM 【Enter】 UPDSVCM.BAT 【Enter】
--

または

E: 【Enter】 (CD-ROM ドライブがEの場合) CD ¥SVMANAGE¥NT4¥RECOVERY¥UPD-SVCM 【Enter】 UPDSVCM.BAT 【Enter】
--

「続行するときは何かキーを押してください. . . 」というメッセージが表示されます。

Point

「UPDSVCM.BAT」は、サーバの機種によって格納先が異なります。格納先を確認した上でコマンドを入力してください。

- 2 任意のキーを押します。
- 3 システムを再起動します。

4.8 アンインストール

サーバ本体の監視機能に追加インストールできる次のソフトウェアは、監視システムから単独でアンインストールできます。オプション装置を取り外すなど、サーバのハードウェアシステムを変更する場合などにアンインストールします。

- オプション装置の監視機能

また、Servervisor をレベルアップするときなど、現在サーバにインストールされている Servervisor を今後使用しない場合は、Servervisor をアンインストールします。

Servervisor をアンインストールする場合は、サーバから次の順序で Servervisor の監視システムをアンインストールします。

1. オプション装置の監視機能

2. サーバ本体の監視機能

それぞれのソフトウェアをアンインストールする手順は以下のとおりです。

Note

- **サーバに Servervisor と LDSM の両方がインストールされている場合は、Servervisor だけをアンインストールすることはできません。この場合は、Servervisor と LDSM**

Servervisor が自動的にアンインストールされます。

▶LDSM のアンインストール方法→「第 2 部 5.2.8」参照

- **アンインストールの操作中は、処理を中断したり、本手順以外の操作を行わないでください。中断したり本手順以外の操作を行うと、Servervisor が正しくアンインストールされません。アンインストールは手順通り最後まで確実に操作してください。**

4.8.1 オプション装置の監視機能をアンインストールする

オプション装置の監視機能は、Servervisor の監視システムからオプション装置ごとに単独でアンインストールできます。

サーバから Servervisor の監視システムをアンインストールする場合は、サーバ本体の監視機能をアンインストールする前に、追加ディスクで提供されているオプション装置の監視機能を搭載/接続されているオプション装置ごとにすべてアンインストールします。

CD-ROM で提供されているオプション装置は、サーバ本体の監視機能をアンインストールする際に、一括して自動的にアンインストールされます。

Note

本作業のあとに、オプション装置をサーバから取り外してください。

4.8.1.1 CD-ROM で提供されている場合

オプション装置ごとに、あるいは一括して搭載/接続されているオプション装置の監視機能をアンインストールできます。

CD-ROM で提供されているオプション装置の監視機能をアンインストールするには、次の操作を行います。

- 1 オプション装置の監視機能をアンインストールするサーバで、インストーラを起動します。

▶インストーラの起動方法→「第2部 4.4」参照

「SETUP」ダイアログボックスが表示されます。

- 2 「アンインストール設定」グループで、「ディスク監視ソフトウェアをアンインストール」を選択します。

「ディスク監視ソフトウェア」グループで、インストール済みのオプション装置の監視機能が選択できる状態になります。

- 3 アンインストールするオプション装置の監視機能を選択（一度に複数の項目も選択可能）し、[OK] をクリックします。

アンインストールを開始するメッセージが表示されます。

- 4 [OK] をクリックします。

アンインストールが開始します。アンインストールが完了すると、アンインストールを終了するメッセージが表示されます。

- 5 [OK] をクリックします。

システムが自動的に再起動します。



【キャンセル】をクリックした場合は、システムは再起動されません。運用を開始する前には、必ずシステムを再起動してください。

4.8.1.2 追加ディスクで提供されている場合

オプション装置ごとに、追加ディスクを使用して搭載されているオプション装置の監視機能をアンインストールできます。

追加ディスクで提供されているオプション装置の監視機能をアンインストールするには、次の操作を行います。

- 1 サーバに、管理者または同等の権限をもつユーザとしてログインします。
- 2 実行中のアプリケーションをすべて終了させます。
- 3 オプション装置の監視機能が収められた追加ディスク（複数枚で構成されている場合は1枚目）をフロッピッドドライブに挿入し、「SERVER」ディレクトリ配下の「UNINST.EXE」を実行します。
アンインストールを開始するメッセージが表示されます。
- 4 [はい] をクリックします。
アンインストールが開始します。アンインストールが完了すると、アンインストールを終了するメッセージが表示されます。
- 5 [OK] をクリックします。

- 6 オプション装置の監視機能が収められた追加ディスクをフロッピードライブから取り出します。



- ・他のオプション装置の監視機能をアンインストールする場合は、手順 3 に戻ります。
- ・サーバ本体の監視機能をアンインストールする場合は、続けてサーバ本体の監視機能

▶サーバ本体の監視機能をアンインストールする→「第 2 部 4.8.2」参照

- 7 システムを再起動します。

4.8.2 サーバ本体の監視機能をアンインストールする

Servervisor をアンインストールする場合は、追加ディスクで提供されているオプション装置の監視機能をアンインストールしたあとで、サーバ本体の監視機能をアンインストールします。サーバ本体の監視機能をアンインストールすると、CD-ROM で提供されているオプション装置の監視機能も一括してアンインストールされ、Servervisor のアンインストールが完了します。

サーバ本体の監視機能をアンインストールするには、次の操作を行います。

- 1 Servervisor をアンインストールするサーバで、インストーラを起動します。

▶インストーラの起動方法→「第 2 部 4.4」参照

「SETUP」ダイアログボックスが表示されます。

- 2 「アンインストール設定」グループで、「全てアンインストール」を選択し、[OK] をクリックします。

アンインストールを開始するメッセージが表示されます。

- 3 [OK] をクリックします。

アンインストールが開始します。アンインストールが完了すると、アンインストールを終了するメッセージが表示されます。



PRIMERGY ES200 / ES210 / ES280 / MS380 では、FSC のアンインストールウィザード実行中に応答が発生します。この場合、[はい] または [OK] をクリックして、ア

- 4 [OK] をクリックします。

システムが自動的に再起動します。



[キャンセル] をクリックした場合は、システムは再起動されません。運用を開始する前には、必ずシステムを再起動してください。

第5章 サーバ監視ツール [LDSM]

LDSM の監視システムは、サーバの本体装置にオプション装置を追加してシステムを構築する場合と同じように、サーバ本体の監視機能にオプション装置の監視機能を追加して構築できます。さらに、WAN および LAN を介して監視システムが構築されているすべてのサーバの状態を、一箇所（管理コンソール）で一括して確認できる管理のための監視システムを構築できます。したがって、サーバ管理のためのシステムを構築する際には、次の方法で行います。

1. 監視対象としたいすべてのサーバに対して、サーバ本体の監視機能をインストールしたあと、搭載されているオプション装置の監視機能を追加インストールする。
2. 管理用（管理端末）に使用したいパソコンに、管理コンソールをインストールする。

また、監視システムを再構築する場合にも、管理端末から管理コンソールをアンインストールし、サーバからオプション装置の監視機能をアンインストールしたあと、サーバ本体の監視機能をアンインストールできます。LDSM の導入/運用時の次のようなさまざまな場合のインストール/アンインストール作業をこの方法で行います。

- ・ 新規にサーバに監視システムを構築する場合
- ・ 新規に管理端末を構築する場合
- ・ 導入済のサーバに新規に SMM2 を搭載する場合
- ・ 導入済のサーバから SMM2 を取り外す場合
- ・ 導入済のサーバへ新規にオプション装置を搭載する場合
- ・ 導入済のサーバからオプション装置を取り外す場合
- ・ 管理端末から管理コンソールをアンインストールする場合
- ・ サーバの監視システムをアンインストールする場合

▶それぞれの場合の作業について→「第2部 5.2」参照

LDSM では、いずれの場合にも標準のインストーラを起動することで、インストール/アンインストール作業を行えます。

本章では、それぞれの場合のインストール/アンインストール作業において、標準のインストーラを使用したインストール/アンインストール手順を説明しています。

5.1 動作環境

LDSM が動作するのに必要なシステムの環境は次のとおりです。

●サーバ

サーバのシステム		動作条件
ハードウェア	使用メモリ	32MB 以上
	ハードディスク	空き領域が 100MB 以上
	SMM2	サーバのオプションハードウェア製品です。SMM2 を使用してサーバを運用する場合にのみ必要です。
	SMM2 側外付けモデム	SMM2 を使用して公衆回線経由で通信を行う場合にのみ必要です。SMM2 でサポートしているモデムについては、弊社の「PRIMERGY システム構成図」をご覧ください。
ソフトウェア	ネットワーク OS	Microsoft Windows 2000 Server Operating System または Microsoft Windows 2000 Advanced Server Operating System (V6.0 L50A は未サポート) Microsoft Windows NT Server Network Operating System Version 4.0
	プロトコル	TCP/IP が動作していること
	サービス	SNMP が動作していること
	アカウント	Administrator と同等の権限が割り当てられていること

●管理端末

パソコンのシステム		動作条件
ハードウェア	パソコン	IBM PC 互換機
	プロセッサ	Pentium®以上
	メモリ	32MB 以上
	ハードディスク	空き領域が 110MB 以上
	LAN カード	必要（オンボード LAN でも可）
	マウス	必要
	モデム	SMM2 を使用して公衆回線経由でサーバ監視を行う場合にのみ必要
ソフトウェア	ネットワーク OS	Microsoft Windows 2000 Professional Operating System (V6.0 L50A は未サポート) Microsoft Windows NT Workstation Network Operating System Version 4.0 または Microsoft Windows 98
	プロトコル	TCP/IP が動作していること
	アカウント	Administrator と同等の権限が割り当てられていること（Windows NT, Windows 2000 の場合に必要）

5.2 インストール手順の流れ

インストール手順の流れを、フローチャートに示します。フローチャートは、インストール作業のケースに応じて 8 つ用意されています。監視システムを構築するときは、これらのフローチャートに従ってインストールすることにより、さまざまな作業のケースに応じて手順の流れを組み立て、スムーズに作業を行うことができます。

5.2.1 新規にサーバに監視システムを構築する場合

サーバの購入時など、新規にサーバに LDSM の監視システムを構築する場合に、次のフローチャートにしたがってインストールします。

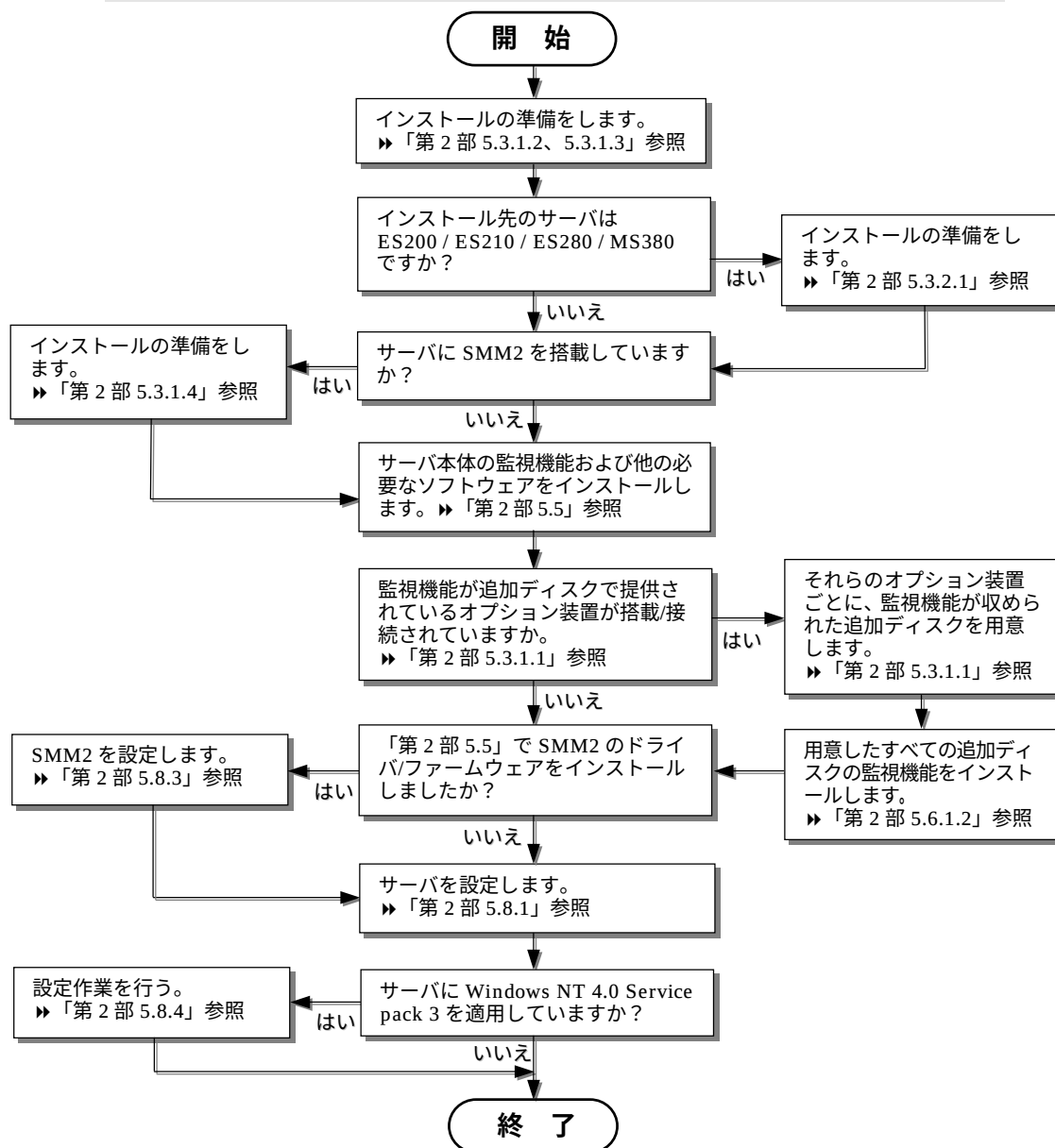


- ・リモート保守サービスをご利用になる場合には、その際に使用する REMCS エージェントの動作環境として Servervisor がインストールされている必要があります。

インストールすることで、Servervisor などの必要なソフトウェアが一括してインストールされます。

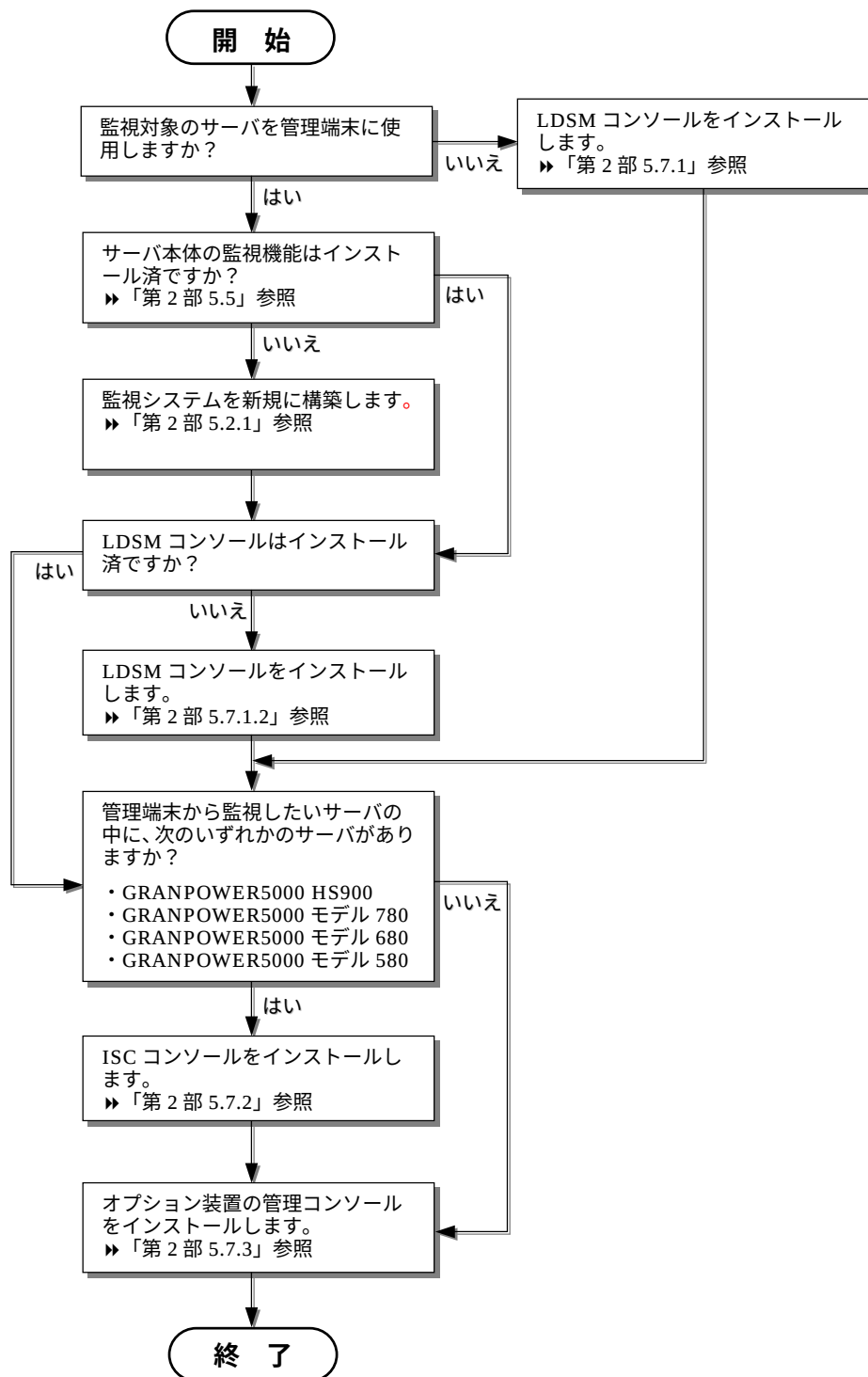
▶ Servervisor のインストール方法→「第 2 部 3.2」

- ・作業をはじめる前に、サーバで使用するオプション装置は、サーバ本体またはオプション装置の取扱説明書にしたがってあらかじめ取り付けられています。



5.2.2 新規に管理端末を構築する場合

LDSM の導入時に監視システムをサーバに構築した時、あるいは管理端末を他のパソコン/サーバに切り替える時など、新規に管理端末を構築する場合に、次のフローチャートにしたがってインストールします。

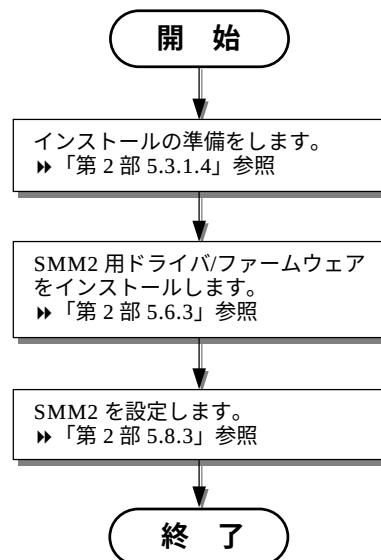


5.2.3 導入済のサーバへ新規に SMM2 を搭載する場合

SMM2 を新規に購入した時など、LDSM の監視システムを構築済のサーバに新規に SMM2 を搭載する場合に、次のフローチャートにしたがってインストールします。



作業をはじめる前に、SMM2 を SMM2 に添付の取扱説明書にしたがってあらかじめ取り付けておいてください。

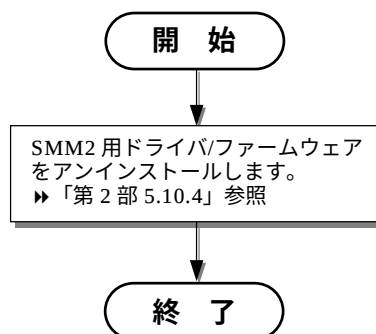


5.2.4 導入済のサーバから SMM2 を取り外す場合

LDSM の監視システムを構築済のサーバから SMM2 を取り外す場合に、次のフローチャートにしたがってアンインストールします。



本作業のあとに、SMM2 をサーバから取り外してください。

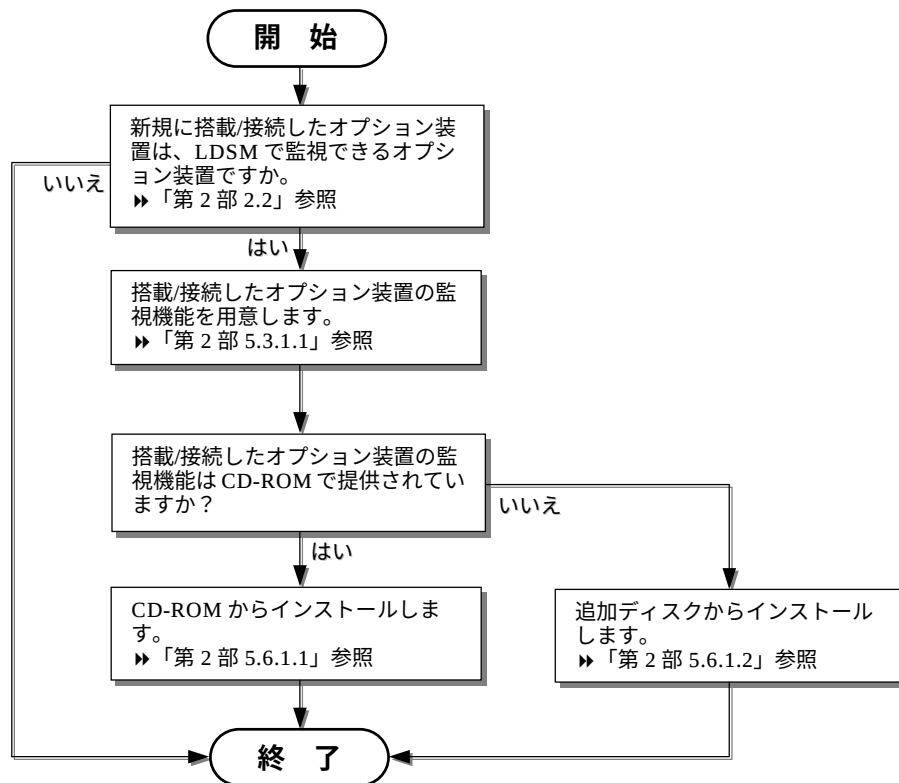


5.2.5 導入済のサーバへ新規にオプション装置を搭載/接続する場合

オプション装置を新規に購入した時など、LDSM の監視システムを構築済のサーバに新規にオプション装置を搭載/接続する場合に、次のフローチャートにしたがってインストールします。

Note

作業をはじめる前に、サーバで使用するオプション装置は、サーバ本体またはオプション装置の取扱説明書にしたがってあらかじめ取り付けられています。

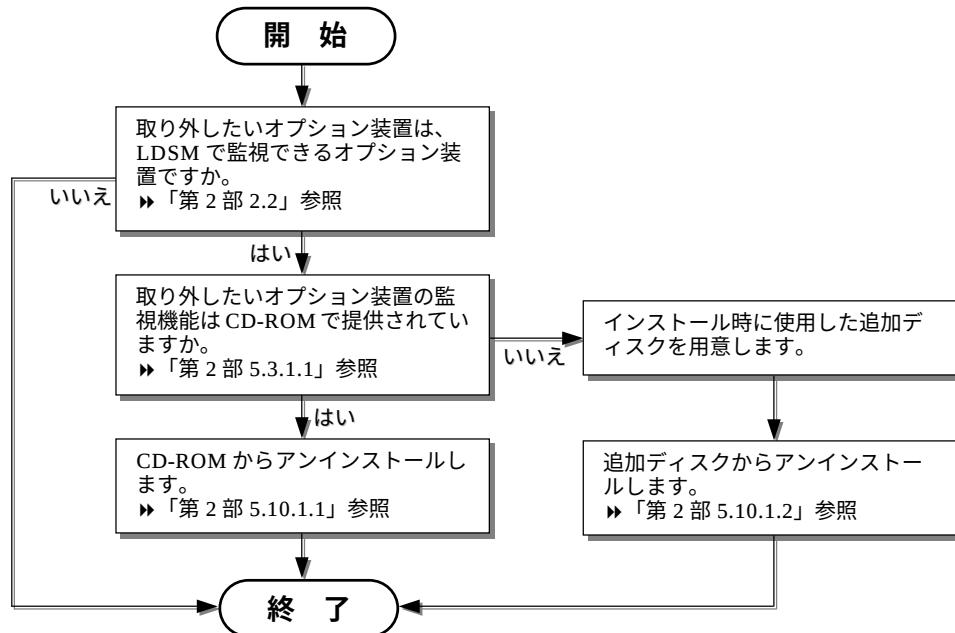


5.2.6 導入済のサーバからオプション装置を取り外す場合

LDSM の監視システムを構築済のサーバからオプション装置を取り外す場合に、次のフローチャートにしたがってアンインストールします。

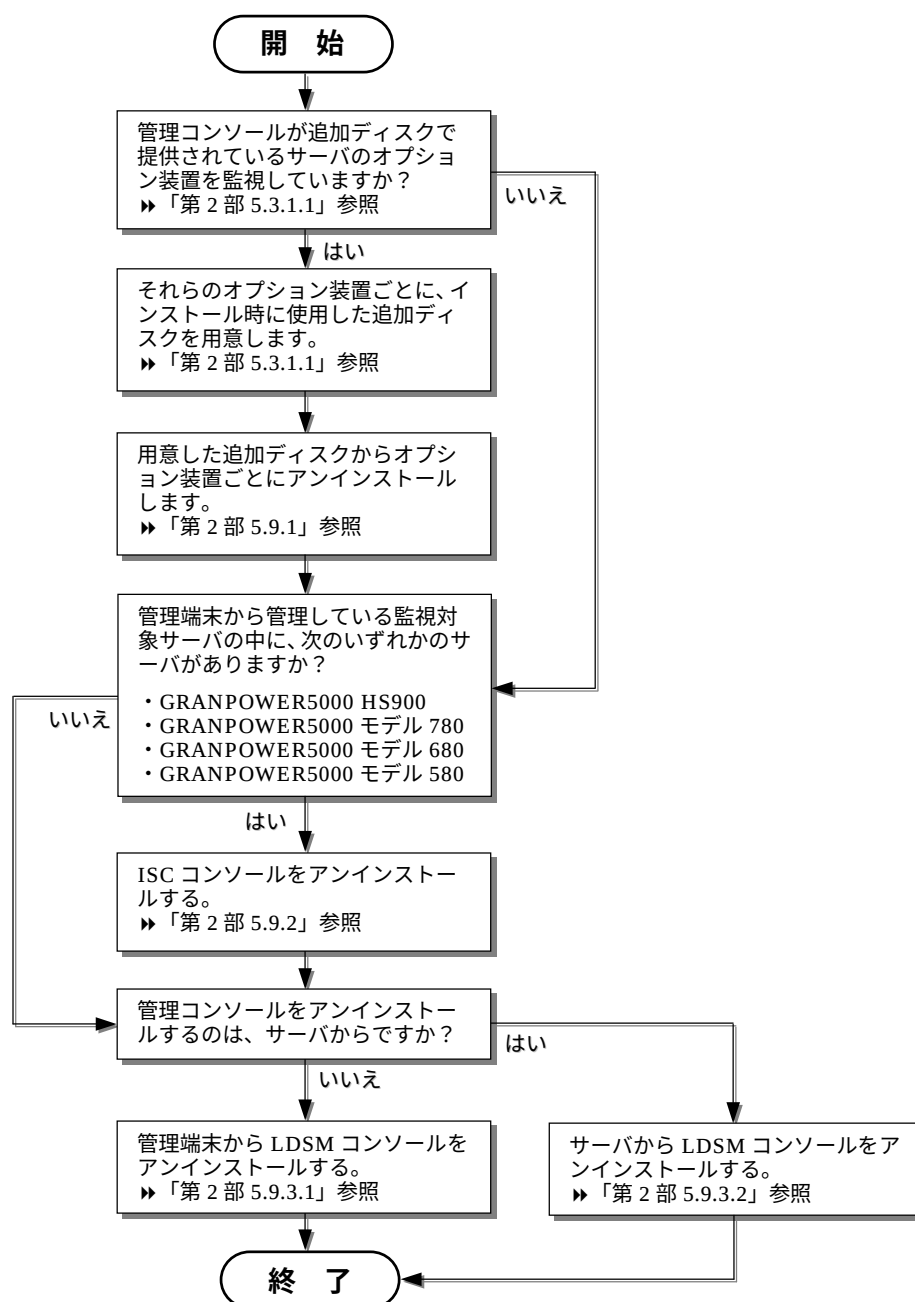


本作業のあとに、オプション装置をサーバから取り外してください。



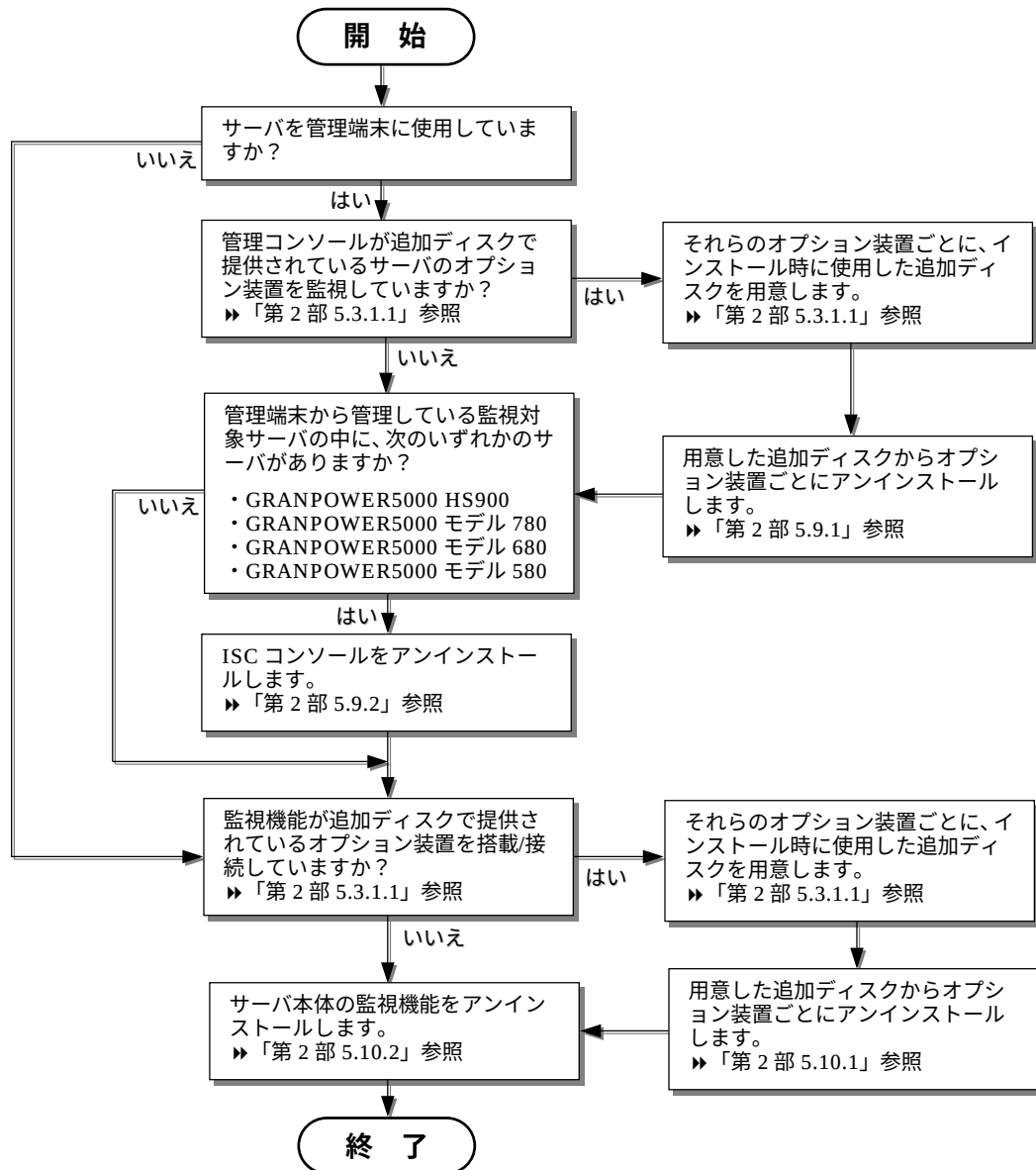
5.2.7 管理端末から管理コンソールをアンインストールする場合

管理端末を他のパソコン/サーバに切り替える時など、管理端末としての使用をやめる場合に、次のフローチャートにしたがって管理コンソールをアンインストールします。



5.2.8 サーバの監視システムをアンインストールする場合

LDSM をレベルアップする場合、あるいは LDSM から Servervisor に切り替えて使用する場合など、サーバから LDSM の監視システムをアンインストールする場合に、次のフローチャートにしたがってアンインストールします。



5.3 インストールの準備

LDSM をインストールする前に、インストールが正しく行われるように準備をしておく必要があります。インストールするサーバの機種により必要な準備を行ってください。インストール前の準備は次のとおりです。

5.3.1 全機種共通の準備

5.3.1.1 オプション装置の監視機能/管理コンソールを用意する

サーバにオプション装置が搭載/接続されている場合は、オプション装置の監視機能/管理コンソールが収められた媒体を用意する必要があります。オプション装置の監視機能/管理コンソールは、オプション装置により提供媒体が異なります。次の表により、搭載/接続されているオプション装置の監視機能/管理コンソールが収められている媒体を、インストールするサーバの機種で監視機能がサポートされているかどうかをご確認の上、ご用意ください。



インストールの際には、表中の提供媒体からのみインストールを行ってください。他の媒体からインストールを行うと監視機能が正常に動作しません。

■Windows NT の場合

サポート：○

オプション装置		提供媒体		機種別のサポート状況						
		ラベル名		TS110	ES200	ES210	ES280	ES310	MS380	MS410
SCSI カード	GP5-123		ServerWizard V2.0						○	○
	GP5-125						○			
	GP5-126				○	○				
	GP5-127				○	○		○	○	○
Adaptec 社製オンボード SCSI に取り付けた内蔵ハードディスク			ServerWizard V2.0					○		○
Symbios 社製オンボード SCSI に取り付けた内蔵ハードディスク			ServerWizard V2.0			○	○		○	
IDE ハードディスク			ServerWizard V2.0	○	○	○				
IDE RAID カード			ServerWizard V2.0		○	○				
ハードディスクキャビネット GP5-R1DC4			ServerWizard V2.0					○	○	○
ディスクアレイ装置 GP-DxS1 または AGP5DxS1R (x=8,16,32)			ServerWizard V2.0						○	○

オプション装置		提供媒体		機種別のサポート状況						
		ラベル名		TS110	ES200	ES210	ES280	ES310	MS380	MS410
オプション装置		提供媒体		機種別のサポート状況						
		ラベル名		TS110	ES200	ES210	ES280	ES310	MS380	MS410
SCSI アレイコントローラカード*1	GP5-141		SCSI アレイコントローラカード GP5-141 追加ディスク L10A				V6.0 用に更新して使用可*3			
			SCSI アレイコントローラカード GP5-141/142 追加ディスク L10B							
			SCSI アレイコントローラカード GP5-141/142 追加ディスク L20				○			
			SCSI アレイコントローラカード GP5-141/142 監視機能追加ディスク L20A				○			
	GP5-143		SCSI アレイコントローラカード GP5-143/144 監視機能追加ディスク L10		○	○	○	L20 に更新して使用可*2		L20 に更新して使用可*2
			SCSI アレイコントローラカード GP5-143/144/145 監視機能追加ディスク L10A		○	○	○			
			SCSI アレイコントローラカード GP5-143/144/145/146 監視機能追加ディスク L10B		○	○	○			
			SCSI アレイコントローラカード GP5-143/144/145/146 監視機能追加ディスク L20		○	○	○	○		○
	GP5-144		SCSI アレイコントローラカード GP5-144 監視機能追加ディスク L10					L20 に更新して使用可*2	○	L20 に更新して使用可*2
			SCSI アレイコントローラカード GP5-143/144 監視機能追加ディスク L10						○	
			SCSI アレイコントローラカード GP5-143/144/145 監視機能追加ディスク L10A						○	
			SCSI アレイコントローラカード GP5-143/144/145/146 監視機能追加ディスク L10B						○	
			SCSI アレイコントローラカード GP5-143/144/145/146 監視機能追加ディスク L20					○	○	○
	GP5-146		SCSI アレイコントローラカード GP5-143/144/145/146 監視機能追加ディスク L10B		○	○		L20 に更新して使用可*2	○	L20 に更新して使用可*2
			SCSI アレイコントローラカード GP5-143/144/145/146 監視機能追加ディスク L20		○	○		○	○	○
ファイバーチャネルカード GP5-FC101*1			ファイバーチャネルカード GP5-FC101 監視機能追加ディスク L10	L20 に更新して使用可*2	○	○	○	L20 に更新して使用可*2	○	L20 に更新して使用可*2
			ファイバーチャネルカード GP5-FC101 監視機能追加ディスク L20	○	○	○	○	○	○	○

(続く)

オプション装置		提供媒体		機種別のサポート状況						
		ラベル名		TS110	ES200	ES210	ES280	ES310	MS380	MS410
LAN カード	GP5-184		Additional Disk for LAN Card AFT L25	○	○	○	○	○	○	○
	GP5-185			○	○	○	○	○	○	○
	GP5-186			○	○	○	○	○	○	○

※1 一つのオプション装置につき使用できる媒体が複数ある場合には、いずれか一つをご用意ください。レベルの新しい監視機能をご使用になることを推奨します。

※2 表中に「L20 に更新して使用可」と記されている追加ディスクは、L20 に更新することで使用することができます。この追加ディスクをお持ちの方は、表中に「○」と記されている追加ディスクをお持ちでない場合に、更新してご用意ください。ご購入いただいた PRIMERGY に添付の ServerWizard の CD-ROM により更新できます。

L20 へ更新する場合は、次の操作を行います。

1. 更新したい追加ディスクの複製を作成します。

更新したい追加ディスクと同じ枚数のフォーマット済のフロッピーディスクを用意し、Windows NT / Windows 2000 / Windows 98 の「DISKCOPY」コマンドで複製します。

2. ServerWizard の CD-ROM をセットし、更新プログラムを起動します。

更新したい追加ディスクの更新プログラムを起動するには、それぞれ次のディレクトリ配下から「UPDATE.EXE」を実行します。

更新する追加ディスク	更新プログラムが格納されているディレクトリ
SCSI アレイコントローラカード GP5-144 監視機能追加ディスク L10	¥SVMANAGE¥UPDATE¥GP5-144
SCSI アレイコントローラカード GP5-143/144 監視機能追加ディスク L10	
SCSI アレイコントローラカード GP5-143/144/145 監視機能追加ディスク L10A	
SCSI アレイコントローラカード GP5-143/144/145/146 監視機能追加ディスク L10B	
ファイバーチャネルカード GP5-FC101 監視機能追加ディスク L10	¥SVMANAGE¥UPDATE¥FC101 または ¥SVMANAGE¥NT4¥UPDATE¥FC101

更新プログラムが起動します。

Point

「UPDATE.EXE」は、サーバの機種によって格納先が異なります。格納先を確認した上でコマンドを入力してください。

3. 1.で複製した追加ディスクの1枚目をフロッピーディスクドライブにセットしたあと、メッセージにしたがってフロッピーディスクを更新します。

※3 表中に「V6.0 用に更新して使用可」と記されている追加ディスクは、V6.0 用に更新することで使用することができます。この追加ディスクをお持ちの方は、表中に「○」または「△」と記されている追加ディスクをお持ちでない場合に、更新してご用意ください。ご購入いただいた PRIMERGY に添付の ServerWizard の CD-ROM により更新できます。

V6.0 用へ更新する場合は、次の操作を行います。

1. 更新したい追加ディスクの複製を作成します。

更新したい追加ディスクと同じ枚数のフォーマット済のフロッピーディスクを用意し、Windows NT / Windows 2000 / Windows 98 の「DISKCOPY」コマンドで複製します。

2. ServerWizard の CD-ROM をセットし、更新プログラムを起動します。
更新したい追加ディスクの更新プログラムを起動するには、それぞれ次のディレクトリ配下から「UPDATE.EXE」を実行します。

更新する追加ディスク	更新プログラムが格納されているディレクトリ
SCSI アレイコントローラカード GP5-141 追加ディスク L10A	¥SVMANAGE¥NT4¥UPDATE¥GP5-141¥L10A
SCSI アレイコントローラカード GP5-141/142 追加ディスク L10B	¥SVMANAGE¥NT4¥UPDATE¥GP5-141¥L10B

更新プログラムが起動します。

Point

「UPDATE.EXE」は、追加ディスクの版数によって格納先が異なります。格納先を確認した上でコマンドを入力してください。

3. 1.で複製した追加ディスクの 1 枚目をフロッピーディスクドライブにセットしたあと、メッセージにしたがってフロッピーディスクを更新します。

■Windows 2000 の場合

サポート：○

オプション装置		提供媒体		機種別のサポート状況						
		ラベル名		TS110	ES200	ES210	ES280	ES310	MS380	MS410
SCSI カード	GP5-123		ServerWizard V2.0						○	
	GP5-125						○			
	GP5-126				○	○				
	GP5-127				○	○			○	
Symbios 社製オンボード SCSI に取り付けした内蔵ハードディスク			ServerWizard V2.0			○	○		○	
IDE ハードディスク			ServerWizard V2.0	○	○	○				
IDE RAID カード			ServerWizard V2.0		○	○				
ハードディスクキャビネット GP5-R1DC4			ServerWizard V2.0						○	
ディスクアレイ装置 GP-DxS1 または AGP5DxS1R (x=8,16,32)			ServerWizard V2.0						○	
SCSI アレイコントローラカード	GP5-141		Additional Disk for RAID Card GP5-141/142/143/144/145/146 L25				○			
	GP5-143				○	○	○			
	GP5-144								○	
	GP5-146				○	○			○	
LAN カード	GP5-184		Additional Disk for LAN Card AFT L25	○	○	○	○		○	
	GP5-185			○	○	○	○		○	
	GP5-186			○	○	○	○		○	

5.3.1.2 動作環境を準備する（SNMP サービスのインストール）

LDSM が正しく動作するためには、監視機能をインストールするサーバに、SNMP サービスがインストールされている必要があります。LDSM をインストールする前に、SNMP サービスがインストールされているかどうかを確認し、インストールされていない場合にはあらかじめインストールしておいてください。

確認あるいはインストールするには、次の操作を行います。

■Windows NT の場合

- 1 Windows NT のコントロールパネルから「ネットワーク」アイコンをダブルクリックします。
- 2 「ネットワーク」ダイアログボックスで、「サービス」タブを選択します。
- 3 次のいずれかの操作を行います。
 - ・「ネットワークサービス」ボックスのリストの中に「SNMP サービス」が表示されている場合は、「ネットワーク」ダイアログボックスを閉じて、処理を終了します。この場合は、SNMP サービスがインストールされています。
 - ・「ネットワークサービス」ボックスのリストの中に「SNMP サービス」が表示されていない場合は、次の操作で SNMP サービスをインストールします。
 1. [追加] をクリックします。
 2. 「ネットワークサービス」ボックスのリストの中から「SNMP サービス」を選択し、[OK] をクリックします。
 3. メッセージにしたがって操作します。



Windows NT のインストールの際に、サービスパックを適用してから SNMP サービスをインストールした場合は、再度サービスパックを適用してください。

■Windows 2000 の場合

- 1 Windows 2000 コントロールパネルから「ネットワークとダイヤルアップ接続」アイコンをダブルクリックします。
- 2 メニューバーの「詳細設定」より、「オプションネットワークコンポーネント」を選択します。
- 3 次のいずれかの操作を行います。
 - ・「オプションネットワークコンポーネントウィザード」において「管理とモニタツール」が既にチェックされていた場合は、「管理とモニタツール」を選択し、「詳細」ボタンを押下して、「簡易ネットワーク管理プロトコル（SNMP）」がサブコンポーネントとしてチェックされているかを確認して下さい。チェックされている場合は、既に SNMP サービスがインストールされています。この場合は、処理を終了してください。
 - ・「オプションネットワークコンポーネントウィザード」において「管理とモニタツール」がチェックされていない場合は、次の操作で SNMP サービスをインストールします。

1. 「オプションネットワークコンポーネントウィザード」で「管理とモニタツール」のチェックボックスをクリックして選択します。
2. 「詳細」ボタンを押下し、「管理とモニタツール」のサブコンポーネントとして「簡易ネットワーク管理プロトコル(SNMP)」が選択されていることを確認し、[OK] をクリックします。
3. 「オプションネットワークコンポーネントウィザード」で [次へ] をクリックします。
4. メッセージにしたがって操作します。

5.3.1.3 動作環境を準備する（システムイベントログの初期化）

すべての監視機能が正しく動作するためには、サーバのイベントログ情報を格納しているシステムイベントログを初期化しておく必要があります。

▶初期化の方法について→『PRIMERGY 取扱説明書』参照

5.3.1.4 サーバに SMM2 を搭載している場合

SMM2 は、サーバ本体の監視機能に追加インストールできる SMM2 用ドライバ/ファームウェアにより動作します。SMM2 用ドライバ/ファームウェアが正しく動作するには、SMM2 がサーバに正しくセットアップされている必要があります。SMM2 用ドライバ/ファームウェアをインストールする前に、次の準備作業を行ってください。ただし、サーバに新規に監視システムを構築する場合は、サーバ本体の監視機能と同時に SMM2 用ドライバ/ファームウェアをインストールできるので、サーバ本体の監視機能をインストールする前に準備作業を行ってください。

■SMM2 用ドライバ/ファームウェアを用意する

最初に、次の表により SMM2 用ドライバ/ファームウェアの提供媒体をご用意ください。

オプション装置	提供媒体 ラベル名	機種別のサポート状況						
		TS110	ES200	ES210	ES280	ES310	MS380	MS410
SMM2 (GP5-SM103)	 ServerWizard V2.0		○	○	○	○	○	○

■SMM2 カーネルをインストールする

- 1 サーバの電源を投入し、CD-ROM の取出しボタン（EJECT）を押して、サーバに添付の ServerWizard の CD-ROM をセットします。
- 2 「MS-DOS 6.2 Startup Menu」で、「SMM Utility (Setup / Test)」を選択します。

3 以下のとおり順に入力します。

■Windows NT の場合

X: 【Enter】	(CD-ROM ドライブが X の場合)
CD ¥SVMANAGE¥SMM2UTIL 【Enter】	
FLASHALL.BAT 【Enter】	

または

X: 【Enter】	(CD-ROM ドライブが X の場合)
CD ¥SVMANAGE¥NT4¥SMM2UTIL 【Enter】	
FLASHALL.BAT 【Enter】	

■Windows 2000 の場合

X: 【Enter】	(CD-ROM ドライブが X の場合)
CD ¥SVMANAGE¥W2K¥SMM2UTIL 【Enter】	
FLASHALL.BAT 【Enter】	

「SMM2 Flash written successfully.」というメッセージに続いて、「Please reset SMM2.」というメッセージが表示されます。

Point

「FLASHALL.BAT」は、サーバの機種、OS によって格納先が異なります。格納先を確認した上でコマンドを入力してください。



「SMM2 Flash written successfully.」と異なるメッセージが表示される場合、SMM2 が故障している可能性があります。

4 SMM2 のリセットボタンを押し、SMM2 をリセットします。

リセットボタンは、ペーパーリップや鉛筆の先などの尖ったものを使って、電源ランプが消えるまで押し続けます。SMM2 の電源ランプが消えるのを確認したら、リセットボタンから手を離します。なお、リセットボタンの位置については、SMM2 に添付の取扱説明書を参照してください。

5 サーバのコンソール画面で任意のキーを押します。

「Please wait about 5 minutes to complete reset of SMM2.」のメッセージが表示されます。メッセージにしたがって、約 5 分待つと、「Please restart your system.」というメッセージが表示されます。

6 ServerWizard の CD-ROM を CD-ROM ドライブから取り出し、システムを再起動します。

■SMM2 をネットワークに接続する

SMM2 用のファームウェアが正しく動作するためには、SMM2 が LAN に接続されている必要があります。SMM2 に LAN ケーブルを取り付け、ネットワークに接続してください。

■SMM2 のネットワーク設定の前に

SMM2 用ドライバ/ファームウェアが正しく動作するには、SMM2 のネットワークの設定を正しく行う必要があります。ネットワークの設定は、次の表の設定項目にしたがって SMM2 用ドライバ/ファームウェアのインストール時に行うので、インストールする前に設定する値を確認しておく必要があります。

設 定 項 目	設 定 す る 値
IP アドレス	. . .
サブネットマスク	. . .
デフォルトゲートウェイ	. . .
DNS サーバ	. . .
ダイヤルインのローカル IP アドレス	. . .
ダイヤルインのリモート IP アドレス	. . .

インストール時に設定する値は、次に示す各設定項目の設定内容にしたがって、上の表(空欄)にあらかじめご記入ください。

・ IP アドレス

SMM2 に割り当てる IP アドレスを設定します。SMM2 に割り当てる IP アドレスは、サーバの LAN カード (ネットワークアダプタ [1]) に割り当てる IP アドレスと同じネットワークセグメントを持つように設定する必要があります。ネットワーク LAN カードの IP アドレスは、次の操作により確認できます。

■Windows NT の場合

1. Windows NT のコントロールパネルから「ネットワーク」アイコンをダブルクリックします。
2. 「ネットワーク」ダイアログボックスで、「プロトコル」タブを選択します。
3. 「TCP/IP プロトコル」をダブルクリックします。
4. 「Microsoft TCP/IP のプロパティ」ダイアログボックスで、「アダプタ」の中の「ネットワークアダプタ [1]」を選択し、割り当てられた IP アドレスを確認します。

■Windows 2000 の場合

1. コントロールパネルから「ネットワークとダイヤルアップ接続」アイコンをダブルクリックします。
2. 「ネットワークとダイヤルアップ接続」ウィンドウで、「ローカルエリア接続」をダブルクリックします。
3. 「ローカルエリア接続 状態」ダイアログボックスで、「プロパティ」をクリックします。
4. 「ローカルエリア接続のプロパティ」ダイアログボックスで「インターネットプロトコル (TCP/IP)」をダブルクリックします。

5. 「インターネットプロトコル (TCP/IP)」ダイアログボックスで、割り当てられた IP アドレスを確認します。
- サブネットマスク
SMM2 に割り当てる IP アドレスのサブネットマスクを設定します。
- デフォルトゲートウェイ
デフォルトゲートウェイがある場合に設定します。
- DNS サーバ
DNS サーバがある場合に設定します。
- ダイアルインのローカル IP アドレス/リモート IP アドレス
公衆回線 (モデム) 経由で管理端末から SMM2 にアクセスする機能 (「SMM2 RAS セッション」機能) を使用する場合に設定します。これらのアドレスは、SMM2 の IP アドレスと同じネットワークセグメントを持つように設定してください。



- SMM2 に割り当てる IP アドレスは、必ずネットワークアダプタ[1]の IP アドレスと同じネットワークセグメントを持つように設定してください。サーバに複数の LAN 同一ネットワークセグメントを持つようになるように割り当てると、リモートコントロール機能が正常に動作しなくなります。
- ネットワークアダプタ[1]の IP アドレスのネットワークセグメントを変更する場合は、SMM2 に割り当てる IP アドレスも変更後のネットワークセグメントを持つように変更してください。



ローカル IP アドレスとリモート IP アドレスは、SMM2 と管理端末の間を、「SMM2 RAS セッション」機能で通信するときのみ使用されるローカルアドレスです。まわりのネットワークには何ら影響を及ぼしません。

5.3.2 PRIMERGY ES200/ES210/ES280/MS380 の場合

5.3.2.1 動作環境を準備する (SNMP サービスの認証コミュニティ名)

管理コンソールが正しく動作するためには、SNMP サービスのセキュリティの設定で、通信を受け付けるコミュニティ名として「public」が設定されている必要があります。「public」は、SNMP サービスをインストールすると、初期値で「認証コミュニティ名」として設定されます。他のコミュニティ名に変更されていないかどうかを確認し、変更されている場合は、再設定してください。

確認および再設定するには、次の操作を行います。

■Windows NT の場合

- 1 Windows NT のコントロールパネルから「ネットワーク」アイコンをダブルクリックします。
- 2 「ネットワーク」ダイアログボックスで、「サービス」タブをクリックします。
- 3 「SNMP サービス」を選択し、[プロパティ] をクリックします。

4 「セキュリティ」タブをクリックし、次のいずれかの操作を行います。

- ・「受け付けるコミュニティ名」ボックスに、「public」が表示されている場合は、「ネットワーク」ダイアログボックスを閉じて、処理を終了します。この場合は、変更されていません。
- ・「受け付けるコミュニティ名」ボックスに「public」が表示されていない場合は、次の操作で再設定します。
 1. [追加] をクリックします。
 2. 「コミュニティ名」に「public」と入力し、[追加] をクリックします。
 3. [OK] をクリックします。
 4. [閉じる] をクリックします。

Point

認証コミュニティ名は、「public」にかぎらず、他のコミュニティ名も追加して使用できます。
▶他の認証コミュニティ名的使用方法について→「付録 D.2.5」参照

■Windows 2000 の場合

- 1 Windows 2000 のコントロールパネルから「管理ツール」アイコンをダブルクリックします。
- 2 「管理ツール」ウィンドウで、「サービス」アイコンをダブルクリックします。
- 3 「SNMP Service」を選択し、[プロパティ] をクリックします。
- 4 「セキュリティ」タブをクリックし、次のいずれかの操作を行います。
 - ・「受け付けるコミュニティ名」ボックスに「public」が表示されていない場合は、次の操作で再設定します。
 1. [追加] をクリックします。
 2. 「コミュニティの権利」で「READ CREATE」を選択します。
 3. 「コミュニティ名」に「public」と入力し、[追加] をクリックします。
 4. [OK] をクリックします。
 5. [OK] をクリックします。
 - ・「受け付けるコミュニティ名」ボックスに、「public」が表示されている場合は、「public」を選択し、次の操作により「コミュニティの権利」を、「READ ONLY」から「READ CREATE」に変更します。
 1. [編集] をクリックします。
 2. 「コミュニティの権利」で「READ CREATE」を選択します。
 3. [OK] をクリックします。
 4. [OK] をクリックします。

Note

- ・運用上の問題などにより「public」の「コミュニティの権利」を変更できない場合には、別のコミュニティ名を使用する必要があります。この場合には、サーバ側にし、コンソール側で「Community.ini」ファイルを作成し編集してください。
▶他の認証コミュニティ名的使用方法について→「付録 D.2.5」参照

5.4 インストーラの起動

監視対象にしたいサーバで、または管理端末にしたいパソコンで LDSM のインストーラを起動します。サーバには、サーバ本体/オプション装置の監視機能、管理端末にしたいパソコンには管理コンソールをそれぞれインストールできます。サーバまたはパソコンで共通のインストーラを起動することで、監視システムを構築できます。

LDSM に添付の標準のインストーラは、サーバまたはパソコンで次の共通操作で起動します。

- 1 管理者または管理者と同等の権限をもつユーザとしてログインします。

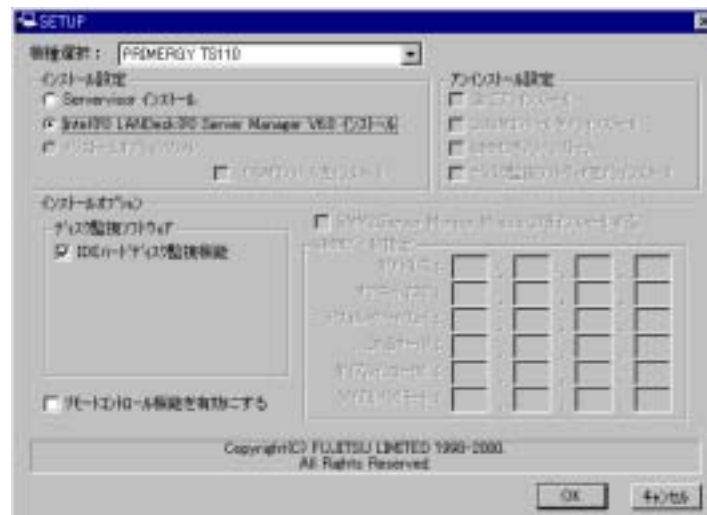
Point 管理端末にしたいパソコンが Windows98 の場合は、単にユーザ名でログインします。

- 2 実行中のアプリケーションをすべて終了させます。

- 3 ServerWizard の CD-ROM から、「SVMANAGE」ディレクトリ配下の「SETUP.EXE」を実行します。

次のどちらかが表示されます。

- ・サーバでインストーラを起動した場合には、「SETUP」ダイアログボックスが表示されます。



- ・管理端末にしたいパソコンでインストーラを起動した場合には、「SETUP」を開始するメッセージが表示されます。

5.5 サーバ本体の監視機能をインストールする

サーバに LDSM の監視システムを新規に構築する場合は、最初にサーバ本体の監視機能をインストールします。またその際には、次のソフトウェアを同時にインストールすることもできます。

- CD-ROM で提供されているオプション装置の監視機能
オプション装置の監視機能は、搭載/接続されているオプション装置を監視する場合に、そのオプション装置ごとに必要です。
▶オプション装置の監視機能の提供について→「第 2 部 5.3.1.1」参照
- SMM2 用ドライバ/ファームウェア
サーバに SMM2 を搭載している場合に必要です。

サーバを管理端末として使用せず、監視機能が追加ディスクで別途提供されているオプション装置が搭載/接続されていない場合には、サーバ本体の監視機能をインストールする際に、LDSM のサーバへのインストールを完了させることもできます。なお、管理端末には、監視対象のサーバとは別のパソコンをご使用になることを推奨します。

サーバ本体の監視機能および必要なソフトウェアをインストールするには、次の操作を行います。

Note

- 作業をはじめる前に、サーバで使用するオプション装置は、サーバ本体またはオプション装置の取扱説明書にしたがってあらかじめ取り付けておいてください。
- 追加ディスクで提供されているオプション装置は、サーバ本体の監視機能と同時にインストールできません。サーバ本体の監視機能をインストールしたあとに、追加インストールしてください。
▶追加インストールの方法→「第 2 部 5.6」参照
- SMM2 を搭載している場合は、インストールする前に必要な準備作業を行ってください。
▶必要な準備作業→「第 2 部 5.3.1.4」参照
- サーバに新規に監視システムを構築する場合、最初にオプション装置の監視機能のみをインストールすることはできません。オプション装置の監視機能は、サーバ本体の監視機能に追加することで動作するソフトウェアです。

1 サーバ本体の監視機能をインストールするサーバで、インストーラを起動します。

▶インストーラの起動方法→「第 2 部 5.4」参照

「SETUP」ダイアログボックスが表示されます。

Point

「ディスク監視ソフトウェア」グループは、サーバの機種ごとに表示されるオプションが異なります。それぞれの機種でインストールできる監視機能のみが表示されます。

2 次のとおり設定し、[OK] をクリックします。

- ・ 「インストール設定」グループで、「Intel(R) LANDesk(R) Server Manager V6.0 インストール」を選択します。



サーバによっては「LDSM コンソールをインストール」が選択できる機種がありますが、ここでは「LDSM コンソールをインストール」を選択しないでください。

- ・ 「インストールオプション」グループの「ディスク監視ソフトウェア」グループで、次のいずれかのオプション装置がサーバに搭載/接続されている場合に、それぞれのオプションをチェックします。
 - － SCSI カード、または Adaptec 社製オンボード SCSI を使用する内蔵ハードディスクユニット
「Adaptec SCSI 監視機能」オプションをチェックします。アレイタイプなどで、SCSI カードおよびオンボード SCSI を使用しない場合は、チェックを外してください。このオプションのチェックを外すと、「ディスクアレイ装置監視機能」のチェックも同時に外れます。
 - － オンボード IDE コントローラに取り付けられた IDE ハードディスク
「IDE ハードディスク監視機能」オプションをチェックします。
 - － IDE RAID カード
「IDE RAID カード監視機能」オプションをチェックします。
 - － Symbios 社製オンボード SCSI を使用する内蔵ハードディスクユニット
「Symbios SCSI 監視機能」オプションをチェックします。アレイタイプなどで、オンボード SCSI を使用しない場合は、チェックを外してください。
 - － RCI ケーブルで接続されたハードディスクキャビネット
「ハードディスクキャビネット監視機能」オプションをチェックします。
 - － ディスクアレイ装置
「ディスクアレイ装置監視機能」オプションをチェックします。このオプションをチェックすると、「Adaptec SCSI 監視機能」オプションをチェックしていない場合に「Adaptec SCSI 監視機能」オプションも同時にチェックされます。
- ・ LDSM のリモートコントロール機能を使用する場合は、「リモートコントロール機能を有効にする」をチェックします。
- ・ サーバに SMM2 を取り付けけた場合は、「SMM2 (Server Monitor Module 2) をインストールする」をチェックし、「SMM2-IP 指定」グループで次のボックスをそれぞれ入力します。
 - ▶入力する値→「第 2 部 5.3.1.4」の「■SMM2 のネットワーク設定の前に」参照
 - － IP アドレス（入力必須）
 - － サブネットマスク（入力必須）
 - － デフォルトゲートウェイ
 - － DNS サーバ
 - － ダイアルインローカル
 - － ダイアルインリモート

3 「使用許諾契約」ダイアログボックスで、「はい、同意します」を選択し、[OK]をクリックします。

インストールが開始します。インストールが完了すると、インストールを終了するメッセージが表示されます。



インストール完了時に次のメッセージが表示された場合は、インストールが正しく行われていません。

Intel(R) LANDesk(R) Server Manager V6.0 のインストールが終了しました。しかしインストールに一部失敗した個所があります。マシン環境および <システムドライブ>:\LDSMERR.LOG を確認してください。

この場合には、インストールされていないソフトウェアが正しくインストールされるように対処し、インストールされていないソフトウェアのみ、もう一度インストールし直す必要があります。

▶ 対処方法 → 「付録 D.2.1」 参照

4 [OK] をクリックします。

システムが自動的に再起動します。



- ・ [キャンセル] をクリックした場合は、システムは再起動されません。追加インストールを行う場合や運用を開始する前には、必ずシステムを再起動してください。

5.6 サーバ本体の監視機能に追加インストールする

サーバ本体の監視機能がインストール済のサーバには、次のソフトウェアを追加インストールできます。

- オプション装置の監視機能
オプション装置の監視機能は、搭載/接続されているオプション装置を監視する場合に、そのオプション装置ごとに必要です。
- 管理コンソール
サーバを管理端末に使用する場合に必要です。
- SMM2 用ドライバ/ファームウェア
SMM2 を搭載している場合に必要です。

LDSM の監視システムは、これらのソフトウェアのうち、必要なソフトウェアがサーバ本体の監視機能にすべて追加されると、構築が完了します。サーバ本体の監視機能がインストール済のサーバでは、必要なソフトウェアが未インストールの場合に、追加インストールしてください。

それぞれのソフトウェアの追加インストールの手順は、以下のとおりです。

Note

- 作業をはじめる前に、サーバで使用するオプション装置は、サーバ本体またはオプション装置の取扱説明書にしたがってあらかじめ取り付け付けておいてください。

5.6.1 オプション装置の監視機能を追加インストールする

サーバ本体の監視機能がインストール済のサーバには、オプション装置ごとにオプション装置の監視機能のみを追加インストールできます。

新規にサーバに監視システムを構築する場合には、サーバ本体の監視機能をインストールしたあと、搭載/接続されているオプション装置に必要な監視機能が未インストールの場合に、追加インストールします。新規インストール時のほかにも、次の場合にオプション装置の監視機能を追加インストールします。

- LDSM を導入済のサーバへ新規にオプション装置を搭載/接続する場合
▶オプション装置の監視機能を用意する→「第 2 部 5.3.1.1」参照

オプション装置の監視機能を追加インストールするには、次の操作を行います。

5.6.1.1 CD-ROM で提供されている場合

- 1 オプション装置の監視機能をインストールするサーバで、インストーラを起動します。

▶インストーラの起動方法→「第 2 部 5.4」参照

「SETUP」ダイアログボックスが表示されます。

Point

「ディスク監視ソフトウェア」グループは、サーバの機種ごとに表示されるオプションが異なります。それぞれの機種でインストールできる監視機能のみが表示されます。

2 次のとおり設定し、[OK] をクリックします。

- ・ 「インストール設定」グループで、「インストールオプションのみ」を選択します。
- ・ 「インストールオプション」グループの「ディスク監視ソフトウェア」グループで、次のいずれかのオプション装置の監視機能をインストールする場合に、それぞれのオプションをチェックします。

Point

すでにインストール済の監視機能は、グレーで表示されます。

- － SCSI カード、または Adaptec 社製オンボード SCSI を使用する内蔵ハードディスクユニット
「Adaptec SCSI 監視機能」オプションをチェックします。
- － オンボード IDE コントローラに取り付けられた IDE ハードディスク
「IDE ハードディスク監視機能」オプションをチェックします。
- － IDE RAID カード
「IDE RAID カード監視機能」オプションをチェックします。
- － Symbios 社製オンボード SCSI を使用する内蔵ハードディスクユニット
「Symbios SCSI 監視機能」オプションをチェックします。
- － RCI ケーブルで接続されたハードディスクキャビネット
「ハードディスクキャビネット監視機能」オプションをチェックします。
- － ディスクアレイ装置
「ディスクアレイ装置監視機能」オプションをチェックします。このオプションをチェックすると、「Adaptec SCSI 監視機能」オプションをチェックしていない場合に「Adaptec SCSI 監視機能」オプションも同時にチェックされます。

3 「使用許諾契約」ダイアログボックスで、「はい、同意します」を選択し、[OK] をクリックします。

インストールが開始します。インストールが完了すると、インストールを終了するメッセージが表示されます。

4 [OK] をクリックします。

システムが自動的に再起動します。



[キャンセル] をクリックした場合は、システムは再起動されません。運用を開始する前には、必ずシステムを再起動してください。

5.6.1.2 追加ディスクで提供されている場合

- 1 サーバに、管理者または同等の権限をもつユーザとしてログインします。
- 2 実行中のアプリケーションをすべて終了させます。
- 3 オプション装置の監視機能が収められた追加ディスク（複数枚で構成されている場合は1枚目）をフロッピドライブに挿入し、「SERVER」ディレクトリ配下の「SETUP.EXE」を実行します。

インストールを開始するメッセージが表示されます。

4 **「はい」をクリックします。**

インストールが開始します。インストールが完了すると、インストールを終了するメッセージが表示されます。

Point

インストール中に、サービスが停止するというメッセージが表示される場合は、「続行」をクリックします。停止したサービスは、インストールが終了したあと、システムを再起動するときに自動で起動します。

5 **「OK」をクリックします。**

6 **オプション装置の監視機能が収められた追加ディスクをフロッピードライブから取り出します。**

Note

他のオプション装置の監視機能をインストールする場合は、手順 3 に戻ります。

7 **システムを再起動します。**

5.6.2 LDSM コンソールを追加インストールする

サーバ本体の監視機能がインストール済のサーバには、LDSM コンソールのみを追加インストールできます。LDSM コンソールは、管理コンソールを構成するソフトウェアの 1 つです。サーバに管理コンソールをインストールして管理端末として使用する場合に、LDSM コンソールの追加インストールが必要になります。

▶管理コンソールのインストール方法→「第 2 部 5.7」参照

5.6.3 SMM2 用ドライバ/ファームウェアを追加インストールする

サーバの監視機能がインストール済のサーバには、SMM2 用ドライバ/ファームウェアのみを追加インストールできます。サーバに SMM2 を新規に搭載する場合などに、追加インストールします。

SMM2 用ドライバ/ファームウェアを追加インストールするには、次の操作を行います。

Note

・作業をはじめる前に、SMM2 を SMM2 に添付の取扱説明書にしたがってあらかじめ取り付けておいてください。

・SMM2 用ドライバ/ファームウェアをインストールする前に、準備作業を行う必要があります。

▶インストールの準備について→「第 2 部 5.3.1.4」参照

・サーバに新規に監視システムを構築する場合、最初に SMM2 用ドライバ/ファームウェアのみをサーバにインストールすることはできません。SMM2 用ドライバ/ファームウェアは、サーバ本体の監視機能に追加することで動作するソフトウェアです。

・SMM2 用ドライバ/ファームウェアの再インストールする場合は、SMM2 用ドライバ/ファームウェアをアンインストールしてから行ってください。

▶アンインストールの方法→「第 2 部 5.10.4」参照

1 SMM2 用ドライバ/ファームウェアをインストールするサーバでインストーラを起動します。

▶インストーラの起動方法→「第2部 5.4」参照
「SETUP」ダイアログボックスが表示されます。

2 次のとおり設定し、[OK] をクリックします。

- ・ 「インストール設定」グループで、「インストールオプションのみ」を選択します。
- ・ 「インストールオプション」グループで、「SMM2 (Server Monitor Module 2) をインストールする」を選択し、「SMM2-IP 指定」グループで次のボックスをそれぞれ入力します。

▶入力する値→「第2部 5.3.1.4」の「■SMM2 のネットワーク設定の前に」参照

- ー IP アドレス (入力必須)
- ー サブネットマスク (入力必須)
- ー デフォルトゲートウェイ
- ー DNS サーバ
- ー ダイアルインローカル
- ー ダイアルインリモート

3 「使用許諾契約」ダイアログボックスで、「はい、同意します」を選択し、[OK] をクリックします。

インストールが開始します。インストールが完了すると、インストールを終了するメッセージが表示されます。



インストール完了時に次のメッセージが表示された場合は、インストールが正しく行われていません。

Intel(R) LANDesk(R) Server Manager V6.0 のインストールが終了しました。しかしインストールに一部失敗した個所があります。マシン環境および <システムドライブ>:\LDSMERR.LOG を確認してください。

この場合には、正しくインストールできるように対処し、インストールをやり直す必要

▶対処方法→「付録 D.2.1」参照

4 [OK] をクリックします。

システムが自動的に再起動します。



[キャンセル] をクリックした場合は、システムは再起動されません。運用を開始する前には、必ずシステムを再起動してください。

5.7 管理コンソールをインストールする

LDSM の監視システムを新規に構築する場合、あるいは管理端末を他のパソコン/サーバに切り替えて使用する場合には、管理端末に使用したいパソコン/サーバに新規に管理コンソールをインストールします。ただし、サーバを管理端末に使用する場合は、LDSM の監視システムが構築されているサーバにだけ管理コンソールをインストールできます。

管理コンソールをインストールする場合は、次の順序で各ソフトウェアをインストールします。

1. LDSM コンソール
2. ISC コンソール
3. オプション装置の管理コンソール

なお、サーバを管理端末に使用する場合には、「第 2 部 5.5」でサーバ本体の監視機能をインストールしたあとに、管理コンソールの各ソフトウェアをインストールしてください。これらのソフトウェアをインストールすると、管理端末にサーバのハードウェアの各部の現在の状態を表示できるようになります。

それぞれのソフトウェアをインストールする手順は、以下のとおりです。



新規に管理端末を構築する場合、最初にオプション装置の管理コンソールのみをインストールすることはできません。オプション装置の管理コンソールは、LDSM コンソール

5.7.1 LDSM コンソールをインストールする

管理端末に使用したいパソコン/サーバに、LDSM コンソールをインストールします。LDSM コンソールをインストールすると、CD-ROM で提供されているオプション装置の管理コンソールだけが、一括して自動的にインストールされます。

LDSM コンソールをインストールするには、管理端末に使用したいパソコンあるいはサーバで、次の操作を行います。

5.7.1.1 パソコンの場合

- 1 LDSM コンソールをインストールするパソコンでインストーラを起動します。
▶インストーラの起動方法→「第 2 部 5.4」参照
インストールを開始するメッセージが表示されます。
- 2 [OK] をクリックします。
- 3 「使用許諾契約」ダイアログボックスで、「はい、同意します」を選択し、[OK] をクリックします。
■Windows NT、Windows 98 の場合
インストールが開始します。インストールが完了すると、インストールを終了するメッセージが表示されます。

■Windows 2000 の場合

インストールが開始し、インストール中に「マネージメントインストーラ」ダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスは、ボタンをクリックすると表示が変わります。下表のとおり順次表示が変わるので、そのたびに表に指定されたボタンをクリックしてってください。特定のところでは、選択項目や入力項目が表示される場合がありますが、何もせずにそのままボタンをクリックしてください。

Note

途中で処理を中断したり下記で指示した手順以外の操作を行うと、正しくインストールされません。インストールは最後まで確実に行ってください。

ダイアログボックスの表示 (表示されるタイトル)	クリックするボタン	備考
ようこそ	[次へ]	
使用許諾契約	[次へ]	
登録	[次へ]	
コンポーネントの選択	[次へ]	
コンソール フォルダ	[次へ]	
セットアップのまとめ	[インストール]	
ファイルの転送中	[次へ]	転送終了後、押下可能
AMS サービスを転送しています	[次へ]	転送終了後、押下可能
セットアップが完了しました	[完了]	[今すぐ再起動] は絶対に選択しないでください。

4 [OK] をクリックします。

システムが自動的に再起動します。

Note

[キャンセル] をクリックした場合は、システムは再起動されません。運用を開始する前には、必ずシステムを再起動してください。

5.7.1.2 サーバの場合

サーバ本体の監視機能がインストール済のサーバに、LDSM コンソールを追加インストールします。

1 LDSM コンソールをインストールするサーバでインストーラを起動します。

▶インストーラの起動方法→「第2部 5.4」参照

「SETUP」ダイアログボックスが表示されます。

2 「インストール設定」グループで、「インストールオプションのみ」および「LDSM コンソールをインストール」を選択し、[OK] をクリックします。

Note

ここで他のオプションを選択しないでください。他のオプションのインストールが失敗することがあります。失敗した場合は、システムを再起動後にもう一度他のオプション

- 3 「使用許諾契約」ダイアログボックスで、「はい、同意します」を選択し、[OK] をクリックします。

インストールが開始します。インストールが完了すると、インストールを終了するメッセージが表示されます。

- 4 [OK] をクリックします。

システムが自動的に再起動します。

Note

[キャンセル] をクリックした場合は、システムは再起動されません。運用を開始する前には、必ずシステムを再起動してください。

5.7.2 ISC コンソールをインストールする

管理端末から監視したいサーバの中に、GRANPOWER5000 HS900、モデル 780/680/580 のいずれかのサーバがある場合に、ISC コンソールをインストールします。

Point

- 本製品の CD-ROM には、ISC コンソールは含まれていません。GRANPOWER5000 HS900、モデル 780/680/580 のいずれかに添付されている CD-ROM から、「ISC」ディレクトリ配下の「SETUP.EXE」を実行し、ISC コンソールをインストールしてください。詳細な手順については、それぞれの機種に添付の『お使いになる前に』を参照してください。
- Intel® LANDesk® Server Manager V6.0 L40A (GRANPOWER5000 HS900 またはモデル 680/580 用)の CD-ROM から、ISC コンソールをインストールした場合は、ISC コンソールをインストールしたあとに、本製品の CD-ROM から「¥SVMANAGE¥RECOVERY¥AMS」ディレクトリまたは「¥SVMANAGE¥NT4¥RECOVERY¥AMS」ディレクトリ配下の「SETUP.EXE」を実行して、表示にしたがって修正モジュールを適用してください。なお、V6.0 L40A 以外の CD-ROM から、ISC コンソールをインストールした場合は、この操作は必要ありません。また、Windows 2000 上に ISC コンソールをインストールした場合も、この操作は必要ありません。

5.7.3 オプション装置の管理コンソールをインストールする

ISC コンソールをインストールしたあとは、次に、追加ディスクで提供されているオプション装置の管理コンソールをオプション装置ごとにインストールします。CD-ROM で提供されているオプション装置の管理コンソールは、LDSM コンソールをインストールする際に、自動的にインストールされます。

- 1 管理端末に、管理者または管理者と同等の権限をもつユーザとしてログインします。

Point

Windows 98 のパソコンにインストールする場合には、単にユーザ名でログインします。

- 2 実行中のアプリケーションをすべて終了させます。
- 3 オプション装置の監視機能が収められた追加ディスク（複数枚で構成されている場合は1枚目）をフロッピィドライブに挿入し、「CONSOLE」ディレクトリ配下の「SETUP.EXE」を実行します。

インストールを開始するメッセージが表示されます。

4 [はい] をクリックします。

インストールが開始します。インストールが完了すると、インストールを終了するメッセージが表示されます。

5 [OK] をクリックします。

6 オプション装置の監視機能が収められた追加ディスクをフロッピィドライブから取り出します。



- 他のオプション装置の管理コンソールをインストールする場合は、手順 3 に戻ります。
- システムを再起動する必要はありません。

5.8 インストール後のサーバの設定について

LDSM をインストールしたあとは、LDSM を正しく運用できるようにサーバを設定します。また、ご使用の際には、ご使用上の留意事項をよくお読みになり、正しくご使用ください。

サーバを以下のとおり設定します。

▶ご使用上の留意事項→「付録 D」参照

5.8.1 LDSM のリモートコントロール機能を設定する

PRIMERGY に添付の高信頼ツールの中で、LDSM、SystemWalker、LiveHelp には、それぞれリモートコントロール機能があります。いずれかのツールのリモートコントロール機能を使用するには、LDSM でリモートコントロール機能を次のように設定する必要があります。

- LDSM のリモートコントロール機能を使用したい場合
LDSM のリモートコントロール機能を「有効」に設定します。
- 他のソフトウェアのリモートコントロール機能を使用したい場合
LDSM のリモートコントロール機能を「無効」に設定します。

また、それぞれのツールのリモートコントロール機能の使用について、「付録 D.2.3」に留意事項が記載されています。留意事項をお読みになり、どのツールのリモートコントロール機能を使用するかを選択の上、LDSM のリモートコントロール機能を設定してください。

LDSM のリモートコントロール機能を設定するには、次の操作を行います。

- 1 **LDSM のリモートコントロール機能の設定を変更するサーバで、インストーラを起動します。**

▶インストーラの起動方法→「第 2 部 5.4」参照

「SETUP」ダイアログボックスが表示されます。

- 2 **次のとおり設定し、[OK] をクリックします。**

- 「インストール設定」グループで、「インストールオプションのみ」を選択します。
- 「インストールオプション」グループで、LDSM のリモートコントロール機能を有効にするには、「リモートコントロール機能を有効にする」を選択します。
また、LDSM のリモートコントロール機能を無効にするには、「リモートコントロール機能を有効にする」のチェックを外します。

- 3 **「使用許諾契約」ダイアログボックスで、「はい、同意します」を選択し、[OK] をクリックします。**

セットアップが開始します。セットアップが完了すると、セットアップを終了するメッセージが表示されます。

4 [OK] をクリックします。

システムが自動的に再起動します。



[キャンセル] をクリックした場合は、システムは再起動されません。運用を開始する前には、必ずシステムを再起動してください。

5.8.2 LDSM コンソールのパスワードを変更する

LDSM コンソールは、インストールすると、デフォルトで管理者権限をもつアカウント（ユーザ名「root」とパスワード「calvin」）が設定されます。このアカウントのユーザ「root」のパスワードは、必ずすべての監視対象サーバごとに変更してから運用してください。変更しないと、デフォルトのパスワードでだれでも管理者としてログインできてしまい、セキュリティを維持できなくなります。

パスワードを変更するには、以下の操作を行います。

- 1 LDSM コンソールのナビゲーションウィンドウで、変更するアカウントのあるサーバを選択します。
- 2 「タスク」タブを選択し、「サーバユーザの設定」を選択します。
- 3 「ユーザパスワードと権限の編集」を選択し、[次へ] をクリックします。
- 4 「root」を選択し、[次へ] をクリックします。
- 5 新規パスワード、新しいパスワードの確認をそれぞれ入力して、[適用] をクリックします。
- 6 「結果」ダイアログボックスでパスワードが変更されたことを確認します。
- 7 [ホーム] をクリックしてタスクを終了します。

5.8.3 サーバに SMM2 を取り付けた場合

サーバに SMM2 を取り付けた場合は、LDSM をインストールしたあとに設定作業が必要です。LDSM と SMM2 が正しく動作できるように、運用の前にあらかじめ設定しておきます。

必要な設定作業は以下のとおりです。

■SMM2 の監視項目に対するイベントログへの書込みについて

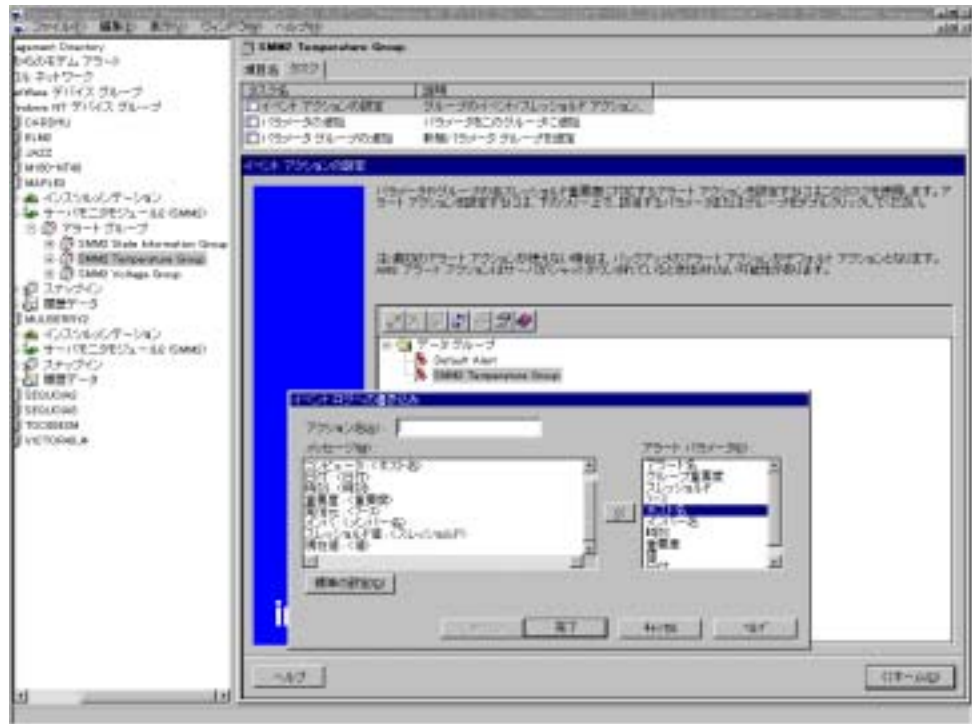
初期設定では、SMM2 の監視項目に基づいて監視が行われても、サーバのイベントログに記録が残りません。LDSM と SMM2 を使用してサーバを運用するときは、必ずサーバのイベントログに SMM2 の記録を残すようにしてください。

イベントログに SMM2 の記録が残るようにするには、次の操作を行います。

- 1 Server Manager コンソールを起動します。
- 2 ツリーウィンドウで、「Windows NT デバイスグループ（またはユーザが追加したデバイスグループ）」の対象サーバの「サーバモニタモジュール 2（SMM2） | アラートグループ」を選択します。
- 3 「SMM2 Temperature Group」アイコンを選択し、「タスク」タブを選択します。
- 4 「タスク」ページで、以下の操作を行います。
 1. リストウィンドウで、「イベントアクションの設定」を選択します。
 2. プレゼンテーションウィンドウで、「AMS2 アラートの設定」を選択します。
 3. 「次へ」をクリックします。
- 5 プレゼンテーションウィンドウで、イベントログへの書込みを設定するグループ名をダブルクリックします。
- 6 「アクションの選択」ダイアログボックスで、「イベントログへの書き込み」をダブルクリックします。
- 7 「アクションコンピュータの選択」ダイアログボックスで、SMM2 を取り付けたサーバを選択し、「次へ」をクリックします。
- 8 「アクションの重要度の選択」ダイアログボックスで、イベントログを書き込むアクションを選択し、「次へ」をクリックします。

9 「イベントログへの書き込み」ダイアログボックスで、以下の操作を行います。

1. 「標準の設定」をクリックします。
2. 以下の項目を追加します。
メンバ：〈メンバ名〉
スレッシュホールド値：〈スレッシュホールド〉
現在値：〈値〉



3. 「完了」をクリックします。

10 「SMM2 Voltage Group」に対しても、手順 4 ～ 9 を繰り返します。

なお、「SMM2 State Information Group」に対しては、「自サーバのイベントログへの書き込み」を設定する必要はありません。

■FMFX-411 外付けモデムを使用する場合

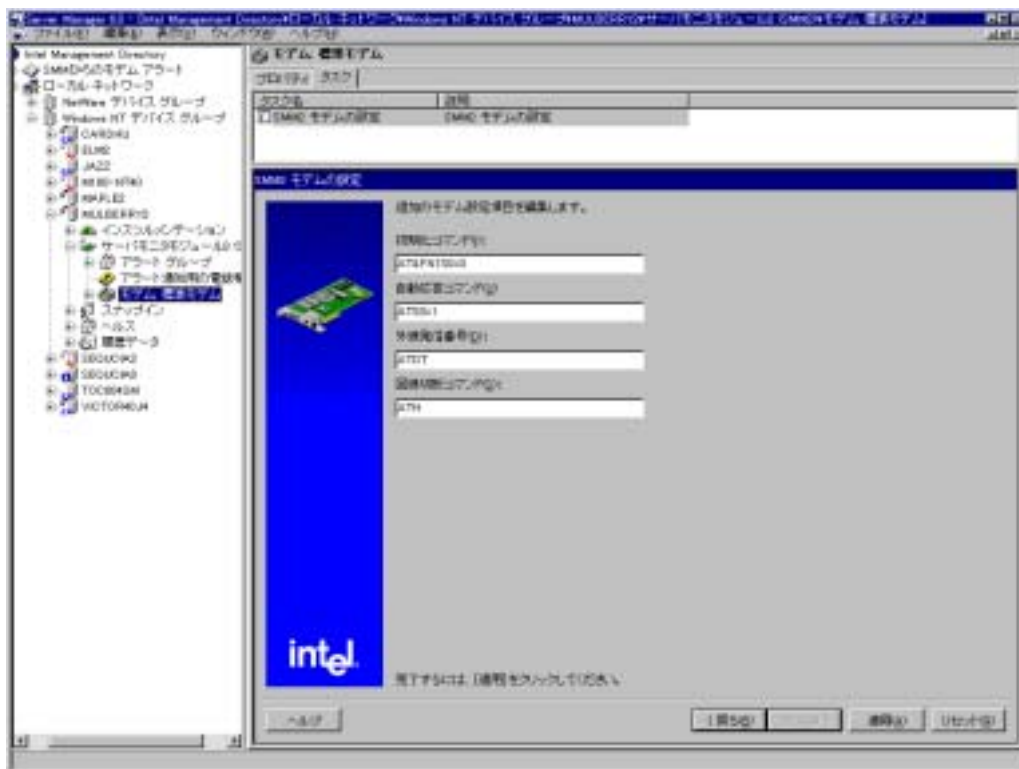
SMM2 に外付けモデム FMFX-411 を取り付けて使用する場合、本ソフトウェアをインストールしたあとで、必ず LDSM コンソールから以下の操作を行ってください。



FMFX-411 以外の外付けモデムを使用する場合は、以下の操作は必要ありません。

- 1 LDSM コンソールを起動します。
- 2 ツリーウィンドウから、「Windows NT デバイスグループ（またはユーザが追加したデバイスグループ）」の対象サーバの「サーバモニタモジュール 2 (SMM2)」メニューから「モデム」コマンドを選択します。

- 3 「タスク」タブを選択し、[次へ] をクリックします。
- 4 「初期化コマンド」の設定の「AT&F0N1S0=0」を「AT&FN1S0=0」に変更します。



- 5 [適用] をクリックします。

なお、LDSM コンソールがない場合の操作については、本製品の CD-ROM から、「¥SVMANAGE¥SMM2MDM ¥README.TXT」を参照してください。

■SMM2 の設定のバックアップ／復元について

SMM2 の設定を完了したり変更したあとは、SMM2 の設定内容を必ずバックアップしてください。ボードの故障などで SMM2 を交換する場合に、現在の設定を復元するために必要です。SMM2 の設定をバックアップ／復元する方法については、本製品の CD-ROM から、「¥SVMANAGE¥RECOVERY¥SMM2¥REMDMEJ.TXT」を参照してください。

5.8.4 Windows NT4.0 Service Pack 3 が適用されている場合

サーバに Windows NT4.0 Service Pack 3 が適用されている場合は、LDSM をインストールしたあとに次の設定作業が必要です。



- 設定作業は必ず行ってください。行わない場合は、Windows NT のシャットダウン処理を含む操作を行っているときに、次のようなエラーメッセージが表示され、シャット

Dr.Wtsn32.exe – DLL 初期化の失敗

ウィンドウステーションがシャットダウン中であるため、アプリケーションが初期化に失敗しました。

- Windows NT4.0 Service Pack 4 以降が適用されているサーバでは、設定作業を行わないでください。

1 コマンドプロンプトを起動し、以下のとおり順に入力します。

E: 【Enter】 (CD-ROM ドライブが E の場合)
CD ¥SVMANAGE¥RECOVERY¥UPD-SVCM 【Enter】
UPDSVCM.BAT 【Enter】

または

E: 【Enter】 (CD-ROM ドライブが E の場合)
CD ¥SVMANAGE¥NT4¥RECOVERY¥UPD-SVCM 【Enter】
UPDSVCM.BAT 【Enter】

「続行するときは何かキーを押してください. . . 」というメッセージが表示されます。



「UPDSVCM.BAT」は、サーバの機種によって格納先が異なります。格納先を確認した上でコマンドを入力してください。

2 任意のキーを押します。

3 システムを再起動します。

5.9 管理コンソールをアンインストールする

管理端末を他のパソコン/サーバに切り替えて使用する場合、あるいは LDSM をレベルアップする場合など監視システムを再構築する場合には、管理端末から管理コンソールをアンインストールします。管理端末に使用しているパソコン/サーバから管理コンソールをアンインストールする場合は、次の順序で各ソフトウェアをアンインストールします。

1. オプション装置の管理コンソール
2. ISC コンソール
3. LDSM コンソール

それぞれのソフトウェアのアンインストール手順は、以下のとおりです。

Note

監視対象のサーバを管理端末として使用している場合は、「管理端末」の記述を、「サーバ」に読み替えて操作してください。

5.9.1 オプション装置の管理コンソールをアンインストールする

追加ディスクで提供されているオプション装置の管理コンソールをオプション装置ごとにすべてアンインストールします。CD-ROM で提供されているオプション装置の管理コンソールは、LDSM コンソールをアンインストールする際に、一括して自動的にアンインストールされます。

追加ディスクで提供されているオプション装置の管理コンソールをアンインストールするには、次の操作を行います。

- 1 管理端末に、管理者または管理者と同等の権限をもつユーザとしてログインします。

Point

Windows 98 のパソコンからアンインストールする場合には、単にログインします。

- 2 実行中のアプリケーションをすべて終了させます。
- 3 オプション装置の監視機能が収められた追加ディスク（複数枚で構成されている場合は1枚目）をフロッピードライブに挿入し、「CONSOLE」ディレクトリ配下の「UNINST.EXE」を実行します。
アンインストールを開始するメッセージが表示されます。

- 4 [はい] をクリックします。
アンインストールが開始します。アンインストールが完了すると、アンインストールを終了するメッセージが表示されます。

- 5 [OK] をクリックします。

6 オプション装置の監視機能が収められた追加ディスクをフロッピドライブから取り出します。



- 他のオプション装置管理コンソールをアンインストールする場合は、手順 3 に戻ります。
- システムを再起動する必要はありません。

5.9.2 ISC コンソールをアンインストールする

管理端末から GRANPOWER5000 HS900、モデル 780/680/580 のいずれかのサーバを監視するために ISC コンソールをインストールしていた場合には、ISC コンソールをアンインストールします。



ISC コンソールが管理端末にインストールされている場合は、コントロールパネルの「アプリケーションの追加と削除」から「Intel Server Control コンソール」をアンインストールします。詳細な手順については、GRANPOWER5000 HS900、モデル 780/680/580 のいずれかに添付の『お使いになる前に』を参照してください。

5.9.3 LDSM コンソールをアンインストールする

ISC コンソールをアンインストールしたあと、LDSM コンソールをアンインストールします。ただしこの際、CD-ROM で提供されているオプション装置の管理コンソールのみ一括して自動的にアンインストールされます。

LDSM コンソールをアンインストールするには、管理端末に使用しているパソコンあるいはサーバで、それぞれ次の操作を行います。

5.9.3.1 パソコンの場合

1 LDSM コンソールをアンインストールする管理端末でインストーラを起動します。

▶インストーラの起動方法→「第 2 部 5.4」参照
アンインストールを開始するメッセージが表示されます。

2 [OK] をクリックします。

■Windows NT、Windows 98 の場合

アンインストールが開始します。アンインストールが完了すると、アンインストールを終了するメッセージが表示されます。

■Windows 2000 の場合

インストールが開始し、インストール中に「マネージメントインストーラ」ダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスは、ボタンをクリックすると表示が変わります。下表のとおり順次表示が変わるので、そのたびに表に指定されたボタンをクリックしてってください。特定のところでは、選択項目や入力項目が表示される場合がありますが、何もせずにそのままボタンをクリックしてください。



途中で処理を中断したり下記で指示した手順以外の操作を行うと、正しくアンインストールされません。アンインストールは最後まで確実に行ってください。

ダイアログボックスの表示 (表示されるタイトル)	クリックするボタン	備考
ようこそ	[次へ]	
削除するコンポーネントを選択してください。	[次へ]	
アンインストールのまとめ	[削除]	
ファイルの削除中	[次へ]	削除終了後、押下可能
削除が完了しました	[完了]	[今すぐ再起動] は絶対に選択しないでください。

3 [OK] をクリックします。

システムが自動的に再起動します。



[キャンセル] をクリックした場合は、システムは再起動されません。運用を開始する前には、必ずシステムを再起動してください。

5.9.3.2 サーバの場合



サーバから LDSM の監視システムをアンインストールする場合には、本操作は必要ありません。サーバ本体の監視機能をアンインストールする際に、自動的にアンインストールされます。

1 LDSM コンソールをアンインストールするサーバでインストーラを起動します。

▶インストーラの起動方法→「第2部 5.4」参照

「SETUP」ダイアログボックスが表示されます。

2 「アンインストール設定」グループで、「LDSM コンソールをアンインストール」を選択し、[OK] をクリックします。

アンインストールを開始するメッセージが表示されます。

3 [OK] をクリックします。

アンインストールが開始します。アンインストールが完了すると、アンインストールを終了するメッセージが表示されます。

4 [OK] をクリックします。

システムが自動的に再起動します。



[キャンセル] をクリックした場合は、システムは再起動されません。運用を開始する前には、必ずシステムを再起動してください。

5.10 サーバから監視機能をアンインストールする

サーバ本体の監視機能に追加インストールできる次のソフトウェアは、LDSM の監視システムからそれぞれ単独でアンインストールできます。オプション装置を取り外すなど、サーバのハードウェアシステムを変更する場合などにアンインストールします。

- ・ オプション装置の監視機能
- ・ LDSM コンソール
- ・ SMM2 用ドライバ、ファームウェア

また、LDSM をレベルアップする場合など、LDSM の監視システムを再構築する場合は、サーバから LDSM をアンインストールします。LDSM をアンインストールするには、サーバから次の順序で LDSM の監視システムをアンインストールします。ただし、サーバを管理端末として使用している場合は、サーバから管理コンソールをアンインストールしたあとに行います。

▶管理コンソールをアンインストールする→「第 2 部 5.9」参照

1. オプション装置の監視機能
2. サーバ本体の監視機能

それぞれのソフトウェアをアンインストールする手順は以下のとおりです。

Note

アンインストールを行う時に、途中で処理を中断したり下記手順以外の操作を行うと、正しくアンインストールされません。アンインストールは最後まで確実に行ってください

5.10.1 オプション装置の監視機能をアンインストールする

オプション装置の監視機能は、オプション装置ごとに、LDSM の監視システムから単独でアンインストールできます。

サーバから LDSM の監視システムをアンインストールする場合は、サーバ本体の監視機能をアンインストールする前に、追加ディスクで提供されているオプション装置の監視機能を搭載/接続されているオプション装置ごとにすべてアンインストールします。

CD-ROM で提供されているオプション装置は、サーバ本体の監視機能をアンインストールする際に、一括して自動的にアンインストールされます。

Note

本作業のあとに、オプション装置をサーバから取り外してください。

5.10.1.1 CD-ROM で提供されている場合

オプション装置ごとに、あるいは一括して搭載/接続されているオプション装置の監視機能をアンインストールできます。

CD-ROM で提供されているオプション装置の監視機能をアンインストールするには、次の操作を行います。

- 1 オプション装置の監視機能をアンインストールするサーバでインストーラを起動します。

▶インストーラの起動方法→「第2部 5.4」参照
「SETUP」ダイアログボックスが表示されます。

- 2 「アンインストール設定」グループで、「ディスク監視ソフトウェアをアンインストール」を選択します。

「ディスク監視ソフトウェア」グループで、インストール済みのオプション装置の監視機能が選択できる状態になります。

- 3 アンインストールするオプション装置の監視機能を選択（一度に複数の項目も選択可能）し、[OK] をクリックします。

アンインストールを開始するメッセージが表示されます。

- 4 [OK] をクリックします。

アンインストールが開始します。アンインストールが完了すると、アンインストールを終了するメッセージが表示されます。

- 5 [OK] をクリックします。

システムが自動的に再起動します。



[キャンセル] をクリックした場合は、システムは再起動されません。運用を開始する前には、必ずシステムを再起動してください。

5.10.1.2 追加ディスクで提供されている場合

オプション装置ごとに、追加ディスクを使用して搭載されているオプション装置の監視機能をアンインストールできます。

追加ディスクで提供されているオプション装置の監視機能をアンインストールするには、次の操作を行います。

- 1 サーバに、管理者または同等の権限をもつユーザとしてログインします。
- 2 実行中のアプリケーションをすべて終了させます。
- 3 オプション装置の監視機能が収められた追加ディスク（複数枚で構成されている場合は1枚め）をフロッピードライブに挿入し、「SERVER」ディレクトリ配下の「UNINST.EXE」を実行します。
アンインストールを開始するメッセージが表示されます。
- 4 [はい] をクリックします。
アンインストールが開始します。アンインストールが完了すると、アンインストールを終了するメッセージが表示されます。
- 5 [OK] をクリックします。

- 6 オプション装置の監視機能が収められた追加ディスクをフロッピードライブから取り出します。

Note

- ・他のオプション装置の監視機能をアンインストールする場合は、手順 3 に戻ります。
- ・サーバ本体の監視機能をアンインストールする場合は、続けてサーバ本体の監視機能

▶サーバ本体の監視機能をアンインストールする→「第 2 部 5.10.2」参照

- 7 システムを再起動します。

5.10.2 サーバ本体の監視機能をアンインストールする

サーバからすべての監視機能をアンインストールする場合は、追加ディスクで提供されているオプション装置の監視機能をアンインストールしたあとで、サーバ本体の監視機能をアンインストールします。サーバ本体の監視機能をアンインストールすると、SMM2 用ドライバ/ファームウェア、LDSM コンソールが自動的にアンインストールされます。

サーバ本体の監視機能をアンインストールするには、次の操作を行います。

- 1 LDSM をアンインストールするサーバでインストーラを起動します。

▶インストーラの起動方法→「第 2 部 5.4」参照

「SETUP」ダイアログボックスが表示されます。

- 2 「アンインストール設定」グループで、「全てアンインストール」を選択し、[OK] をクリックします。

アンインストールを開始するメッセージが表示されます。

- 3 [OK] をクリックします。

アンインストールが開始します。アンインストールが完了すると、アンインストールを終了するメッセージが表示されます。

Note

PRIMERGY ES200 / ES210 / ES280 / MS380 では、FSC のアンインストールウィザード実行中に応答が発生します。この場合、[はい] または [OK] をクリックして、ア

- 4 [OK] をクリックします。

システムが自動的に再起動します。

Note

[キャンセル] をクリックした場合は、システムは再起動されません。運用を開始する前には、必ずシステムを再起動してください。

5.10.3 LDSM コンソールをアンインストールする

LDSM コンソールは、管理コンソールを構成するソフトウェアの1つです。管理端末としての使用をやめる場合など、サーバから管理コンソールをアンインストールする場合に、LDSM コンソールのアンインストールが必要になります。

▶管理コンソールをアンインストールする→「第2部 5.9」参照

5.10.4 SMM2 用ドライバ/ファームウェアをアンインストールする

SMM2 を交換する場合や使用しないで取り外す場合などに、LDSM の監視システムから SMM2 用ドライバおよびファームウェアを単独でアンインストールできます。

SMM2 用ドライバ/ファームウェアをアンインストールするには、次の操作を行います。

- 1 **SMM2 用ドライバ、ファームウェアをアンインストールするサーバでインストーラを起動します。**

▶インストーラの起動方法→「第2部 5.4」参照

「SETUP」ダイアログボックスが表示されます。

- 2 **「アンインストール設定」グループで、「SMM2 をアンインストール」を選択し、[OK] をクリックします。**

アンインストールを開始するメッセージが表示されます。

- 3 **[OK] をクリックします。**

アンインストールが開始します。アンインストールが完了すると、アンインストールを終了するメッセージが表示されます。

- 4 **[OK] をクリックします。**

システムが自動的に再起動します。



[キャンセル] をクリックした場合は、システムは再起動されません。運用を開始する前には、必ずシステムを再起動してください。

第6章 運用管理支援ツール

[Tape Maintenance Checker / Power MANagement for Windows]

運用管理支援ツールの各ツールに添付の標準のインストーラでインストールする方法について説明しています。

6.1 テープ装置のメンテナンス [Tape Maintenance Checker]

Tape Maintenance Checker を標準のインストーラでインストールするには、次の操作を行います。



- ・インストールする際には、メンテナンス対象のテープ装置がサーバに装着されている
- ・インストールする際には、すべてのプログラム（ウィルスワクチンプログラムなど）を終了してください。

- 1 管理者権限を持つアカウントでサーバにログオンします。
- 2 CD-ROM ドライブに ServerWizard V2.0 の CD-ROM を挿入します。
- 3 [スタート] をクリックし、「ファイル名を指定して実行」をクリックします。
ファイル名を指定して実行の画面が表示されます。
- 4 「名前」に以下のように入力し、[OK]をクリックします。
(CD-ROM ドライブを D に設定している場合)
D:¥TMCHECK¥Setup.exe
- 5 インストーラが起動します。
画面のメッセージに従ってインストールを行ってください。
- 6 インストール終了後、システムを再起動します。

6.2 クライアントからのサーバの電源制御 [Power MANagement for Windows]

Power MANagement for Windows を標準のインストーラでインストールするには、次の操作を行います。

- 1 管理者権限を持つアカウントでサーバにログオンします。
- 2 CD-ROM ドライブに ServerWizard V2.0 の CD-ROM を挿入します。
- 3 「スタート」をクリックし、「ファイル名を指定して実行」をクリックします。
ファイル名を指定して実行の画面が表示されます。
- 4 「名前」に以下のように入力し、[OK] をクリックします。
(CD-ROM ドライブを D に設定している場合)
D: ¥PMAN¥AGENT¥SETUP.EXE
- 5 インストーラが起動します。
画面のメッセージに従ってインストールを行ってください。
- 6 インストール終了後、システムを再起動します。

第7章 システム診断支援ツール

[FM Advisor / PROBEPRO / DSNAP]

システム支援ツールの各ツールに添付の標準のインストーラでインストール/設定する方法について説明しています。

7.1 システム環境の診断機能 [FM Advisor]

FM Advisor を標準のインストーラでインストールするには、次の操作を行います。

- 1 管理者権限を持つアカウントでサーバにログオンします。
- 2 CD-ROM ドライブに ServerWizard V2.0 の CD-ROM を挿入します。
- 3 「スタート」をクリックし、「ファイル名を指定して実行」をクリックします。
ファイル名を指定して実行の画面が表示されます。
- 4 「名前」に以下のように入力し、[OK] をクリックします。
(CD-ROM ドライブを D に設定している場合)
D:\FMADV\SETUP.EXE
- 5 インストーラが起動します。
画面のメッセージに従ってインストールを行ってください。
- 6 インストール終了後、システムを再起動します。

7.1.1 診断方法

FM Advisor を起動すると自動的に調査が開始され、調査結果が表示されます。

- 1 スタートメニューから [プログラム] → [FM Advisor] → [FM Advisor] を選択します。
FM Advisor が起動します。
- 2 起動すると、自動的に定義ファイルが読みこまれ、調査が実行されます。
調査の状況はウィンドウのグラフに表示され、進行状況をチェックすることができます。
なお、ファイルの検索をキャンセルしたい場合は、[キャンセル] ボタンをクリックしてください。ファイルの検索をキャンセルしても、次のシステム情報の取得が行われます。

- 3 ファイルの検索が終了すると、自動的にシステム情報の取得を実行します。**
調査結果が表示されます。[OK] ボタンをクリックして、詳細情報を確認します。

Print [ファイル] メニューから [調査の実行] を選択してもチェックが行われます。

7.1.2 定義ファイルの入手方法

最新の定義ファイルは当社のホームページ ” FMWORLD ” の「ソフトウェアライブラリ」で公開されています。コンピュータを正確に診断するには、定義ファイルは非常に重要な役割を担います。最新の定義ファイルをご利用ください。

FM Advisor 最新バージョンの定義ファイルは、Windows 9x 用、Windows NT 用の 2 種類があります。各 OS に対応した定義ファイルをご利用ください。異なった定義ファイルを使用した場合、FM Advisor は、正確にコンピュータを診断することができません。

FM WORLD の URL : <http://www.fmworld.ne.jp/>

ソフトウェアライブラリの URL : <http://www.fmworld.ne.jp/product/lib/index.html>

7.2 トラブル原因の早期発見 [PROBEPRO] ーサーバ環境の更新履歴の確認

標準のインストーラを使用して PROBEPRO をインストールする方法と PROBEPRO の動作環境の定義について説明します。ServerWizard から PROBEPRO をインストールした場合には、PROBEPRO の動作環境の定義だけを行ってください。

▶▶ PROBEPRO の動作環境を定義する→「第 2 部 7.2.2」参照

7.2.1 インストール方法

PROBEPRO を標準のインストーラでインストールするには、次の操作を行います。

- 1 管理者権限を持つアカウントでサーバにログオンします。**

ログオンしたサーバが WindowsNT 3.51/4.0 の場合には、初回インストール時だけ次の操作を行います。

1. システムレベルに対応するシンボルファイルを任意のディレクトリ（ディレクトリ名の最後は、「¥Symbols」である必要があります。）にコピーします。
- 2 CD-ROM ドライブに ServerWizard V2.0 の CD-ROM を挿入します。
- 3 「スタート」をクリックし、「ファイル名を指定して実行」をクリックします。
ファイル名を指定して実行画面が表示されます。

4 「名前」に以下のように入力し、[OK] をクリックします。

D:\PROBEPRO\SETUP.EXE (CD-ROM ドライブを D に設定している場合)

インストーラが起動します。

5 画面のメッセージに従ってインストールします。

PROBEPRO のインストールが終了すると、動作環境の定義を行うかどうかを問い合わせるメッセージボックスが表示されます。

6 [はい] をクリックします。

定義ウィザードが起動し、ウィザードの初期画面が表示されます。

7 定義ウィザードを操作して、動作環境を定義します。

▶ 定義ウィザードの操作方法 → 「第 2 部 7.2.2 の手順 3～5」 参照

7.2.2 動作環境を定義する

PROBEPRO をご使用になるには、PROBEPRO の動作環境が定義されている必要があります。動作環境の定義は、標準のインストーラでのインストール時、または PROBEPRO がインストール済みの場合に、定義ウィザードを操作して行えます。ServerWizard で PROBEPRO をインストールした場合は、インストール時には動作環境が定義できないので、インストール後に定義ウィザードを起動して動作環境を定義する必要があります。

定義ウィザードを起動して動作環境を定義するには、次の操作を行います。

1 管理者権限を持つアカウントでサーバにログオンします。

ログオンしたサーバが WindowsNT 3.51/4.0 で、PROBEPRO が ServerWizard からインストールされている場合には、初回起動時だけ次の操作を行います。

1. システムレベルに対応するシンボルファイルを任意のディレクトリ(ディレクトリ名の最後は、「¥Symbols」である必要があります。)にコピーします。

2 「スタート」→「プログラム」→「PROBEPRO V2.0L10」→「PROBEPRO 定義ウィザード」の順にクリックします。

定義ウィザードが起動し、ウィザードの初期画面が表示されます。

3 初期画面で [次へ] を順にクリックします。

WindowsNT 3.51/4.0 のサーバでは、シンボルパス名の設定画面が表示されます。設定画面で次の操作を行います。

1. 「シンボルパス名」に現在のシステムレベルに対応するシンボルファイルが格納されるディレクトリを入力します。

4 [次へ] を順にクリックします。

5 定義内容の設定確認画面が表示されたら、[はい] をクリックします。

ログオンしたサーバが WindowsNT 3.51/4.0 の場合には、Pool Enhancements のインストール、および、システムの再起動が行われます。

7.2.3 初回インストール時の初期設定について

■システム情報の収集契機

各機能におけるシステム情報の収集契機は以下の通りとなります。

機 能	収集契機
モジュール情報の収集	システム起動時、24 時間インターバル
レジストリ情報の収集	システム起動時、24 時間インターバル
パフォーマンス情報の収集	30 分インターバル

■出力先ディレクトリ

PROBEPRO が収集したシステム情報は以下のディレクトリに出力されます。

C:\Program Files\FUJITSU\PROBEPRO\Data

7.2.4 再インストール方法

PROBEPRO を再インストールする場合は、一度、PROBEPRO をアンインストールしてから行ってください。

▶アンインストールの方法→「第 2 部 7.2.5」参照

▶インストールの方法→「第 2 部 7.2.1」参照

7.2.5 アンインストール方法

- 1 管理者権限を持つアカウントでサーバにログオンします。
- 2 「スタート」→「プログラム」→「PROBEPRO V2.0L10」→「PROBEPRO アンインストール」の順にクリックします。
アンインストーラが起動します。
- 3 画面のメッセージに従ってアンインストールを行います。

7.3 トラブル原因の早期発見 [DSNAP] ーサーバ環境情報の一括取得

¥DSNAP には、以下のファイルが ServerWizard の CD-ROM に含まれています。

ハードディスク内のフォルダに複写してください。

DSNAP.EXE
README.TXT

第 8 章 遠隔保守支援ツール

[SystemWalker / LiveHelp® Client V5.0 / REMCS エージェント]

遠隔保守支援ツールの各ツールに添付の標準のインストーラでインストールする方法について説明しています。

8.1 サーバの遠隔操作 [SystemWalker / LiveHelp® Client V5.0]

SystemWalker/LiveHelp® Client V5.0 を標準のインストーラでインストールする方法および操作などについて説明します。

8.1.1 インストール方法

- 1 管理者権限を持つアカウントでサーバにログオンします。
- 2 CD-ROM ドライブに ServerWizard V2.0 の CD-ROM を挿入します。
- 3 「スタート」をクリックし、「ファイル名を指定して実行」をクリックします。
ファイル名を指定して実行の画面が表示されます。
- 4 「名前」に以下のように入力し、[OK] をクリックします。
(CD-ROM ドライブを D に設定している場合)
D:¥LIVEHELP¥INSTALL または D:¥LIVEHELP¥INSTALL /admin
- 5 インストーラが起動します。
画面のメッセージに従ってインストールを行ってください。
- 6 インストール終了後、システムを再起動します。

8.1.2 操作概要

PRIMERGY に添付の ServerWizard の CD-ROM では、サーバにインストールする LiveHelp Client ソフトウェアが標準で添付されていますので、サーバをリモート操作する側のパソコンに、LiveHelp Expert ソフトウェア*1 または SystemWalker/CentricMGR*2 を購入してインストールする必要があります。

LiveHelp では、リモート操作されるサーバをクライアント（Client）と呼びます。サーバをリモート操作する人をエキスパート（Expert）と呼びます。クライアントとエキスパートが通信している状態をセッションと呼びます。



〔Client〕プログラムの起動

操作対象のサーバで〔Client〕プログラムを起動します。〔Client セットアップ〕プログラムで〔Client〕プログラムを Windows NT のサービスとして自動起動するように設定すると、Windows NT へのログオン前からリモート操作が行えます。〔Expert〕プログラムとの通信方式も〔Client セットアップ〕プログラムで選択します。



〔Expert〕プログラムの起動

リモート操作しようとするエキスパートは、LiveHelp の〔Expert〕アイコンをダブルクリックして、〔Expert〕プログラムを起動します。エキスパートは、次に示す、〔Expert〕ツールバーを使ってセッションを管理します。



サーバへの接続

エキスパートは、〔セッションへの参加〕ボタンをクリックします。エキスパートは、クライアントを選択してサーバに接続します。これでセッションが始まります。



画面受信、



リモート操作

セッションが始まるとすぐに、これらのボタンが自動的にクリックされ、エキスパートはサーバの画面内容を見たり、サーバをリモート操作することができます。

セッション中はツールバーやメニューコマンドを使って LiveHelp のさまざまな機能を利用できます。



画面を全体に表示

画面を全体に表示すると、操作が楽になります。この場合、ツールバーは画面にフロート化されて常に他の画面より手前に表示されます。



特殊キーの送信

[Client] プログラムを Windows NT のサービスとして自動起動するように設定すると、ここで、[特殊キーの送信] ボタンをクリックし、[Ctrl+Alt+Del] キーを送信、Windows NT へのログオン操作が行えます。

[特殊キーの送信] ボタンでは、[Ctrl+Alt+Del]、[Ctrl+Esc]、[Print Screen]、[Alt+Print Screen] キーをサーバに送信します。[Ctrl+Alt+Del] キーを送信すれば、サーバへリモートログイン、ログアウト、シャットダウンもできます。



クリップボード受信

サーバのクリップボードの内容は、[クリップボード受信] ボタンをクリックし、エキスパートのパソコンにコピーできます。



ファイル転送

複数のファイルをエキスパートのパソコンとサーバの間で一括転送。問題解析情報の取得やシステム修復が簡単にできます。



Client の終了

サポートが終了したら、[Client の終了] ボタンをクリックして、動作中の LiveHelp Client を終了することができます。



サーバをリモート操作する場合、LiveHelp Client を終了すると [Client] プログラムを Windows NT のサービスとして自動起動するように設定していない限り、再度接続する



Expert の終了

すべてのサポートが終了したら、[Expert の終了] ボタンをクリックして、LiveHelp Expert を終了します。



【Client の終了】 ボタンをクリックせずに LiveHelp Expert を終了すると、LiveHelp Client はサーバで動作を続け、接続待ちの状態になります。

8.1.3 その他の機能

LiveHelp には前述の操作概要で説明した機能のほか、次のような機能を備えています。

■複数人のエキスパートによるリモート操作

サーバの画面やマウスの動きを、複数人のエキスパートがリアルタイムで受信し、同時に状況を把握できます。また、複数人のエキスパートが交代で、自分のキーボードとマウスでサーバを操作、非定型的な操作も自由に行えます。

■接続のパスワード

LiveHelp Client の起動時にパスワードを設定できます。この場合、サポート部門の専門家がサーバへ接続する時に同じパスワードの入力が必要になります。[Client] プログラムを Windows NT のサービスとして自動起動するように設定してあれば、この後、Windows NT へのログオンを行うことになります。

■エンドユーザのサポート

LiveHelp Client ソフトウェア*³をエンドユーザのパソコンにインストールすると、サーバのリモート操作と同様に、同じ LiveHelp Expert を使って、エンドユーザサポートのためにパソコンをリモート操作できます。

*¹ 製品名称: SystemWalker/LiveHelp Expert V5.0、製品型名: B2884973

*² 製品名称:

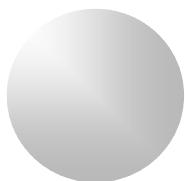
SystemWalker/CentricMGR EE V5.0 マネージャ、製品型名: B293C4491

SystemWalker/CentricMGR EE V5.0 エージェント、製品型名: B293C74F0

SystemWalker/CentricMGR SE V5.0 マネージャ、製品型名: B293C1515

SystemWalker/CentricMGR SE V5.0 エージェント、製品型名: B293C74D0

*³ 製品名称: SystemWalker/LiveHelp Client V5.0、製品型名: B2884963



録

付録

以下の機能、操作などの説明を記載しています。必要に応じてお読みください。

内 容

付録 A	こんなときは？(Q&A).....	付録-3
付録 B	ServerWizard V2.0 の版数について	付録-9
付録 C	留意事項	付録-11
付録 D	留意事項 [Servervisor / LDSM]	付録-18
付録 E	トラブルシューティング	付録-28
付録 F	CSV ファイルフォーマットについて	付録-30
付録 G	デザインシート	付録-32

付録

付録 A こんなときは (Q&A)

Q. モデムを追加するには?

A. 次の手順で追加してください。

- 1) Windows NT を起動し、管理者権限を持ったユーザアカウントでログオンします。
- 2) 「スタート」-「設定」-「コントロールパネル」をクリックします。
- 3) 「モデム」アイコンをダブルクリックします。
新しいモデムのインストール画面が表示されます。
- 4) 「モデムを一覧から選択するので検出しない」をチェックし、[次へ] をクリックします。
- 5) 「製造元」からモデムメーカーを、「モデル」から該当するモデムを選択し、[次へ] をクリックします。
- モデムにデバイスドライバが添付されている場合は、A ドライブに挿入して「ディスク使用」をクリックし、該当するモデムを選択します。また、一覧表にモデム名が表示されず、モデムにもドライバが添付されていない場合は、「Windows NT Server Version 4.0 Disc1」を CD-ROM ドライブにセットして、該当するモデムを選択します。
- 6) 「選択したポート」をクリックし、表示されている [COMn] をクリックして [次へ] をクリックします。
- 7) 所在地の設定を行い、[次へ] をクリックします。

Point

項目	説明
国名	現在パソコンを使用している国を入力します (例: 日本)。
市外局番	現在パソコンを使用している場所の市外局番を入力します (例: 03)。
外線発信番号	内線を使用している場合、外線にかけるときに必要な番号を入力します (例: 0)。
ダイヤル方法	電話の契約がプッシュ回線の場合は「トーン」、ダイヤル回線の場合は「パルス」を選択します。

- 8) [完了] をクリックします。
- 9) [閉じる] をクリックします。

Q. プリンタを追加するには？

A. 次の手順で追加してください。

- 1) 「スタート」-「設定」-「プリンタ」をクリックします。
- 2) [プリンタの追加] アイコンをダブルクリックします。
プリンタの追加ウィザード画面が表示されます。
- 3) 「このコンピュータ」を選択して、[次へ] をクリックします。
- 4) 「利用可能なポート」を選択して、「LPT:1」をチェックして、[次へ] をクリックします（通常は LPT1 ですが、使用プリンタによっては別のポートを選択します）。
- 5) 「製造元」からプリンタメーカーを、「プリンタ」から該当するプリンタを選択して、[次へ] をクリックします。

Point ● プリンタにデバイスドライバが添付されている場合は A ドライブにフロッピーを挿入して「ディスク使用」をクリックし、該当するプリンタを選択します。また、一覧表にもプリンタ名が表示されず、プリンタにもドライバが添付されていない場合は、「Windows NT Server Version 4.0 Disc1」を CD-ROM ドライブに挿入して、該当するプリンタを選択します。

- 6) 「プリンタ」でプリンタ名を入力し、[次へ] をクリックします。
すでに他のプリンタドライバがインストールされている場合は、Windows アプリケーションで選択したプリンタを通常使うかどうかを選択し、[次へ] をクリックします。
- 7) プリンタを共有しない場合は「共有しない」を、共有する場合は「共有する」を選択してから「共有名」を付けて [次へ] をクリックします。
- 8) テストページを印刷するかどうかを指定して、[完了] をクリックします。

■FMLBP シリーズ、FMPPR シリーズをお使いの場合

デバイスフォントの白色を使用した場合、印刷結果が画面と異なることがあります。白色で印刷する場合は、デバイスフォント以外で印刷してください。

■FMLBP225PS、FMLBP211PS をお使いの場合

- ・ドキュメント画面ボックス [ドキュメントのオプション] の [プリンタの機能] の [標準に戻す] ボタンをクリックしても、変更前の設定状態には戻りません。
- ・ドキュメント画面ボックス [ハーフトーンカラーの調整] で「明るさ」や「コントラスト」などを調整しても、印刷には反映されません。
- ・用紙の種類で「A4 横」のような「××横」の用紙では正しく印刷できません。
このようなデータを印刷する場合は、用紙の種類で「A4」印刷の向きを「横」に指定して印刷してください。

■富士通プリンタ増設カードに FUJITSU Printia XL シリーズプリンタおよび他社プリンタを接続する場合

富士通プリンタ増設カードに FUJITSU Printia XL シリーズプリンタおよび他社プリンタを接続する場合は、REGEDT32.EXE コマンドを使って、レジストリの以下のキーの値を変更し、システムを再起動してください（この例ではプリンタが接続されているポートが"LPT4"とします）。

キー：¥HKEY_LOCAL_MACHINE¥SYSTEM¥PARALLEL SETUP INFO¥LPT4

値 : Escp : REG_BINARY : 01 00 00 00

↑ここを 00 から 01 に変更

■任意の用紙サイズを設定する場合

富士通 FM シリーズ用シリアルプリンタでフォームを使用する場合、使用できるフォームのサイズはそれぞれのドライバによって以下の範囲となっています。この範囲外のものを使用できません。

● 用紙サイズの設定

プリンタの [ファイル] メニューから [サーバのプロパティ] をクリックし、[用紙] タブの [新しい用紙を作成する] をチェックして作成します。任意の用紙サイズを設定できます。詳細については、Windows NT のマニュアルおよびオンラインヘルプを参照してください。

幅：50～345.4mm（1.79～13.6 インチ） 高さ：50～420.0mm（1.79～16.5 インチ）のドライバ
[136 桁プリンタ]

"FUJITSU FMPR 180"

"FUJITSU FMPR 180 (Color) "

"FUJITSU FMPR -353G2"

"FUJITSU FMPR -353A2"

"FUJITSU FMPR -361"

"FUJITSU FMPR -372"

"FUJITSU FMPR -671"

"FUJITSU FMPR -654"

"FUJITSU FMPR -359F1"

"FUJITSU FMPR -455"

"FUJITSU FMPR -456"

"FUJITSU FMPR -371A"

"FUJITSU FMPR -374"

"FUJITSU FMPR -366 (Monochrome) "

"FUJITSU FMPR -373 (Color) "

"FUJITSU FMPR -366 (Color) "

"FUJITSU FMLP -351"

"FUJITSU FMPR -373 (Monochrome) "

"FUJITSU FMPR -672"

幅：50～203.2mm（1.79～8 インチ）高さ：50～420.0mm（1.79～16.5 インチ）のドライバ
[80 桁プリンタ]

"FUJITSU FMPR -302G2"

"FUJITSU FMPR -302A2"

"FUJITSU FMPR -204B"

"FUJITSU FMPR -204W"

"FUJITSU FMPR -101W"

"FUJITSU FMPR -101B"

"FUJITSU FMPR -102G"

"FUJITSU FMPR -601"

"FUJITSU FMPR -303G"

"FUJITSU FMJP -101G"

"FUJITSU FMPR -221G"

幅：50～420.0mm（1.79～16.5 インチ）高さ：50～420.0mm（1.79～16.5 インチ）のドライバ

"FUJITSU FMPR -360"

"FUJITSU FMPR -360（Color）"

"FUJITSU FMJP -211"

幅：25.4～345.4mm（1～13.6 インチ）高さ：25.4～558.8mm（1～22 インチ）のドライバ

[ESC/P シーケンス]

"FUJITSU ESC/P"

"FUJITSU FMPR -375E"

"FUJITSU FMPR -371E"

"FUJITSU FMP -PR121G"

Q. 区画(パーティション)はどのように作成されますか？

A. 区画(パーティション)の作成方法には、手動／自動の2種類の方法があり、
次のように作成されます。

■手動設定の場合

実際のサーバに接続されているハードディスクの容量が指定した容量より大きい場合は、指定した容量でシステム区画とアプリケーション区画が作成されます。残りの領域は未使用領域となります。

実際のサーバに接続されているハードディスクの容量が、指定した容量より小さい場合は、指定された容量でシステム区画を作成した後、残りをアプリケーション区画として作成します。ただし、指定した容量でシステム区画が作成できた場合は、残りがアプリケーション区画となります。また、残り未使用領域が1GB未満の場合、アプリケーション区画は作成されません。

■ 自動設定の場合

実際のサーバに接続されているハードディスクの容量によって、作成される区画の容量が異なります。

実際のサーバに接続されているハードディスクの容量が 4096MB より小さい場合は、全領域がシステム区画となり、アプリケーション区画は作成されません。

実際のサーバに接続されているハードディスクの容量が 4096MB より大きい場合は、4096MB のシステム区画を作成し、残りがアプリケーション区画となります。ただし、残り未使用領域が 1GB 未満の場合、アプリケーション区画は作成されません。



- ・実際には、区画を管理するための領域があるため、指定された容量より若干少なくなることがあります。
- ・8GB よりも容量の大きなハードディスクを接続している場合でも、BIOS のジオメトリ変換によって、8GB より若干少ない領域の区画が作成されます。

Q. RAID を構築するときの注意点は？

A. 次の点に留意してください。

■ハード構成

条件	内容								
サポートする SCSI アレイコントローラカード枚数	1 枚								
SCSI アレイコントローラカードとして使用できる条件	本体マニュアルに記述してある所定のスロット位置に装着されていること								
ハードディスクの条件	(1) 本体内蔵のみ (2) 必ず同形式および同容量のハードディスクを使用すること (3) RAID レベルにより設定できる台数は以下のとおりです。 <table><tr><td>RAID レベル 0</td><td>－ 2～8 台</td></tr><tr><td>RAID レベル 1</td><td>－ 2 台</td></tr><tr><td>RAID レベル 5 (推奨)</td><td>－ 3～8 台</td></tr><tr><td>RAID レベル 6</td><td>－ 3～8 台</td></tr></table> ※ ただし、本体の最大搭載数を超過して設定しないでください。 本体の最大搭載数は本体マニュアルを参照してください。 (4) ホットスベア (スタンバイディスク) なし／あり (1 台まで、RAID レベル 0 を除く)	RAID レベル 0	－ 2～8 台	RAID レベル 1	－ 2 台	RAID レベル 5 (推奨)	－ 3～8 台	RAID レベル 6	－ 3～8 台
RAID レベル 0	－ 2～8 台								
RAID レベル 1	－ 2 台								
RAID レベル 5 (推奨)	－ 3～8 台								
RAID レベル 6	－ 3～8 台								



ホットスベアを「あり」に指定した場合は、実際に搭載するハードディスク台数は上記 (3) の設定台数 + 1 台としてください。

■アレイ構成

項目	内容
フィジカルパック数	1
システムドライブ数	1
最大システムドライブ容量	1TB
ハードディスクのパック順	ハードディスクに設定された SCSI ID の小さい順で Channel 0 と Channel 1 を交互にパックする。（2チャンネルの場合） 例（2チャンネルの場合） パック A-1 Channel 0 SCSI ID 0 パック A-2 Channel 1 SCSI ID 0 パック A-3 Channel 0 SCSI ID 1 パック A-4 Channel 1 SCSI ID 1 パック A-5 Channel 0 SCSI ID 2 ホットスベアを指定した場合は、ホットスベアのハードディスクは一番小さいチャンネル番号で SCSI ID が最小のハードディスクとなります。 （通常は Channel 0 で SCSI ID 0 のハードディスク）

■ディスク台数

- ・設定した台数（ホットスベアありの場合は+1 台）より実際に装着されている台数が少ない場合
ServerWizard はエラーとなり、セットアップは中断されます。
- ・設定した台数（ホットスベアありの場合は+1 台）より実際に装着されている台数が多い場合
設定どおりになり、余ったディスクはスタンバイディスクとなります。また、後からフィジカルパックを追加することもできます。詳しくは SCSI アレイコントローラカードに添付の取扱説明書を参照してください。

Q. スーパーフロッピー形式の光磁気ディスクは使用できますか？

A.以下の方法でフォーマットしてください。

SCSI カードなどに添付されているフォーマッタを使用して、光磁気ディスクをスーパーフロッピー形式でフォーマットした場合、Windows NT で認識できないことがあります。

光磁気ディスクをスーパーフロッピー形式でフォーマットする場合には、光磁気ディスクユニット添付のデバイスドライバ内の「MO フォーマッタ」を使用してください。

詳しくは、光磁気ディスクユニットのマニュアルを参照してください。

付録 B ServerWizard V2.0 の版数について

付録 B.1 ServerWizard V2.0 の版数の確認方法

ServerWizard の版数は、ServerWizard の CD-ROM のレーベルの「ServerWizard V2.0 Lxx」の「Lxx」部分です。必ず版数を確認して、使用してください。



付録 B.2 ServerWizard V1.0／V2.0 の版数と対応内容

ServerWizard の版数と対応内容は、次のとおりです。

【表 B.2 ServerWizard の版数と対応内容（2000 年 2 月現在）】

版数	対応内容
V1.0 L10	サービスのインストール（WINS、DNS、DHCP、IIS）、プロトコルのインストール（TCP/IP、NetBEUI、IPX/SPX）、ServicePack3 対応、添付アプリケーションのインストール（FM Advisor, PROBEPRO, DSNAP, LDSM）、GP5-141A, GP5-142, GP5-121, GP5-123 対応、RAID の設定
V1.0 L11	L10 の内容、GP5-144、GP5-126 対応
V1.0 L12	L11 の内容、ServicePack4 対応
V1.0 L20	L12 の内容、プロトコル／サービスのフルインストール、デスクトップ環境設定機能／Web メニュー機能、Consistency Check Scheduler の組み込み、GP5-143 対応
V1.0 L30	L20 の内容、オプションカードの IRQ 確認機能、Servervisor のインストール、ServicePack4 の自動組み込み、RAID6 対応、GP5-184、GP5-145 対応
V1.0 L31	L30 の内容、SBS4.5 対応
V1.0 L32	L31 の内容、Enterprise Edition 対応（モデル 580、680/780、HS900）
V1.0 L33	L32 の内容、ServicePack5 の自動組み込み、DOS 事前設定プログラムの操作性向上
V2.0 L10	V1.0L33 の内容、Windows2000 対応、メンテナンス区画対応
V2.0 L11	V2.0 L10 の内容、ServicePack6a の自動組み込み
V2.0 L12	V2.0 L11 の内容、サーバのブランド名変更（GRANPOWER 5000→PRIMERGY）

付録 B.3 ブート可能なアレイカードとインストール可能な ServicePack

ServerWizard V2.0 の版数と PRIMERGY 対応モデルは、次のとおりです。

【表 B.3 ブート可能なアレイカードとインストール可能な ServicePack(2000 年 5 月現在)】

モデル	版数	対応アレイカード				対応 OS			
		GP5-143	GP5-144	GP5-146	IDE RAID	SP3	SP4	SP5	SP6a
ES200	V2.0 L12	○	×	×	○*	○	○	○	◎
ES210	V2.0 L12	○	×	×	○*	○	○	○	◎
ES280	V2.0 L12	○	×	×	×	○	○	○	◎
ES310	V2.0 L12	○	○	○	×	○	○	○	◎
ES380	V2.0 L12	×	×	○	×	○	○	○	◎
MS410	V2.0 L12	○	○	○	×	○	○	○	◎
TS110	V2.0 L12	×	×	×	×	×	○	○	◎

※…ServerWizard ではディスクアレイ作成機能をサポートしていません。

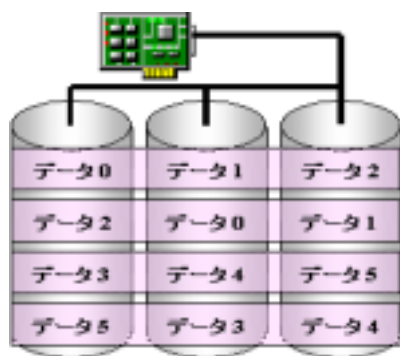
インストール前に、手動でアレイを作成しておく必要があります。

○：対応 ×：非対応

◎：ServerWizard の CD-ROM にも入っています。

設定時に「新規導入」で ServicePack を適用するようにすると、ServerWizard CD-ROM に格納されている SP6 を適用できます。「インストールタイプ」を選択した場合は、自動的に SP6 が適用されます。

■ RAID6 のしくみ



RAID6 は、データを分割して複数のディスクにそれぞれ分配して書き込むストライピングに加え、ミラーリングにより冗長性を持たせています。実際に使用できる容量は、全ハードディスク容量の半分になりますが、RAID5 と比べて書き込み時の性能はよくなります。

付録 C 留意事項

付録 C.1 ServerWizard V2.0 でサポートするオプションカード

ServerWizard がサポートするオプションカードは、PRIMERGY がサポートするものの中で、PCI に対応したものです。カードの搭載枚数や搭載位置については、サーバの取扱説明書を参照してください。

ServerWizard でサポートするオプションカードは、以下のとおりです。サポートするカードはサーバの機種により異なりますので、サーバの取扱説明書を参照してください。

【表 C.1 ドライバ自動インストール対応する拡張カードとオンボード I/O】

名称	型名	バス	ドライバ自動インストール	備考
オンボード FDD/IDE	—	—	○	
オンボード SCSI	—	PCI	○	
オンボード LAN	—	PCI	○	
オンボード Video	—	PCI AGP	○	導入時、解像度を 640×480 (SBS4.5 のとき は 800×600) に設定
LAN カード	GP5-181	PCI	○	
	GP5-183	PCI	×	
	GP5-185	PCI	○	
	GP5-186	PCI	○	
SCSI カード	GP5-121	PCI	○	
	GP5-123	PCI	○	
	GP5-125	PCI	○	
	GP5-126	PCI	○	
	GP5-127	PCI	○	
	GP5-128	PCI	×	
ファイバーチャネルカード	GP5-FC101	PCI	×	
SCSI アレイコントローラカード	IDE RAID	PCI	○	
	GP5-141A	PCI	○	
	GP5-143	PCI	○	
	GP5-144	PCI	○	
	GP5-146	PCI	○	
RS-232C カード	GP5-162	PCI	×	
通信カード ISDN	GP5-165	PCI	×	
通信カード V/X	GP5-163	PCI	×	
ATM-LAN カード	FMV-1871	PCI	×	
インタコネクトカード	GP5-NC101	PCI	×	

(続く)

名称	型名	バス	ドライバ自動インストール	備考
FAX モデムカード	FMV-FX531	ISA	○	
	FMV-FX532	PCI	×	
サーバモニタモジュール	GP5-SM103	PCI	×	
サーバマネージメントアシストボード	GP5-SMB101	PCI	×	
	GP5-SMB102	PCI	×	

付録 C.2 ServerWizard V2.0 で対応する自動インストール

【表 C.2_1 ドライバの自動インストールに対応するデバイス】

名称	型名	ドライバ自動インストール	備考
内蔵 FDD/HDD/CD-ROM	—	○	
外付 CD-ROM (SCSI)	FMCD-411	○	
内蔵 RAID	—	○備考参照	ブートデバイスとしての設定をおこなう
外付 RAID	—	○備考参照	ブートデバイスとしての利用はできない
内蔵 DAT/MO/テープデバイス	DDS3, CAT4e 等	△	装置 ID が認識可ならコントロールパネルを自動起動する
外付 DAT/MO/テープデバイス	FMPD-241 等	×	
Power Control Box	FMRP-201/202	×	
UPS	GP5SUP101 等	×	

【表 C.2_2 添付されているアプリ及びサービス】

※サイレントインストールは解除可能です。

名称	サイレントインストール	備考
各種サービス	○	
Internet Information Server	○	SP3 以降をあてた時点で IIS 3.0 となる Windows2000 の場合は IIS 5.0
各種プロトコル	○	
サービスパック	○	
電源断 HAL	○	
Servervisor	○	オプション装置の監視モジュールの導入は手動
LD SM	×	
PROBEPRO	○	サービスの起動は手動
DSNAP	○	
FM Advisor	○	
LiveHelp® Client	○	

(続く)

名称	サイレントインストール	備考
RAID 管理ツール	○	サイレントインストール解除不可
Tape Maintenance Checker	×	
Power Management for Windows	×	
高信頼ツールメニュー	○	サイレントインストール解除不可

付録 C.3 バックアップドメインコントローラに関する留意事項 (NT SV 4.0 の場合)

バックアップドメインコントローラ（以下、BDC）のサーバに WizardConsole をインストールして使用する場合には、以下の注意が必要です。

(1) グループ、ユーザアカウントについて

作成したグループとユーザアカウントは Domain 全体で使用されます。

そのため、プライマリドメインコントローラ（以下、PDC）に WizardConsole をインストールして使用している場合には、BDC で作成したアカウントは、PDC でも管理することができます。

(2) コンピュータアカウントについて

作成したコンピュータのアカウントは、WizardConsole がインストールされているサーバごとに管理されます。ある BDC で作成したコンピュータは、PDC や他の BDC では管理できません。同様に、PDC で作成したコンピュータは、他の BDC では管理できません。

(3) クライアントセットアップ情報について

WizardConsole がインストールされているコンピュータごとに管理されます。

BDC で資源の読み込みを行っても、読み込みを行った BDC 以外のサーバ（PDC や他の BDC）で使用することはできません。

クライアントコンピュータは、最初に登録したサーバに接続し、資源をコピーします。複数台のコンピュータで管理している場合には、クライアントコンピュータで資源を取り出すサーバ名を変更することもできます。「第一部 5.7 クライアントへのセットアップ情報、セットアップ資源を設定する」参照。

(4) デスクトップ環境設定について

作成したデスクトップ設計の情報は、WizardConsole がインストールされているコンピュータごとに管理されます。

複数台のコンピュータで管理している場合には、クライアントコンピュータで設計情報を取り出すサーバ名を変更することもできます。

(5) リモート OS セットアップについて

WizardConsole がインストールされているコンピュータごとに管理されます。
資源を他のコンピュータで管理することはできません。

(6) サーバ情報ファイルについて

BDC では、サーバ情報ファイルを作成することはできません。

付録 C.4 クライアントコンピュータの追加／変更時の留意事項

クライアントセットアップ機能で定義された資源は、DesignMagic または WizardConsole で指定したクライアントコンピュータに対してインストールされます。

WizardConsole の「コンピュータの追加／変更」を行ったクライアントについては、デフォルトでセットアップ資源のインストール対象になります。追加／変更したクライアントコンピュータに対してセットアップ資源のインストールを行わない場合は、WizardConsole のクライアントセットアップを起動し、インストール対象から解除してください。

付録 C.5 クライアントセットアップに関する留意事項

■同時インストールできる台数

クライアントセットアップで、同時にインストールできるクライアントコンピュータの台数は 15 台です。15 台以上インストールする場合は、一度にインストールするクライアント台数を 15 台単位で行ってください。

■標準対応製品をインストールする際の注意事項

● 標準対応製品のインストール可能 OS とインストール条件

標準対応製品によってインストールできる OS は異なります。また、インストール時の条件も各標準対応製品で異なります。下記表を参照し、適切なインストール対象クライアントを選択してください。

● 標準対応製品のインストールに必要なハードディスク容量

各標準対応製品がインストールに必要なハードディスク容量は下記表のとおりです。ハードディスク空き容量が不十分なクライアントへのインストールは、アプリケーションエラーを引き起こす場合があります。クライアント環境の違いにより、インストールに必要なハードディスク容量は異なりますので、十分な空き容量があることを確認してからインストールの設定を行ってください。

※ ServicePack を SP と略記しています。

№.	対応製品一覧	インストール可能 OS 及び条件	インストールに必要なハードディスク HD 容量 (目安)
1	Bookshelf Basic2.0	Windows 95 Windows 98 Windows NT Version 4.0 ディスプレイ：640×480／256 色以上。	15MB
2	環境調査プログラム(FM Advisor)	Windows 95 Windows 98 Windows NT Version 3.51 Windows NT Version 4.0	5MB
3	FM-Menu	Windows 98 Windows NT Version 4.0(SP3 以降)	5MB
4	診断プログラム	Windows 98 Windows NT Version 4.0(SP3 以降) ディスプレイ：256 色以上	5MB
5	一太郎 9 花子 9 パック	Windows 95 Windows 98 Windows NT Version 4.0	最小…150MB 標準…325MB 最大…410MB
6	Lotus 1-2-3 2000	Windows 95 (SP1 以降) Windows 98 Windows NT Version 4.0 (SP3 以降)	最小…70MB 標準…90MB カスタム最大…120MB
7	Microsoft Excel 97	Windows 95 Windows 98 Windows NT Workstation Version 4.0 (SP3 以降) Windows NT Version 3.51 (SP5)	オプション→Excel のみ …25MB オプション→すべて …75MB
8	Microsoft IME 98	Windows 95 Windows 98 Windows NT Version 4.0 (SP3 以降)	35MB
9	Microsoft Office2000 Personal	Windows 95 ※Internet Explorer 4.01 SP1 以上が必要 Windows 98 Windows NT Workstation 4.0 (SP3 以降) ※一部の機能については SP4 以上が必要、Internet Explorer 4.01 SP1 以上が必要。	IE5 を標準インストールする場合…230MB IE5 を最小インストールする場合…220MB IE をアップグレードしない場合…215MB
10	Microsoft Word 98	Windows 95 Windows 98 Windows NT Workstation Version 4.0 (SP3 以降) Windows NT Version3.51 (SP5)	オプション→Word のみ …30MB オプション→すべて …120MB
11	Microsoft Draw 98	最低一つ以上の Office97 製品が必要で、Office97 製品は SP3 以上が必要。	5MB
12	OASYS V6.0 (V6.0 L10 rel.10F)	Windows 95 Windows 98 Windows NT Version 3.51 Windows NT Version 4.0	最小…140MB 標準…160MB カスタム最大…250MB
13	OASYS V6.0 アップデートパック	OASYS V6 に対してのみ使用可	5MB

(続く)

no.	対応製品一覧	インストール可能 OS 及び条件	インストールに必要なハードディスク HD 容量 (目安)
14	BIG 販売管理 32 for Windows V2.2	Windows 95 Windows 98 Windows NT Version 4.0	70MB
15	BIG 給与計算 32 V2.4 インストールモデル用	Windows 95 Windows 98 Windows NT Version 4.0	45MB
16	BIG 財務会計 32 for Windows V2.2	Windows 95 Windows 98 Windows NT Version 4.0	40MB
17	TOP 勘定奉行 98 B システム 富士通ブレイインストール版 Ver.101	Windows 95 Windows 98 Windows NT Version 4.0	60MB
18	TOP 蔵奉行 98 ForWindows98/95 /NT Super システム	Windows 95 Windows 98 Windows NT Version 4.0	60MB
19	TOP 給与奉行 98 [富士通版]	Windows 95 Windows 98 Windows NT Version 4.0	60MB
20	TOP 商奉行 98 ForWindows98/95 /NT Super システム	Windows 95 Windows 98 Windows NT Version 4.0	60MB

■クライアントセットアップ機能でインストールしたアプリケーションの削除

● アプリケーションの削除方法

クライアントセットアップ機能でインストールしたアプリケーションは、クライアントセットアップ機能を使用して削除することはできません。アンインストール方法については、アプリケーションに添付されているマニュアルを参照してください。

● アンインストールが失敗する場合

クライアントセットアップで登録されたアプリケーションをサーバで削除した場合、アプリケーションのアンインストール時にエラーが発生する場合があります。

エラーが発生した場合は、アプリケーション媒体を使用してアンインストールを行ってください。

■スクリプトに関する留意事項

● スクリプトを使用してインストールする場合

標準対応製品等でスクリプトを使用してインストール実行中は、マウス・キーボードに触らないでください。スクリプトが停止し、サイレントインストールが失敗する原因となります。

●アプリケーションインストール用のスクリプト作成時の注意事項

クライアントセットアップ機能で使用するアプリケーションインストール用スクリプトは、以下の手順で作成してください。なお、スクリプト作成を簡単にするには、アプリケーションをインストールするマシンと同一環境でスクリプト採取することを推奨します。

- 1) クライアントコンピュータへインストールするアプリケーションのインストールコマンドを起動します。
- 2) 上記インストールコマンドの初期画面が表示されたら、Windows 上で動作する自動化ツール(注 1)を使用し、インストール操作のイベント採取を開始します。
- 3) インストール処理が終了したら、自動化ツールのイベント採取を終了します。
- 4) 採取したスクリプトを、配付先のクライアントの環境に合わせ編集し(注 2)、必要に応じてコンパイルします。なお、コンパイルが必要かどうかは使用する自動化ツールのマニュアルを参照してください。
- 5) インストールする製品の機能上、システムに対してリブートを要求してくる場合はリブートを実行せずにインストールが終了するようにスクリプトを採取してください。

注 1)

Windows 上で動作する自動化ツールとは、Windows 上で利用者が行った操作をファイルにスクリプト形式で格納し、そのスクリプトを実行して操作を再現するツールです。

例) 米国 Rational SoftWare Corporation の Rational Visual Test®

注 2)

採取したスクリプトはイベント採取したマシンに密着したものになっているため、複数のマシンで共通に使用するためには下記の点をカスタマイズする必要があります。

①不要関数の削除

イベント採取で不要なイベントを採取した場合は不要な処理や関数を削除します。

②画面待ち合わせ

採取したスクリプトを実行する際、実行マシンの性能により処理速度が異なるため、スクリプト内で時間を指定して処理の待ち合わせを行うと動作が不安定になります。時間指定で待ち合わせている箇所は、待ち合わせ時間を長くするか、次に表示される画面で待ち合わせを行うようにカスタマイズします。

③画面の切り分け

インストール時に表示される画面が局面によって異なる場合は、同一ループ内で複数の画面の待ち合わせを行い、どちらの画面が表示されても対処できるようにカスタマイズします。

付録 C.6 その他の留意事項

- ・テープデバイスに関しては、自動検出を行いコントロールパネルの出力までを行います。ドライバをインストールする必要がある場合には手動で行ってください。
- ・プリンタのセットアップには対応していません。セットアップ終了後にインストールを行ってください。

付録 D 留意事項 [Servervisor / LDSM]

付録 D.1 Servervisor / LDSM 共通の留意事項

D.1.1 Servervisor / LDSM のインストールと使用について

LDSM および Servervisor は、Microsoft Windows NT Server Version 4.0 が動作するある 1 台のサーバ上に 1 コピーのみ、または、Microsoft Windows 2000 が動作するある 1 台のサーバ上に 1 コピーのみインストールして使用することができます。

D.1.2 「NT」の表記について

本製品において、「Windows NT」、「NT」（NT イベントログ など）の記述には、特に断りのない限り、以下のオペレーティングシステムを含みます。

- Microsoft Windows NT Server Network Operating System Version 4.0
- Microsoft Windows 2000 Server Operating System
- Microsoft Windows 2000 Advanced Server Operating System

D.1.3 PowerChute plus for WindowsNT ver5.1.1J と同時運用する場合

Servervisor/LDSM と PowerChute plus for Windows NT ver5.1.1J(以下、PowerChute 5.1.1J と呼びます)を同時に運用する場合は、Servervisor/LDSM をインストールする前に PowerChute 5.1.1J をインストールしてください。

Servervisor/LDSM をインストールしたあとに PowerChute 5.1.1J をインストールする場合は、PowerChute 5.1.1J をインストールしたあとに以下の操作を行い、Servervisor/LDSM の管理データを再構築してから、運用してください。

1 下記に格納されている PowerChute 5.1.1J のデータファイルを削除します。

格納先：%WIN32DMIPATH%\MIFS\BACKUP\PWCHUTE.MIF

2 本製品の CD-ROM をセットします。

3 コマンドプロンプトを起動し、以下のとおり順に入力します。

E: 【Enter】 (CD-ROM ドライブが E の場合)
CD %SVMANAGE%\RECOVERY\MIF 【Enter】
RECOVMIF.BAT 【Enter】

以降、画面の指示にしたがって操作してください。

4 コマンドが終了したら、システムを再起動します。

D.1.4 ベースボード／筐体監視を使用する際の留意事項

運用時の留意事項については、本製品の CD-ROM の、「SVMANAGE」ディレクトリ配下のソフトウェア説明書（SMREADME.TXT）にも記述されていますので、合わせてお読みください。

(1) ウォッチドッグタイマについて

異常時にシステムの再起動を NOS が行うように設定している場合や、メモリダンプを取得するように設定している場合、また管理対象サーバ上の本製品をアンインストールする場合は、ウォッチドッグタイマを「無効」または「チェックなし（無効）」に設定してください。

(2) 設定値変更について

Servervisor コンソールまたは FSC2 コンソールの設定値を変更した場合、すぐにシステムを再起動すると変更値が保存されません。システムに反映されるまで 5 分以上待ち合わせてください。

D.1.5 I/O 監視を使用する際の留意事項

(1) ハードディスク監視での S.M.A.R.T.機能について

Symbios SCSI、Adaptec SCSI、IDE ハードディスク監視は、S.M.A.R.T.（Self-Monitoring, Analysis and Reporting Technology）機能をサポートしています。S.M.A.R.T.機能により、障害発生が予測されるハードディスクを検出できます。S.M.A.R.T.機能による異常が検出された場合は、すぐにデータのバックアップを取り、ハードディスクの交換を推奨します。

サーバ上で S.M.A.R.T.機能による異常が検出されたハードディスクを確認するには、Servervisor コンソールを実行するか、または本製品の CD-ROM から以下のプログラムを実行します。CD-ROM から実行する場合は、Symbios SCSI、Adaptec SCSI、IDE ハードディスク管理コンソールと同じダイアログボックスが表示され、このダイアログボックスで異常箇所を確認できます。

ー Symbios SCSI 監視からの S.M.A.R.T.異常の場合

本製品の CD-ROM から、「¥SVMANAGE¥NT4¥SCSIS」ディレクトリまたは「¥SVMANAGE¥W2K¥SCSIS」ディレクトリ配下の「F5EMSS2L.EXE」を実行します。

ー Adaptec SCSI 監視からの S.M.A.R.T.異常の場合

本製品の CD-ROM から、「¥SVMANAGE¥NT4¥SCSIA」ディレクトリ、「¥SVMANAGE¥W2K¥SCSIA」ディレクトリまたは「¥SVMANAGE¥IO¥SCSIA」ディレクトリ配下の「ADPT6BL.EXE」を実行します。

ー IDE ハードディスク監視からの S.M.A.R.T.異常の場合

本製品の CD-ROM から、「¥SVMANAGE¥NT4¥IDE」ディレクトリ、「¥SVMANAGE¥W2K¥IDE」ディレクトリ、「¥SVMANAGE¥NT4¥IO¥IDE」ディレクトリまたは「¥SVMANAGE¥W2K¥IO¥IDE」ディレクトリ配下の「IDESMT6L.EXE」を実行します。

(2) Adaptec SCSI 監視でのホストアダプタ情報について

Adaptec SCSI 監視では、デバイスステータスとしてホストアダプタ（通常、SCSI ID-7）の情報は表示されません。なお、LDSM をインストールしているサーバでは、ホストアダプタの情報は、アダプタステータスで確認できます。

(3) Adaptec SCSI 監視でのデバイス情報について

Adaptec SCSI 監視で、デバイスステータスとして「SAF-TE PROCESSOR」の情報は表示されません。

(4) Adaptec SCSI 監視でのデバイス異常検出について

Adaptec SCSI 監視は、数十秒間デバイスの busy 状態が続くと異常な状態（Critical）と判断し、アプリケーションログに以下のイベントログを記録する場合があります。

イベントログ内容（ソース：Alert Definition Originator）

Adaptec SCSI 監視機能

メッセージ ：デバイスで異常が検出されました。

重要度 ：危険

または

コンポーネント名：Adaptec CI/O Standard Group MIF Definition

アラート名 ：Adaptec Storage Device - Failed

重要度 ：危険

busy 状態となった操作が終了したあとに正常な状態（OK）に戻れば、問題はありません。Servervisor コンソール、または Adaptec SCSI 管理コンソールを起動し、該当する SCSI デバイスの状態を確認してください。

(5) Adaptec SCSI 監視でのハードディスク異常検出について

Adaptec SCSI 監視は、接続されたハードディスクに異常が発生した場合、正常なハードディスクについても異常な状態（Critical）と判断し、管理コンソール上に「異常」と誤表示したり、アプリケーションログに以下のイベントログを記録する場合があります。

イベントログ内容（ソース：Alert Definition Originator）

Adaptec SCSI 監視機能

メッセージ ：デバイスで異常が検出されました。

重要度 ：危険

または

コンポーネント名：Adaptec CI/O Standard Group MIF Definition

アラート名 ：Adaptec Storage Device - Failed

重要度 ：危険

異常（Critical）表示から数分（1～6分）後に正常（OK）表示に戻れば、そのデバイスについては問題ありません。念のため、イベントログの確認、ディスクアドミニストレータ起動などの方法でも、該当デバイスに異常が発生していないことを確認してください。

(6) サービス起動後に電源投入されたディスクアレイ装置の監視について

ディスクアレイ装置監視サービス（WDFTFZ）起動後に電源投入したディスクアレイ装置は、監視できません。

(7) LU フォーマット時のディスクアレイ装置の監視について

ディスクアレイ装置のオペレーションパネルから LU のフォーマット操作を行う場合は、「WDFTFZ」サービスを一度停止してから操作してください。

LU のフォーマット操作中に「WDFTFZ」サービスを起動しないでください。

(8) ディスクアレイ装置の電源切断について

「WDFTFZ」サービス起動中にディスクアレイ装置の電源が切断された場合、「WDFTFZ」サービスの動作は保証できません。サーバの運用中にディスクアレイ装置の電源を切断しないでください。

(9) ディスクアレイ装置排他使用中のメッセージについて

Microsoft Cluster Server (MSCS) によるクラスタシステムにおいて、ディスクアレイ装置を構成するすべてのディスクが一方のサーバから占有されている場合、もう一方のサーバからはディスクアレイ装置を監視できません。ディスクアレイ装置管理コンソールの起動中にこの状態になると、以下のメッセージが出力されます。

「ディスクアレイ装置に対してアクセスできません。現在この装置は排他使用中です。」

付録 D.2 LDSM のみの留意事項

D.2.1 SMM2 用ドライバ/ファームウェアのインストールにおける留意事項

「第 2 部 5.5」または「第 2 部 5.6.3」の手順 **3** で、「インストールオプション」グループで、「SMM2 (Server Monitor Module 2) をインストールする」を選択し、インストール終了後に、

「Intel(R) LANDesk(R) Server Manager V6.0 のインストールが終了しました。しかしインストールに一部失敗した個所があります。マシン環境および <システムドライブ>:\LDSMERR.LOG を確認してください。」

というエラーメッセージが表示され、LDSMERR.LOG の内容が「Could not connect to SMM2.」となっている場合は、以下の原因が考えられます。それぞれ以下に示す確認および対処を行ってください。

(1) SMM2 に LAN ケーブル (10Base-T) が正しく取り付けられていない。

確認方法： SMM2 に割り当てた IP アドレスに対して PING コマンドが応答しません。

対処方法： SMM2 に LAN ケーブル (10Base-T) を正しく取り付けてください。そのあと、再度インストールを行ってください。

(2) SMM2 に割り当てた IP アドレスが適切でない。

確認方法： SMM2 に割り当てた IP アドレスに対して PING コマンドが応答しません。

ただし、その IP アドレスを使っているコンピュータがある場合には、PING コマンドが応答することもあります。

対処方法： インストール時に適切な IP アドレスを指定してください。

(3) ハードウェアの装着や設定が適切でない。

確認方法： SMM2 に割り当てた IP アドレスに対して PING コマンドが応答しません。

また、システムイベントログに「ソース名:Emc2」または「ソース名:IRMC」のエラーが記録されます。

対処方法： SMM2 が本体に正しく装着されていない、SMM2 の IRQ が他のデバイスとシェアされている、など、ハードウェアの装着や設定に関して問題があると考えられます。セットアップを中止し、本体および SMM2 の取扱説明書にしたがって、SMM2 を正しく装着または設定してから、再度インストールを行ってください。

D.2.2 旧製品と混在運用する場合の留意事項

LDSM の Server Manager コンソールソフトウェアは、お持ちのサーバに添付されている LDSM の中で最新バージョン/レベルの CD-ROM からインストールしてください。また、旧製品の Server Manager コンソールソフトウェアがインストールされている管理端末に、最新バージョン/レベルの Server Manager コンソールソフトウェアをインストールする場合は、旧製品の Server Manager コンソールソフトウェアをアンインストール後にシステムを再起動して行ってください。

なお、本製品の Server Manager コンソールソフトウェアをインストールした管理端末から監視できるのは、LDSM V2.52 L10A 以降の製品の Server Manager エージェントソフトウェアがインストールされているサーバです。LDSM V2.52 L10 以前 (LANDesk(TM) Server Monitor Module V1.1 / V1.1a、LDSM V2.5a / V2.52 L10) の Server Manager エージェントソフトウェアがインストールされているサーバは監視できません。監視したい場合は、LDSM V2.52 L10 以前の製品の管理端末を別にご用意いただくか、Server Manager エージェントソフトウェアを LDSM V2.52 L10A 以降の製品にアップグレードして運用することを推奨します。



旧製品のアンインストールについては、旧製品の CD-ROM およびマニュアルを参照してください。

D.2.3 リモートコントロール機能を利用する場合の留意事項

LDSM は、リモートコントロール機能をもっています。LDSM とリモートコントロール機能をもつ他のソフトウェアを同時に運用する場合は、どちらか一方のリモートコントロール機能のみ使用できます。

LDSM と、SystemWalker、LiveHelp、Microsoft SMS ® (Systems Management Server) などのリモートコントロール機能を持つ他のソフトウェアを同時に運用し、LDSM のリモートコントロール機能を使用するには、LDSM と他のソフトウェアを以下の手順でインストールしてください。

Point

LDSM とリモートコントロール機能をもつ他のソフトウェアを同時に運用し、他のソフトウェアのリモートコントロール機能を使用する場合は、それぞれのソフトウェアをインストールするだけで、他のソフトウェアのリモートコントロール機能が使用できます。なお、リモートコントロール機能の設定については、他のソフトウェアのマニュアルを参照してください。

● LDSM と、SystemWalker または LiveHelp を同時に運用し、LDSM のリモートコントロール機能を使用する場合

- 1) LDSM と SystemWalker または LiveHelp を任意の順序でインストールします。
- 2) LDSM のリモートコントロール機能を有効にします。

▶LDSM のリモートコントロール機能を設定する→「第 2 部 5.8.1」参照

● LDSM と Microsoft SMS を同時に運用し、LDSM のリモートコントロール機能を使用する場合

- 1) LDSM と Microsoft SMS を任意の順序でインストールします。
- 2) LDSM のリモートコントロール機能を有効にします。

▶LDSM のリモートコントロール機能を設定する→「第 2 部 5.8.1」参照

- 3) システムを再起動する前に、コントロールパネルから「サービス」を起動し、Microsoft SMS のリモートコントロールサービスのスタートアップ設定を「無効」にします。

4) システムを再起動します。



・サーバに SMM2 を取り付けた場合は、LDSM のリモートコントロール機能を使用してください。他のソフトウェアのリモートコントロール機能を使用すると、Server

・LDSM のリモートコントロール機能を使用して運用しているときに、他のソフトウェアをインストールして、他のソフトウェアのリモートコントロール機能に切り替えて使用したい場合は、他のソフトウェアをインストールする前に必ず LDSM のリモートコントロール機能を無効にください。

▶LDSM のリモートコントロール機能を設定する→「第 2 部 5.8.1」参照

D.2.4 LDSM の使用上の留意事項

運用時の留意事項については、本製品の CD-ROM の、「SVMANAGE」ディレクトリ配下のソフトウェア説明書（SMREADME.TXT）にも記述されていますので、合わせてお読みください。

(1) LDSM 運用中のディスク操作について

サーバ上でディスクアドミニストレータ（「WINDISK.EXE」）または「ディスクの管理」を使用してハードディスク、光磁気ディスクを操作するときは、「Intel Server Monitor」サービスをいったん停止してください。

- 「Intel Server Monitor」サービスを停止するには

■Windows NT の場合

- 1) Windows NT のコントロールパネルから「サービス」アイコンをダブルクリックし、「Intel Server Monitor」を選択します。
- 2) [停止] ボタンをクリックし、「Intel Server Monitor」サービスを停止します。

■Windows 2000 の場合

- 1) Windows 2000 のコントロールパネルから「管理ツール」アイコンをダブルクリックします。
- 2) 「管理ツール」ウィンドウから「サービス」アイコンをダブルクリックし、「Intel Server Monitor」を選択します。
- 3) メニューバーの [操作] より [停止] を選択し、「Intel Server Monitor」サービスを停止します。

ディスクアドミニストレータまたは「ディスクの管理」での操作を完了したあとは、「Intel Server Monitor」サービスを再開します。

- 「Intel Server Monitor」サービスを再開するには

■Windows NT の場合

- 1) Windows NT のコントロールパネルから「サービス」アイコンをダブルクリックし、「Intel Server Monitor」を選択します。
- 2) [開始] ボタンをクリックし、「Intel Server Monitor」サービスを再開します。

■Windows 2000 の場合

- 1) Windows 2000 のコントロールパネルから「管理ツール」アイコンをダブルクリックします。
- 2) 「管理ツール」ウィンドウから「サービス」アイコンをダブルクリックし、「Intel Server Monitor」を選択します。
- 3) メニューバーの【操作】より【開始】を選択し、「Intel Server Monitor」サービスを再開します。

(2) 有料回線利用時の LDSM の運用について

管理端末で Server Manager コンソールを起動していると、管理端末と管理対象サーバとの間で定期的に通信が行われます。「Adaptec SCSI Monitor II」、「Mylex RAID Monitor」など Server Manager コンソールにスナップインする監視機能を起動している場合も同様です。このため、管理端末と管理対象サーバとの間に有料回線を利用したネットワーク環境では、Server Manager コンソールを常時起動していると、通信料金がかかります。このようなネットワーク環境では、定期的に Server Manager コンソールを起動してヘルスなどの状態を確認し、確認したら Server Manager コンソールを終了するような運用を推奨します。

(3) Server Manager コンソールが使用するアラート音について

Server Manager コンソールは、初期設定では、エラーが発生するとエラータイプごとに異なるサウンドを鳴らす設定になっています。サウンド設定は、解除するなどカスタマイズできます。

サウンド設定を解除するには、以下の操作を行います。

- 1) Server Manager コンソールのメインウィンドウで、【編集】－【表示オプション】を選択します。
- 2) 「表示オプション」ダイアログで、「サウンド」タブを選択します。
- 3) 使用しないサウンド設定のチェックボックスを解除します。

(4) ブロードキャストメッセージの送信について

エラーが発生したときのアラート通知として「メッセージをブロードキャストする」、または「ブロードキャストメッセージ送信」を選択すると、エラーが発生したときに、サーバからそのサーバにセッションのあるコンピュータに対してブロードキャストメッセージが送信されます。サーバ上のコマンドプロンプトより「NET SESSION」コマンドを実行すると、セッションのあるコンピュータが表示されます。



- ・セッションは、アクティブでない状態が一定時間（初期値：15 分）経過すると、自動的に切断されます。この場合、セッションが切断しているコンピュータにはブロードキャストメッセージが送信されません。
- ・「NET CONFIG SERVER」コマンドで設定できます。
- ・ネットワークの設定により、同一のエラーメッセージが複数回送信される場合があります。

(5) Windows 98 でのブロードキャストメッセージの受信について

管理端末の NOS が Windows 98 の場合、サーバからのブロードキャストメッセージを受信するには、Windows 98 に標準添付されている「WINPOPUP.EXE」が起動している必要があります。

(6) 「Intel EMC」、「IRMC」の読替えについて

Server Manager コンソール上の「Intel EMC」、「Intel EMC2」の表記は、それぞれ「SMM」、「SMM2」と読み替えてください。

また、「IRMC」、「IRMC1」、「IRMC2」の表記は、それぞれ「SMM」、「SMM1」、「SMM2」と読み替えてください。

(7) Server Manager コンソール動作のシャットダウンについて

Server Manager コンソールを動作させた状態で、シャットダウン（ログオフ、再起動）を行うと「OS をシャットダウンする前に Server Manager を終了してください。」のメッセージボックス表示されシャットダウンは行われません。メッセージボックスの [OK] ボタンをクリックした後、Server Manager コンソールを終了させてからシャットダウンを行ってください。

また、サーバで Server Manager コンソールが動作中の状態で、ハードの異常発生によるシャットダウンアクションが実行された場合も同様のメッセージボックスが表示され、シャットダウン処理は行われません。SMM2 や、Server Manager エージェント、FSC でシャットダウンアクションを使用する場合は、サーバを管理端末として使用しないでください。

D.2.5 ベースボード／筐体監視を使用する際の留意事項

(1) SNMP サービスの認証コミュニティ名について (ES200／ES210／ES280／MS380 の場合)

SNMP サービスのプロパティの「セキュリティ」タブ内にある「認証コミュニティ名」には、初期値として「public」が設定されています。FSC の動作には認証コミュニティ名として「public」が必要ですので、この値は削除しないでください。なお、他の「認証コミュニティ名」を使用したい場合は、「public」を残した状態で、他の「認証コミュニティ名」を管理コンソール側に作成される「Community.ini」ファイルに追加してください。この設定を行なわないと、FSC のコンソールウィンドウがサーバの情報を正しく表示できず、グレー表示されます。

「Community.ini」ファイルは、FSC コンソールがインストールされたディレクトリ（初期値は [システムドライブ]:¥Program Files¥Intel¥Server Manager）に作成されます。

－ 設定方法

管理対象サーバで、SNMP サービスのプロパティの「セキュリティ」タブで「受け付けるコミュニティ名」に定義されている名称を、「Community.ini」ファイル内に「<サーバの IP アドレス>=<コミュニティ名>」という形式で記述します。

－ 「Community.ini」ファイルの記述例

```
[Community]
999.99.98.1=svrctrl     ・・・コミュニティ名が svrctrl の場合
-----
```

D.2.6 SMM2 を使用する際の留意事項

(1) サーバ NOS 未起動時のリモートコントロール機能について

SMM2 を取り付けしたサーバに対しては、サーバの NOS が起動していないときでもリモートコントロール機能が実行できますが、サーバ画面は表示されません。また、このとき、サーバに対するキーボード操作は有効になっていますので、リモートコントロールウィンドウがアクティブになっている状態でキーボード操作は行わないでください。

(2) 公衆回線経由の SMM2 アラート通知機能について

公衆回線経由の SMM2 アラート通知機能を使用する場合、以下の環境が必要です。

- ・ SMM2 側外付モデム（オプション）
- ・ そのアラート通知を受信するコンピュータ、またはそのコンピュータと同一ネットワークセグメント上に設置されたコンピュータでリモートアクセスサービスが利用可能



アラート通知用電話帳で入力したユーザ及びパスワードは、リモートアクセスサーバにログインするための認証情報です。同じユーザ（同じパスワード）をリモートアクセス

(3) SMM2 によるサーバ電源の制御について

拡張機能用コネクタがないサーバでは、SMM2 の拡張機能用ケーブルが接続できません。このため、サーバ電源の制御の中では以下の機能のみ使用できます。電源切断、および電源投入の機能は使用できません。

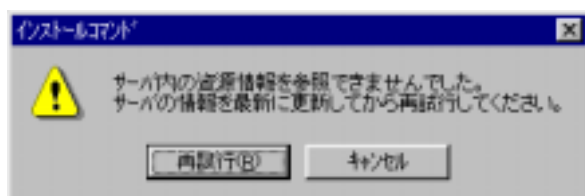
- － Server Manager コンソールからのサーバ電源の制御
（＜サーバ名＞ | タスク | 「サーバ電源の制御」）
「OS をシャットダウン後再起動」
- － SMM2 上の電圧センサ、温度センサから異常を検出したときのアクション指定
（＜サーバ名＞ | サーバモニタモジュール 2 | アラートグループ | ＜センサグループ＞ | タスク | 「イベントアクションの設定」 | 重要度が「危険」のイベントにサーバアクションを割り当てる）
「OS をシャットダウン後再起動」

また、＜サーバ名＞ | サーバモニタモジュール 2 | タスク | 「SMM2 のインスツルメンテーション」の 2 ページめにある選択項目で、「以下のいずれかを選択してください：」に「該当なし」と選択されている箇所は、変更しないでください。

付録 E トラブルシューティング

「サーバ内の資源情報を参照できませんでした。サーバの情報を最新に更新してから再試行してください。」と表示された場合

サーバ側でクライアントセットアップウィンドウの操作中にクライアント側でログインすると、以下のダイアログが表示されます。



操作中のクライアントセットアップウィンドウで  をクリックするか、[表示] メニューから「最新に更新」を選択した後、「インストールコマンド」ダイアログの [再試行] をクリックしてください。

クライアントコンピュータへのインストール中に「セットアップに失敗した資源があります」と表示された場合

サーバのクライアントセットアップを起動し、「クライアント一覧」で対象クライアントコンピュータのセットアップ結果を確認してください。確認時は、「表示」の「最新に更新」を実行してください。

「登録済みセットアップ資源一覧」でセットアップを行った資源を選択し、クライアント一覧のセットアップ状態が「エラー」の場合は、その登録資源についてセットアップ情報を見直し、正しい設定で資源の再登録を行ってください。

ただし、資源の再登録を行った場合はセットアップが完了しているクライアントの状態も未完了となりますので、セットアップが完了しているクライアントについては、対象クライアントの選択を解除してください。

デスクトップ設計画面を閉じる時に「システムポリシーファイルの作成中に異常が発生しました。」とエラーメッセージが表示された場合

Windows 2000 のドメインコントローラ上でデスクトップ設計を使用する場合、デスクトップ設計を起動した管理者ユーザが「Enterprise Admins」グループに属していないと、このメッセージが表示されます。

この場合、ポリシーの変更は失敗しており、設定は保存されていません。管理者ユーザを「Enterprise Admins」グループに追加して再起動し、デスクトップ設計をやり直してください。

付録-28 「サーバ内の資源情報を参照できませんでした。サーバの情報を最新に更新してから再試行してください。」と表示された場合

ログオン時に自動的にインターネットエクスプローラが起動する場合

WizardConsole をインストールしたサーバ、または起動用フロッピーでセットアップしたクライアントコンピュータにログオンした直後に、インターネットエクスプローラが起動することがあります。これは、サーバのセットアップ時に「WizardConsole」のインストールを行った場合、デフォルトがログオン時に WizardMenu を起動する設定になっているためです。

WizardMenu を使用しない場合は、サーバ側で WizardConsole の「デスクトップ環境設定」を起動し、「初期メニュー」タブで「Windows 標準」を選択します。

また、WizardMenu を使用する場合は、IIS がサーバ上に構成されていない状態のとき、インターネットエクスプローラが起動する際にエラーとなります。WizardMenu を使用するには、以下の操作を行ってください。

- 1) サーバ上に IIS（バージョン 3.0 以上）を構成します。
- 2) c:\wizcnsl\af13\inetpub フォルダにインターネット エイリアス（SVWizardMenu）を追加します。
- 3) デスクトップ環境設定の「初期メニュー」タブで「Web メニュー」を選択します。

リモート OS セットアップ中に発生する可能性のあるエラーについて

エラーコード	原因と対策
10	原因 区画が作成できませんでした。 対策 OS セットアップを実行して区画サイズを変更してフロッピーを作成し直してください。
11	サーバと通信できなかった場合に発生します。以下の原因と対策があります。 原因 1 LAN ケーブルが正しく接続されていない。 対策 1 LAN ケーブルがきちんと接続されているか確認してください。 原因 2 サーバ上で TFTP サービスが実行されていない。 対策 2 コントロールパネルより「サービス」の「TFTP Service」が開始されているか確認してください。 原因 3 サーバとクライアントが同じネットワーク上にいない。 対策 3 サーバとクライアントの IP アドレスとサブネットマスクを確認してください。同じネットワークにいない場合はゲートウェイアドレスを設定してください。 原因 4 指定されたファイルがサーバ上で見つからない。 対策 4 OS セットアップ実行後にファイルが削除された可能性があります。もう一度 OS セットアップを実行してドライバーズ CD をコピーし直してください。
12	原因 情報ファイル Cwizard.ini の内容が正しくありません。 対策 OS セットアップを実行して、フロッピーを作成し直してください。
15	説明 ファイルの書き込みが出来ませんでした。 原因 ディスクが利用可能でない可能性があります。
16	説明 Windows NT の無人セットアップスクリプト Unattend.txt が正しくありません。 原因 ドライバーズ CD から正しくコピーされなかった可能性があります。
20	説明 クライアントのコンピュータ情報が取得できませんでした。 対策 WizardConsole からクライアント導入フロッピーを再作成してください。

電源スイッチを押しても電源が切断できない場合

セットアップ中、PCI カードのコンフィグレーションチェックでエラーがあった場合、エラーメッセージを表示後に電源スイッチを押しても電源が切断できなくなることがあります。この場合、電源スイッチを 4 秒以上押すと電源を切断して、エラー要因を取り除いてください。

付録 F CSV ファイルフォーマットについて

使用する CSV ファイルの形式は、カンマで区切ったテキストのファイル形式です。ファイルは登録する画面にあわせてそれぞれ作成してください。

それぞれ第 1 フィールド以外は空白にすることができます。ただし、入力必須項目は CSV ファイル取込みを行った後、入力を行ってください。

Point ● 表計算ソフトを使用すると簡単に作成できます。

コンピュータ用

	第 1 フィールド	第 2 フィールド	第 3 フィールド
入力項目	コンピュータ名	OS 種別	IP アドレス
設定値	(半角 15 文字以内)	1-Windows 95 2-Windows NT WS 4.0 3-Windows 98 4-Windows NT SV 4.0 (BDC) 5-Windows 2000 Pro	0-DHCP xxx.xxx.xxx.xxx (第 1 オクテットは 1~223)

例 1) Computer1,2,0

例 2) Computer2,3,100.10.10.3

例 3) Computer3,5,100.10.10.4

例 4) Computer4,1,100.10.10.5

※例 1 ではコンピュータ名は Computer1、OS 種別は WindowsNT WS 4.0、IP アドレスは DHCP です。

※例 2 ではコンピュータ名は Computer2、OS 種別は Windows98、IP アドレスは 100.10.10.3 になります。

グループ用

	第 1 フィールド	第 2 フィールド
入力項目	グループ名	説明
設定値	半角 20 文字以内	半角 64 文字以内

例 1) PG Group1,PG グループ

例 2) CT Group2,CT グループ

ユーザ用

	第 1 フィールド	第 2 フィールド	第 3 フィールド
入力項目	ユーザ名	フルネーム	説明
設定値	半角 20 文字以内	半角 64 文字以内	半角 48 文字以内

例 1) fuji,taro fuji,富士太郎

例 2) nonaka,,

例 3) tanaka,keisuke tanaka,

共有資源用

	第 1 フィールド	第 2 フィールド	第 3 フィールド
入力項目	共有資源名	ディレクトリ名	説明
設定値	半角 80 文字以内	半角 246 文字以内	半角 48 文字以内

例 1) tool,c:¥tool,ツール用

例 2) work_fol,c:¥work¥work_folder,

例 3) test_fol,c:¥work¥test_folder,テスト用フォルダ

付録 G デザインシート

DesignMagic（サーバ設計）Windows NT SV 4.0 選択時

設定項目		選択項目	
サーバ設計			
機種名	PRIMERGY ☐ ES200 ☐ ES210 ☐ ES280 ☐ ES310 ☐ MS380 ☐ MS410 ☐ TS110 ☐ その他（ ）		
導入種別	☐ 新規導入 ☐ インストールタイプ		
導入 OS	☐ Microsoft® Windows NT® Server 4.0 ☐ Microsoft® Windows NT® Server, Enterprise Edition 4.0		
ハードディスクの設定（新規導入時のみ）			
RAID 選択時のみ	ブートデバイスの選択	☐ SCSI/IDE ☐ RAID	
	RAID レベル	☐ RAID0 ☐ RAID1 ☐ RAID5 ☐ RAID6	
	使用カード	☐ GP5-141A ☐ GP5-143 ☐ GP5-144 ☐ GP5-146	
	ハードディスク数	台(RAID0 時 2～8 台、RAID1 時 2 台、RAID5 時 3～8 台 RAID6 時 3～8 台)	
	ホットスワップディスクの作成	☐ する ☐ しない	
手動設定時のみ	BGI 機能	☐ 使用する ☐ 使用しない	
	パーティションサイズ	☐ 自動設定 ☐ 手動設定	
	システム	MB (2048～4096MB)	(合わせて 8192MB)
	アプリケーション	MB (0～6144MB)	
	メンテナンス	MB (0 / 100MB)	
NTFS コンバート (システム区画)	☐ する ☐ しない		
ユーザ情報の設定			
ユーザ名	(英数 半角 50 文字まで 全角使用可)		
組織名	(英数 半角 50 文字まで 全角使用可)		
プロダクト ID/CD キー	☐ -OEM- - ☐ -		
クライアントライセンス	同時使用ユーザ数 (ユーザ) ☐ 接続クライアント数		
コンピュータ名	(英数 半角 15 文字まで)		
サーバ種別	☐ プライマリドメインコントローラ ☐ バックアップドメインコントローラ ☐ スタンドアロンサーバ (サーバ)		
ドメイン名	(英数 半角 15 文字まで)		
ワークグループ名 (スタンドアロンサーバ選択時のみ)	(英数 半角 15 文字まで)		
インストールディレクトリ	(デフォルト-G:\WINNT)		
タイムゾーン	(デフォルト-GMT+9:00 東京、大阪、札幌、ソウル、ヤクツク)		

(続く)

設定項目		選択項目
ネットワークの設定 (ネットワークの詳細)		
DHCP の使用		☐ する ☐ しない
しない選択時のみ	IP アドレス	
	サブネットマスク	
	ゲートウェイアドレス	
プロトコル		☐ NetBEUI プロトコル ☐ NWLink IPX/SPX 互換トランスポート ☐ DLC プロトコル ☐ Streams 環境 ☐ Point to Point Tunneling プロトコル
WINS の使用		☐ する ☐ しない
する選択時のみ	プライマリ WINS サーバ	
	セカンダリ WINS サーバ	
LMHOSTS の読み込み		☐ する ☐ しない
DNS の使用		☐ する ☐ しない
する選択時のみ	ホスト名	
	ドメイン名	
	IP アドレス	
サーバ機能の設定		
サービス		☐ DHCP サーバ ☐ DNS サーバ ☐ WINS サーバ ☐ ネットワークモニタエージェント ☐ 簡易 TCP/IP サービス ☐ TCP/IP 印刷 ☐ リモートアクセスサービス ☐ Gateway Service for NetWare ☐ SNMP サービス ☐ SAP エージェント
WWW		☐ Internet Information Server
DHCP の詳細 (選択時のみ)		
開始アドレス		
終了アドレス		
サブネットマスク		
Gateway Service for NetWare の詳細 (選択時のみ)		
サーバの場所		☐ 優先サーバ ☐ デフォルトのツリーとコンテキスト
優先サーバ		(優先サーバ選択時のみ)
デフォルトのツリーとコンテキスト		ツリー： コンテキスト：
ログインスクリプト		☐ 実行する ☐ 実行しない
SNMP の詳細 (選択時のみ)		
エージェント	連絡先	
	場所	
	サービス	☐ 物理層 ☐ アプリケーション ☐ データリンク/サブネットワーク ☐ インターネット ☐ エンドツーエンド
トラップ	コミュニティ名	
	トラップ送信先 1	
	トラップ送信先 2	
	トラップ送信先 3	

(続く)

設定項目		選択項目
セキュリティ	認証トラップ	☐ 送信する ☐ 送信しない
	受け付けるコミュニティ名1	
	受け付けるコミュニティ名2	
	受け付けるコミュニティ名3	
	SNMP パケットの発信ホスト	☐ すべてのホスト ☐ 指定したホストのみ
	発信ホスト 1	(指定する場合のみ)
	発信ホスト 2	(指定する場合のみ)
	発信ホスト 3	(指定する場合のみ)
IIS の詳細(選択時のみ)		
IIS インストールディレクトリ		
サービス	FTP サービス : Gopher サービス: WWW サービス :	
オプション	☐ インターネットサービスマネージャ ☐ HTMLA ☐ WWW サンプル	
アプリケーションの設定		
WizardConsole をインストールする	☐ する ☐ しない	
電源切断機能 HAL (新規導入時のみ)	☐ インストールする ☐ インストールしない	
ServicePack を適用する (新規導入時のみ)	☐ する ☐ しない	
アプリケーション	☐ Servervisor V1.0/V1.1 ☐ FM Advisor V2.20 ☐ DSNAP V1.0 ☐ PROBEPRO V2.0 ☐ SystemWalker/LiveHelp@Client V5.0	

DesignMagic (サーバ設計) SBS 選択時

設定項目		選択項目	
サーバ設計			
機種名	PRIMERGY ☐ ES200 ☐ ES210 ☐ ES280 ☐ MS310 ☐ MS380 ☐ MS410 ☐ TS110 ☐ その他 ()		
導入種別	☒ 新規導入		
導入 OS	☒ Microsoft® BackOffice® Small Business Server 4.5		
ハードディスクの設定			
ブートデバイスの選択		☐ SCSI／IDE ☐ RAID	
RAID 選択時のみ	RAID レベル	☐ RAID0 ☐ RAID1 ☐ RAID5 ☐ RAID6	
	使用カード	☐ GP5-141A ☐ GP5-143 ☐ GP5-144 ☐ GP5-146	
	ハードディスク数	台 (RAID0時 2～8台、RAID1時 2台、RAID5時 3～8台 RAID6 時 3～8台)	
	ホットスベアディスク の作成	☐ する ☐ しない	
	BGI 機能	☐ 使用する ☐ 使用しない	
パーティションサイズ		☐ 自動設定 ☐ 手動設定	
手動 設定時のみ	システム	MB	(2048～4096MB)
	アプリケーション	MB	(0～6144MB)
	メンテナンス	MB	(0 / 100MB)
	NTFS コンパート (システム区画)	☒ する	
システムの設定			
COM1	☐ ダイヤルアウトのみ ☐ 着信のみ ☐ ダイヤルアウトと着信 モデム：		
COM2	☐ ダイヤルアウトのみ ☐ 着信のみ ☐ ダイヤルアウトと着信 モデム：		
電源切断機能 HAL	☐ インストールする ☐ インストールしない		

DesignMagic （サーバ設計） Windows 2000 SV 選択時

設定項目		選択項目	
サーバ設計			
機種名	PRIMERGY ☐ ES200 ☐ ES210 ☐ ES280 ☐ MS310 ☐ MS380 ☐ MS410 ☐ TS110 ☐ その他（ ）		
導入種別	☐ 新規導入 ☐ インストールタイプ		
導入 OS	☐ Microsoft® Windows® 2000 Server ☐ Microsoft® Windows® 2000 Advanced Server		
ハードディスクの設定（新規導入時のみ）			
RAID 選択時のみ	ブートデバイスの選択	☐ SCSI／IDE ☐ RAID	
	RAID レベル	☐ RAID0 ☐ RAID1 ☐ RAID5 ☐ RAID6	
	使用カード	☐ GP5-141A ☐ GP5-143 ☐ GP5-144 ☐ GP5-146	
	ハードディスク数	台 (RAID0 時 2～8 台、RAID1 時 2 台、RAID5 時 3～8 台 RAID6 時 3～8 台)	
	ホットスワップディスクの作成	☐ する ☐ しない	
手動 設定時のみ	BGI 機能	☐ 使用する ☐ 使用しない	
	パーティションサイズ	☐ 自動設定 ☐ 手動設定	
	システム	MB (2048～4096MB)	(合わせて 8192MB)
	アプリケーション	MB (0～6144MB)	
	メンテナンス	MB (0 / 100MB)	
NTFS コンバート (システム区画)	☐ する ☐ しない		
ユーザ情報の設定			
ユーザ名	(英数 半角 50 文字まで 全角使用可)		
組織名	(英数 半角 50 文字まで 全角使用可)		
コンピュータ名	(英数 半角 15 文字まで)		
クライアントライセンス	同時使用ユーザ数 (ユーザ)	☐ 接続クライアント数	
ワークグループ名	(英数 半角 15 文字まで)		
ドメイン名	(英数 半角 15 文字まで)		
プロダクト I D	- - - -		
インストールディレクトリ (新規導入時のみ)	(デフォルトーC:\WINNT)		
タイムゾーン			

(続く)

設定項目		選択項目	
ネットワークの設定			
クライアント	☐ Microsoft ネットワーク用クライアント ☐ NetWare 用ゲートウェイ (とクライアント) サービス		
サービス	☐ Microsoft ネットワーク用ファイルとプリンタ共有 ☐ QoS パケットスケジューラ ☐ SAP エージェント		
プロトコル	☒ インターネットプロトコル(TCP/IP) ☐ AppleTalk プロトコル ☐ DLC プロトコル ☐ NetBEUI プロトコル ☐ ネットワークモニタドライバ ☐ Nwlink IPX/SPX/NetBIOS 互換トランスポートプロトコル		
Microsoft ネットワーク用クライアント (選択時のみ)			
ネームサービスプロバイダ	☐ Windows ロケータ ☐ DCE セル ディレクトリ サービス ネットワークアドレス (DCE セル ディレクトリ サービス選択時のみ)		
NetWare 用ゲートウェイ (とクライアント) サービス (選択時のみ)			
サーバの場所	☐ 優先サーバ ☐ デフォルトのツリーとコンテキスト 優先サーバ (優先サーバ選択時のみ) ツリー (デフォルトのツリーとコンテキスト選択時のみ) コンテキスト (デフォルトのツリーとコンテキスト選択時のみ) ログインスクリプト ☐ 実行する ☐ 実行しない		
Microsoft ネットワーク用ファイルとプリンタ共有 (選択時のみ)			
最適化	☐ メモリの使用を最小にする ☐ バランスをとる ☐ ファイル共有のデータスループットを最大にする ☐ ネットワークアプリケーションのデータスループットを最大にする		
ブラウザブロードキャスト	☐ する ☐ しない		
インターネットプロトコル(TCP/IP)のプロパティ			
DHCP の使用		☐ する ☐ しない	
しない 選択時 のみ	IP アドレス		
	サブネットマスク		
	ゲートウェイアドレス		
DNS のアドレス取得		☐ 自動設定 ☐ 手動設定 (優先 DNS サーバ (代替 DNS サーバ	
詳細設定 (手動設定)	DNS	DNS サーバアドレス	
		ドメイン検索	☐ プライマリおよび接続専用の DNS サフィックスを追加する (☐ プライマリ DNS サフィックスの親サフィックスを追加する) ☐ 以下の DNS サフィックスを順に追加する
		DNS ドメイン サフィックス名	(指定する時のみ)
	WINS	WINS アドレス	
		LMHOSTS の参照を する	☐ する ☐ しない
		NetBIOS over TCP/IP	☐ 有効にする ☐ 無効にする ☐ DHCP サーバから NetBIOS 設定を使う
	Nwlink IPX/SPX/NetBIOS 互換トランスポートプロトコルのプロパティ (選択時のみ)		
内部ネットワーク番号			
フレームの種類	☐ 自動検出する ☐ Ethernet II ☐ Ethernet 802.3 ☐ Ethernet 802.2 ☐ Ethernet SNAP		
ネットワーク番号			

設定項目		選択項目	
サーバ機能の設定			
スクリプト デバッガ		☐ 使用する	☐ 使用しない
インデックス サービス		☐ 使用する	☐ 使用しない
ターミナルサービス	クライアントクリエータファイル	☐ 使用する	☐ 使用しない
	ターミナル サービス を有効にする	☐ 使用する	☐ 使用しない
インターネット インフォメーション サービス(IIS)	FTP (File Transfer Protocol) サーバ	☐ 使用する	☐ 使用しない
	WWW (World Wide Web)サーバ	☐ 使用する	☐ 使用しない
	インターネット インフォメーション サービス スナップイン	☐ 使用する	☐ 使用しない
	インターネット サービス マネージャ (HTML)	☐ 使用する	☐ 使用しない
	オンラインヘルプ	☐ 使用する	☐ 使用しない
	共通コンポーネント	☐ 使用する	☐ 使用しない
	FrontPage 2000 Server Extensions	☐ 使用する	☐ 使用しない
	NNTP Service	☐ 使用する	☐ 使用しない
	SMTP Service	☐ 使用する	☐ 使用しない
	Visual InterDev RAD Remote Deployment Support	☐ 使用する	☐ 使用しない
その他のネット ワークファイルと 印刷サービス	Macintosh 用ファイルサービス	☐ 使用する	☐ 使用しない
	Macintosh 用印刷サービス	☐ 使用する	☐ 使用しない
	UNIX 用印刷サービス	☐ 使用する	☐ 使用しない
ターミナル サービス ライセンス		☐ 使用する	☐ 使用しない
ネットワーク サービス	COM インターネット サービス プロキシ	☐ 使用する	☐ 使用しない
	動的ホスト構成プロトコル (DHCP)	☐ 使用する	☐ 使用しない
	QoS 受付制御	☐ 使用する	☐ 使用しない
	Windows インターネット ネーム サービス (WINS)	☐ 使用する	☐ 使用しない
	インターネット認証サービス	☐ 使用する	☐ 使用しない
	ドメイン ネーム システム (DNS)	☐ 使用する	☐ 使用しない
	簡易 TCP/IP サービス	☐ 使用する	☐ 使用しない
メッセージ キュー サービス		☐ 使用する	☐ 使用しない
リモート インストール サービス		☐ 使用する	☐ 使用しない
リモート記憶域		☐ 使用する	☐ 使用しない
管理とモニタツール	ネットワーク モニタ ツール	☐ 使用する	☐ 使用しない
	簡易ネットワーク 管理プロトコル (SNMP)	☐ 使用する	☐ 使用しない
	接続マネージャコンポーネント	☐ 使用する	☐ 使用しない
Windows Media サービス	Windows Media サービス	☐ 使用する	☐ 使用しない
	Windows Media サービス アドミニストレータ	☐ 使用する	☐ 使用しない

(続く)

設定項目		選択項目		
アクセサリとユーティリティ	ユーザ補助の設定ウィザード	☐ 使用する ☐ 使用しない		
	電卓	☐ 使用する ☐ 使用しない		
	文字コード表	☐ 使用する ☐ 使用しない		
	クリップボード ビューア	☐ 使用する ☐ 使用しない		
	デスクトップの壁紙	☐ 使用する ☐ 使用しない		
	ドキュメント テンプレート	☐ 使用する ☐ 使用しない		
	マウス ポインタ	☐ 使用する ☐ 使用しない		
	オブジェクト パッケージャ	☐ 使用する ☐ 使用しない		
	ペイント	☐ 使用する ☐ 使用しない		
	ワードパッド	☐ 使用する ☐ 使用しない		
	チャット	☐ 使用する ☐ 使用しない		
	ハイパーターミナル	☐ 使用する ☐ 使用しない		
	ダイヤラ	☐ 使用する ☐ 使用しない		
	フリーセル	☐ 使用する ☐ 使用しない		
	マインスイーパー	☐ 使用する ☐ 使用しない		
	ピンボール	☐ 使用する ☐ 使用しない		
	ソリティア	☐ 使用する ☐ 使用しない		
	CD プレイヤー	☐ 使用する ☐ 使用しない		
	メディア プレイヤー	☐ 使用する ☐ 使用しない		
	サンプル サウンド	☐ 使用する ☐ 使用しない		
	サウンド レコーダー	☐ 使用する ☐ 使用しない		
	ユートピア サウンド 設定	☐ 使用する ☐ 使用しない		
	ボリューム コントロール	☐ 使用する ☐ 使用しない		
	簡易ネットワーク管理プロトコル (SNMP)のプロパティ(選択時)			
SNMP 選択時	エージェント	連絡先		
		場所		
		サービス	☐ 物理層 ☐ アプリケーション ☐ データリンク/サブネットワーク ☐ インターネット ☐ エンドツーエンド	
	セキュリティ	認証トラップ	☐ 送信する ☐ 送信しない	
		受け付けるコミュニティ名 1		
		受け付けるコミュニティ名 2		
		受け付けるコミュニティ名 3		
		SNMP パケットの発信ホスト	☐ すべてのホスト ☐ 指定したホストのみ	
		発信ホスト 1	(指定する場合のみ)	
		発信ホスト 2	(指定する場合のみ)	
	トラップ	発信ホスト 3	(指定する場合のみ)	
		コミュニティ名		
		トラップ送信先 1		
		トラップ送信先 2		
			トラップ送信先 3	

(続く)

設定項目		選択項目
ActiveDirectory の設定		
ActiveDirectory		☐ インストールする ☐ インストールしない
インストールする時のみ	ドメイン	☐ ドメインツリーの新しいフォレストを作成する ☐ 既存ドメインのドメインコントローラに追加する ☐ 既存ドメインツリーに新しい子ドメインを作成する ☐ 既存フォレストに新しいドメインツリーを配置する
	新しいドメインの完全な DNS 名	
	ドメイン NetBIOS 名	
	ユーザ名	
	ドメイン名	
	ドメインの完全な DNS 名	
	親ドメイン名	
	子ドメイン名	
ActiveDirectory の詳細(選択時)		
データベースの場所		
ログの場所		
SysVol フォルダの場所		
以前のサーバと互換性のあるアクセス許可		☐ する ☐ しない
アプリケーションの設定		
WizardConsole をインストールする		☐ する ☐ しない
アプリケーション		☐ FM Advisor V2.20 ☐ PROBEPRO V2.0 ☐ DSNAP V1.0

DesignMagic (クライアントシステム設計)

設定項目	選択・指定項目		
OU の指定	☐ OU を作成する		
作成する場合	組織名(OU 名)		
コンピュータ アカウント の作成	コンピュータ名	OS	IP アドレス
		☐ Win95 ☐ Win98 ☐ NT WS ☐ NT BDC ☐ Windows2000	☐ DHCP ☐ 手動設定 ____ . ____ . ____
		☐ Win95 ☐ Win98 ☐ NT WS ☐ NT BDC ☐ Windows2000	☐ DHCP ☐ 手動設定 ____ . ____ . ____
		☐ Win95 ☐ Win98 ☐ NT WS ☐ NT BDC ☐ Windows2000	☐ DHCP ☐ 手動設定 ____ . ____ . ____
		☐ Win95 ☐ Win98 ☐ NT WS ☐ NT BDC ☐ Windows2000	☐ DHCP ☐ 手動設定 ____ . ____ . ____
		☐ Win95 ☐ Win98 ☐ NT WS ☐ NT BDC ☐ Windows2000	☐ DHCP ☐ 手動設定 ____ . ____ . ____
		☐ Win95 ☐ Win98 ☐ NT WS ☐ NT BDC ☐ Windows2000	☐ DHCP ☐ 手動設定 ____ . ____ . ____
		☐ Win95 ☐ Win98 ☐ NT WS ☐ NT BDC ☐ Windows2000	☐ DHCP ☐ 手動設定 ____ . ____ . ____
		☐ Win95 ☐ Win98 ☐ NT WS ☐ NT BDC ☐ Windows2000	☐ DHCP ☐ 手動設定 ____ . ____ . ____
		☐ Win95 ☐ Win98 ☐ NT WS ☐ NT BDC ☐ Windows2000	☐ DHCP ☐ 手動設定 ____ . ____ . ____
		☐ Win95 ☐ Win98 ☐ NT WS ☐ NT BDC ☐ Windows2000	☐ DHCP ☐ 手動設定 ____ . ____ . ____
		☐ Win95 ☐ Win98 ☐ NT WS ☐ NT BDC ☐ Windows2000	☐ DHCP ☐ 手動設定 ____ . ____ . ____
		☐ Win95 ☐ Win98 ☐ NT WS ☐ NT BDC ☐ Windows2000	☐ DHCP ☐ 手動設定 ____ . ____ . ____
グループの作成	グループ名	説明	

※上記では次のように表記しています。

Windows 95 → Win95

Windows 98 → Win98

Windows NT WS → NTWS

Windows NT SV(ハックアップドメインコントローラの場合) → NT BDC

(続く)

設定項目	選択・指定項目		
ユーザアカウントの作成	ユーザ名	フルネーム	説明
共有資源の設定	共有名	ディレクトリ	説明

《留意事項》

＊グループの作成、ユーザアカウントの作成、共有資源の設定における“説明”は必ずしも設定する必要はありません。

＊ユーザアカウントの作成における“フルネーム”は必ずしも設定する必要はありません。

＊共有資源の設定における“ディレクトリ”は必ず設定しなくてはなりません。

DesignMagic (クライアントセットアップ)

設定項目		選択・指定項目			
動作環境設定					
共有ディレクトリ	(デフォルト-[SwAplDrv]\Swsinst)				
共有名	(デフォルト-SWRSINST)				
セットアップ資源の登録	☐ システム導入時に ServerWizard から資源を登録 ☐ システム導入後に WizardConsole から資源を登録				
セットアップ情報の設定					
セットアップ資源の追加	☐ アプリケーション ☐ ファイル ☐ 実行コマンド				
アプリケーション	一覧から選択	☐ する ☐ しない			
	する選択時	資源識別名			
		説明			
		サーバドライブ指定		☐ する ☐ しない	
		する選択時	資源格納元フォルダ名		
			ボリュームラベルチェック	☐ する ☐ しない	
			する選択時	ボリュームラベル名	
		する選択時	特定ファイルチェック	☐ する ☐ しない	
			する選択時	ファイル名	
			複数媒体の使用		☐ する ☐ しない
		する選択時	媒体枚数		
			する選択時	媒体ごとにサブフォルダを作成	☐ する ☐ しない
			UNC パス指定		☐ する ☐ しない
		する選択時	資源格納元 UNC パス名		
			ユーザ名		
	パスワード				
	アプリケーション固有情報				
	しない選択時	説明			
		サーバドライブ指定		☐ する ☐ しない	
		する選択時	資源格納元フォルダ名	(デフォルト-[CD-ROM])	
ボリュームラベルチェック			☐ する ☐ しない		
する選択時			ボリュームラベル名		
する選択時		特定ファイルチェック	☐ する ☐ しない		
		する選択時	ファイル名		
		複数媒体の使用		☐ する ☐ しない	
する選択時		媒体枚数			
		する選択時	媒体ごとにサブフォルダを作成	☐ する ☐ しない	

(続く)

設定項目			選択・指定項目	
アプリケーション	しない選択時	UNC パス指定	☐ する ☐ しない	
		する選択時	資源格納元 UNC パス名	
			ユーザ名	
			パスワード	
	従来インストーラ製品選択時	インストーラタイプ		☐ 従来インストーラ製品 ☐ Windows インストーラ製品
		従来インストーラ起動コマンド		
			インストーラ起動パラメタ	
		インストーラ起動コマンドフォルダを作業フォルダとして実行		☐ する ☐ しない
		セットアップ時にスクリプトを使用する		☐ する ☐ しない
		する選択時	スクリプトファイル名	
			起動方法	(デフォルト－mtrun[SW_COMMAND])
		Windows インストーラ製品選択時	Windows インストーラパッケージ	
	インストールユーザインタフェース		☐ 進行状況とエラーだけを表示 ☐ 対話インストール	
	ファイル	ファイル資源識別名		
説明				
資源格納元情報		☐ ファイル ☐ フォルダ配下のすべてのファイル		
ファイル格納元パス		(デフォルト－[CD-ROM])		
セットアップ先パス名				
同一ファイルが存在している場合		☐ 置換する ☐ 置換しない ☐ ファイルの後ろに追加する		
実行コマンド	実行コマンド資源識別名			
	説明			
	実行コマンド格納元パス名		(デフォルト－[CD-ROM])	
	起動方法		(デフォルト－mtrun[SW_COMMAND])	

《留意事項》

クライアントセットアップ機能の使用を“しない”と選択した場合はその時点で終了です。
 ここでクライアント機能の使用を“する”と選択しないと、クライアントセットアップ機能は使用できません。
 クライアントセットアップ機能を使用する場合は必ずセットアップ資源を追加しなくてはなりません。
 追加できるセットアップ資源は 64 個までです。

DesignMagic (デスクトップ設計)

設定項目		選択項目
デスクトップ名		
説明		
グループ一覧から有効とするグループ名		
初期メニュー		
Windows 標準		☐ する ☐ しない
Web メニュー		☐ する ☐ しない
する選択時のみ	Web メニューファイル名	
	Active Desktop の Web ページを追加する (IE4.0 以降有効)	☐ する ☐ しない
	Internet Explorer を起動する	☐ する ☐ しない
	する選択時のみ 起動オプション する選択時のみ ホームページに設定する	
カスタムメニュー		☐ する ☐ しない
する選択時のみ	メニューコマンド	☐ する ☐ しない
デスクトップ操作性		
デスクトップ上のすべてのオブジェクトアイコン		☐ デスクトップ上のすべてのオブジェクトアイコンを隠す ☐ Active Desktop の Web ページを隠さずにオブジェクトアイコンを隠す (IE4.0 以降有効)
タスクバーを隠す		☐ する ☐ しない
ログオン時に起動するアプリケーション		☐ する ☐ しない
する選択時のみ	起動するアプリケーション	
[アプリケーションの追加と削除]を無効にする		☐ する ☐ しない
マイドキュメントフォルダの設定		☐ する ☐ しない
する選択時のみ	フォルダの場所	
設定制限		
スタートメニュー		☐ [設定] からフォルダを削除 ☐ [設定] から [タスクバー] を削除
コントロールパネル		☐ [画面] を使用不可にする ☐ [ネットワーク] を使用不可にする ☐ [パスワード] を使用不可にする ☐ [プリンタ] を使用不可にする ☐ [システム] を使用不可にする
その他		☐ レジストリ編集ツールを使用不可にする ☐ 終了時に設定を保存しない

(続く)

設定項目	選択項目
操作制限	
スタートメニュー	☐ [ファイル名を指定して削除]を削除 ☐ [検索]コマンドを削除 ☐ 共通プログラムグループを削除
ファイルアクセス操作	☐ [マイコンピュータ]からドライブを隠す ☐ [ネットワークコンピュータ]を隠す ☐ [ネットワークドライブの割り当て]と[ネットワークドライブの切断]を削除
実行操作	☐ [MS-DOS プロンプト]を使用不可にする ☐ タスクマネージャを使用不可にする ☐ 許可されたプログラムだけ実行
不要キー抑止	
抑止可能キー一覧	☐ Alt ☐ Ctrl ☐ Shift
	☐ F1 ☐ F2 ☐ F3 ☐ F4 ☐ F5 ☐ F6
	☐ F7 ☐ F8 ☐ F9 ☐ F10 ☐ F11 ☐ F12

《留意事項》

デスクトップ環境を設定した後、グループ一覧から有効とするグループを選択してください

直接インストール時

設定項目		選択項目	
機種情報と OS の設定			
機種名	PRIMERGY ☐ ES200 ☐ ES210 ☐ ES280 ☐ MS310 ☐ MS380 ☐ MS410 ☐ TS110 ☐ その他 ()		
導入種別	☒ 新規導入 ☐ プレインストール (Windows NT のみ)		
導入 OS	☐ Microsoft® Windows NT® Server 4.0 ☐ Microsoft® BackOffice® Small Business Server 4.5 ☐ Microsoft® Windows NT® Server, Enterprise Edition 4.0 ☐ Microsoft® Windows® 2000 Server ☐ Microsoft® Windows® 2000 Advanced Server		
HD 情報			
ブートデバイスの選択		☐ SCSI/IDE ☐ RAID	
RAID 選択時のみ	使用カード	☐ GP5-141A ☐ GP5-143 ☐ GP5-144 ☐ GP5-146	
	RAID レベル	☐ RAID0 ☐ RAID1 ☐ RAID5 ☐ RAID6	
	ハードディスク数	台 (RAID0 時 2~8 台、RAID1 時 2 台、RAID5 & RAID6 時 3~8 台)	
	ホットスベアディスクの作成	☐ する ☐ しない	
	BGI 機能	☐ ON ☐ OFF	
パーティションサイズ		☐ 自動設定 ☐ 手動設定	
手動設定時のみ	システム	MB (2048~4096MB)	
	NTFS コンバート (システムパーティション)	☐ する ☐ しない	
	アプリケーション	MB (0~6144MB)	
	メンテナンス区画	☐ する ☐ しない (100MB)	
		(合わせて 8192MB)	
コンピュータ情報			
ユーザ名		(英数 半角 50 文字まで)	
組織名		(英数 半角 50 文字まで)	
プロダクト ID/CD キー		☐ -OEM- - ☐ -	
Windows 2000 SV のとき、プロダクトキー		- - - -	
クライアントライセンス		☐ 同時使用ユーザ数 (ユーザ) ☐ 接続クライアント数	
コンピュータ名		(英数 半角 15 文字まで)	
サーバ種別 (Windows 2000 SV のときは不要)		☐ プライマリドメインコントローラ ☐ バックアップドメインコントローラ ☐ スタンドアロンサーバ (サーバ)	
ドメイン名		(英数 半角 15 文字まで)	
ワークグループ名 (スタンドアロンサーバ選択時のみ)		(英数 半角 15 文字まで)	
インストールディレクトリ		(デフォルト C:\WINNT)	
タイムゾーン			
ネットワーク情報			
DHCP の使用		☐ する ☐ しない	
しない選択時のみ	IP アドレス		
	サブネットマスク		
	デフォルトゲートウェイ		

(続く)

設定項目		選択項目	
WINS の使用		☐ する	☐ しない
する選択時のみ	プライマリ WINS サーバ		
	セカンダリ WINS サーバ		
DNS の使用		☐ する	☐ しない
する選択時のみ	ドメイン名		
	DNS サーバ		
NetBEUI プロトコルの使用		☐ する	☐ しない
NWLink IPX/SPX 互換 トランスポートの使用		☐ する	☐ しない
サーバ機能の設定			
Internet Information Server の 使用		☐ する	☐ しない
する選択時のみ	サービス	☐ FTP サービス	☐ Gopher サービス ☐ WWW サービス
	オプション	☐ インターネットサービスマネージャ	☐ HTMLA ☐ WWW サンプル
サービス		☐ DHCP サーバ	☐ DNS サーバ ☐ WINS サーバ
DHCP 選択時	開始アドレス		
	終了アドレス		
	サブネットマスク		
アプリケーション *1		☐ Servervisor V1.0/V1.1 ☐ FM Advisor V2.20 ☐ DSNAP V1.0 ☐ PROBEPRO V2.0 ☐ SystemWalker/LiveHelp® Client V5.0	
WizardConsole のインストール		(Windows NT、Windows NT Server/E 4.0 のみ選択可) ☐ する ☐ しない	
ServicePack の適用		(Windows NT、Windows NT Server/E 4.0 のみ選択可) ☐ する ☐ しない	
電源切断機能 HAL の適用		(Windows NT、Windows NT Server/E 4.0、SBS のみ選択可) ☐ する ☐ しない	

《留意事項》

* 反転している項目は直接インストール時は、設定または選択できないものです（DesignMagic では可能です）。

*1 反転しているアプリケーションはデフォルトでインストールされます。

PRIMARGYソフトウェアガイド

B1FH-6371-01-01

発行日 2000年 5月

発行責任 富士通株式会社

Printed in Japan

- 本書の内容は、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。
- 本書に記載されたデータの使用に起因する、第三者の特許権およびその他の権利の侵害については、当社はその責を負いません。
- 無断転載を禁じます。
- 落丁、乱丁本はお取り替えいたします。